

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2016 経営学部 業
計 画
経営情報学科

經 營 学 部

(学部略号：I)

Faculty of Business Administration

経営情報学科

(学科略号：S)

Department of Business Administration and Information

経営学部 教育目標

社会や組織で活躍できる経営に関する知的専門職業人としての能力を身につけるとともに、幅広い教養と実践力をあわせ持ち、物事を科学的に考え行動できる人材を養成する。

経営学部 経営情報学科 教育目標

経営学部経営情報学科は、経営情報に関する幅広い知識・技術を身につけ、主体的に企業経営の一翼を担うことのできる人材を養成することを目的とする。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
ア		
ICT概論	針尾大嗣	11
朝日新聞社寄付講座「現代社会と向き合う」	荻田喜代一	273
イ		
インターネット概論	針尾大嗣	13
インターンシップ基礎	安久典宏	401
エ		
英語I a	藪井恵美子	173
英語I a	西谷継治	174
英語I a	山本尚子	175
英語I a	松木園久子	176
英語I b	サトラー トニー	178
英語I b	グラント パーミンハム	180
英語I b	ジェフリー ベル	181
英語I b	アレン ニール	182
英語I d	サトラー トニー	183
英語I d	グラント パーミンハム	185
英語I d	ジェフリー ベル	186
英語I d	アレン ニール	187
英語II a	里井真理子	188
英語II a	谷脇康子	190
英語II a	山本尚子	191
英語II a	中本明子	192
英語II b	吉村征洋	194
英語II b	松浦茂寿	195
英語II b	猪股祐介	196
英語II b	梅田尋道	198
英語II c	里井真理子	199
英語II c	谷脇康子	201
英語II c	山本尚子	202
英語II c	中本明子	203
英語II d	吉村征洋	205
英語II d	松浦茂寿	206
英語II d	猪股祐介	207
英語II d	梅田尋道	209
英語I c	藪井恵美子	210
英語I c	西谷継治	211
英語I c	山本尚子	212
英語I c	松木園久子	213
英語コミュニケーションI	瀧川宏樹	215
英語コミュニケーションII	瀧川宏樹	216
演習I	針尾大嗣	15
演習I	堀井千夏	16
演習I	久保貞也	17
演習I	武居奈緒子	18
演習I	栢木紀哉	19
演習I	鶴坂貴恵	20
演習I	山本圭三	21
演習I	牧野幸志	22

科目名	担当者	ページ
演習II	黒澤敏朗	23
演習II	樋口友紀	24
演習II	堀井千夏	25
演習II	久保貞也	26
演習II	武居奈緒子	27
演習II	針尾大嗣	28
演習II	栢木紀哉	29
演習II	鶴坂貴恵	30
演習II	山本圭三	31
演習II	牧野幸志	32
エンプロイメントデザインI	水野武	403
エンプロイメントデザインII	水野武	405
カ		
海外語学研修	齋藤安以子	217
海外ビジネスインターンシップ	佐井英子	274
会社法I	高田尚彦	33
会社法II	高田尚彦	34
科学技術教養I～IV(A1)	柳沢学	275
科学技術教養I～IV(A2)	柳沢学	276
科学技術教養I～IV(C1)	頭井洋	277
科学技術教養I～IV(C2)	頭井洋	278
科学技術教養I～IV(E1)	鹿間信介	279
科学技術教養I～IV(E2)	鹿間信介	280
科学技術教養I～IV(M1)	諏訪晴彦	282
科学技術教養I～IV(M2)	岸本直子	283
科学技術教養I～IV(R1)	森山正和	285
科学技術教養I～IV(R2)	森山正和	287
科学技術教養I～IV(T1)	長島健	288
科学技術教養I～IV(T2)	島田伸一	290
科学技術教養I～IV(V1)	西村仁	291
科学技術教養I～IV(V2)	青笹治	293
キ		
企業者史I	佐藤正志	35
企業者史II	佐藤正志	36
企業簿記	石橋康男	37
企業立地論	大田住吉	38
基礎演習	黒澤敏朗	40
基礎演習	針尾大嗣	41
基礎演習	堀井千夏	42
基礎演習	樋口友紀	43
基礎演習	福田市朗	44
基礎演習	安久典宏	45
基礎演習	橋本はる美	46
北河内を知る	尾山廣	295
キャリアデザイン	安久典宏	407
キャリアプラン	水野武	409
教育課程論	大野順子	429
教育経営論	朝日素明	431
教育原理	小山裕樹	433
教育実習I	吉田佐治子	435

科目名	担当者	ページ
教育実習Ⅱ	朝 日 素 明	436
教育実習Ⅲ	朝 日 素 明	437
教育社会学	大 野 順 子	438
教育心理学	吉 田 佐治子	440
教育相談	吉 田 佐治子	441
教育方法論	林 茂 樹	442
教職実践演習(中・高)	吉 田 佐治子	444
教師論	朝 日 素 明	446
近代文学から学ぶ	橋 本 正 俊	296

ク

くらしと経済	杉 本 篤 信	297
グローバル世界の倫理	濱 良 祐	298
グローバルビジネス	鈴 木 和 巳	47

ケ

経営学	庭 本 佳 子	48
経営学Ⅰ	庭 本 佳 子	50
経営学Ⅱ	畠 山 俊 宏	51
経営学特講Ⅴ	仲 秀 樹	52
経営管理論	畠 山 俊 宏	53
経営情報システムⅠ	久 保 貞 也	55
経営情報システムⅡ	栢 木 紀 哉	57
経営統計学	栢 木 紀 哉	58
経営統計学Ⅰ	栢 木 紀 哉	59
経営とリスク	久 保 貞 也	60
経済学入門	杉 本 篤 信	61
芸術の理解	中 川 馨	300
健康科学	藤 林 真 美	301

コ

古典文学から学ぶ	橋 本 正 俊	303
コミュニケーション能力開発	津 村 忠	411
コンテンツビジネス	針 尾 大 嗣	62
コンピュータ概論	久 保 貞 也	64
コンピュータサイエンス	北 村 浩	66

サ

サービスマーケティング	萩 原 貞 幸	67
サイバービジネスソリューションⅠ	針 尾 大 嗣	69
サイバービジネスソリューションⅡ	針 尾 大 嗣	71
財務諸表論入門	佐 井 英 子	73

シ

市場調査実習Ⅰ	山 本 圭 三	74
市場調査実習Ⅱ	山 本 圭 三	75
市場調査入門	金 政 芸	76
市場調査入門	牧 野 幸 志	77
市場調査法	山 本 圭 三	78
自然科学Ⅰ	松 浦 哲 郎	304
自然科学Ⅱ	竹 内 健 治	305
社会学Ⅰ	武 田 祐 佳	306

科目名	担当者	ページ
社会学Ⅱ	山 本 圭 三	307
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	308
就職実践基礎	永 見 誠 二	309
就職実践基礎	津 村 忠	310
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	311
生涯スポーツ実習	横 山 喬 之	218
生涯スポーツ実習	近 藤 潤	219
商業科教育法	河 合 隆 廣	448
消費者行動論	武 居 奈 緒 子	79
消費者心理	牧 野 幸 志	80
情報科教育法	栢 木 紀 哉	450
情報産業論	谷 川 周 次	81
情報社会論	北 村 浩	83
情報と職業	北 尾 隆 夫	85
情報と法	谷 次 郎	87
情報ネットワーク	堀 井 千 夏	88
情報法	谷 次 郎	89
情報倫理	北 村 浩	90
職業指導Ⅰ	水 野 武	452
職業指導Ⅱ	水 野 武	453
職業能力開発	福 田 市 朗	92
職業能力開発論Ⅰ	福 田 市 朗	93
職業能力開発論Ⅱ	福 田 市 朗	94
心理学Ⅰ	山 本 雅 代	312
心理学Ⅱ	山 本 雅 代	313

ス

数学基礎Ⅰ	佐々木 洋 平	220
数学基礎Ⅰ	早 石 典 史	221
数学基礎Ⅰ	畑 中 美 帆	222
数学基礎Ⅱ	佐々木 洋 平	223
数学基礎Ⅱ	早 石 典 史	224
数学基礎Ⅱ	齊 藤 遼	225
数的能力開発	亀 田 峻 宣	412
数的能力開発	山 岡 亮 太	413
数的能力開発	津 村 忠	414
数的能力開発	津 村 忠	415
スポーツ科学実習Ⅰ	横 山 喬 之	226
スポーツ科学実習Ⅱ	横 山 喬 之	227
住まいとデザイン	大 高 和 香	315

セ

政治学概論Ⅰ	森 康 一	316
政治学概論Ⅱ	森 康 一	317
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅 野 英 一	318
生徒指導論	朝 日 素 明	454
生命科学入門	大 塚 正 人	319
世界の歴史	村 上 司 樹	321
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋 本 正 治	322
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋 本 正 治	323
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石 田 裕 子	324
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石 田 裕 子	325

科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトI	浅野英一	326
摂南大学PBLプロジェクトII	浅野英一	327
摂南大学PBLプロジェクトI	久保貞也	328
摂南大学PBLプロジェクトII	久保貞也	329
摂南大学PBLプロジェクトI	鶴坂貴恵	330
摂南大学PBLプロジェクトII	鶴坂貴恵	332
摂南大学PBLプロジェクトI	一色美博	334
摂南大学PBLプロジェクトII	一色美博	335
摂南大学PBLプロジェクトI	田中賢太郎	336
摂南大学PBLプロジェクトII	田中賢太郎	337
摂南大学PBLプロジェクトI	鳥居祐介	338
摂南大学PBLプロジェクトII	鳥居祐介	339
摂南大学PBLプロジェクトI	天野貴史	340
摂南大学PBLプロジェクトII	天野貴史	341
摂南大学PBLプロジェクトI	栢木紀哉	342
摂南大学PBLプロジェクトII	栢木紀哉	343
摂南大学PBLプロジェクトI	安久典宏	344
摂南大学PBLプロジェクトII	安久典宏	345
摂南大学PBLプロジェクトI	石井信輝	346
摂南大学PBLプロジェクトII	石井信輝	347
摂南大学PBLプロジェクトI	内 部 昭 彦	348
摂南大学PBLプロジェクトII	内 部 昭 彦	349
摂南大学PBLプロジェクトI	藤 林 真 美	350
摂南大学PBLプロジェクトII	藤 林 真 美	351
摂南大学PBLプロジェクトI	荻 田 喜 代 一	352
摂南大学PBLプロジェクトII	荻 田 喜 代 一	353
専門基礎演習	黒 澤 敏 朗	95
専門基礎演習	針 尾 大 嗣	96
専門基礎演習	堀 井 千 夏	97
専門基礎演習	樋 口 友 紀	98
専門基礎演習	福 田 市 朗	99
専門基礎演習	安 久 典 宏	100
専門基礎演習	橋 本 はる美	101
専門日本語F I	中 岡 樹 里	228
専門日本語F II	中 岡 樹 里	229
専門日本語R	中 岡 樹 里	230

ソ

ソーシャル・イノベーション実務総論	石 井 三 恵	354
卒業研究	黒 澤 敏 朗	102
卒業研究	堀 井 千 夏	103
卒業研究	久 保 貞 也	104
卒業研究	武 居 奈 緒 子	105
卒業研究	針 尾 大 嗣	106
卒業研究	栢 木 紀 哉	107
卒業研究	牧 野 純	108
卒業研究	山 本 圭 三	109
卒業研究	牧 野 幸 志	110
卒業研究	樋 口 友 紀	111
卒業研究	三 木 僚 祐	112

科目名	担当者	ページ
タ		
ダイバーシティとコミュニケーション	石 井 三 恵	356
チ		
地域と私	鶴 坂 貴 恵	358
地域連携教育活動 I	浅 野 英 一	360
地域連携教育活動 II	浅 野 英 一	361
チームビルディング	水 野 武	362
地誌学	今 野 泰 三	363
知的財産管理論	西 岡 泉	113
地理学 I	笠 原 俊 則	365
地理学 II	笠 原 俊 則	366
テ		
哲学 I	安 部 彰	368
哲学 II	濱 良 祐	370
電子商取引	北 尾 隆 夫	115
ト		
道德教育の研究	小 山 裕 樹	455
特別活動の理論と方法	林 茂 樹	457
ニ		
日常の謎を解く心理学	牧 野 幸 志	372
日本語会話 F I	高 井 美 穂	231
日本語会話 F II	高 井 美 穂	232
日本語会話 R	高 井 美 穂	233
日本国憲法	大 仲 淳 介	373
日本語上級会話 F I	高 井 美 穂	234
日本語上級会話 F II	高 井 美 穂	235
日本語上級作文 F I	中 岡 樹 里	236
日本語上級作文 F II	中 岡 樹 里	237
日本語上級読解 F I	古 川 由 理 子	238
日本語上級読解 F II	古 川 由 理 子	239
日本語総合 F I	古 川 由 理 子	240
日本語総合 F II	古 川 由 理 子	241
日本語総合 R	古 川 由 理 子	242
日本語読解 F I	中 岡 樹 里	243
日本語読解 F II	中 岡 樹 里	244
日本語読解 R	中 岡 樹 里	245
日本語能力開発 I	上 島 誠 司	416
日本語能力開発 I	高 嶋 藍	417
日本語能力開発 I	大 石 真 由 香	418
日本語能力開発 II	澤 野 加 奈	419
日本語能力開発 II	高 嶋 藍	420
日本語能力開発 II	大 石 真 由 香	421
日本語表現作文 F I	中 岡 樹 里	246
日本語表現作文 F II	中 岡 樹 里	247
日本語表現作文 R	中 岡 樹 里	248
日本語表現法 I	上 島 誠 司	249
日本語表現法 I	高 嶋 藍	250

科目名	担当者	ページ
日本語表現法 I	大石 真由香	251
日本語表現法 II	澤野 加奈	252
日本語表現法 II	高嶋 藍	253
日本語表現法 II	大石 真由香	254
日本語文法 F I	中岡 樹里	255
日本語文法 F II	中岡 樹里	256
日本語文法 R	中岡 樹里	257
日本事情 F I	門脇 薫	258
日本事情 F II	門脇 薫	259
日本事情 R I	門脇 薫	260
日本事情 R II	門脇 薫	261
日本の歴史	佐伯 智広	375

ネ

ネットワーク運用管理	堀井 千夏	117
------------	-------	-----

ハ

犯罪被害者の支援と法的救済	小野 晃正	376
---------------	-------	-----

ヒ

ビジネスIT演習	久保 貞也	118
ビジネスイングリッシュ I	有本 好一郎	262
ビジネスイングリッシュ II	有本 好一郎	263
ビジネスインターンシップ I	安久 典宏	119
ビジネスインターンシップ II	安久 典宏	121
ビジネスゲーミング	福田 市朗	123
ビジネスシミュレーション	黒澤 敏朗	125
ビジネス情報処理 I	栢木 紀哉	126
ビジネス情報処理 I	藤木 健史	127
ビジネス情報処理 II	栢木 紀哉	128
ビジネス情報処理 II	藤木 健史	129
ビジネス中国語基礎 a	曹 櫻	264
ビジネス中国語基礎 b	大西 紀	265
ビジネス中国語基礎 c	曹 櫻	266
ビジネス中国語基礎 d	大西 紀	267
ビジネスデータ分析	針尾 大嗣	130
ビジネスプラン	萩原 貞幸	132
ビジネスマナー	仁平 章子	378
ビジネスマナー I	仁平 章子	422
ビジネスマナー II	石井 三恵	424

フ

武道論	横山 喬之	380
ブランド戦略	鶴坂 貴恵	133
プレゼンテーション論	石井 三恵	381
プログラミング	久保 貞也	135
文化人類学	西垣 有	383

ヘ

ベンチャービジネス論	安久 典宏	137
------------	-------	-----

科目名	担当者	ページ
ホ		
貿易実務	鈴木 和巳	139
貿易と金融	杉本 篤信	141
法学入門	小島 俊朗	384
簿記入門	石橋 康男	142
保健論	内 部 昭彦	268

マ

マーケティング演習	鶴坂 貴恵	143
マーケティング概論	鶴坂 貴恵	145
マーケティングサイエンス	樋口 友紀	147
マーケティング情報解析	樋口 友紀	148
マーケティングと歴史	武居 奈緒子	385
マーケティング論	武居 奈緒子	149
マクロ経済学	杉本 篤信	151
マネジメントサイエンス	黒澤 敏朗	152
マネジメントサイエンス I	黒澤 敏朗	153
マルチメディア処理 I	堀井 千夏	154
マルチメディア処理 II	堀井 千夏	155

ミ

ミクロ経済学	岩坪 加紋	156
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼 丈晃	386
民法 I	大川 謙蔵	157
民法 II	大川 謙蔵	159

メ

メディア戦略論	針尾 大嗣	160
---------	-------	-----

モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥野 竜平	388
ものづくりインターンシップ基礎	川野 常夫	390
ものづくりインターンシップ実践	奥野 竜平	391
ものづくり海外インターンシップ	川野 常夫	393

ヤ

役立つ金融知力	陸川 富盛	394
---------	-------	-----

ラ

ライフサイエンスの基礎	西矢 芳昭	396
-------------	-------	-----

リ

リテールマーケティング	武居 奈緒子	162
流通システム論	若松 敏幸	163
流通情報システム	若松 敏幸	165

レ

歴史学 I	佐伯 智広	397
-------	-------	-----

ロ

労働法 I	前田 剛志	167
-------	-------	-----

科目名	担当者	ページ
労働法Ⅱ	前田剛志	169

專 門 科 目

科目名	ICT概論	科目名(英文)	Introduction to Information and Communications Technology
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	<p>本講義では、いまやあらゆる産業・業界において重要なビジネス基盤となったインターネットの仕組みとその役割について、マーケティング学と情報通信システム学による文理総合的な解説を行っていく。前半は、企業の経営活動、特にマーケティングとICTとの関係について、中盤は、情報通信と情報サービスの技術的な仕組みについて、後半は、ICTの社会的課題について取り上げる。</p> <p>講義の主な目的は、ICTが単なる日常のコミュニケーションや情報サービスを利用するための道具ではなく、多様化・細分化が進む市場を相手とする企業の経営活動において絶対不可欠な技術であることを初年時の文系学生が理解し、本学科が提供するICT関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義を学ぶことである。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科が提供するICT関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義について簡潔に説明できるようになる。 ・日常で利用しているPCやスマートフォンを使った情報サービスがどのように提供されているのか、その仕組みと要素技術について基本的な説明ができる知識を習得する。
授業方法と留意点	<p>教材資料を事前配布し、それをノートとして用いる。講義では、資料解説を中心とする。また定期的にスマートフォン、携帯電話を使った実習も行う。教材資料は、学内ポータルサイトの教材フォルダに上げており、受講生は各自印刷しておく必要がある。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。</p> <p>ITパスポート試験・基本情報技術者試験などIT系の資格を取得するのに関連する科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について取り上げる ・講義の目的、進め方 ・日常の中のICT ・経営学としてICTを学ぶことの意義・目的	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
2	ICTとは	主に以下について取り上げる。 ・ICTとは何か ・世の中の情報サービス ・企業の情報システム	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	インターネットの歴史	主に以下について取り上げる ・インターネットの起源 ・インターネット通信の特徴 ・インターネット通信と電話の違い	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	ICT時代の消費者市場	主に以下について取り上げる ・高度経済成長時代の消費者ニーズと物作り ・成熟経済時代の消費者ニーズと物作り ・ICTで変わる消費者行動	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	マーケティングとICT	主に以下について取り上げる ・マーケティングの昔と今 ・テレビ広告とスマホ広告 ・ポイントカードと顧客データ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	コンピュータの仕組み	主に以下について取り上げる ・コンピュータの基本構造 ・家庭内ネットワーク(LAN)の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	インターネットの仕組み	主に以下について取り上げる ・インターネットを構成する情報システムの役割と機能 ・パケット通信 ・IPアドレス ・ルータ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	Webサイトの仕組み	主に以下について取り上げる ・Webサイトに繋がる技術的仕組み ・WWW ・ドメイン ・DNS	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	携帯電話通信の仕組み	主に以下について取り上げる ・携帯電話が繋がる仕組み ・無線通信技術各種 ・位置情報システム	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	携帯電話とスマートフォン	主に以下について取り上げる ・日本の携帯電話の歴史 ・スマートフォンの誕生 ・ガラケーとは ・携帯電話とスマートフォンの違い	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	ソーシャルメディア	主に以下について取り上げる ・SNSとは何か ・Twitter、LINE、Facebookの特徴と企業の活用事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	ICTの光と影(1)	主に以下について取り上げる ・製造、物流、サービス、教育、医療の質を高めたICT事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	ICTの光と影(2)	主に以下について取り上げる ・ネットいじめ ・炎上事件 ・個人情報流出 ・各種サイバー犯罪	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

	14	ICTの社会的課題と対策(1)	主に以下について取り上げる ・LANの危険性と対策 ・無線通信の危険性と対策 ・スマートフォンの危険性と対策	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。																
	15	ICTの社会的課題と対策(2)	主に以下について取り上げる ・企業のセキュリティ対策 ・日本の情報セキュリティ政策 ・まとめ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。																
関連科目	経営情報システム、メディア戦略論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>配布資料</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布資料			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	配布資料																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>期末テスト(80%)、小テスト・レポート(20%)で評価する。 私語、携帯・スマートフォンの使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価します。</p>																			
学生への メッセージ	<p>本講義で紹介するICTや情報サービスは、身近に利用できるものを中心に取り上げます。教材資料を事前に目を通し、事例として取り上げられているICTや情報サービスを受講前に自ら利用しておいてください。講義の解説内容について十分関心が深まることでしょう。</p>																			
担当者の 研究室等	<p>11号館7階(針尾准教授室)</p>																			
備考	<p>シラバスの内容については、受講生の理解の程度、関心に合わせて適時調整する。 【教職科目】教科に関する科目(高等学校 情報) 【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理(実習を含む。) 【履修区分】必修</p>																			

科目名	インターネット概論	科目名 (英文)	Introduction to the Internet
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	<p>本講義では、いまやあらゆる産業・業界において重要なビジネス基盤となったインターネットの仕組みとその役割について、マーケティング学と情報通信システム学による文理総合的な解説を行っていく。前半は、企業の経営活動、特にマーケティングと ICT との関係について、中盤は、情報通信と情報サービスの技術的な仕組みについて、後半は、ICT の社会的課題について取り上げる。</p> <p>講義の主な目的は、ICT が単なる日常のコミュニケーションや情報サービスを利用するための道具ではなく、多様化・細分化が進む市場を相手とする企業の経営活動において絶対不可欠な技術であることを初年時の文系学生が理解し、本学科が提供する ICT 関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義を学ぶことである。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科が提供する ICT 関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義について簡潔に説明できるようになる。 ・日常で利用している PC やスマートフォンを使った情報サービスがどのように提供されているのか、その仕組みと要素技術について基本的な説明ができる知識を習得する。
授業方法と留意点	教材資料を事前配布し、それをノートとして用いる。講義では、資料解説を中心とする。また定期的にスマートフォン、携帯電話を使った実習も行う。教材資料は、学内ポータルサイトの教材フォルダに上げており、受講生は各自印刷しておく必要がある。
科目学習の効果 (資格)	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。 IT パスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について取り上げる ・講義の目的、進め方 ・日常の中の ICT ・経営学として ICT を学ぶことの意義・目的	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
2	ICT とは	主に以下について取り上げる。 ・ICT とは何か ・世の中の情報サービス ・企業の情報システム	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	インターネットの歴史	主に以下について取り上げる ・インターネットの起源 ・インターネット通信の特徴 ・インターネット通信と電話の違い	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	ICT 時代の消費者市場	主に以下について取り上げる ・高度経済成長時代の消費者ニーズと物作り ・成熟経済時代の消費者ニーズと物作り ・ICT で変わる消費者行動	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	マーケティングと ICT	主に以下について取り上げる ・マーケティングの昔と今 ・テレビ広告とスマホ広告 ・ポイントカードと顧客データ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	コンピュータの仕組み	主に以下について取り上げる ・コンピュータの基本構造 ・家庭内ネットワーク (LAN) の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	インターネットの仕組み	主に以下について取り上げる ・インターネットを構成する情報システムの役割と機能 ・パケット通信 ・IP アドレス ・ルータ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	Web サイトの仕組み	主に以下について取り上げる ・Web サイトに繋がる技術的仕組み ・WWW ・ドメイン ・DNS	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	携帯電話通信の仕組み	主に以下について取り上げる ・携帯電話が繋がる仕組み ・無線通信技術各種 ・位置情報システム	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	携帯電話とスマートフォン	主に以下について取り上げる ・日本の携帯電話の歴史 ・スマートフォンの誕生 ・ガラケーとは ・携帯電話とスマートフォンの違い	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	ソーシャルメディア	主に以下について取り上げる ・SNS とは何か ・Twitter、LINE、Facebook の特徴と企業の活用事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	ICT の光と影 (1)	主に以下について取り上げる ・製造、物流、サービス、教育、医療の質を高めた ICT 事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	ICT の光と影 (2)	主に以下について取り上げる ・ネットいじめ ・炎上事件 ・個人情報流出 ・各種サイバー犯罪	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

	14	ICTの社会的課題と対策(1)	主に以下について取り上げる ・LANの危険性と対策 ・無線通信の危険性と対策 ・スマートフォンの危険性と対策	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。																
	15	ICTの社会的課題と対策(2)	主に以下について取り上げる ・企業のセキュリティ対策 ・日本の情報セキュリティ政策 ・まとめ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。																
関連科目	経営情報システム、メディア戦略論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>配布資料</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布資料			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	配布資料																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>期末テスト(80%)、小テスト・レポート(20%)で評価する。 私語、携帯・スマートフォンの使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価します。</p>																			
学生への メッセージ	<p>本講義で紹介するICTや情報サービスは、身近に利用できるものを中心に取り上げます。教材資料を事前に目を通し、事例として取り上げられているICTや情報サービスを受講前に自ら利用しておいてください。講義の解説内容について十分関心が深まることでしょう。</p>																			
担当者の 研究室等	<p>11号館7階(針尾准教授室)</p>																			
備考	<p>シラバスの内容については、受講生の理解の程度、関心に合わせて適時調整する。 【教職科目】教科に関する科目(高等学校 情報) 【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理(実習を含む。) 【履修区分】必修</p>																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	<p>演習では、主に以下の2つの内容について学ぶ。</p> <p>1. 企業のマーケティング活動におけるメディア戦略</p> <p>2. コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析</p> <p>これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業の IT マーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に高度なデータ解析技術を習得していく。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> メディア（特にソーシャルメディア）を用いた企業の競争戦略の基本的考え方を身につける。 代表的な多変量解析法およびそれらを活用したデータ分析力ならびに、そのための SPSS 操作方法を習得する。 																		
授業方法と留意点	<p>【すすめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループワークによる資料作成、発表が中心（グループ作業に必要な基本的設備については研究室にて準備） 前半は、企業の WebCM を制作、後半は、メディア戦略理論の学習を行う。 他学年ゼミ生を含めた合同演習（年2回予定）とゼミ合宿を実施し、ゼミ学生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>主に以下の内容に取り組む。</p> <p>前期：ウェブ CM 制作と企業のウェブ戦略</p> <p>後期：SPSS を用いた多変量解析</p> <p>加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	出席状況、参加姿勢（発言、資料準備）、提出物																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 針尾准教授室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。</p>																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井 千夏

授業概要・目的	経営分野で活用する情報技術をテーマとして取り上げて演習を行っていく。情報化社会で活躍するために必要な実践的な情報活用能力や技術を習得していくことが目的である。																		
到達目標	卒業論文の制作に向けて、その土台となる技術や知識を習得する。																		
授業方法と留意点	資料はPDFファイルで配布する。主に課題の演習やディスカッション形式で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。</p> <p>(1) 情報化社会におけるインターネットの活用技術 (2) ネットビジネスを取り巻く情報技術の基礎知識 (3) 効果的なプレゼンテーション方法</p> <p>加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	出席状況(100%)で評価する。ただし、授業への参加態度や演習課題が未提出な者、中間発表を行わない者については減点する場合も有る。																		
学生へのメッセージ	特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けて欲しい。																		
担当者の研究室等備考	11号館8階 堀井教授室																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 貞也

授業概要・目的	ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。 演習 I では、プレゼンテーションの実習や、関連する文献の分析、文章作成のルールについて学ぶ。 演習 II の前半では、研究テーマに関する調査や課題設定、および、その解決策の検討や実習を行い、協調作業の重要性や研究活動の意義を学ぶ。																		
到達目標	演習 I では次の事柄を目標とします。 (1) 興味のある事柄に関する情報収集を適切に行える (2) プレゼンテーションを時間通りに行える (3) 自ら学習する目的を立てられる																		
授業方法と留意点	授業は学生参画型であり、予習・復習は必須である。自発的に学ぶ姿勢で出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は、経営情報全般、プログラミング、TeX、プレゼンテーションなどについてゼミ生自らが参考書を選び学習する。後期は、研究という行為がどのようなものなのか、議論とはどのようなものかについて学ぶために、各自が演習 I で発表するテーマについて選定する。テーマは、「経営」か「情報」に関するものとする。発表は、原則として前期 1 回、後期 1 回、計 2 回おこなう。発表に際しては、A 4 用紙 2 枚のレジュメを準備する。レジュメは、TeX を用いて作成するものとし、事前に、文章チェックを受ける。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。 発表内容 70%、その他 30%																		
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。																		
担当者の研究室等	久保准教授室 (11 号館 7 階)																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的	近年の成熟市場環境下における企業間競争の激化によって、マーケティングの重要性がますます高まっています。この演習では、企業の存続・成長にとって必要不可欠なマーケティングについて研究します。マーケティングは、身近な学問なので、どこからでも課題の研究が始められます。この演習を通じて、マーケティングの基本的知識とマーケティングを学ぶことの楽しさを理解してもらいたいと思います。			
到達目標	マーケティングの理論と実践面での活用を目指します。			
授業方法と留意点	演習で与えられた問題・課題について、真摯に取り組み、充実した大学生活にしていきましょう。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	マーケティング、マーケティングの基本的概念について学習します。ケーススタディのアプローチ。ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業態度、授業への参加度・貢献度などにより総合的に評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室			
備考				

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木 紀哉

授業概要・目的	高度情報化社会と言われる社会への ICT (情報通信技術) の積極的な導入によって、産業や生活環境がどのように変化してきたのかを考え、これからの IT の在り方について探っていく。コンピュータやインターネットに代表される ICT が、生活のあらゆる場面で取り入れられるようになり、生活が豊かになるとともに、情報セキュリティなどの新たな課題も生じてきている。ICT の良い点・悪い点を理解した上で、社会の様々な分野でどのように取り入れられ活用されているのかを学びながら、新しい活用の可能性を見出していく。																
到達目標	経営情報学の分野に関連する文献や資料を使ったゼミでの活動を通して、基礎的な知識・技術の習得を目指す。また、プログラム課題の制作を通して、プログラミングに求められる論理的思考ができるようになることを目指す。ゼミ活動に積極的に参加することはもちろん、他のゼミ生と積極的に討論する姿勢を身につける。																
授業方法と留意点	主にパソコンを使った実習形式で進めて行く。同じゼミに属する学生同士でグループを作って、他のゼミ生と協力しながら講義や実習で学んだことの理解を深める。活動としては、経営情報学の分野に関係のある文献や資料を読みながら、文章を読み解く力、まとめ上げる力の習得を目指すとともに、プレゼンテーションを通して、高いコミュニケーション能力を身につけることを目指す。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営情報学の分野に関連した文献や資料を読みながら、文章を読み解く力、考えをまとめる力の習得を目指すとともに、プログラム課題の制作やプレゼンテーションを通して ICT に関する基礎的な技能を身につける。週 1 回のゼミの時間だけでなく、各自で自習学習を進めるのはもちろんのこと、他のゼミ生と協力しながら作業することも必要になる。また、工場見学などの学外での活動では、他のゼミ生と協力しながら計画の実現を目指す。加えて、経営情報学の分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。																
関連科目	演習 II、卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	レポート課題、プログラム課題、作成した Web ページ等 (50%)、演習への参加状況 (50%) 演習が中心となるため、欠席・遅刻は演習内容や成績評価に影響する。																
学生へのメッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。技能の習得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等	11 号館 8 階 (栢木准教授室)																
備考	教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介する。 必要に応じて書籍を購入してもらおう場合がある。																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	<p>マーケティングのゼミである。 マーケティングの基礎的知識をしっかりと身につけることが大切であり、その定着を目指す。 そのために、フィールドワークを行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングの知識の不足部分を補ってもらおう。 これらを通じて、マーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。 さらに学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身につけることを目的とする。</p>																
到達目標	<p>マーケティングの基礎的知識がしっかりと身につく。 フィールドワークを通じて、マーケティングの知識を応用できる力が身につく。 チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。 コミュニケーション能力の向上を図り、主体性が身に付く。</p>																
授業方法と留意点	<p>講義と実習、グループ・個人発表とそれに対する質疑応答の両形式で進める。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[授業テーマ] マーケティング論の定着と応用</p> <p>[内容] ゼミとしてのチームビルディングを行い、相互理解や自己理解・他者への配慮の大切さを学ぶ。 グループごとの作業を通じ、チームで目的を達成することの実際を体験し、その重要性を学ぶ。 マーケティングの基礎的な知識を課題を通じて検討する。 フィールドワークを通じて、マーケティング課題の把握と解決策の構築等を行う。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>平常の取組姿勢、学習状況、報告内容、レポートなどにより総合的に評価する。</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>11号館7階 鶴坂教授室</p>																
備考	<p>【学生へのメッセージ】 基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加をしてください。 ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。 さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。 これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を受けてください。</p>																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山本 圭三

授業概要・目的	本ゼミでは、大きく2つのテーマに沿って学習していく。1つは「仕事、労働、職業を主題とした社会学的研究」である。なぜ人は働くのか、働くことは人々にとってどのような意味をもつのか、などについてじっくり考えていく。もう1つは「社会調査に関わる種々の知識・技術」である。様々な場面で求められる「調査」の能力の獲得を目指す。																
到達目標	正確な知識に基づき、論理的な思考ができる。物事を多面的に理解し豊かな発想で議論できる。																
授業方法と留意点	テキスト等の読解 (要約の報告、それをもとにした全体での議論) データ収集や分析の実習 論文やレポートの書き方についての指導 学生の希望があれば学外でのフィールドワークも設ける																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】 社会学一般および社会調査の基礎知識 今後の研究の土台となる知識の獲得を目指す。</p> <p>【方法】 担当者による報告、全体での議論</p> <p>【事前・事後課題】 適宜指示する</p> <p>【補足】 演習内では、社会科学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (出席、発言、資料) 50%、提出物 50%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室																
備考	「物事をじっくり考える」姿勢をもち、積極的に参加してほしい。																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 幸志

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理学を学ぶゼミである。演習 I では、基本的な心理学の知識を身につける。教科書の内容をまとめて、発表し、質疑応答を行う。経営に関する消費者心理、組織の中の人間関係などの基礎を学ぶことを目的とする。																		
到達目標	経営における心理の基礎知識を身につけ、心理学の研究法について学ぶ。その後、自分自身でテーマを探し、心理学の研究手法を身につける。																		
授業方法と留意点	演習 I では、心理学の基礎知識を身につける。前期は心理学の概論書を使って担当者と一緒に演習を行う。演習の方法は、毎回担当者が PP による資料を作成し、発表を行う。後期は専門書の内容をまとめて PP で発表を行なう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>授業テーマ・内容：社会における人間関係と消費者心理について</p> <p>方法：担当者がパワーポイントを用いてプレゼンを行う。</p> <p>事前・事後課題：事前に予習、事後に復習をする。</p> <p>さらに、心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p>																		
関連科目	「消費者心理」を受講しておくことが望ましい。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ミニマムエッセンス社会心理学</td> <td>和田実</td> <td>北大路書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>男と女の対人心理学</td> <td>和田実</td> <td>北大路書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ミニマムエッセンス社会心理学	和田実	北大路書房	2	男と女の対人心理学	和田実	北大路書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ミニマムエッセンス社会心理学	和田実	北大路書房																
2	男と女の対人心理学	和田実	北大路書房																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	演習中の発表(50%)、授業参加度(20%)、授業課題(30%)の評価などで総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ	演習 I には必ず遅刻せずに、出席し、積極的に発言すること。																		
担当者の研究室等	11号館7階 牧野(幸)准教授室																		
備考	牧野(幸)ゼミは、経営学部で心理学を学ぶゼミである。特別な情報の技術(プログラミングなど)は必要としないが、確率統計の知識は必要となる。また、プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPointなどが普通に使える必要がある。何よりも人としての心理を大切にすることであるので、“あいさつをする、時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	黒澤 敏朗

授業概要・目的	<p>ゼミでは「データに基づく合理的な経営・管理」を行うための種々の経営管理に関する技術・技法についての研究・教育を行います。これにはマーケティングや経営に役立つ各種IT技法も含まれます。</p> <p>企業の活動でとくに重要なものは、付加価値をつける行動（オペレーション）のことで、ハードウェアの製造だけでなく、ソフトウェアや販売・物流・観光などの各種サービスやマーケティング機能も対象に含まれます。演習や卒業研究を通じて、このような活動を合理的に行い、ITを活用した高い生産性をあげるためのさまざまな理論や手法を学び、企業で活躍できるための基礎力を養います。</p>																		
到達目標	ITを活用した高い生産性をあげるためのさまざまな理論や手法を理解し、企業で活躍できるための基礎力を身につけること。																		
授業方法と留意点	3年次のゼミでは、個人あるいはグループで、マーケティング機能やIT技術を活用した「企業の付加価値創造のプロセス」について調査し、順次発表するというステップを1年間にわたり実施します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年次の演習では、個人あるいはグループごとに対象となる企業数社を選び、それらの企業のマーケティング機能やIT技術を活用した「付加価値創造のプロセス」について調査し、順次発表するというステップを1年間にわたり実施します。それらを通じて生産やサービスのマネジメントに関わるさまざまな知識や方法を学びます。さらに、キャリア形成に向けて、長期休暇期間などを活用して各種の事業所や工場などの見学も行います。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導します。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	まずは調査・研究し、その結果を発表することが必要です。そして見学などを含んだ最終レポートを提出することとあわせて総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 黒澤教授室																		
備考																			

科目名	演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樋口 友紀

授業概要・目的	<p>本ゼミでは、マーケティングを基本的なテーマとして扱います。前期では演習 I で習得したマーケティング及びマーケティング・リサーチに関する知識を元に、実際にデータを用いた分析手法を習得していきます。また、後期には各自卒業論文のテーマを決定し、それに基づいた学習、データ分析などを実施する予定です。その他、学生の希望によりテーマなどを選択し、適宜扱います。</p>																		
到達目標	<p>卒業論文作成時に必要となる、マーケティング及びマーケティング・リサーチ技術の習得を目指します。また、卒業論文の完成に向け、適宜必要な知識を学びます。</p>																		
授業方法と留意点	<p>ゼミ生を中心として、教科書のまとめ・発表・演習を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>本ゼミでは、マーケティングおよびマーケティング・リサーチをテーマとして扱います。演習 II では、演習 I にて習得した知識を基に、データの分析方法を習得します。前半では、パソコン演習を通してデータ分析方法を学びます。また、後半からは各自卒業論文のテーマを選定し、その構成を詰めながら必要なデータを収集してゆきます。随時ゼミ生中心にまとめや発表を行いますので、欠席を避け、発表などゼミ内で課した課題は必ず行うようにしてください。また、研究に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも、引き続き努めます。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SPSS でやさしく学ぶアンケート処理 第4版</td> <td>石村 貞夫</td> <td>東京図書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SPSS でやさしく学ぶアンケート処理 第4版	石村 貞夫	東京図書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	SPSS でやさしく学ぶアンケート処理 第4版	石村 貞夫	東京図書																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>出席率、授業態度、発表の内容などにより、総合的に判断します。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>11号館8階 樋口准教授室</p>																		
備考																			

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井 千夏

授業概要・目的	21世紀は、コンピュータとインターネットを始めとするIT(情報技術)が社会活動全般にわたって革命的な変化を起す時代である。このIT時代の実社会で活躍するには「情報リテラシー(情報活用能力)」を磨くことが必要不可欠である。本演習では、実践に向けた情報活用能力を養うための情報技術や理論を習得する。ここでいう情報活用能力とは、情報機器を操作する能力だけでなく、情報ネットワークを活用して必要な情報を効率よく収集・整理・加工・管理・伝達し、さらには新たな情報を発信する能力を指す。																		
到達目標	卒業論文の制作に向けて、その土台となる技術や知識を習得する。																		
授業方法と留意点	資料はPDFファイルで配布する。主に課題の演習やディスカッション形式で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。</p> <p>(1) ネットビジネスのプランニングと試作システム (2) インターネットとWEB統合技術 (3) コンピュータネットワークの基礎知識</p> <p>加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	出席状況(100%)で評価する。ただし、授業への参加態度や演習課題が未提出な者、中間発表を行わない者については減点する場合も有る。																		
学生へのメッセージ	特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けて欲しい。																		
担当者の研究室等備考	11号館8階 堀井教授室																		

科目名	演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 貞也

授業概要・目的	ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。 演習 II の前半では、研究テーマに関する調査や課題設定、および、その解決策の検討や実習を行い、協調作業の重要性や研究活動の意義を学ぶ。 日頃から経営や情報に関する情報収集に努め、ディスカッションでの発言を増やすことが重要である。 後半は、前半の経験を活かして、さらなる研究テーマの追究と卒業研究の準備として必要な調査、議論を行う。																
到達目標	演習 II での目標は以下のとおりです。 (1) 正確な意見表明ができる文章能力の修得 (2) 社会貢献を意識した課題の設定 (3) 研究倫理の必要性の理解																
授業方法と留意点	地域での実践や外部の評価を受けることを念頭に置いて、調査活動や製作活動を行う。また、活動の内容を正確に伝えるための文章力やプレゼンテーション能力の充実を図る。 卒業研究のテーマにつなげる学習を展開し、専門科目への興味を高めることも目的に含まれる。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習 II では、卒業研究で取り扱うテーマを選定したり、実践的な課題に挑戦するための技術的な学習のためにグループによる輪読やプログラミング実習、および、発表を前半で行う。研究の技術を身に付けた上で、卒業研究を遂行するために必要となる専門知識の修得を目指す。後半は、個人、グループにわかれて、卒業研究のテーマを選定し、研究の背景・意義・計画について、発表、議論を行う。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。 発表内容や活動内容 70%、その他 30%																
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。																
担当者の研究室等	久保准教授室 (11 号館 7 階)																
備考																	

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的	マーケティングについて、理論面と実態面の両側面から理解を深めることを目的とする。2回生で習得した専門用語、概念をさらに深化させていくとともに、実態分析にも力をそそいでいく。			
到達目標	マーケティングの応用面での知識を深めていくことを目指します。			
授業方法と留意点	演習で与えられた問題・課題について、真摯に取り組み、充実した大学生活にしていきたいと思います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	マーケティング、企業の成功要因について分析します。ケーススタディのアプローチ。ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業態度、授業への参加度・貢献度などにより総合的に評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	11号館8階 武居教授室			

科目名	演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	<p>演習では、主に以下の2つの内容について学ぶ。</p> <p>1. 企業のマーケティング活動におけるメディア戦略</p> <p>2. コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析</p> <p>これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業の IT マーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に高度なデータ解析技術を習得していく。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの関心業界における企業のメディア戦略について説明できる 卒業研究テーマの設定と方法を明確にする 																		
授業方法と留意点	<p>【すすめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループワークによる資料作成、発表が中心（グループ作業に必要な基本的設備については研究室にて準備） 前半は、企業の WebCM を制作、後半は、メディア戦略理論の学習を行う。 他学年ゼミ生を含めた合同演習（年2回予定）とゼミ合宿を実施し、ゼミ学生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>主に以下の内容に取り組む。</p> <p>前期：企業によるコミュニケーション戦略の事例学習</p> <p>後期：卒業研究に向けた基礎調査・学習</p> <p>加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	出席状況、参加姿勢（発言、資料準備）、提出物																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 針尾准教授室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。</p>																		

科目名	演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木 紀哉

授業概要・目的	引き続き、高度情報化社会と言われる社会へのIT（情報技術）の積極的な導入によって、産業や生活環境がどのように変化してきたのかを考え、これからのITの在り方について探っていく。活動としては、卒業研究に結び付く研究テーマを決定し、研究テーマに関する事例研究、課題設定、解決方法の提案を行う。類似の研究テーマを持つ学生同士でグループを形成し、グループによる共同活動を通して、より深い洞察力と客観的な視点を身につけることを目指す。																		
到達目標	社会人となるための準備段階として、様々なテーマについて自主的に判断し、行動できることを目指す。また、データ分析などを通して、伝えたいことを論理的に説明・表現できるようになることを目指す。さらに、他のゼミ生との活動を通して、互いの知識・経験を高めあうことで、自己実現のための力を身につける。																		
授業方法と留意点	引き続き、パソコンを使った実習形式を中心とした活動を行う。同じゼミに属する学生同士でグループを作って、他のゼミ生と協力しながら講義や実習で学んだことの活用方法について討論を行う。活動としては、卒業研究に繋げるテーマを見つけ出し、他のゼミ生との協同学習やプレゼンテーションを通して、高いコミュニケーション能力を身につけることを目指す。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に結び付く研究テーマを決定し、研究テーマに関する事例研究、課題設定、解決方法の提案を行う。類似の研究テーマを持つ学生同士でグループを形成し、グループによる共同活動を通して、より深い洞察力と客観的な視点を身につけることを目指す。加えて、経営情報学の分野に関連する不正防止のための研究倫理についても引き続き務める。																		
関連科目	演習 I、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	レポート課題、演習での成果物等 (50%)、演習への参加状況 (50%) 演習が中心となるため、欠席・遅刻は演習内容や成績評価に影響する。																		
学生へのメッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。技能の習得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。																		
担当者の研究室等	11号館8階 (栢木准教授室)																		
備考	教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介する。 必要に応じて書籍を購入してもらう場合がある。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	<p>マーケティングのゼミである。 マーケティングを応用できる力の醸成を目指す。 そのために、フィールドワークを行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングをさらに発展させていく。これらを通じて、マーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。 また、卒業研究にむけたテーマの選定や卒業研究の手順等も学ぶ。 学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身に着けることを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>マーケティングの応用ができる。 自分の関心のある研究テーマを設定する。 チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。 コミュニケーション能力の向上を図り、主体性が身に付く。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義と実習、グループ・個人発表とそれに対する質疑応答の両形式で進める。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[授業テーマ] マーケティング論の応用と発展</p> <p>[内容] グループごとの作業を通じ、チームで目的を達成することの実際を体験し、その重要性を学ぶ。 フィールドワークを通じて、マーケティング課題の把握と解決策の構築等を行い、マーケティングの応用を実践する。 卒業研究テーマをみつけ、研究の方向性を決定する。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>平常の取組姿勢、学習状況、報告内容、レポートなどにより総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>11号館7階 鶴坂教授室</p>																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】 基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加をしてください。 ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。 さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。 これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を受けてください。</p>																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山本 圭三

授業概要・目的	本ゼミでは、大きく2つのテーマに沿って学習していく。1つは「仕事、労働、職業を主題とした社会学的研究」である。なぜ人は働くのか、働くことは人々にとってどのような意味をもつのか、などについてじっくり考えていく。もう1つは「社会調査に関わる種々の知識・技術」である。様々な場面で求められる「調査」の能力の獲得を目指す。			
到達目標	正確な知識に基づき、論理的な思考ができる。物事を多面的に理解し豊かな発想で議論できる。			
授業方法と留意点	テキスト等の読解(要約の報告、それをもとにした全体での議論) データ収集や分析の実習 論文やレポートの書き方についての指導 学生の希望があれば学外でのフィールドワークも設ける			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】</p> 仕事・労働・職業に関する社会学的研究 古典研究			
	<p>【方法】</p> 担当者による報告、全体での議論			
	<p>【事前・事後課題】</p> 適宜指示する			
	<p>【補足】</p> 社会科学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても、演習Ⅰに継続して指導する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加状況(出席、発言、資料)50%、提出物50%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室			
備考	卒業研究において自らの関心に基づいた研究を存分におこなえるよう、十分な知識を獲得したい。			

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 幸志

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理学を学ぶゼミである。演習Ⅱでは、心理学の研究手法と専門知識を身につける。文献の内容をまとめて、発表しながら、討論を行う。経営に関する消費者心理、マーケティングにおける心理的効果などの基礎を学ぶことを目的とする。
到達目標	演習Ⅱでは自分でテーマを決め、文献を購読し、その後、実際に心理学の手法と専門知識を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	PPによる発表形式で行う。演習Ⅱでは、経営に関する心理の専門知識を身につける。前期は自分で文献を選んで購読し、発表する。後期は経営と心理に簡単な研究計画を立て、実施してみる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後	授業テーマ・内容：経営における心理とマーケティング 方法：文献を購読し、その内容をまとめて発表する。研究手法についても学ぶ。 事前・事後課題：事前に予習、事後に復習
学習課題	さらに、心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。
関連科目	「消費者心理」を受講済あるいは受講中であること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験心理学 なぜ心理学者は人の心がわかるのか？	齋藤勇	ナツメ社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習中の発表(50%)、授業参加度(20%)、授業課題(30%)の評価などで総合的に判断する。
学生へのメッセージ	演習Ⅱには必ず遅刻せずに、出席し、積極的に参加すること。
担当者の研究室等	11号館7階 牧野(幸)准教授室
備考	牧野(幸)ゼミは、経営学部で心理学を学ぶゼミである。特別な情報の技術(プログラミングなど)は必要としないが、確率統計の知識は必要となる。また、プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPointなどが普通に使える必要がある。何よりも人としての心理を大切にすることをゼミであるので、“あいさつをする、時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。

科目名	会社法 I	科目名 (英文)	Corporate Law I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦

授業概要・目的	会社法 I では、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解する。 そのうえで、株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解する。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験 (法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など) の対策となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	教科書 p. 1～p. 5 を読んでおくこと。
	2	会社法総論	会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p. 5～p. 19 を読んでおくこと。
	3	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20～p. 36 を読んでおくこと。
	4	株式 (1)	株式総説、株主名簿。	教科書 p. 37～p. 45 を読んでおくこと。
	5	株式 (2)	株式の譲渡、自己株式。	教科書 p. 45～p. 52 を読んでおくこと。
	6	株式 (3)	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 52～p. 60 を読んでおくこと。
	7	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60～p. 66 を読んでおくこと。
	8	株式会社の機関 (1)	株式会社の機関総説。	教科書 p. 66～p. 69 を読んでおくこと。
	9	株式会社の機関 (2)	株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 69～p. 83 を読んでおくこと。
	10	株式会社の機関 (3)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会。	教科書 p. 83～p. 106 を読んでおくこと。
	11	株式会社の機関 (4)	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 106～p. 114 を読んでおくこと。
	12	株式会社の機関 (5)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書 p. 114～p. 127 を読んでおくこと。
	13	株式会社の機関 (6)	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書第 p. 127～p. 146 を読んでおくこと。
	14	計算、定款の変更	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更。	教科書 p. 147～p. 160 を読んでおくこと。
	15	解散、清算、会社法 I まとめ	解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算、会社法 I 総括。	教科書 p. 160～p. 164 を読んでおくこと。

関連科目 会社法 II、民法、企業論、企業簿記。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新会社法の基礎 (第 3 版)	加藤徹、相原隆、伊勢田道仁編	法律文化社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する (80%)。 その他講義中の発言も加味する (20%)。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の研究室等	11 号館 6 階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	会社法Ⅱ	科目名(英文)	Corporate Law II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦

授業概要・目的	会社法Ⅱでは、会社法Ⅰで習得した知識をもとに、組織再編を中心に会社法の講義を行います。株式会社の合併・分割・事業譲渡について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	株式会社の機関についての理解を前提として、具体的な会社再編の方法・手続・問題点などを理解する。 そのうえで、実際の会社再編事例を分析・検討し、理解する。 その際には、必ず、条文を参照すること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	教科書 p. 1～p. 5 を読んでおくこと。
	2	会社法Ⅰまとめ(1)	会社法総論、株式会社の設立について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 5～p. 36 を読んでおくこと。
	3	会社法Ⅰまとめ(2)	株式、新株予約権について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 37～p. 66 を読んでおくこと。
	4	会社法Ⅰまとめ(3)	株式会社の機関、計算について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 66～p. 164 を読んでおくこと。
	5	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 165～p. 183 を読んでおくこと。
	6	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 184～p. 194 を読んでおくこと。
	7	組織再編(1)	組織再編総説	事前に配布する補足資料を読んでおくこと。
	8	組織再編(2)	合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化。	教科書 p. 195～p. 206 を読んでおくこと。
	9	組織再編(3)	会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 207～p. 213 を読んでおくこと。
	10	組織再編(4)	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え。	教科書 p. 213～p. 216 を読んでおくこと。
	11	組織再編(5)	株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え。	前回の授業の復習をしておくこと。
	12	組織再編(6)	事業譲渡・事業の譲受け	教科書 p. 216～p. 219 を読んでおくこと。
	13	組織再編(7)	組織変更の意義、株式会社から持分会社への組織変更、持分会社から株式会社への組織変更。	教科書 p. 219～p. 221 を読んでおくこと。
	14	外国会社・雑則	外国会社、会社の解散命令、公告。	教科書 p. 222～p. 230 を読んでおくこと。
	15	会社法Ⅱまとめ	会社法Ⅱ総括	会社法Ⅱで学習したことを見直しておくこと。

関連科目	会社法Ⅰ、民法、企業論、企業簿記。
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新会社法の基礎(第3版)	加藤徹、相原隆、伊勢田道仁編	法律文化社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(80%)。 その他講義中の発言も加味する(20%)。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の研究室等	11号館6階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	企業者史 I	科目名 (英文)	History of Entrepreneurs I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐藤 正志

授業概要・目的	戦前期における日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業者（家）を取り上げ、その経営活動と経営理念を分析します。企業者の形成過程を経済の発展段階との関連をふまえて考察し、これからの企業者像を考えていきます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握することができる力をつけます。
授業方法と留意点	資料の配付、ビデオ視聴などを行いながら、講義形式で実施します。
科目学習の効果（資格）	企業経営に関する基本的事項を歴史的観点から、また企業者の行動や考えを通して学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	戦間期の経済発展と企業家 (1)	大衆消費社会の形成と都市型産業の発展	大衆消費社会とは何か、事前に学習し、事後にまとめる。
	2	戦間期の経済発展と企業家 (2)	阪急・小林一三 (1)	小林一三の経歴について、事前に学習し、事後にまとめる。
	3	戦間期の経済発展と企業家 (3)	阪急・小林一三 (2)	小林一三の経営理念について、事前に学習し、事後にまとめる。
	4	重化学工業の発展と新興コンツェルン (1)	新興コンツェルンとは何か	財閥とは何か、事前に学習し、事後にまとめる。
	5	重化学工業の発展と新興コンツェルン (2)	日室・野口遵	新興財閥の特色について、事前に学習し、事後にまとめる。
	6	重化学工業の発展と新興コンツェルン (3)	理化学研究所・大河内正敏	新興財閥と植民地との関連について、事前学習をし、事後にまとめる。
	7	日本自動車産業の先駆者 (1)	戦前における日本の自動車産業の発展	日本の自動車産業の発展史を、事前に学習し、事後にまとめる。
	8	日本自動車産業の先駆者 (2)	日産・鮎川義介 (1) 日産の歴史と「公衆持株会社」論	鮎川義介の履歴について、事前に学習し、事後にまとめる。
	9	日本自動車産業の先駆者 (3)	日産・鮎川義介 (2) 満洲重工業の設立と挫折	鮎川の経営理念、満重が挫折に至る過程を事前に学習し、事後にまとめる。
	10	日本自動車産業の先駆者 (4)	トヨタ (1) 豊田佐吉から喜一郎へ	トヨタ自動車の現状について、事前に学習し、事後にまとめる。
	11	日本自動車産業の先駆者 (5)	トヨタ (2) 豊田喜一郎「自動車国産化」	豊田喜一郎がなぜ「国産化」を志向したか、事前に学習し、事後にまとめる。
	12	大衆消費社会と企業家 (1)	日本企業におけるマーケティング活動の展開	マーケティングとは何か、事典等で調べて、事前に学習し、事後にまとめる。
	13	大衆消費社会と企業家 (2)	サントリー・鳥井信治郎と森永製菓・森永太郎	サントリーと森永のマーケティング活動について、事前に調べて、講義後まとめる。
	14	大衆消費社会と企業家 (3)	ミキモト・御木本幸吉のブランド戦略	ブランド概念を事前に学習し、事後にまとめる。
	15	まとめ	_____	練習問題

関連科目	企業者史Ⅱ；、経営史Ⅰ・Ⅱ (D科科目)
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験結果(90%)、授業への積極的な参加態度、姿勢 (10%) 評価。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	授業内容に関する不明点、疑問は遠慮なく質問してください。紹介する参考文献はできるだけ目をとおして、より理解を深めていただきたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階 (佐藤研究室)
備考	

科目名	企業者史Ⅱ	科目名(英文)	History of Entrepreneurs II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 正志

授業概要・目的	第2次大戦後の日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業者(家)を取り上げ、その経営活動と経営理念を分析します。企業者の形成過程を、経済の発展段階との関連をふまえて考察し、これからの企業者像を考えていきます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握することができる力をつけます。
授業方法と留意点	資料の配付やビデオ視聴を行いながら講義形式で実施します。
科目学習の効果(資格)	企業経営に関する基本的事項を歴史的観点から、また企業者の行動や考えを通して学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	戦後の経済発展の枠組みと企業家(1)	戦後復興の過程	第2次大戦後の経済の流れについて予習し、講義後にまとめる。
	2	戦後の経済発展の枠組みと企業家(2)	高度経済成長の要因と企業家	戦後を代表する経営者を事前にリストアップし、講義後その共通点について、まとめる。
	3	高度経済成長と企業家(1)	「経営の神様」・松下幸之助(1)	松下幸之助の履歴について予習し、講義後にまとめる。
	4	高度経済成長と企業家(2)	「経営の神様」・松下幸之助(2) 「水道哲学」	松下「水道哲学」とな何か、について予習し、講義後にまとめる。
	5	高度経済成長と企業家(3)	ホンダ・本田宗一郎	本田と藤沢武夫のパートナーシップについて予習し、講義後にまとめる。
	6	高度経済成長と企業家(4)	ソニー・井深大	井深と盛田昭夫のパートナーシップについて予習し、講義後にまとめる。
	7	流通革命と企業家(1)	戦後・流通産業の展開	戦後の流通業の変化を事前に調べて、講義後まとめる。
	8	流通革命と企業家(2)	中内・ダイエー(1) 経営理念と発展	中内の「流通革命論」を事前に調べて、講義後まとめる。
	9	流通革命と企業家(3)	中内・ダイエー(2) 挫折と「流通革命」の後継者	ダイエーの経営の失敗について、その要因を調べて、まとめる。また、中内の「流通革命」の成果は現在どのような形で引き継がれているのかを考える。
	10	流通革命と企業家(4)	セブンイレブン・鈴木敏文	鈴木敏文による小売業の革新は、海外においても通用するか、まとめる。
	11	IT革命の進展と企業家(1)	インターネットの発展と企業経営の変容	インターネットの歴史を調べて、まとめる。
	12	IT革命の進展と企業家(2)	ソフトバンク・孫正義	孫正義の経営理念を事前に調べて、講義後まとめる。
	13	IT革命の進展と企業家(3)	テレビゲームの攻防	テレビゲーム開発の歴史と現状を調べて、まとめる。
	14	IT革命の進展と企業家(4)	山内・任天堂の戦略	任天堂の経営戦略を事前に調べて、講義後まとめる。
	15	まとめ	—————	練習問題

関連科目	企業者史Ⅰ、経営史Ⅰ(D科科目)
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験結果(90%)、授業への積極的な参加姿勢、態度(10%)で評価。
----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	講義内容に対する不明点や疑問は遠慮なく質問してください。また、紹介する参考文献にはできる限り目を通してください。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階(佐藤研究室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	企業簿記	科目名(英文)	Book keeping
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石橋 康男

授業概要・目的
簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きにまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。

到達目標
簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。

授業方法と留意点
最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。

科目学習の効果(資格)
日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	教科書の該当箇所参照
2	簿記の基礎②	取引と勘定	教科書の該当箇所参照
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	教科書の該当箇所参照
4	簿記の基礎④	試算表	教科書の該当箇所参照
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	教科書の該当箇所参照
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	教科書の該当箇所参照
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
8	現金・預金①	現金・現金過不足	教科書の該当箇所参照
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	教科書の該当箇所参照
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	教科書の該当箇所参照
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	教科書の該当箇所参照
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	教科書の該当箇所参照
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	教科書の該当箇所参照
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	教科書の該当箇所参照
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	教科書の該当箇所参照

関連科目
財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式 日商簿記検定問題集3級改訂版	渡辺正直	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	企業簿記	紙博文	大学教育出版
2			
3			

評価方法(基準)
学期末試験の結果により評価する。

学生へのメッセージ
簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。

担当者の研究室等
11号館6階(非常勤講師室)

備考

科目名	企業立地論	科目名(英文)	Location Theory
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶのは、「戦略」です。企業立地とは何か？ 経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？ ・主な学習テーマは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ①企業は、どのような考えで立地を選択し、立地に適応し、そして立地を創造するのか？ ②小売業、物流業、製造業、業種によって立地戦略はどのように異なるのか？ ③企業立地を、ビジネス戦略にどう活かせば良いのか？
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・企業立地とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ① 企業立地を取り巻く様々なテーマについて、毎回ショートケーススタディ（仮想企業による事例分析）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。 ② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返す、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。 ③ グループメンバー、役割分担は定期的に変更し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。 ・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。

科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。 <復習> 「本日のポイント」の内容について、自分の「武器」として使えるように。
2	消費立地戦略を考える① ～なぜ、そこに立地するのか？～	なぜ、近接立地か？ ～事例①コンビニエンスストア～	同上
3	同上②	なぜ、郊外立地か？ ～事例②ショッピングセンター～	同上
4	同上③	なぜ、地域別価格か？ ～事例③ハンバーガーチェーン店～	同上
5	物流立地戦略を考える① ～運転手1人体制～	企業事例研究：トラック運送業A社 ～①高速道路の開通による距離・時間短縮効果～	同上
6	同上②	企業事例研究：トラック運送業A社 ～②高速道路の開通と立地戦略～	同上
7	同上③	企業事例研究：トラック運送業A社 ～③立地戦略と運転手の勤務ローテーションの変化～	同上
8	同上④	企業事例研究：トラック運送業A社 ～④立地戦略と3PL～	同上
9	店舗立地とまちづくり戦略を考える① ～老舗酒店は生き残れるのか？～	企業事例研究：酒小売業B社 ～①商圏強度分析～	同上
10	同上②	企業事例研究：酒小売業B社 ～②商圏別の販売戦略～	同上
11	同上③	企業事例研究：酒小売業B社 ～③中心商店街と郊外大型店の比較～	同上
12	同上④	企業事例研究：酒小売業B社 ～④立地の流動化とタウンマネジメント～	同上
13	生産立地戦略を考える① ～アジアか、それとも国内回帰か？～	企業事例研究：自動車部品メーカーC社 ～①海外進出のメリット・デメリット～	同上
14	同上②	企業事例研究：自動車部品メーカーC社 ～②なぜ、国内回帰なのか？～	同上
15	同上③	企業事例研究：自動車部品メーカーC社 ～③企業誘致とグローバルネットワーク～	同上

関連科目	経営学、経営戦略論、企業論など
------	-----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	すべて教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	立地ウォーズ	川端 基夫	新評論
2	多国籍企業の立地論	鈴木 洋太郎編	原書房
3	立地論入門	松原 宏	古今書院

<p>評価方法 (基準)</p>	<p>①グループ討議への参加意欲・発言内容 (40%)、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (20%)、 ③プレゼン力および質疑応答対応力 (20%) ④定期試験 (論述式) (20%) による総合評価。 ただし、①～③は、毎回の授業の都度採点し、集計します。</p>
<p>学生への メッセージ</p>	<p>・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッション しましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>11号館7階 大田住吉研究室</p>
<p>備考</p>	

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	黒澤 敏朗

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。			
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。			
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樋口 友紀

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点で評価する。具体的には、授業への参加 (50%) とその他 (課題への取組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容など) (50%) により評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。			
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。			
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。			

科目名	グローバルビジネス	科目名(英文)	Global Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 和巳

「企業はなぜ国境をまたぐ国際ビジネス活動を行うのであろうか」の問いに対して一般的に二つの動機があると言われている：
 ①成長の戦略を実行する動機：（現地での販売拡大、域内販売の拡大、進出企業への部品等の供給）であり、
 ②競争戦略の実行動機：（原材料・資源の確保、コスト面での有利、価格競争力の維持、域外販売の拡大、日本への逆輸入）
 これらの動機に加え、輸送技術や通信技術の飛躍的な進歩が距離感を縮めていき、そして世界中どこでも文化が似かよったものになり、各国の経済が統合され、更に金融の世界においても相互依存が進む傾向がみられる。
 グローバルビジネスではグローバル企業の歴史、グローバル企業を作った企業家及びグローバル企業の経営戦略を様々な観点から取り上げ、グローバルビジネス時代に認識すべき基礎的な知識を提供する。

到達目標 グローバルビジネス時代への変遷を的確に理解し、将来に対応出来るための素養を身につけることを目標とする。

授業方法と留意点 各授業でテーマ毎のプリント配布。
 課題を与え、グループディスカッションを行うこともある。
 授業終了時に、学んだこと・興味を持った点・疑問点を指定用紙に学生に記入依頼し、回収後次回の授業で再度説明あるいは答える。

科目学習の効果(資格) グローバル企業経営全般について将来学びたい学生にとつての指標となる。
 日々報道されている国際ニュース、グローバル企業の活動を理解することが出来る。
 就職活動に役立つ実力をつける

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、 グローバルビジネスとは何かを考える。 グローバルビジネスで何を学ぶか	プリント1
2	グローバルビジネス経済	グローバルビジネスの現状	プリント2
3	グローバル企業の歴史	初期のグローバル経済 新グローバル経済の動向	プリント3
4	グローバル企業を作った企業家 (1)	代表的な日本企業家 (1)	プリント4
5	グローバル企業を作った企業家 (2)	代表的な日本企業家 (2)	プリント5
6	グローバルビジネス戦略	情報技術 市場参入	プリント6
7	グローバル企業の組織	グローバル企業の最適組織	プリント7
8	グローバル企業の人的資源管理	日本型人的管理とグローバル企業の人的管理	プリント8
9	グローバル時代の物流	日本の物流企業のグローバル化	プリント9
10	グローバル企業の財務 (1)	資金調達	プリント10
11	グローバル企業の財務 (2)	外国為替リスク管理	プリント11
12	日本企業のグローバル化 (1)	戦前のグローバルビジネス	プリント12
13	日本企業のグローバル化 (2)	戦後のグローバルビジネス	プリント13
14	外資系グローバル企業の日本進出 (1)	明治時代から現在まで	プリント14
15	外資系グローバル企業の日本進出 (2)	外国資本にとつての日本市場	プリント15

関連科目 経営学、企業立地論、マクロ経済学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバルビジネス戦略	小田部正明/クリスチャン・ヘルセン	同文館出版株式会社
2	グローバルビジネス戦略の革新	諸上茂登他	同文館出版株式会社
3	国際経営学入門	淵本康方/徐 燕	株式会社創成社

評価方法(基準) 定期試験60%、小テスト20%、授業参加度20%

学生へのメッセージ 例えば、ユニクロで購入する衣服は100%Made in Japanではないことを学生諸君は知っている。ユニクロは衣服の原材料を何処から調達？、何処で生産・縫製？、デザインは何処の国の人？、等々の疑問が湧くと思う。現在一国だけで全てが成り立つことが困難になっている相互依存的なグローバル社会になっている。このような社会でグローバルスタンダードたり得たものが生き延びる世界になりつつあることを認識して欲しい。世界の様々な分野でのグローバル化展開に興味のある学生諸君に受講を勧めたい。

担当者の研究室等備考 11号館6階 経営学部非常勤講師控え室

科目名	経営学	科目名(英文)	Business Administration
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	庭本 佳子, 畠山 俊宏

授業概要・目的	<p>[前期] 【授業概要】 本講義では、はじめて経営学に接する学生を対象に、企業経営の仕組みとその運営の仕方について基礎から説明していきます。企業を経営するとは、どういったことをいうのでしょうか。また、企業の経営には何が必要で、企業はどのような仕組みで動いているのでしょうか。こうした問いについて、私たちの日頃の生活とリンクさせつつ経営学領域の色々な側面から考察します。 経営学の基礎的な概念や理論に触れ、経営学に関する基本的な知識を蓄積していきます。</p> <p>【目的】 はじめて経営学を学ぶ学生が、経営学とは何かについてイメージし経営学を学習する機会を提供することを目的としています。</p> <p>[後期] 経営学には様々な分野や理論があります。それらを理解するためには、実際の企業の行動から学ぶことが必要です。本講義では、企業のケースを用いて経営学の基本的な概念を理解することを目標とします。</p>																																																																												
到達目標	<p>[前期] 【到達目標】 ①経営学の基本的な概念や用語を理解すること ②具体的な企業の経営現象について、学んだ概念や用語によって説明できるようになること</p> <p>[後期] 実際の企業を事例に経営学の基本的な概念を説明できる。</p>																																																																												
授業方法と留意点	<p>[前期] 教科書を中心とした講義を行います。講義の理解を促進するために、数回の中間テストを講義の中で行います。</p> <p>[後期] 講義形式で授業を進めます。理解を深めるために適宜、小テストを実施します。</p>																																																																												
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、販売士、公認会計士																																																																												
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業についてのガイダンスを行います。</td> <td>事前にシラバスを読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>企業経営入門(1)</td> <td>企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>企業経営入門(2)</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>企業と社会</td> <td>社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>企業形態</td> <td>企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>コーポレート・ガバナンス</td> <td>所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経営理念</td> <td>企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>企業戦略</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>競争戦略</td> <td>企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>経営資源</td> <td>企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>マーケティング</td> <td>企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>組織形態</td> <td>企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>日本企業の組織形態</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>組織間関係</td> <td>企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの講義内容をまとめます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>ガイダンス</td> <td>本講義のガイダンスを行います。</td> <td>シラバスを事前に読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>企業を起こす</td> <td>ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズを事例に大学発ベンチャーのビジネスモデルについて解説します。</td> <td>教科書の第1章を読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>現代企業の発生</td> <td>ロックフェラーとスタンダード・オイルを事例に現代の大企業の誕生の歴史について解説します。</td> <td>教科書の第3章を読んでおくこと</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業についてのガイダンスを行います。	事前にシラバスを読んでおくこと。	2	企業経営入門(1)	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	今回のノートの復習	3	企業経営入門(2)	前回の続き	今回のノートの復習	4	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	今回のノートの復習	5	企業形態	企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。	今回のノートの復習	6	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。	今回のノートの復習	7	経営理念	企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。	今回のノートの復習	8	企業戦略	前回の続き	今回のノートの復習	9	競争戦略	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習	10	経営資源	企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。	今回のノートの復習	11	マーケティング	企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。	今回のノートの復習	12	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	今回のノートの復習	13	日本企業の組織形態	前回の続き	今回のノートの復習	14	組織間関係	企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	今回のノートの復習	15	まとめ	これまでの講義内容をまとめます。	今回のノートの復習	16	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと	17	企業を起こす	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズを事例に大学発ベンチャーのビジネスモデルについて解説します。	教科書の第1章を読んでおくこと	18	現代企業の発生	ロックフェラーとスタンダード・オイルを事例に現代の大企業の誕生の歴史について解説します。	教科書の第3章を読んでおくこと
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																										
1	イントロダクション	授業についてのガイダンスを行います。	事前にシラバスを読んでおくこと。																																																																										
2	企業経営入門(1)	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	今回のノートの復習																																																																										
3	企業経営入門(2)	前回の続き	今回のノートの復習																																																																										
4	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	今回のノートの復習																																																																										
5	企業形態	企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。	今回のノートの復習																																																																										
6	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。	今回のノートの復習																																																																										
7	経営理念	企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。	今回のノートの復習																																																																										
8	企業戦略	前回の続き	今回のノートの復習																																																																										
9	競争戦略	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習																																																																										
10	経営資源	企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。	今回のノートの復習																																																																										
11	マーケティング	企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。	今回のノートの復習																																																																										
12	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	今回のノートの復習																																																																										
13	日本企業の組織形態	前回の続き	今回のノートの復習																																																																										
14	組織間関係	企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	今回のノートの復習																																																																										
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめます。	今回のノートの復習																																																																										
16	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと																																																																										
17	企業を起こす	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズを事例に大学発ベンチャーのビジネスモデルについて解説します。	教科書の第1章を読んでおくこと																																																																										
18	現代企業の発生	ロックフェラーとスタンダード・オイルを事例に現代の大企業の誕生の歴史について解説します。	教科書の第3章を読んでおくこと																																																																										

	19	環境・戦略・組織	フォードと GM を事例に経営戦略と経営組織の発展について解説します。	教科書の第 4 章を読んでおくこと																
	20	新しい事業の創造	ヤマト運輸を事例に新たな事業を創造する方法について解説します。	教科書の第 5 章を読んでおくこと																
	21	いかに競争するか	マクドナルドとモスバーガーを事例に競争戦略の概要について解説します。	教科書の第 6 章を読んでおくこと																
	22	事業のリストラクチャリングと組織改革	GE を事例に企業革新について解説します。	教科書の第 7 章を読んでおくこと																
	23	小テスト	1 回から 7 回の内容で小テストを実施します。	教科書の第 1 章から第 7 章（第 2 章を除く）と講義の 1 回から 7 回までを復習しておくこと																
	24	破壊的技術への対応とドメインの再定義	富士写真フィルムを事例に破壊的技術に対応するイノベーションについて解説します。	教科書の第 9 章を読んでおくこと																
	25	いかに国際化するか	ノキアを事例に企業の国際化戦略について解説します。	教科書の第 10 章を読んでおくこと																
	26	日本的生産システム	トヨタを事例にジャスト・イン・タイムなどのトヨタ生産方式について解説します。	教科書の第 11 章を読んでおくこと																
	27	組織の革新と再生	パナソニックを事例に組織変革について解説します。	教科書の第 12 章を読んでおくこと																
	28	企業の知識体系	シャープを事例に製品開発マネジメントについて解説します。	教科書の第 13 章を読んでおくこと																
	29	会社は誰のものか	カゴメを事例に所有と経営の分離について解説します。	教科書の第 17 章を読んでおくこと																
	30	ビジネスの倫理	三菱ふそうのハブ欠陥事件を事例に企業倫理について解説します。	教科書の第 18 章を読んでおくこと																
関連科目	経営管理論、経営組織論、経営戦略論、人的資源管理論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ケースに学ぶ経営学 [新版]</td> <td>東北大学経営学グループ著</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ケースに学ぶ経営学 [新版]	東北大学経営学グループ著	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ケースに学ぶ経営学 [新版]	東北大学経営学グループ著	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経験から学ぶ経営学入門</td> <td>上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明	有斐閣																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>[前期] 期末試験（70%）と中間テスト（30%）の成績により評価します。</p> <p>[後期] 期末試験 70%、小テスト 30%で評価します。</p>																			
学生への メッセージ	<p>[前期] 主体的に講義に参加しよく復習するようにしてください。</p> <p>[後期] 実際の企業の事例を通じて経営学の面白さに触れてください。事例で取り上げる企業のホームページを見るなどして積極的に授業に参加してください。</p>																			
担当者の 研究室等	<p>[前期] 1 1 号館 8 階 庭本研究室</p> <p>[後期] 1 1 号館 8 階 畠山研究室</p>																			
備考																				

科目名	経営学 I	科目名 (英文)	Introduction to Business Administration I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	庭本 佳子

授業概要・目的	<p>【授業概要】 本講義では、はじめて経営学に接する学生を対象に、企業経営の仕組みとその運営の仕方について基礎から説明していきます。企業を営むとは、どういったことをいうのでしょうか。また、企業の経営には何が必要で、企業はどのような仕組みで動いているのでしょうか。こうした問いについて、私たちの日頃の生活とリンクさせつつ経営学領域の色々な側面から考察します。経営学の基礎的な概念や理論に触れ、経営学に関する基本的な知識を蓄積していきます。</p> <p>【目的】 はじめて経営学を学ぶ学生が、経営学とは何かについてイメージし経営学を学習する機会を提供することを目的としています。</p>																																																																		
到達目標	<p>【到達目標】 ①経営学の基本的な概念や用語を理解すること ②具体的な企業の経営現象について、学んだ概念や用語によって説明できるようになること</p>																																																																		
授業方法と留意点	教科書を中心とした講義を行います。講義の理解を促進するために、数回の中間テストを講義の中で行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、販売士、公認会計士																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業についてのガイダンスを行います。</td> <td>事前にシラバスを読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>企業経営入門 (1)</td> <td>企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>企業経営入門 (2)</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>企業と社会</td> <td>社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>企業形態</td> <td>企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>コーポレート・ガバナンス</td> <td>所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経営理念</td> <td>企業は環境の変化に適切に対応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>企業戦略</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>競争戦略</td> <td>企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>経営資源</td> <td>企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>マーケティング</td> <td>企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>組織形態</td> <td>企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>日本企業の組織形態</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>組織間関係</td> <td>企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの講義内容をまとめます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業についてのガイダンスを行います。	事前にシラバスを読んでおくこと。	2	企業経営入門 (1)	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	今回のノートの復習	3	企業経営入門 (2)	前回の続き	今回のノートの復習	4	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	今回のノートの復習	5	企業形態	企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。	今回のノートの復習	6	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。	今回のノートの復習	7	経営理念	企業は環境の変化に適切に対応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。	今回のノートの復習	8	企業戦略	前回の続き	今回のノートの復習	9	競争戦略	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習	10	経営資源	企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。	今回のノートの復習	11	マーケティング	企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。	今回のノートの復習	12	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	今回のノートの復習	13	日本企業の組織形態	前回の続き	今回のノートの復習	14	組織間関係	企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	今回のノートの復習	15	まとめ	これまでの講義内容をまとめます。	今回のノートの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業についてのガイダンスを行います。	事前にシラバスを読んでおくこと。																																																																
2	企業経営入門 (1)	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	今回のノートの復習																																																																
3	企業経営入門 (2)	前回の続き	今回のノートの復習																																																																
4	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	今回のノートの復習																																																																
5	企業形態	企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。	今回のノートの復習																																																																
6	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。	今回のノートの復習																																																																
7	経営理念	企業は環境の変化に適切に対応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。	今回のノートの復習																																																																
8	企業戦略	前回の続き	今回のノートの復習																																																																
9	競争戦略	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習																																																																
10	経営資源	企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。	今回のノートの復習																																																																
11	マーケティング	企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。	今回のノートの復習																																																																
12	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	今回のノートの復習																																																																
13	日本企業の組織形態	前回の続き	今回のノートの復習																																																																
14	組織間関係	企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	今回のノートの復習																																																																
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめます。	今回のノートの復習																																																																
関連科目	経営管理論、経営組織論、経営戦略論、人的資源管理論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経験から学ぶ経営学入門</td> <td>上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明	有斐閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	期末試験 (70%) と中間テスト (30%) の成績により評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	主体的に講義に参加しよく復習するようにしてください。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 (庭本研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	経営学Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	畠山 俊宏

授業概要・目的	経営学には様々な分野や理論があります。それらを理解するためには、実際の企業の行動から学ぶことが必要です。本講義では、企業のケースを用いて経営学の基本的な概念を理解することを目標とします。
到達目標	実際の企業を事例に経営学の基本的な概念を説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。理解を深めるために適宜、小テストを実施します。
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、販売士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
2	企業を起こす	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズを事例に大学発ベンチャーのビジネスモデルについて解説します。	教科書の第1章を読んでおくこと
3	現代企業の発生	ロックフェラーとスタンダード・オイルを事例に現代の大企業の誕生の歴史について解説します。	教科書の第3章を読んでおくこと
4	環境・戦略・組織	フォードとGMを事例に経営戦略と経営組織の発展について解説します。	教科書の第4章を読んでおくこと
5	新しい事業の創造	ヤマト運輸を事例に新たな事業を創造する方法について解説します。	教科書の第5章を読んでおくこと
6	いかに競争するか	マクドナルドとモスバーガーを事例に競争戦略の概要について解説します。	教科書の第6章を読んでおくこと
7	事業のリストラクチャリングと組織改革	GEを事例に企業革新について解説します。	教科書の第7章を読んでおくこと
8	小テスト	1回から7回の内容で小テストを実施します。	教科書の第1章から第7章(第2章を除く)と講義の1回から7回までを復習しておくこと
9	破壊的技術への対応とドメインの再定義	富士写真フィルムを事例に破壊的技術に対応するイノベーションについて解説します。	教科書の第9章を読んでおくこと
10	いかに国際化するか	ノキアを事例に企業の国際化戦略について解説します。	教科書の第10章を読んでおくこと
11	日本の生産システム	トヨタを事例にジャスト・イン・タイムなどのトヨタ生産方式について解説します。	教科書の第11章を読んでおくこと
12	組織の革新と再生	パナソニックを事例に組織変革について解説します。	教科書の第12章を読んでおくこと
13	企業の知識体系	シャープを事例に製品開発マネジメントについて解説します。	教科書の第13章を読んでおくこと
14	会社は誰のものか	カゴメを事例に所有と経営の分離について解説します。	教科書の第17章を読んでおくこと
15	ビジネスの倫理	三菱ふそうのハブ欠陥事件を事例に企業倫理について解説します。	教科書の第18章を読んでおくこと

関連科目 経営管理論、経営組織論、経営戦略論、人的資源管理論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ケースに学ぶ経営学 [新版]	東北大学経営学グループ著	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 期末試験70%、小テスト30%で評価します。

学生へのメッセージ 実際の企業の事例を通じて経営学の面白さに触れてください。事例で取り上げる企業のホームページを見るなどして積極的に授業に参加してください。

担当者の研究室等 11号館8階 畠山講師室

備考

科目名	経営学特講V	科目名(英文)	Up-to-date Topics of Business Administration V
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	仲 秀樹

授業概要・目的
当授業では、監査の中でも企業会計の監査である財務諸表監査を中心に講義する。監査の本質を理解するために、監査の意義・種類について解説し、監査の基本的概念について検討したい。また実際の財務諸表監査とは、いかなる証拠を収集し、評価するのかなど、監査人の具体的な手続についても見ていくことにする。

到達目標
財務諸表監査の限界と有用性を理解し、受講生が将来、財務諸表を活用するときの勘所を獲得することを目標とする。

授業方法と留意点
教科書にもとづいた講義方式。監査について受講生はイメージを描きにくいと思われるので、具体例を交えながら平易な講義を心がけたい。

科目学習の効果(資格)
監査論の基礎知識を得ることにより、公認会計士試験の初歩的な知識を獲得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	監査のフレームワーク(1)	監査とは何か。監査がなぜ必要とされるのか。その意義について検討する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
2	監査のフレームワーク(2)	監査の生成要因と監査の種類について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
3	監査のフレームワーク(3)	財務諸表監査の特質と監査の経済的機能について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
4	監査制度のフレームワーク	アメリカにおける監査基準の生成と展開を概説し、わが国の商法監査制度および証券取引法監査制度について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
5	監査規範の意義とわが国の監査基準(1)	監査規範の意義と体系について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
6	監査規範の意義とわが国の監査基準(2)	監査基準の生成と展開について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
7	監査規範の意義とわが国の監査基準(3)	監査基準における一般基準、実施基準、報告基準について概説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
8	監査意見形成のプロセス(1)	監査意見形成のプロセスはどのような論理に支えられているか、を説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
9	監査意見形成のプロセス(2)	財務諸表監査における経営者の主張と監査要点について考える。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
10	監査意見形成のプロセス(3)	監査手続と監査技術の関係、および監査技術の詳細につき講義する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
11	リスク・アプローチと監査戦略	リスク・アプローチの意義と監査リスクの構成要素について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
12	リスク評価、実証手続および監査の完了	固有リスクの評価や統制リスクの評価について講義する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
13	監査報告書と情報提供機能	監査業務の最終成果物である監査報告書について、その意義と機能、利害関係者にとっての意味や監査報告書の利用方法について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
14	総論	現在の会計監査の重要性とその将来性について検討する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
15	おわりに	講義のまとめ	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する

関連科目
会計関連科目、とくに財務会計論を履修していることが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシック監査論(七訂版)	伊豫田隆俊、松本祥尚、林隆敏	同文館出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
評価方法は定期試験が80%、レポートが20%として評価する。

学生へのメッセージ
講義中の私語は厳禁。質問は大歓迎です。学生の講義の理解度に応じて講義内容を変更する場合があります。

担当者の研究室等
11号館6階(経営学部事務室)

備考

科目名	経営管理論	科目名(英文)	Business Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畠山 俊宏

授業概要・目的	経営管理論は、企業経営の現場から生まれた実践的な学問です。本講義では、経営管理論とはどのような学問であるのか、経営管理論にはどのような分野があるのか等について講義します。講義を通じて経営管理論が生まれた歴史的背景やその理論の発展について理解することを目的とします。
到達目標	①経営管理論に関する主要な理論を理解する。 ②経営管理論の理論に基づいて企業のマネジメントを説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。理解を深めるために適宜、小テストを実施します。
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、販売士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	企業の特徴	企業とはどのような特徴を持った組織であるのか解説します。	教科書の第2章を読んでおくこと
3	企業の種類	企業の種類について解説します。	教科書の第3章を読んでおくこと
4	株式会社の特徴と仕組み	所有と経営の分離などの株式会社に関する主要な概念について解説します。	教科書の第4章を読んでおくこと
5	小テスト①	1回から4回の内容で小テストを実施します。	教科書の第1章から第4章と講義の1回から4回までを復習しておくこと
6	経営学の発生	経営学が生まれた歴史的背景について解説します。	教科書の第5章を読んでおくこと
7	テイラーと科学的管理法	科学的管理法の内容や誕生した背景について解説します。	教科書の第6章を読んでおくこと
8	ヘンリー・フォードとフォードイズム	自動車の大量生産を実現したフォード・システムについて解説します。	教科書の第7章を読んでおくこと
9	ファヨールと管理過程論	ファヨールの管理過程論について解説します。	教科書の第8章を読んでおくこと
10	メイヨーと人間関係論	メイヨーの人間関係論について解説します。	教科書の第9章を読んでおくこと
11	行動科学と統合理論(1)	フォレット、リッカート、アージリスの理論について解説します。	教科書の第10章1節から3節を読んでおくこと
12	行動科学と統合理論(2)	マズローの欲求段階説、マグレガーのX理論・Y理論、ハーズバークの動機づけ・衛生理論について解説します。	教科書の第10章4節から6節を読んでおくこと
13	近代管理論からコンティンジェンシー理論へ(1)	バーナードの組織論、サイモンの意思決定論について解説します。	教科書の第11章1節から3節を読んでおくこと
14	近代管理論からコンティンジェンシー理論へ(2)	コンティンジェンシー理論、組織間関係論について解説します。	教科書の第11章4節から5節を読んでおくこと
15	小テスト②	6回から14回の内容で小テストを実施します。	教科書の第5章から第11章と講義の6回から14回までを復習しておくこと
16	組織とは何か(1)	組織の特徴、伝統的組織論について解説します。	教科書の第12章1節から2節を読んでおくこと
17	組織とは何か(2)	新古典的理論、近代組織論について解説します。	教科書の第12章3節から4節を読んでおくこと
18	基本的な組織形態	経営組織の種類について解説します。	教科書の第13章を読んでおくこと
19	さまざまな組織形態(1)	職能部門制組織と事業部制組織、ブランド・マネージャー制とプロジェクト組織、マトリックス組織について解説します。	教科書の第14章1節から3節を読んでおくこと
20	さまざまな組織形態(2)	戦略的事業単位、情報革命と組織について解説します。	教科書の第14章4節から5節を読んでおくこと
21	経営戦略論(1)	経営戦略論の誕生、競争戦略論について解説します。	教科書の第15章1節から2節を読んでおくこと
22	経営戦略論(2)	戦略のフレームワーク、創発型戦略論について解説します。	教科書の第15章3節から4節を読んでおくこと
23	人事管理とリーダーシップ論(1)	人事管理の概要について解説します。	教科書の第16章1節から3節を読んでおくこと
24	人事管理とリーダーシップ論(2)	リーダーシップ論について解説します。	教科書の第16章4節から5節を読んでおくこと
25	小テスト③	16回から24回の内容で小テストを実施します。	教科書の第12章から第16章と講義の16回から24回までを復習しておくこと
26	生産管理論	生産管理論の概要と歴史について解説します。	教科書の第18章を読んでおくこと
27	日本的経営論(1)	日本的経営の三種の神器について解説します。	教科書の第20章1節を読んでおくこと
28	日本的経営論(2)	日本的経営の長所と短所について解説します。	教科書の第20章2節から3節を読んでおくこと
29	現代社会と企業(1)	企業の国際化について解説します。	教科書の第21章1節を読んでおくこと
30	現代社会と企業(2)	情報化と新しいビジネスモデルについて解説します。	教科書の第21章2節から3節を読んでおくこと

関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト経営学[第3版]	井原久光	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 60%、小テスト①10%、小テスト②15%、小テスト③15%で評価します。			
学生への メッセージ	予習・復習を行い、積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	11号館8階 畠山講師室			
備考				

科目名	経営情報システム I	科目名 (英文)	Management Information Systems I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也

授業概要・目的	組織の経営において、経営情報システムはもっとも重要な要素の一つである。現在の情報社会を構築し、また、発展させ続けているのは情報システムを効果的に活用している組織や公的団体などである。 本講義では、経営情報システムの利点に関する基本的な知識や発展の経緯を学ぶとともに、最新の技術動向についても紹介する。
到達目標	(1) 経営情報システムの重要性を説明できる (2) 経営情報システムを支える技術について知識を持っている (3) 経営情報システムの構築と運用における課題について説明できる
授業方法と留意点	プロジェクターを使いながら、事例や理論について説明する。学生が講義中に最新動向を調べたり、グループによるディスカッション、ディベートなども行う。
科目学習の効果 (資格)	企業経営において情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まる。 IT パスポートをはじめとする情報処理技術者試験を受験する援助となる。 中小企業診断士試験を受験する援助となる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、情報社会と経営情報システム	予習：シラバスを読んでおく 復習：ディスカッションの準備
2	経営情報システムの知名度	ディスカッション テーマ「情報システムを見たことありますか？」	予習：ディスカッションの準備 復習：ディスカッションで出た意見のまとめ	
3	ものづくりと経営情報システム	生産情報、生産管理システム、品質管理	予習：なし 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す	
4	「最強」の販売員と経営情報システム	POS、需要予測、在庫管理	予習：最近の購買行動を振り返る 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す	
5	生活の豊かさと経営情報システム	医療情報、自治体情報システム、RESAS	予習：RESAS を触る 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す	
6	経営情報システムの科学	シミュレーション、モデリング	予習：シミュレーション、モデリングと名のつくものを調べる 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す	
7	経営情報システムの限界	集合知、人工知能、ビッグデータ	予習：IT の負の面を調べる 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す	
8	ディベートに向けたディスカッション	グループワーク、発想支援、事例解説	予習：ディスカッションの準備 復習：ディスカッションで出た意見の分類	
9	経営情報システムのこれからの価値	ディベート テーマ「経営情報システムは必要か否か？」 実務者の解説やコメント（事例解説になる可能性あり）	予習：ディベートの準備 復習：ディベートで出た意見の分類	
10	経営情報システムを活性化させる組織	ナレッジマネジメント、BPR、SNS、プロジェクト管理	予習：組織的な IT 利用の例を調べる 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す	
11	経営情報システムの開発現場	開発事例の紹介、SE の役割、設計技法	予習：SE の実態を調べる 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す	
12	経営情報システムとお金の関係	会計情報システム、原価管理、ネットワーク	予習：会計システムの現状を調べる 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す	
13	サイバー犯罪と経営情報システム	サイバーテロ、情報セキュリティ、クラウド 大阪府警による情報提供（予定）	予習：サイバー犯罪について調べる 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す	
14	経営情報システムを駆使できる人材へ	CIO、e-ラーニング、資格情報、国の方針など	予習：経営情報に関する資格や職業を調べる 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す	
15	まとめ	講義に関する質問への回答	予習：これまでの授業内容をまとめる	

関連科目	経営情報システムII、プログラミング、ビジネスデータ分析、ビジネス IT 演習
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%)、課題やレポート (20%)、授業への参加度 (20%) により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく対処するので注意すること。
-----------	---

学生への メッセージ	学科の名称の「経営情報」が入った科目です。経営情報システムの重要性や面白さ、奥深さに触れて、多様な科目に興味を持ってもらいたいと思っています。
担当者の 研究室等	11号館7階（久保准教授室）
備考	必要に応じて資料を配布します。

科目名	経営情報システムⅡ	科目名(英文)	Management Information Systems II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉

授業概要・目的	企業経営において、情報システムの活用は業務遂行に欠かせない要素の一つとなっている。講義では、経営情報システムⅠで学習した情報システムに関する知識を活かしながら、Excel および Access を用いて、簡単なデータベースの設計・開発を行う。
到達目標	データベースの設計・管理の基本について理解し、Excel および Access を用いて、簡単なリレーショナルデータベースを設計、開発するための知識・技術を身につける。
授業方法と留意点	配付資料を中心に講義を行い、プロジェクターを使用しながら解説する。随時演習を取り入れながら進めることで理解を深める。
科目学習の効果(資格)	企業経営で情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まると共に、システムの設計・開発に関する技能を習得できる。中小企業診断士試験を受験する援助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、経営情報システムⅠの復習、データベースの基本	—————
2	システム開発の技術(1)	システム開発のプロセス、システム開発モデル	開発のプロセスについて調べる 配付資料を読んでおく
3	システム開発の技術(2)	要求分析と業務分析の手法	要求分析および業務分析とはどのようなものかを考える 配付資料を読んでおく
4	システム開発の技術(3)	業務分析演習	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
5	情報システム設計演習(1)	情報システムの開発環境	開発環境について調べる 配付資料を読んでおく
6	情報システム設計演習(2)	データベースのテーブル作成	テーブルについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
7	情報システム設計演習(3)	データベースのリレーション作成	リレーションについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
8	情報システム設計演習(4)	データベースのフォーム作成1	フォームについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
9	情報システム設計演習(5)	データベースのフォーム作成2	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
10	情報システム設計演習(6)	データベースのレポート作成	レポートについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
11	情報システム設計演習(7)	データベースのマクロ作成	マクロについて調べ、演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
12	情報システム設計演習(8)	データベースのメニューフォーム作成、システム利用マニュアルの作成・提出	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
13	情報システム設計演習(9)	プレゼンテーション資料の作成・提出、システム作業報告書の作成	演習課題に解答する 配付資料を読んでおく
14	情報システム設計演習(10)	プレゼンテーション相互評価、システム作業報告書の作成・提出	システムの問題点を自己分析する 作業報告書の作成
15	全体のまとめ・学力診断テスト	全体復習と確認テスト	全体復習の内容を整理しておく

関連科目 経営情報システムⅠ、プログラミング、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業での成果物(50%)、レポート課題(20%)、小テスト(20%)、授業への参加状況(10%)をもとに総合的に評価する。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。

学生へのメッセージ システムの企画・設計・評価など、演習を中心に行うのでできるだけ欠席しないようにしてください。授業の中で生じた疑問等の自己解決に努めるなど、積極的な参加が心がけて下さい。

担当者の研究室等 11号館8階(栢木准教授室)

備考 必要に応じて資料を配布する

科目名	経営統計学	科目名 (英文)	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。経営統計学では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈し活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料を中心に講義を行い、プロジェクターを使用しながら解説する。配布資料に含まれる演習問題を各自関数電卓を使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	_____
2	統計資料の整理 (1)	統計資料の読み方	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	統計資料の整理 (2)	統計資料の整理方法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	データの集計 (1)	代表値について、平均、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	データの集計 (2)	度数分布、ヒストグラム	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	データの集約 (1)	データの集約、クロス集計	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	データの集約 (2)	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ・学力診断テスト1	前半部分のまとめと確認テスト	前半部分の内容を見直しておく
9	データの相関関係 (1)	相関関係について、相関係数の算出	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	データの相関関係 (2)	相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	空間と事象 (1)	標本空間、ベン図	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	空間と事象 (2)	和集合、積集合	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	後半のまとめ・学力診断テスト2	後半部分のまとめと確認テスト	後半部分の内容を見直しておく
15	統計学の応用	マネジメントに求められる統計学、全体復習	全体復習の内容を整理しておく

関連科目: ビジネス情報処理Ⅱ、ビジネスデータ分析

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ゼロから学ぶ統計解析	小寺平治	講談社
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (40%)、授業中の課題 (30%)、小テスト (30%) の結果により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。
担当者の研究室等	11号館8階 (栢木准教授室)
備考	必要に応じて資料を配布する

科目名	経営統計学 I	科目名 (英文)	Business Statistics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。経営統計学では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈し活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料を中心に講義を行い、プロジェクターを使用しながら解説する。配布資料に含まれる演習問題を各自関数電卓を使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	_____
2	統計資料の整理 (1)	統計資料の読み方	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	統計資料の整理 (2)	統計資料の整理方法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	データの集計 (1)	代表値について、平均、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	データの集計 (2)	度数分布、ヒストグラム	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	データの集約 (1)	データの集約、クロス集計	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	データの集約 (2)	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ・学力診断テスト 1	前半部分のまとめと確認テスト	前半部分の内容を見直しておく
9	データの相関関係 (1)	相関関係について、相関係数の算出	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	データの相関関係 (2)	相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	空間と事象 (1)	標本空間、ベン図	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	空間と事象 (2)	和集合、積集合	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	後半のまとめ・学力診断テスト 2	後半部分のまとめと確認テスト	後半部分の内容を見直しておく
15	統計学の応用	マネジメントに求められる統計学、全体復習	全体復習の内容を整理しておく

関連科目 ビジネス情報処理II、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ゼロから学ぶ統計解析	小寺平治	講談社

評価方法 (基準)	定期試験 (40%)、授業中の課題 (30%)、小テスト (30%) の結果により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。
担当者の研究室等	11号館8階 (栢木准教授室)
備考	必要に応じて資料を配布する

科目名	経営とリスク	科目名(英文)	Business and Risk
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也

授業概要・目的	リスクマネジメントは、経営活動において発生するリスクを組織的にマネジメントし、ハザード(危害)の発生、損失などを回避、もしくは、低減させる重要なマネジメント手法です。リスクは変化の激しい現代社会における重要な課題であり、リスクの評価手法、マネジメント体制の構築、その運用、および、個人単位でのリスクマネジメント意識の向上などが含まれます。これらについて、事例や手法を多く学ぶことで、実践力の高い専門職業人としての土台を築きます。
到達目標	この講義によって以下の事柄を修得できることを目標とします。 (1) リスクの定義を理解している (2) リスクを多面的に評価することができる (3) リスクへの対応について組織面、人間行動の両面から提案ができる
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜、スライドや映像資料を提示するとともに、外部講師による事例紹介やディスカッションなども実施する予定である。また、必要に応じてインターネットから企業情報、事例などを収集してディスカッションの資料作成を行う。
科目学習の効果(資格)	経営におけるリスクマネジメントの必要性の理解と自律的な対応の心構え 中小企業診断士の基礎知識

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の狙い、進め方、採点方法など	予習：シラバスを読んでおく。 復習：授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
2	リスクマネジメントとは何か	リスクマネジメントの事例紹介	予習：リスクマネジメントの事例を調べる。 復習：授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
3	リスクマネジメントの必要性	リスクマネジメントのメリット、コストバランスなど	予習：実際のリスクマネジメントの費用対効果を考える。 復習：授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
4	リスクマネジメントの実際	部分最適型から全体最適型への変化について	予習：バイト先などのリスク管理について調査する。 復習：授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
5	リスクの捉え方	リスクの定義、評価方法など	予習：身近にあるリスクの評価をする。 復習：授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
6	リスクマネジメントの基礎概念(1)	リスクマネジメントの定義、基本計画など	復習：受講内容の実例を探す。
7	リスクマネジメントの基礎概念(2)	対策の実施、モニタリング、危機管理など	復習：受講内容の実例を探す。
8	リスクマネジメントの体制	推進体制の構築、設計の前提について	復習：マネジメント体制を自ら検討する。
9	リスクマネジメントの教育	教育方法、評価方法、育成の視点など	復習：教育方法の比較検討を行う。
10	事例紹介	外部講師、もしくは、映像資料などによる事例紹介	復習：これまで受講した内容との関係性の分析を行う。
11	ディスカッション	リスクマネジメント担当部署としてのロールプレイ	予習：ディスカッションテーマに関する情報収集を行う。
12	事業継続計画	BCPとは何か、災害時の事業継続について	予習：震災時の実例を調べる。
13	リスクマネジメントの実務(1)	現場でのリスクマネジメントについて	復習：効果的なリスクマネジメントの検討を行う。
14	リスクマネジメントの実務(2)	今すぐ始められるリスク管理法について	予習：リスクマネジメントの関連図書を読む。
15	まとめ	本講義のまとめ	予習：講義内容の振り返りを行う。

関連科目 システム監査、情報倫理、企業倫理、情報法に関する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 定期テスト80%、レポート等20%で評価する。

学生へのメッセージ リスクマネジメントは組織の安定的な事業遂行のために重要な考え方であり、管理技術でもあります。経営におけるリスク管理の概念を理解し、これからの社会で期待される人財として求められる判断力を磨いて欲しいと思います。

担当者の研究室等 11号館7階久保准教授室

備考

科目名	経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的	日本を含め世界経済はダイナミックな変化の過程にある。例えば、先進国の経済成長率が鈍化する一方、新興国は世界経済の動力源として機能しつつある。ここで重要なのは、これらは私たちのくらしと決して無縁ではなく、むしろ私たちはこれら経済問題を積極的に理解し、自らの力で対処しなければならない、ということである。本講義では、経済に関する考え方や事例を私たちの身近なものから取り上げ説明し、できるだけ学生と対話しながら進めたい。
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しきと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果(資格)	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、「くらしと経済」で何を考え学ぶのかを解説する。新聞の読み方についても解説する。	復習すること
	2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第1章を予習復習のこと
	3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第2章を予習復習のこと
	4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第3章を予習復習のこと
	5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第4章を予習復習のこと
	6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第5章を予習復習のこと
	7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第6章を予習復習のこと
	8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと
	9	労働市場	学生にとって最も身に染みて感じるであろう労働市場について解説する。	教科書第7章を予習復習のこと
	10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。	教科書第8、9章を予習復習のこと
	11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第10章を予習復習のこと
	12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第11章を予習復習のこと
	13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第12章を予習復習のこと
	14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第13章を予習復習のこと
	15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第14章を予習復習のこと

関連科目: ミクロ経済学、マクロ経済学など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経済学	中谷武、中村保	碩学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間試験(50%)＋期末試験(50%)＋発言点をもとに評価する。中間・期末双方の試験を受験しなければ評価の対象とならない。私語は減点の対象となる。
学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
担当者の研究室等	11号館6階(杉本准教授室)
備考	

科目名	コンテンツビジネス	科目名 (英文)	Content Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	本講義では、ICTの急速な発展と普及により、めまぐるしく変貌する現代のメディア・コンテンツ業界（放送、映画、出版、音楽、ゲーム）の産業構造とビジネスモデル、および、メディア・コンテンツを自社のマーケティング政策に組み込む製造・サービス業界（食品、アルコール飲料、コスメ、外食等）の企業による取り組み事例について、産業論とマーケティング論の観点から解説する。 本講義の目的は、ICTというメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方いかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な理解を行い、さらに製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新動向を学ぶことである。
到達目標	・ICTというメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方いかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な論述ができる。 ・製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新事例をあげ、ビジネスモデルとICT利用の特徴を説明できる。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行なう。また一部のテーマについては学生による事前の文献調査とその発表をもとにすすめる予定である。なお講義で取り扱うテーマについては、受講生の理解状況や時の話題に応じて変更する場合もある。
科目学習の効果（資格）	

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	イントロダクション	主に以下について解説する。
授業計画	2	メディア・コンテンツ業界の産業構造と市場概観	主に以下について解説する。 ・メディア・コンテンツ産業とは ・メディア・コンテンツ産業の市場規模 ・産業の情報化	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	3	メディア・コンテンツ業界の動向（1）放送業界	主に以下について解説する。 ・テレビ放送の仕組み ・放送業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	4	メディア・コンテンツ業界の動向（2）映画業界その1	主に以下について解説する。 ・映画の仕組み ・映画業界のビジネスモデル ・資金調達法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	5	メディア・コンテンツ業界の動向（3）映画業界その2	主に以下について解説する。 ・ハリウッド映画と日本映画の違い ・ハリウッド映画のマーケティング戦略など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	6	メディア・コンテンツ業界の動向（4）出版業界	主に以下について解説する。 ・出版の仕組み ・出版業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	7	メディア・コンテンツ業界の動向（5）音楽業界	主に以下について解説する。 ・楽曲販売の仕組み ・音楽業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	8	メディア・コンテンツ業界の動向（6）ゲーム業界	主に以下について解説する。 ・ゲーム開発と販売の仕組み ・ゲーム業界のビジネスモデル ・ハードとソフト ・スマホゲームなど	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	9	メディア・コンテンツ化する業界（1）食品業界	主に以下について解説する。 ・食品メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	10	メディア・コンテンツ化する業界（2）アルコール飲料業界	主に以下について解説する。 ・アルコール飲料メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	11	メディア・コンテンツ化する業界（3）自動車業界	主に以下について解説する。 ・自動車メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	12	メディア・コンテンツ化する産業（4）外食サービス業界	主に以下について解説する。 ・外食サービス企業の取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	13	メディア・コンテンツ化する業界（5）ファッション・コスメ業界	主に以下について解説する。 ・アパレル販売メーカーの取り組み事例 ・化粧品メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	14	コンテンツビジネスの課題	主に以下について解説する。 ・知的財産権等関連法 ・著作権管理技術 ・人材育成など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	15	まとめ	――	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	関連科目	インターネット概論、メディア戦略論		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>期末テスト(80%)、小テスト・レポート(20%)で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。</p>			
学生への メッセージ	<p>経営学科、経営情報学科(マーケティングコース、ビジネス IT コース)の経営系、情報系の両分野学生のいずれもが関心を持つであろう産業・業界・企業を取り上げ、それぞれの産業構造、ビジネスモデル、最新動向について解説する。就職活動に向けた業界研究を行うつもりで受講するとよいでしょう。</p>			
担当者の 研究室等	11号館7階(針尾准教授室)			
備考				

科目名	コンピュータ概論	科目名(英文)	Computer Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也

授業概要・目的	本講義は、現代社会を支える重要な社会基盤となったコンピュータについて、その機能と仕組みを理解し、利用者として賢く利用していく方法について学ぶことを目的としている。特に企業経営や社会活動においてコンピュータによってもたらされている利便性の向上について考えると共に、情報に関する概念や表現方法、コンピュータの構成要素であるハードウェアやソフトウェアに関する基礎的な知識の習得を目指す。また、急速な勢いで展開される情報サービスの特徴や最新動向およびその利用方法などについて知るために、適時、デモンストレーションや映像教材の視聴を行いながら解説していく。
到達目標	本講義を通じて以下の事柄を達成することが目標である。 (1) 現在の経営における情報技術の重要性を説明できる (2) 経営情報として必要なハード、ソフトの代表例を説明できる (3) 経営学における情報の重要性を理解している
授業方法と留意点	プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行う。授業内でディベートやグループワークによって理解を深める取り組みも行う。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験・基本情報技術者試験などIT系の資格を取得するための基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(コンピュータ概論(前期)について)	講義の狙い、進め方について	シラバスを読んでおくこと
2	コンピュータの活用(1)	現在のコンピュータ利用についての紹介	予習: コンピュータが使われている例をピックアップしておく。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
3	コンピュータの活用(2)	コンピュータを利用した学習や生活の変化	予習: TED を観ておく。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
4	企業のIT活用(1)	企業におけるIT利活用の実状、その必要性について	予習: 企業のIT活用の例を調べておく。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
5	企業のIT活用(2)	情報化社会のビジネスチャンスについて グループによるディベート	予習: ディベート課題に関して調べておく。 復習: 講義中に出た意見をまとめておく。
6	コンピュータの歴史	コンピュータが登場した背景と発展の経緯	予習: ゲーム機や携帯電話の歴史について調べておく。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
7	ソフトウェアの歴史	プログラミング言語の発展からオペレーティングシステムの発展について	予習: 自分が使っているソフトウェアについて調べておく。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
8	情報の表現(1)	2進数の表現	予習: 高校時代に習った情報の教科書などを見ておく。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
9	情報の表現(2)	画像や音声の圧縮について	予習: ミュージックプレイヤーやスマホ、デジカメの性能を調べる。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
10	ハードウェアの仕組み(1)	システムの構成について	予習: 自分が使っているパソコンのスペックを調べておく。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
11	ハードウェアの仕組み(2)	記憶装置や記録方式について	予習: ハードディスクやSDカードなどの仕組みを調べておく。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
12	ソフトウェアの役割(1)	プログラムの必要性、開発方法について	予習: 2つ以上のプログラミング言語について調べる。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
13	ソフトウェアの役割(2)	データベースの設計について	予習: 2つ以上のデータベースについて調べる。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
14	情報倫理と情報セキュリティ	個人のセキュリティ対策、情報モラルや著作権などについて	予習: 事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
15	講義のまとめ	学生の質問への回答	予習: これまでのノートを見なおしておく。 復習: 授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。

関連科目	情報関連科目全般、マーケティング関連科目全般
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 70% 提出物（事前事後学習に関するものを含む）20% 授業参加度 10% 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく対処するので注意すること。			
学生への メッセージ	受け身の姿勢では何も身につきません。目的意識を持って積極的に講義に参加してください。			
担当者の 研究室等	前期：11号館7階（久保准教授室）			
備考	シラバスの内容については、受講生の理解の程度、関心に合わせて適時調整する。			

科目名	コンピュータサイエンス	科目名 (英文)	Computer Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩

授業概要・目的	ソーシャルデータや Web ページの情報の収集や分析等の処理を簡易なプログラミングを行って、アプリケーションによる課題解決の手法を身につける。コンピュータの構成・環境を理解し、ソフトウェア/アプリケーションを利活用する機能をどのような手順で開発テストとデータ処理を行うのかについて、演習を行う。
到達目標	アプリケーション開発の進め方、データの構造の基本を理解する。簡易なコーディング、ソーシャルデータの利用法に慣れ親しむ。
授業方法と留意点	レジュメにもとづいて、演習に必要な基礎知識、方法論および具体例を解説し、サンプルプログラムをもとに演習方式で授業を進める。指示した課題について、授業時間等で仕上げた結果を提出する。(参考書等の文献は、授業で案内または指示を行う。)
科目学習の効果 (資格)	・開発言語 (C, Python) プログラミングの簡易なロジックの読み書きができる。 ・アプリケーション開発の進め方、データの収集・作成、プログラミングの前提になる基本スキルが身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コンピュータの構成と動作	・コンピュータの構成 ・ソフトウェア/アプリケーション ・データの単位 (bit, byte)	課題 2
3	データの記述	・10 進数と 2 進数 ・文字列 ・データの記述方法・形式	課題 3
4	データ入出力	・データの入出力 ・文字の入出力 ・変換/集約等	課題 4
5	基本機能	・変数と演算子 ・算術演算 ・総和/平均/最大・最小	課題 5
6	リスト	・数値リスト ・文字列リスト ・関数	課題 6
7	個別機能 1	・制御構文 ・探索 ・ソート/マージ (整列/統合)	課題 7
8	個別機能 2	・データ構造 ・スタックとキュー ・配列	課題 8
9	開発環境とデバッグ	・開発システム環境 ・GUI プログラミング ・IDE (統合開発環境)	課題 9
10	ソーシャルデータの処理	・ソーシャルデータ ・話題分析 ・類似度分析	課題 10
11	Web ページの処理	・Web ページ ・話題分析 ・要約作成	課題 11
12	e-Mail データの処理	・e-Mail データ ・話題分析 ・頻度分析	課題 12
13	Web ニュースの処理	・Web ニュース ・話題分析 ・頻度作成	課題 13
14	総合演習 1	第 10 回～第 11 回全演習の総括	課題 14
15	総合演習 2	第 12 回～第 13 回全演習の総括	課題 15

関連科目	履修の前提として「プログラミング」の授業を修得しておく。
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中に指定する課題の提出 (50%)、小テスト (50%) による総合評価を行う。
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の演習により、簡易なアプリケーション開発やデータ作成の方法を学習します。効果的な演習を進めるために、コンピュータ利活用の基礎知識として、ソフトウェアや多形式データ、稼働システム環境についても、理解できるよう実践的な機会を共有します。
-----------	--

担当者の研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	サービスマーケティング	科目名 (英文)	Services Marketing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 貞幸

授業概要・目的	物が溢れている現代、サービスという無形あるいは消滅性であるものを、いかに付加価値として提供できるかを模索している企業は多い。その解決策のひとつがサービス・マーケティングである。 本講座ではマーケティングの基本を学び、企業におけるサービス・マーケティングの事例を取り上げて考察、さらに様々な業種業態において有効なサービス・マーケティング手法を探る。 これにより、受講生のマーケティング知識とセンスを磨くことを目的とする。
到達目標	世界において競争力のある商品・サービスの構築方法を習得する。
授業方法と留意点	スライド、レジュメを使用した解説および演習によって講義を進める。 知識や既存の理論の習得に留まらず、それらをいかに実際のビジネスに活用できるか掘り下げて取り組むことで、実践的なマーケティング手法を身に付けていく。
科目学習の効果 (資格)	あらゆる業種業態への就業、または起業や商品・サービス企画に不可欠なマーケティングの基本を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	サービスの定義	サービス・マーケティングで取り扱われるサービスの定義 ・サービスの特性 ・サービスの分類 (坂元)	自分が受けるサービスについての特性や分類について考える (坂元)
3	サービスと顧客マネジメント	企業におけるサービス、顧客マネジメントの実例をもとに、サービスと顧客マネジメントの実際を考察する (坂元)	様々な業種業態におけるサービスと顧客マネジメントの実例に目を向ける (坂元)
4	提供できるサービスの価値	身近にある様々な商品・サービスにおいてそのサービスの価値を考察する (坂元)	顧客、消費者目線でサービスの価値をはかりながらマーケティングセンスを磨く (坂元)
5	ターゲティング	提供できるサービスを最も高く評価してくれる顧客は誰なのか 商品・サービスをより高価格で、またはより多く売るためのターゲティングについて考察する (坂元)	様々な商品・サービスのターゲティングについて考える (提出課題を課す) (坂元)
6	ニーズの段階	提供できるサービスを最も高く評価してくれる顧客は何を求めているのか 商品・サービスをより高価格で、またはより多く売るためのニーズの段階について考察する (坂元)	身の回りの商品・サービスがどのようなニーズの段階の顧客に採用されているか考える (坂元)
7	サービス・マーケティング理論	・マーケティングの4P ・サービス・マーケティングの7P (坂元)	身近な商品・サービスについて、4Pを考える。また、自社商品・サービスであればどのような7Pを定義するか考える。 (坂元)
8	付加価値としてのサービスの構築	・ターゲティングに対する付加価値の提供 ・ニーズの段階に応じた付加価値の提供 ・理論に則した付加価値の提供 (坂元)	自分が受けるサービスの付加価値に対するプライスを考える (提出課題を課す) (坂元)
9	顧客満足と顧客対応の実際	企業における顧客対応の実例をもとに、顧客満足と顧客対応の実際を考察する ・消費者行動 ・顧客接点とCRM ・顧客満足と顧客対応の実際 (坂元)	顧客・消費者の目線で顧客満足と顧客対応について考える (坂元)
10	サービス・マーケティング実習	サービス・マーケティングを取り入れた新しい商品・サービスを企画する ・コンセプトづくり ・分析と規定 (坂元)	講義で学んだマーケティング手法を使って新しい商品・サービスを企画する (坂元)
11	サービス・マーケティング実践 (1)	サービス・マーケティングを学ぶ意義について知る (萩原)	サービス・マーケティングとは、どういうものなのかをカナ部
12	サービス・マーケティング実践 (2)	サービス領域として、教育事業のマーケティングについて知る (萩原)	教育事業のマーケティング戦略について学ぶ
13	サービス・マーケティング実践 (3)	サービス領域として、交通事業のマーケティングについて知る (萩原)	交通事業のマーケティング戦略について学ぶ
14	サービス・マーケティング実践 (4)	サービス領域として、宿泊事業のマーケティングについて知る (萩原)	宿泊事業のマーケティング戦略について学ぶ
15	サービス・マーケティング実践 (5)	サービス・マーケティングの総まとめ (萩原)	サービス・マーケティングのポイントを理解し、重要語句とその意味を覚える

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>レポート75% (内訳：坂元担当分50%、萩原担当分25%) と試験25% (試験は後期試験期間中に実施)</p> <p>レポートは、講義中に作成し提出する場合と講義後提出する場合があります。 このレポート評価75%の内訳は、坂元担当分が75%の3分の2 (=全体評価100%のうちの50%)、 萩原担当分が75%の3分の1 (=全体評価100%のうちの25%)</p>			
学生への メッセージ	<p>今やマーケティングは、なにも、大手企業のマーケティング部や企画部だけのものではなくなりました。書店へ行けばマーケティングを語る書籍は山のようにあります。しかし、その、全ての書籍が、正解であり、間違いでもあります。それは、ビジネスに、「誰にでもあてはまるたったひとつの成功法則」などないからです。</p> <p>この講座は、「あなただけの成功法則」を見つけ、どんな業種業態においても有効なマーケティング手法を身につけることを目指します。そして、将来、日本のみならず、世界の中で競争力のある商品・サービスを構築できる力をつけて欲しいと願っています。</p>			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部非常勤講師控え室			
備考				

科目名	サイバービジネスソリューション I	科目名 (英文)	Cyber Business Solution I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	本講義では、企業のマーケティング政策におけるメディア戦略の立案、各種広告技術、戦術的 ICT 運用、広告・集客・販売・顧客維持に向けた企業の取り組み事例について解説を行っていく。その際、情報ネットワーク時代における消費者の購買行動様式や企業の競争環境について理解しておくことが必要であることから、消費者行動論、競争戦略論の代表モデルについても取り上げる。 講義の主な目的は、メディア戦略についての基本的な考え方、技術的な仕組み、および事例ベースでのメディア活用戦術を受講生が説明できる程度まで学ぶことである。
到達目標	・メディア戦略についての基本的な考え方、技術的な仕組み、および事例ベースでのメディア活用戦術を理解し、説明できるようになる。 ・消費者行動モデル、競争戦略の基本的考え方について説明できるようになる。
授業方法と留意点	教材資料を事前配布し、それをノートとして用いる。講義では、資料解説を中心とする。また定期的にスマートフォン、携帯電話を使った実習も行う。教材資料は、学内ポータルサイトの教材フォルダに上げており、受講生は各自印刷しておく必要がある。
科目学習の効果 (資格)	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。 ITパスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について解説する。 ・企業のマーケティング政策とメディア戦略 ・マーケティングの歴史 ・IMC (統合型マーケティングコミュニケーション)	_____
2	インターネット広告 (1)	主に以下について解説する。 ・バナー広告 ・広告課金方式 ・アフィリエイトプログラム	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	インターネット広告 (2)	主に以下について解説する。 ・リスティング広告 ・アドワーズ ・ターゲティング広告 ・アクセス解析	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	モバイル広告 (1)	主に以下について解説する。 ・移動体情報通信技術 ・移動体情報通信端末向け広告 ・ターゲティング広告	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	モバイル広告 (2)	主に以下について解説する。 ・位置情報システム、GPS ・モバイル通信の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	ブログと CGM (1)	主に以下について解説する。 ・ブログ ・アドセンス ・RSS、XML ・CGM	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	ブログと CGM (2)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	ソーシャルネットワークシステム (1)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	ソーシャルネットワークシステム (2)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	メディア戦略の理論 (1)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	メディア戦略の理論 (2)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	メディア戦略の理論 (3)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	事例 (1)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	事例 (2)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	まとめ	_____	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。

				復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
関連科目	ICT 概論、経営情報システム、コンテンツビジネスなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法 (基準)	<p>期末テスト (80%)、小テスト・レポート (20%) で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。</p>			
学生への メッセージ	<p>経営情報学科の学生である以上、企業経営における情報システムの最新動向については、常に関心を向けておく姿勢が必要です。特に本講義では、君たちに身近なウェブサービス、ソーシャルメディアを取り上げます。受講にあたっては、事前に講義資料で取り上げられる予定のメディアサービスを体験しておいてください。それを前提として講義を進めます。</p>			
担当者の 研究室等	1 1 号館 7 階 (針尾准教授室)			
備考				

科目名	サイバービジネスソリューションⅡ	科目名(英文)	Cyber Business Solution II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	本講義では、ICTの急速な発展と普及により、めまぐるしく変貌する現代のメディア・コンテンツ業界（放送、映画、出版、音楽、ゲーム）の産業構造とビジネスモデル、および、メディア・コンテンツを自社のマーケティング政策に組み込む製造・サービス業界（食品、アルコール飲料、コスメ、外食等）の企業による取り組み事例について、産業論とマーケティング論の観点から解説する。 本講義の目的は、ICTというメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方いかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な理解を行い、さらに製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新動向を学ぶことである。
到達目標	・ICTというメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方いかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な論述ができる。 ・製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新事例をあげ、ビジネスモデルとICT利用の特徴を説明できる。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行なう。また一部のテーマについては学生による事前の文献調査とその発表をもとにすすめる予定である。なお講義で取り扱うテーマについては、受講生の理解状況や時の話題に応じて変更する場合もある。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について解説する。	
2	メディア・コンテンツ業界の産業構造と市場概観	主に以下について解説する。 ・メディア・コンテンツ産業とは ・メディア・コンテンツ産業の市場規模 ・産業の情報化	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	メディア・コンテンツ業界の動向(1) 放送業界	主に以下について解説する。 ・テレビ放送の仕組み ・放送業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	メディア・コンテンツ業界の動向(2) 映画業界その1	主に以下について解説する。 ・映画の仕組み ・映画業界のビジネスモデル ・資金調達法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	メディア・コンテンツ業界の動向(3) 映画業界その2	主に以下について解説する。 ・ハリウッド映画と日本映画の違い ・ハリウッド映画のマーケティング戦略など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	メディア・コンテンツ業界の動向(4) 出版業界	主に以下について解説する。 ・出版の仕組み ・出版業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	メディア・コンテンツ業界の動向(5) 音楽業界	主に以下について解説する。 ・楽曲販売の仕組み ・音楽業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	メディア・コンテンツ業界の動向(6) ゲーム業界	主に以下について解説する。 ・ゲーム開発と販売の仕組み ・ゲーム業界のビジネスモデル ・ハードとソフト ・スマホゲームなど	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	メディア・コンテンツ化する業界(1) 食品業界	主に以下について解説する。 ・食品メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	メディア・コンテンツ化する業界(2) アルコール飲料業界	主に以下について解説する。 ・アルコール飲料メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	メディア・コンテンツ化する業界(3) 自動車業界	主に以下について解説する。 ・自動車メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	メディア・コンテンツ化する産業(4) 外食サービス業界	主に以下について解説する。 ・外食サービス企業の取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	メディア・コンテンツ化する業界(5) ファッション・コスメ業界	主に以下について解説する。 ・アパレル販売メーカーの取り組み事例 ・化粧品メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	コンテンツビジネスの課題	主に以下について解説する。 ・知的財産権等関連法 ・著作権管理技術 ・人材育成など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	まとめ		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

関連科目 インターネット概論、メディア戦略論
教科書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	配布資料	
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法 (基準)	期末テスト(80%)、小テスト・レポート(20%)で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。			
学生への メッセージ	経営学科、経営情報学科(マーケティングコース、ビジネスITコース)の経営系、情報系の両分野学生のいずれもが関心を持つであろう産業・業界・企業を取り上げ、それぞれの産業構造、ビジネスモデル、最新動向について解説する。就職活動に向けた業界研究を行うつもりで受講するとよいでしょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(針尾准教授室)			
備考				

科目名	財務諸表論入門	科目名 (英文)	Introduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	会計情報は、債権者や投資家など特定の人々へのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会計の目的、役割を理解する。 ・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。 ・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。 ・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。
授業方法と留意点	・講義資料を配布して講義形式で行うが、基本的に毎回、練習問題の解答やレポート課題が課されることに留意する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。 ・組織 (主として企業) に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用である。 ・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。 ・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)

	回数			回数			
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	回数	授業テーマ	内容・方法 等
授業計画	1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐			
	2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	配布資料 練習問題①			
	3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	配布資料 練習問題②			
	4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	配布資料 練習問題③			
	5	会計情報の内容 (1)	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	配布資料 練習問題④			
	6	会計情報の内容 (1)	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	配布資料 練習問題⑤			
	7	会計情報の内容 (2)	貸借対照表 資産と負債・純資産について	配布資料 練習問題⑥			
	8	まとめと確認テスト	確認テストと解説	今までの復讐			
	9	会計情報の内容 (3)	損益計算書 様式、基本原則、分類基準	配布資料 練習問題⑦			
	10	会計情報の内容 (4)	損益計算書 収益と費用の認識と測定	配布資料 練習問題⑧			
	11	会計情報の内容 (5)	キャッシュフロー計算書 資金の範囲、キャッシュフロー計算書の仕組み	配布資料 練習問題⑨			
	12	会計情報の内容 (6)	キャッシュフロー計算書 営業キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、財務キャッシュフロー	配布資料 練習問題⑩			
	13	会計情報の内容 (7)	株主資本等変動計算書 株主資本とは、株主変動計算書の仕組み	配布資料 練習問題⑪			
	14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	配布資料 練習問題⑫			
	15	まとめ	講義の復讐とまとめ	配布資料			

関連科目	経営学、企業簿記
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ガイダンス企業会計入門	山浦・広本	白桃書房
	2	財務会計の基本を学ぶ	八田進二	同文館出版
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加と課題の提出 (30%)、確認テスト (20%)、定期テスト (50%)
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回授業に出席して下さい。
-----------	---------------

担当者の研究室等	佐井研究室 (11号館8階)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	市場調査実習 I	科目名 (英文)	Practice in Marketing Research I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三

授業概要・目的	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。 市場調査実習 I では、各自の関心に基づいて仮説を設定し、調査票・コードブックを完成させるまでの作業が中心になる。
到達目標	計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。計量的なデータを用いた論文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、学生が実際に作業をおこなう実習形式でおこなわれる。出席が大前提になるため、よほどの事情がない限り欠席は認めない。
科目学習の効果 (資格)	社会調査を実施する際の全過程を体験する。 「社会調査士」資格取得に必要な科目 (G 科目) である。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の全体的な流れ、授業の進め方など	配布資料に基づく予習
2	基本的な統計量	平均値・中央値・分散・標準偏差	配布資料等を用いた復習と予習	
3	2変数間の関係を探る	相関係数・クロス表・平均の差	配布資料等を用いた復習と予習	
4	推測統計の考え方	推測統計の基本的な発想	配布資料等を用いた復習と予習	
5	統計的仮説検定	カイ2乗検定、相関係数の検定、T検定	配布資料等を用いた復習と予習	
6	多変量解析 1	分散分析、重回帰分析	配布資料等を用いた復習と予習	
7	多変量解析 2	主成分分析	配布資料等を用いた復習と予習	
8	調査テーマ・サブテーマの検討 1	問いと仮説の設定	各自で問いや仮説を検討する	
9	調査テーマ・サブテーマの検討 2	問いと仮説の設定	各自で問いや仮説を検討する	
10	調査項目・質問文案の検討 1	各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成	各自で質問項目・質問文案を検討する	
11	調査項目・質問文案の検討 2	各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成	各自で質問項目・質問文案を検討する	
12	調査項目・質問文案の検討 3	質問項目、質問文案の全体での調整	質問項目・質問文の修正案を検討する	
13	データ収集方法・作業分担の検討	調査対象者・サンプリング方法の選定	配布資料等を用いた復習と予習	
14	プリテスト	仮調査票を用いたプリテストと調査票の修正	調査票の修正案を作成	
15	調査票・コードブックの作成	調査票・コードブックを完成させる	調査票・コードブックの修正案を作成	

関連科目 市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、社会学 I、社会学 II、情報社会論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への取り組み度 20%、提出物 80%

学生へのメッセージ 特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。

担当者の研究室等 山本：11号館7階 山本准教授室
樋口：11号館8階 樋口准教授室
西岡：11号館6階 非常勤講師控室

備考

科目名	市場調査実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice in Marketing Research II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三

授業概要・目的	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。 市場調査実習Ⅱでは、調査票の配布・回収、データセットの作成、データ分析、報告書の執筆といった作業が中心になる。
到達目標	計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。計量的なデータを用いた論文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、学生が実際に作業をおこなう実習形式でおこなわれる。出席が大前提になるため、よほどの事情がない限り欠席は認めない。
科目学習の効果(資格)	社会調査を実施する際の全過程を体験する。 「社会調査士」資格取得に必要な科目(G科目)である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実査	調査票の配布・回収	調査票配布・回収時の諸注意点について学習しておく
2	データ入力・コーディング1	データの入力とコーディング	データ入力方法等について学習しておく
3	データ入力・コーディング2	データの入力とコーディング	データ入力方法等について学習しておく
4	エラーチェック	入力ミスのチェック、ロジカルエラーチェック	エラーチェック方法等について学習しておく
5	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法1	SPSSを用いて単純集計、クロス表、カイ2乗検定をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習、自らの仮説に基づいた実践
6	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法2	SPSSを用いて相関係数の検定、T検定をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習、自らの仮説に基づいた実践
7	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法3	SPSSを用いて分散分析、重回帰分析をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習、自らの仮説に基づいた実践
8	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法4	SPSSを用いて主成分分析、尺度構成をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習、自らの仮説に基づいた実践
9	基礎集計	基礎集計項目の検討、基礎集計表の作成	基礎集計表の作成
10	データ分析と仮説の再検討1	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析
11	データ分析と仮説の再検討2	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析
12	データ分析と仮説の再検討3	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析
13	データ分析と仮説の再検討4	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析・報告書執筆
14	報告書執筆1	分析結果をまとめた報告書の作成	報告書の執筆
15	報告書執筆2	報告書の完成	報告書の執筆

関連科目 市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、情報社会論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業への取り組み度20%、期末レポート80%
学生へのメッセージ	特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。
担当者の研究室等	山本：11号館7階 山本講師室 樋口：11号館8階 樋口准教授室 西岡：11号館6階 講師控室
備考	

科目名	市場調査入門	科目名 (英文)	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 政芸

授業概要・目的
社会調査の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義がなされる。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。

到達目標
社会調査の基礎を理解する。

授業方法と留意点
レジュメを用いて講義をおこなう。

科目学習の効果 (資格)
社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち「【 A 】 社会調査の基本的事項に関する科目」に対応。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	レジュメを読んで復習する。
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	レジュメを読んで復習する。
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	レジュメを読んで復習する。
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	レジュメを読んで復習する。
6	量的調査と質的調査—それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	レジュメを読んで復習する。
7	官庁統計1—官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何かがあるか。統計法とは何か。	レジュメを読んで復習する。
8	官庁統計2—官庁統計による諸研究	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。
9	量的調査1—統計学と質問紙調査 (1)	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	レジュメを読んで復習する。
10	量的調査2—統計学と質問紙調査 (2)	質問紙調査の方法について。	レジュメを読んで復習する。
11	量的調査3—質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	簡単な質問紙調査を試みる。
12	質的調査1—聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	簡単な聞き取り調査を試みる。
13	質的調査2—参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。
14	質的調査3—ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。
15	まとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。	レジュメを読んで復習する。

関連科目
.市場調査法、市場調査実習Ⅰ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)
授業参加度と提出課題 (40%)、および期末試験 (60%) で評価する。

学生へのメッセージ
市場調査を含む社会調査全般について学ぶ講義です。

担当者の研究室等
.11号館6階 経営学部非常勤講師控え室

備考

科目名	市場調査入門	科目名 (英文)	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志

授業概要・目的	社会調査の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義がなされる。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。
到達目標	社会調査の基礎を理解する。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自、ノートを取る。授業中にグループワークをすることもある。第1回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち【A】社会調査の基本的事項に関する科目】に対応。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要について。	授業の流れについて理解する。
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
6	量的調査と質的調査—それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
7	官庁統計1—官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何かがあるか。統計法とは何か。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
8	官庁統計2—官庁統計による諸研究	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
9	量的調査1—統計学と質問紙調査 (1)	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
10	量的調査2—統計学と質問紙調査 (2)	質問紙調査の方法について。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
11	量的調査3—質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	簡単な質問紙調査を体験する。
12	質的調査1—聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	簡単な聞き取り調査を体験する。
13	質的調査2—参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
14	質的調査3—ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
15	まとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。

関連科目 . 市場調査法。市場調査実習Ⅰ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法	轟亮・杉野勇	法律文化社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よりよい社会調査をめざして	井上文夫・井上和子・小野能文・西垣悦代	創元社
2			
3			

評価方法 (基準)	授業態度と提出課題 (10%) と定期試験 (90%) の割合で、総合的に判断する。
学生へのメッセージ	市場調査を含む社会調査全般について学ぶ講義です。
担当者の研究室等	. 11号館7階(牧野(幸)准教授室)
備考	他人の迷惑となる行為(遅刻, 私語, 居眠り, 内職, スマホ, 携帯電話など電子機器の使用など)はすべて禁止とします。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	市場調査法	科目名(英文)	Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三

授業概要・目的	ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。																																																																		
到達目標	調査研究の全体的な流れを理解する。質問紙調査をおこなう際の諸問題を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	配布資料を用いた講義が中心であるが、実習形式での学習も適宜おこなう。																																																																		
科目学習の効果(資格)	社会調査の全体的な流れが理解できる。 「社会調査士」資格取得に必要な科目(B科目)である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>社会調査の目的と意義</td> <td>社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか。</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会調査の全体的な流れ</td> <td>研究の企画から報告書の執筆までの流れ</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>調査を始める(1)</td> <td>問いと仮説の設定、概念の明確化</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>調査を始める(2)</td> <td>調査方法の種類</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>調査票を作成する(1)</td> <td>ワーディング</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>調査票を作成する(2)</td> <td>回答選択肢の作成</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>調査票を作成する(3)</td> <td>調査票全体の設計</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>調査の実施(1)</td> <td>調査票の配布と回収の方法</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>調査の実施(2)</td> <td>全数調査と標本調査、標本数の決定</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>調査の実施(3)</td> <td>サンプリングの諸方法</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>データの作成(1)</td> <td>コードブックの作成と入力作業</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>データの作成(2)</td> <td>コーディング・エディティング・データクリーニング</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>データ分析の基礎(1)</td> <td>度数分布、代表値</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>データ分析の基礎(2)</td> <td>変数間の関係の分析</td> <td>配布資料を用いた復習と予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>結果の報告</td> <td>報告書作成に関する注意事項</td> <td>配布資料を用いた復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか。	配布資料を用いた復習と予習	2	社会調査の全体的な流れ	研究の企画から報告書の執筆までの流れ	配布資料を用いた復習と予習	3	調査を始める(1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	配布資料を用いた復習と予習	4	調査を始める(2)	調査方法の種類	配布資料を用いた復習と予習	5	調査票を作成する(1)	ワーディング	配布資料を用いた復習と予習	6	調査票を作成する(2)	回答選択肢の作成	配布資料を用いた復習と予習	7	調査票を作成する(3)	調査票全体の設計	配布資料を用いた復習と予習	8	調査の実施(1)	調査票の配布と回収の方法	配布資料を用いた復習と予習	9	調査の実施(2)	全数調査と標本調査、標本数の決定	配布資料を用いた復習と予習	10	調査の実施(3)	サンプリングの諸方法	配布資料を用いた復習と予習	11	データの作成(1)	コードブックの作成と入力作業	配布資料を用いた復習と予習	12	データの作成(2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	配布資料を用いた復習と予習	13	データ分析の基礎(1)	度数分布、代表値	配布資料を用いた復習と予習	14	データ分析の基礎(2)	変数間の関係の分析	配布資料を用いた復習と予習	15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	配布資料を用いた復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか。	配布資料を用いた復習と予習																																																																
2	社会調査の全体的な流れ	研究の企画から報告書の執筆までの流れ	配布資料を用いた復習と予習																																																																
3	調査を始める(1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	配布資料を用いた復習と予習																																																																
4	調査を始める(2)	調査方法の種類	配布資料を用いた復習と予習																																																																
5	調査票を作成する(1)	ワーディング	配布資料を用いた復習と予習																																																																
6	調査票を作成する(2)	回答選択肢の作成	配布資料を用いた復習と予習																																																																
7	調査票を作成する(3)	調査票全体の設計	配布資料を用いた復習と予習																																																																
8	調査の実施(1)	調査票の配布と回収の方法	配布資料を用いた復習と予習																																																																
9	調査の実施(2)	全数調査と標本調査、標本数の決定	配布資料を用いた復習と予習																																																																
10	調査の実施(3)	サンプリングの諸方法	配布資料を用いた復習と予習																																																																
11	データの作成(1)	コードブックの作成と入力作業	配布資料を用いた復習と予習																																																																
12	データの作成(2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	配布資料を用いた復習と予習																																																																
13	データ分析の基礎(1)	度数分布、代表値	配布資料を用いた復習と予習																																																																
14	データ分析の基礎(2)	変数間の関係の分析	配布資料を用いた復習と予習																																																																
15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	配布資料を用いた復習																																																																
関連科目	社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、市場調査入門、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、市場調査実習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加度 10%、提出物 30%、および定期試験 60%																																																																		
学生へのメッセージ	社会調査の知識は、今やどこに行っても必要とされるものです。関心のある学生はぜひ受講して下さい。																																																																		
担当者の研究室等備考	11号館7階 山本准教授室																																																																		

科目名	消費者行動論	科目名(英文)	Consumer Behavior
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的	近年、マーケティングの中で、消費行動研究の重要性が高まっています。この講義では、マーケティングの視角から、消費行動について基本的知識を身につけ体系的な理解を与えることを目的としています。日常の消費行動も、マーケティング的にみると新しい発見があるかもしれません。
到達目標	消費者行動論の基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義が中心ですが、企業と消費行動の関連を追及していきます。
科目学習の効果(資格)	消費行動をマーケティング的発想で考えることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	消費者行動論の全体像を示します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	2	マーケティングとは	マーケティングの内容について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	3	マーケティング志向	企業のマーケティング志向について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	4	マーケティングと消費行動	マーケティングにおける消費行動の位置づけについて、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	5	消費行動の心理学的アプローチ	消費行動を心理学的に考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	6	消費行動と百貨店一大丸松坂屋百貨店の歴史的展開	外部講師による講演	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	7	消費行動とプロセス	消費者の購買意思決定過程について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	8	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチから、消費者のニーズを探る方策を考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	9	顧客満足	企業の顧客満足への対応について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	10	STPアプローチと消費行動	消費者のニーズと STP アプローチについて、考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	11	高付加価値化と消費行動	高付加価値化と消費行動の関連について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	12	市場細分化と消費行動	市場細分化と消費行動の関係について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	13	製品ライフサイクルと消費行動	製品ライフサイクルと消費行動の関係について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	14	消費行動の歴史の変遷	消費行動の歴史の変遷過程をマクロの視点から考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目	マーケティング論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組ましよう。
担当者の研究室等	1 1 号館 8 階 (武居教授室)
備考	

科目名	消費者心理	科目名(英文)	Consumer Psychology
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 幸志

授業概要・目的	現代社会における消費者の心理と行動を解説していく。社会における消費者の心理と行動について科学的に理解することを目的とする。
到達目標	マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して、多面的に消費心理を捉える能力を養うことを目標とする。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自、ノートを取ることを。授業中に発言を求めるともある。第1回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。
科目学習の効果(資格)	高等学校教員免許(商業)と関連する。消費者の心理と行動を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・消費者心理の位置づけ	授業内容、授業方法について説明します。 消費者心理とは？	授業内容の復習
2	消費行動と社会心理学	消費行動とは何か？購買行動と消費行動	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
3	消費行動におけるブランド選択	商品選択と消費者心理	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
4	消費者の価値意識	ライフスタイルと商品選択	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
5	消費行動における個人内過程	消費者の非計画購買過程	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
6	消費者の価格判断	心的ものさしと商品の価格づけ	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
7	消費者間相互作用と購買意思決定	口コミによるマーケティング戦略	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
8	インターネットを利用した消費者間コミュニケーション	インターネットの利用により消費行動は変わるのか？	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
9	比較広告と消費行動	比較広告の効果と課題	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
10	広告媒体の種類と広告の効果	広告の内容分析とその効果	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
11	テレビ広告における内容分析とその効果	テレビ広告における内容分析と購買効果	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
12	悪質商法と消費者	悪質商法の手口と対策	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
13	企業のリスク・コミュニケーションと消費者	リスクを伝える工夫とリスク・マネジメント	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
14	サービスと消費者心理	接客サービスの効果と接客での問題点	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
15	消費者心理と消費行動の今後	消費者はこれからどのような商品、サービスを選んでいくのか？	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習

関連科目	消費者行動論と関連する。合わせて受講してほしい。
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動の社会心理学	竹村和久著	北大路書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費者心理のわかる本—マーケティングの成功原則55	梅澤伸嘉著	同文館出版
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回の授業での課題(上限10%)、定期テスト(90%)の割合で、総合的に判断する。
----------	---

学生へのメッセージ	私たちは、毎日いろいろなものを消費しています。では、なぜその商品を買ったのでしょうか？なぜ、そのサービスを選んだのでしょうか？値段だけでしょか？消費者の心の動きについて、具体例を交えながら、解説していきます。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階(牧野(幸)准教授室)
----------	-------------------

備考	他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、スマホ、携帯電話などの使用など)はすべて禁止とします。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
----	---

科目名	情報産業論	科目名(英文)	Computer and Information Industry
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷川 周次

授業概要・目的	「産業の情報化」の進展の中で、情報産業はその中心的担い手として、発展を続けています。情報産業はそれ自体の産業規模に留まらず、情報サービスの提供を通じ他産業の発展にも大きく貢献してきました。今後の情報産業に求められるのは、情報の高度活用を通じて、産業の高付加価値化を進めていく先導的な役割です。本講義では、情報産業の誕生から発展の歴史をたどると共に、情報産業の役割、課題を事例を交えながら解説します。
到達目標	今日に於ける情報産業の役割、課題の理解を深めると共に、情報産業で働く技術者、コンサルタントなどの業務内容を理解しつつ、産業としての発展可能性を探ることができるレベルへの到達を目標とします。
授業方法と留意点	講師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画を促す目的で、レポートやその発表を多く取り入れたものにします。授業全体を通じ、その時々々の社会情勢を中心に、プリントやパワーポイントにより新しい動向を紹介し、全員で考えながら授業を進めます。毎回講義内容を復習しておいてください。
科目学習の効果(資格)	情報産業に関する知識は、特定の業界や企業の問題ではなく、社会で働く上で情報活用は必須条件であり、あらゆる仕事において役立つと考えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	情報産業の歴史 I	情報産業の誕生からメインフレーム(汎用機)の時代に至る経緯を解説します。コンピュータ開発の歴史、コンピュータの産業での活用、情報産業の誕生を踏まえ、その歴史と特徴を説明します。	メインフレームコンピュータとは何かを調べておいてください。
3	情報産業の歴史 II	パソコン芽生えの時代からインターネット活用の時代までの進展の歴史と特徴を説明します。	どのようなことにインターネットを活用しているかを整理しておいてください。
4	情報産業の歴史 III	パソコンの普及からユビキタスの時代までの歴史と特徴を説明します。	ユビキタスとはどのような意味かを調べておいてください。
5	従来型情報産業の動向	コンピュータメーカー、ソフトウェア開発、通信など従来型情報産業の動向と企業特性による分類と今後の動向等を説明します。	ハードウェアとソフトウェアの違いを調べておいてください。
6	新情報産業の登場 I	エレクトリックコマース(EC)、モバイル、コンテンツなどの新情報産業の登場を紹介し、インターネットの発展により登場した新たなタイプの情報産業について、その特徴と動向を解説します。	インターネットでの物品購入などで疑問に思うことを整理しておいてください。
7	新情報産業の登場 II	従来型教養産業と新情報産業との違いを知り、両者の産業構造の違いを理解していただきます。放送局などの情報提供と、新情報産業の一部であるコンテンツ提供サービスの違いを解説すると共に、クラウド・コンピューティングとはどのような意味があるのかに言及します。	コンテンツとは何かを調べておいてください。
8	情報産業の将来展望	情報産業の今後の発展を、6つの局面から検討し、その可能性を探ります。	情報産業というものを、どのように理解したかを整理しておいてください。
9	特別講義	実際に情報産業界で活躍中の外部講師を招いての特別講義を実施します。	講義内容は講師の方に依存しますが、情報産業界の裏側や時事ネタを中心に行って頂く予定です。
10	企業経営の観点での情報統制	情報担当役員(CIO)の役割と事例研究。企業などで情報システムや情報の流通を統括する情報統括役員(CIO)の役割とその重要性を解説します。また、中小企業で、CIOの役割を代行するITコーディネーターの役割への理解を深めます。	企業経営における情報の重要性について考えておいてください。
11	情報システムの開発	システム開発の流れ、作業内容、開発方法などについて理解していただきます。システム開発に不可欠なプロジェクト管理の重要性などについての理解を深めていただきます。	プロジェクトとは、どのようなものを指すのかを調べておいてください。
12	情報システムで働く人の環境	情報産業の中心的担い手である高度情報専門家の職種、業務内容と求められるスキルの体系や業務内容について解説します。特に、プロジェクト・マネジャーの仕事内容を紹介します。	知りうる、または想像する情報システム関係の仕事を整理しておいてください。
13	中小企業での情報システム	中小企業における情報システム開発の課題を紹介し、情報システム部門が存在しない実態や、情報処理に投資できる金額にも限りがあるという厳しい現状を認識していただきます。	中小企業の経営の厳しさについて、知りうることを整理しておいてください。
14	講義のまとめ(前編)	これまでの講義全体の復習と、学期末試験を意識したポイントを整理します。また、そのための模擬テストの実施、Q&A対応を行います。	全体のまとめをするので、過去に配布した講義資料を全部持って来てください。また、質問事項を整理しておいてください。

	15	講義のまとめ(後編)	これまでの講義全体の復讐と、学期末試験を意識したポイントを整理します。また、そのための模擬テストの実施、Q & A対応を行います。	全体のまとめをするので、過去に配布した講義資料を全部持って来てください。また、質問事項を整理しておいてください。
関連科目	コンピュータ概論、インターネット概論、ほか情報関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>全体評価は、平常評価（40％）と学期末試験評価（60％）により行います。 平常評価は、課題レポートまたは小テスト、授業ごとの感想レポートにより行い、学期末試験評価は、文章力向上、自己表現力向上の目的も兼ねて論述中心の試験を実施し評価します。 また、レポート課題および学期末試験の設問は、到達目標に纏わる内容とし、その結果で達成評価を行います。</p>			
学生への メッセージ	<p>情報産業は、本来、時代の最先端を走り、種々の産業をリードする役割を担っていると考えます。長年、情報産業に身を置く講師の経験も踏まえて、情報産業の魅力と責任を受講生諸君に伝えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回出席をとります[連絡カード配付]。遅刻をしないようにしてください。 ・ 座席は前から詰めて着席してください[座席は指定しません]。 ・ 授業中の私語は謹んでください[真面目な受講者の弊害となる場合は退場戴く場合もあります]。 			
担当者の 研究室等	11号館6階（経営学部事務室、講師控え室）			
備考	<p><教材などについて> 教科書・・特段、教科書の設定は行いません。授業は配布プリントとパワーポイントによるプレゼンテーションにより進めます。 参考書・・参考資料も、毎回の授業のテーマに沿って必要な場合は配布します。 また、授業の参考になる書籍、ビジネス雑誌、更にはインターネット情報を紹介し、授業の一助に供します。</p>			

科目名	情報社会論	科目名(英文)	Information Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩

授業概要・目的	情報化社会の進展の中で、ICT（情報通信技術）の進化に伴って、組織や個人の役割が変化し、既存の事業・活動が変容したり、新しいサービスの提供、さらに様々な社会事象が生じてきた。特に、インターネットやソーシャルネットの普及によって、時空や質の変革をもたらす活動が可能になり、価値観の多様化がより進む状況に、どのような情報に向き合って行動するのかを考察する。
到達目標	情報とは、どのような特質を持ち、組織や個人にいかに関与し価値を導くものであるかを理解する。近年のインターネットやソーシャルネット等の情報メディアの進化による効果や影響について、新しい行動規範を思考できるようにすることを旨とする。
授業方法と留意点	レジュメを中心にテキストで基礎的なテーマを解説する講義形式で授業を進める。適宜、最新テーマを新聞等を参考にする。
科目学習の効果(資格)	・新聞やWebが提供する情報化社会の関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・大学OB/OG等の社会人と意見交換を図るための素養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『情報』とは何か ・データ/情報/知識の違い	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
2	情報と情報化社会	・『社会』とは何か ・組織/コミュニティ/個人 ・情報の発信・受信・仲介の役割	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
3	情報と組織	・『組織』とは何か ・組織の意思決定 ・I事例 組織・個人のコミュニケーション	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
4	情報メディアの進展と課題1	・活字（新聞等） ・映像・音声（テレビ、ラジオ） ・コミュニケーション（電話）	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
5	情報メディアの進展と課題2	・コンピュータ・ネットワーク ・インターネット（World Wide Web） ・I事例 Google/Amazon等	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
6	情報メディアの進展と課題3	・モバイル・ネットワーク ・ソーシャルネット ・事例 Facebook/Twitter等	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
7	情報の集中と分散	・組織と情報 ・情報の流通と統制 ・事例 組織設計と情報管理	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
8	情報コミュニケーション	・情報の意味づけ ・コミュニケーション支援ツール ・事例 グループウェアによる共創	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
9	情報化社会の恩恵	・生産手段としての情報メディア ・情報の特質 働きかけ/相互作用/価値付与 ・事例 ネットワーク効果	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
10	情報化社会の弊害	・価値観による情報伝達のずれが ・組織・個人のデジタル・ディバイド ・事例 ソーシャルネット諸事象	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
11	情報化社会とグローバルネットワーク	・国・地域を超えるコミュニケーション ・異文化多言語コミュニケーション ・事例 グローバルネットワーク	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
12	情報化社会とソーシャルネットワーク	・個人の匿名性 ・情報の開示と秘匿 ・事例 ソーシャルネットワーク	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
13	情報化社会と法規制 1	・法規制・基準（米国、欧州） ・法規制の概説 個人情報、パーソナルデータ、営業秘密等	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
14	情報化社会と法規制 2	・法規制・基準（日本） ・法規制の概説 個人情報、パーソナルデータ、営業秘密等 ・個人の行動規範	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
15	まとめ	総括	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ネットワーク思考—世界のしくみを読み解く	アルバート・ラズロ・バラバシ	NHK出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インターネットガバナンス：世界を決める見えざる戦い	ローラ・デナルディス	河出書房新社
2				
3				

評価方法 (基準)	課題レポートの提出 (50%)、定期試験 (50%) による総合評価を行う。
学生への メッセージ	社会の構成員としての情報との接し方を学習します。情報の特質を考慮して情報メディアの利活用を図り、どのような効果と影響を社会に及ぼすのかを考察し、個人の日常活動と社会の係りを理解します。本授業をとおして、情報化社会における情報の受発信や仲介に関する組織・個人の役割を学べるよう、学習の機会を共有したいと思います。
担当者の 研究室等	11号館7階 (北村教授室)
備考	

科目名	情報と職業	科目名(英文)	Information and Career
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北尾 隆夫

授業概要・目的	<p>情報化の進展は、社会に巣立って行く学生諸氏にとって以下の3つの課題を突き付けています。</p> <p>(1) 社会人としての就労において、情報活用やその手段としての情報機器の活用</p> <p>(2) 企業経営や戦略立案の重要な手段である情報収集と情報活用に対する基本的な知識の習得</p> <p>(3) 情報化社会と言われる日常生活における情報活用と情報機器に対する最低限度の知識の保有</p> <p>これらの課題にどの様に取り組むべきか、更には情報社会における職業観や勤労観の変化などについて講義します。</p> <p>特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業人としての情報活用能力、情報保全能力の必要性や社会的役割と責任 ・更には組織人としてのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の重要性について探求します。
到達目標	<p>本教科の目的を3つに絞り、それぞれの観点において以下の内容を理解していただきます。</p> <p>(1) 企業活動に於ける情報活用の目的や意味の理解</p> <p>(2) 情報化社会の意味と、我々の日常生活の関わり合いの理解</p> <p>(3) 以上の内容を通じて、情報に関する教員免許として要求されている「情報と職業」の内容についての理解</p>
授業方法と留意点	<p>教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れたものにします。 復習と言う意味から、授業途中での理解度確認のための小テストを実施します。 必要に応じてプリントやパワーポイントにより新しい動向を紹介します。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>教員免許(情報)を取得するためには、この科目が必修となっています。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに — 職業開発と情報化の意義 —	・授業ガイダンス ・教育免許法施行規則での位置づけについて解説します。	シラバスをよく読んでください。
2	情報社会の概念	・情報社会とは、どの様なことを指すのかを説明すると同時に、情報社会への対応策について解説します。	新聞から情報社会についての記事を探して持ってきてください。
3	情報社会における職業観や勤労観	・わが国の産業界の特徴について解説します。 ・職業観と職業生活に対する意識について解説します。	情報産業についてどのようなものがあるか調べてください。
4	情報化社会と私たちの暮らし I	・情報化社会における危機管理について解説します。 ・高齢化社会と社会保障について解説します。	高齢化社会の問題について調べてください。
5	情報化社会と私たちの暮らし II	・高学歴社会と自己学習力について解説します。 ・労働時間の短縮と余暇の利用について解説します。	余暇の使い方について考えてください。
6	情報社会と高等教育	・情報社会で活躍する人材について解説します。 ・情報通信技術遠隔学習について解説します。	生涯学習の意味を調べてください。
7	情報技術と社会の改革 I	・情報と情報通信技術について解説します。 ・情報化社会とIT革命について解説します。	IT革命とは何でしょう、調べてください。
8	情報技術と社会の改革 II	・企業組織の情報化について解説します。 ・政府・電子自治体の情報化について解説します。	電子決済について調べてください。
9	情報技術と人材育成 I	・企業活動と人材育成について解説します。 ・公的資格と社会認知について解説します。	皆さんに関係する資格を書き出してください。
10	情報技術と人材育成 II	・情報技術を利用した企業教育について解説します。 ・情報産業における職制と職種について解説します。	企業における教育の必要性について考えてください。
11	情報産業と国際化 I	・情報技術革命とは何かについて解説します。 ・インターネット革命と日本企業について解説します。	情報社会における企業の姿について考えてください。
12	情報産業と国際化 II	・情報産業における国際規格について解説します。 ・情報産業におけるビジネスモデルと情報倫理について解説します。	情報と国際化について、今後の姿を考えてください。
13	情報と職業についての課題検討と質疑応答	情報が職業開発に及ぼす影響についてのプレゼンテーションに基づく課題検討を行います。	授業を受けてのまとめをしてください。 質問事項の整理をしておいてください。
14	情報と職業のまとめ	レポートの発表 または 小テストの実施を行います。	レポートの発表準備、小テストに備えての復習をしておいてください。
15	情報と職業全体のまとめ	①講義全体の復習 ②重要なポイントの整理 ③説明不足な点のレビュー	情報と職業の全体のまとめをしてください。

関連科目	情報科学関連や職業開発に関する講義を受講しておくことが理解を深めることに役立ちます。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	情報と職業	近藤勲編著	丸善株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	情報と職業	廣石良雄著	株式会社SCC
	2	情報と職業	駒谷昇一、辰巳丈夫、楠本範明共著	オーム社出版局
	3			
評価方法 (基準)	<p>全体評価は、平常評価（35%）と学期末試験評価（65%）により行います。 平常評価は、課題レポート、小テスト、および授業ごとの感想レポートにより行い、学期末試験評価は、文章表現力向上の目的も兼ねて論述も取り入れた試験を実施し評価します。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席をとります [連絡カード配付]。遅刻をしないようにしてください。 ・座席は前から詰めて着席してください [座席は指定しません]。 ・授業中の私語は謹んでください [真面目な受講者の弊害となる場合は退場戴くこともあります]。 ・不明な事柄は放置せず、積極的に質問してください。 			
担当者の 研究室等 備考	11号館6階 経営学部事務室、講師控え室			

科目名	情報と法	科目名(英文)	Information and Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷 次郎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要：今日の高度情報化社会における法的な諸問題について概観する。 ・目的：今日の高度情報化社会においては、情報に関する法律（情報法）の知識は、万人の教養となってきた。一方で、科学技術の急速な発達により、情報法をめぐる状況について不断に変化している。そのような状況を踏まえ、情報化社会における被害者および加害者にならないように、情報法の基礎的知識の習得を目指す。
到達目標	・到達目標：企業人、市民として今日の高度情報化社会を支える知識の習得および判断力を育成する。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果(資格)	とりわけ、情報関連の産業に就職する際には役立つであろう。 また、高度情報化社会に生きる市民として、インターネットにおける被害者や加害者とならない基礎的知識が習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	情報法の概要の説明等	———
2	個人情報保護	個人情報保護法を概説し、個人情報取扱事業者等の法的義務について取り扱う。	教科書(18~24ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
3	プライバシー侵害	まず、プライバシー権の内容を説明する。次に、具体例(裁判例)を通じて、インターネットにおけるプライバシー侵害を考える。	教科書(26~27ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
4	名誉毀損、誹謗中傷	インターネットにおける名誉毀損、誹謗中傷事件について取り扱う。	教科書(28~29ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
5	著作権法(1)	著作権法を概説し、いかなるものが著作権の対象となるか(例えば、小説のタイトルは著作権で保護されるか)、自由に著作物を利用出来る場合について説明する。	教科書(34~37ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
6	著作権法(2)	デジタル著作権(インターネット上での不正コピーの流通等)を説明する。	教科書(38~41ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
7	産業財産権(1)	産業財産権(特許権、実用新案権、意匠権、商標権)を概説し、特許権(ソフトウェア特許など)を詳述する。	教科書(32~33ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
8	産業財産権(2)	実例(例えば、インターネット上での偽ブランド品販売)を通じて、インターネットにおける商標権侵害を説明する。	商標権侵害事件にはどのようなものがあるかを調べてから授業に臨むこと。授業後は偽ブランド品を購入しないように気をつけることを考える。
9	プロバイダー責任制限法	プロバイダーの責任(どのような場合に書き込み削除義務を負うか)について取り扱う。	教科書(150ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
10	電子商取引	電子商取引(e-Commerce)法制について取り扱う。	教科書(68~71ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
11	サイバー犯罪(1)	サイバー犯罪の類型(通常3つに分類される)を説明し、それらのうちの2つ(「コンピュータ対象犯罪」と「ネットワーク利用犯罪」)について説明する。	教科書(134~135ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
12	サイバー犯罪(2)	サイバー犯罪の第3類型である「不正アクセス」を素材に、法律と技術の関係を考える。	教科書(136~139ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
13	消費者保護法制	ネットの悪徳商法、消費者保護の手段について取り扱う。	教科書(140~143ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
14	情報法制の概要	情報手段(コンピュータとネット)を規律する法制はどのような構造体系になっているかを概説する。	教科書(188~193ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
15	知識のまとめ	これまでの講義で扱ったテーマについて総合的に捉え直す。	第2回~第14回の授業内容を見直して授業に臨むこと。

関連科目	情報倫理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インターネットの光と影 Ver.5	情報教育学研究会	北大路書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インターネット法	松井茂記、鈴木秀美、山口いつ子 / 編	有斐閣
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験50%、レポート(1回)30%、中間試験(1回)20%により評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	経営学部生・経営情報学部生であっても、情報法(インターネットに係る法律)の知識は、今日の情報化社会では不可欠となっています。これはフィッシング詐欺事件、著作物の違法コピー事件等、インターネットに関する事件(犯罪)が報道の多さから分かんるといいます。「法律は関係ない」と思わず、情報法に関心をもって受講して頂きたいと思えます。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階 経営学部事務室
----------	----------------

備考	授業時間外での質問は下記メールを使用すること jiro アットマーク tani-j-law.jp (アットマークには@を入れる)
----	---

科目名	情報ネットワーク	科目名 (英文)	Information Networks
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀井 千夏

授業概要・目的	本講義では、社会、産業の重要なインフラストラクチャーであり、さまざまな分野で欠かせないコンピュータネットワークについて学習する。特に、ネットワークを構成する基本的な技術を整理し、どのようにして相互にデータのやりとりができるのか、それらの技術がどのように活用されているのかについて平易に解説する。また、LANやインターネットはもとより、携帯電話や衛星通信などについても、最新の技術動向やトピックスを交え、ネットワークの面白さ、奥深さについて議論する。
到達目標	ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶ。
授業方法と留意点	初回到授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験や基本情報技術者試験など、コンピュータやネットワークに関連する資格取得に関連した科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	データ通信の仕組み	データ通信の種類とその利用方法	練習問題(1)
	2	伝送技術と伝送システム	変調方式と多重化方式, データを伝送する代表的な手順	練習問題(2)
	3	交換システム	交換システム(回線交換とパケット交換)	練習問題(3)
	4	通信プロトコル	通信プロトコルの役割, ネットワークアーキテクチャ	練習問題(4)
	5	LANのネットワーク構成	ネットワークの種類と特長	練習問題(5)
	6	LANのプロトコル	LANを利用した通信の仕組み, OSI (Open Systems Interconnection) 参照モデル	練習問題(6)
	7	LANの構成要素	ハブ, ルーター, Mac アドレス, Mac フレーム	練習問題(7)
	8	講義のまとめと小テスト	講義前半の復習と小テスト	練習問題(8)
	9	無線LAN	無線LANの種類と特徴	練習問題(9)
	10	電子メール(1)	電子メールの仕組み, メールクライアントとメールサーバ	練習問題(10)
	11	電子メール(2)	メールヘッダーと本文の役割, DNSサーバ, メールセキュリティ	練習問題(11)
	12	情報社会のセキュリティ(1)	情報セキュリティの基本	練習問題(12)
	13	情報社会のセキュリティ(2)	ハッキングとクラッキング	練習問題(13)
	14	コンピュータウィルス	コンピュータウィルスの特徴と被害	練習問題(14)
	15	講義のまとめと小テスト	講義後半の復習と小テスト	練習問題(15)

関連科目	情報処理関連の基礎科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の課題 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者(寝る、喋る等)は欠席扱いとする。
学生へのメッセージ	ネットワークは、多くの技術的要素を含んでいるため難しいと思われるが、本講義では、ネットワークのしくみやその使われ方を分かりやすく説明する。前回までの授業内容をよく理解しておくこと。
担当者の研究室等	11号館8階 堀井教授室
備考	

科目名	情報法	科目名(英文)	Information Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷 次郎

授業概要・目的	<p>・授業概要：今日の高度情報化社会における法的な諸問題について概観する。</p> <p>・目的：今日の高度情報化社会においては、情報に関する法律（情報法）の知識は、万人の教養となつてきている。一方で、科学技術の急速な発達により、情報法をめぐる状況について不断に変化している。そのような状況を踏まえ、情報化社会における被害者および加害者にならないように、情報法の基礎的知識の習得を目指す。</p>
到達目標	<p>・到達目標：企業人、市民として今日の高度情報化社会を支える知識の習得および判断力を育成する。</p>
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果(資格)	とりわけ、情報関連の産業に就職する際には役立つであろう。また、高度情報化社会に生きる市民として、インターネットにおける被害者や加害者とならない基礎的知識が習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	情報法の概要の説明等	———
2	個人情報保護	個人情報保護法を概説し、個人情報取扱事業者等の法的義務について取り扱う。	教科書(18～24ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
3	プライバシー侵害	まず、プライバシー権の内容を説明する。次に、具体例(裁判例)を通じて、インターネットにおけるプライバシー侵害を考える。	教科書(26～27ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
4	名誉毀損、誹謗中傷	インターネットにおける名誉毀損、誹謗中傷事件について取り扱う。	教科書(28～29ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
5	著作権法(1)	著作権法を概説し、いかなるものが著作権の対象となるか(例えば、小説のタイトルは著作権で保護されるか)、自由に著作物を利用出来る場合について説明する。	教科書(34～37ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
6	著作権法(2)	デジタル著作権(インターネット上での不正コピーの流通等)を説明する。	教科書(38～41ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
7	産業財産権(1)	産業財産権(特許権、実用新案権、意匠権、商標権)を概説し、特許権(ソフトウェア特許など)を詳述する。	教科書(32～33ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
8	産業財産権(2)	実例(例えば、インターネット上での偽ブランド品販売)を通じて、インターネットにおける商標権侵害を説明する。	商標権侵害事件にはどのようなものがあるかを調べてから授業に臨むこと。授業後は偽ブランド品を購入しないように気をつけることを考える。
9	プロバイダー責任制限法	プロバイダーの責任(どのような場合に書き込み削除義務を負うか)について取り扱う。	教科書(150ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
10	電子商取引	電子商取引(e-Commerce)法制について取り扱う。	教科書(68～71ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
11	サイバー犯罪(1)	サイバー犯罪の類型(通常3つに分類される)を説明し、それらのうちの2つ(「コンピュータ対象犯罪」と「ネットワーク利用犯罪」)について説明する。	教科書(134～135ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
12	サイバー犯罪(2)	サイバー犯罪の第3類型である「不正アクセス」を素材に、法律と技術の関係を考える。	教科書(136～139ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
13	消費者保護法制	ネットの悪徳商法、消費者保護の手段について取り扱う。	教科書(140～143ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
14	情報法制の概要	情報手段(コンピュータとネット)を規律する法制はどのような構造体系になっているかを概説する。	教科書(188～193ページ)に目を通して授業に臨むこと。また、授業後に同箇所を読み直すこと。
15	知識のまとめ	これまでの講義で扱ったテーマについて総合的に捉え直す。	第2回～第14回の授業内容を見直して授業に臨むこと。

関連科目	情報倫理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インターネットの光と影 Ver.5	情報教育学研究会	北大路書房

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インターネット法	松井茂記、鈴木秀美、山口いつ子 / 編	有斐閣

評価方法(基準)	定期試験 50%、レポート(1回)30%、中間試験(1回)20%により評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	経営学部生・経営情報学部生であっても、情報法(インターネットに関係する法律)の知識は、今日の情報化社会では不可欠となっています。これはフィッシング詐欺事件、著作物の違法コピー事件等、インターネットに関する事件(犯罪)が報道の多さから分かります。「法律は関係ない」と思わず、情報法に関心をもって受講して頂きたいと思ひます。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階 経営学部事務室
----------	----------------

備考	授業時間外での質問は下記メールを使用すること jiro アットマーク tani-j-law.jp (アットマークには@を入れる)
----	---

科目名	情報倫理	科目名(英文)	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩

授業概要・目的	インターネットやソーシャルネットの普及により、情報化社会が進展してきた。その中で、情報に接する組織や個人の価値観が変化し、日常的な活動の中の情報伝達等で、いかに振る舞うのが常に問われている。常に新しい技術が更新される現代社会において、様々な社会事象の発生に、組織・個人として、どのように情報倫理を考え、諸事象に立ち向かうのか、行動規範を考察する。
到達目標	情報は、どのような特質を持ち、組織や個人にいかに関与し、影響を及ぼすものかを理解し、情報に接する立場に必要な倫理的な思考力を形成する。近年のインターネットやソーシャルネット等の技術・法規制の基礎知識を身につけ、行動規範として自ら律することを旨とする。
授業方法と留意点	レジュメを中心にテキストで基礎的なテーマを解説する講義形式で授業を進める。適宜、最新テーマを新聞等を参考にする。

科目学習の効果(資格)	(資格) 高等学校情報科教員免許状取得に必要。 ・新聞やWeb が提供する情報倫理の関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・大学 OB/OG 等の社会人と意見交換を図るための素養を身につけることができる。
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・情報倫理とは何か ・なぜ情報倫理が必要なのか	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
2	情報伝達と情報行動	・I ヒトの情報行動 ・情報の伝達とリスク ・事例 ICT 利用の考慮点(個人・組織)	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
3	情報管理	・情報管理とは何か ・なぜ情報管理が必要なのか ・事例 情報メディアの誤用	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
4	インターネットと情報	・インターネット・コミュニケーション ・インターネットの技術的特性 ・事例 インターネットの誤用	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
5	インターネット・ツール	・eメール/BLOG の情報発信 ・Web サイトへのアクセス ・インターネット電話 (Skype 等)	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
6	インターネット取引	・ネットバンキング ・ネット通販 ・Web オークション	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
7	ソーシャルネットと情報	・ソーシャルネット・コミュニケーション ・ソーシャルネットの技術的特性 ・事例 ソーシャルネットの誤用	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
8	ソーシャルネット・ツール	・ソーシャルネットワークサービス ・動画配信 (YouTube 等) ・SNS (Facebook/Twitter/Line)	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
9	個人情報とプライバシー	・『個人情報』とは何か ・『パーソナルデータ』とは何か ・プライバシー保護の遵守規範	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
10	機密情報	・『機密情報』とは何か ・組織と情報の守秘義務 ・情報の安全管理措置	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
11	知的財産	・『知的財産(知財)』とは何か ・コンテンツ事業と著作権 ・事例 Web コンテンツの利用ルール	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
12	情報セキュリティ管理の技術	・本人確認とアクセス認証 ・データの暗号化・復号化 ・ネットワークウィルス/マルウェア等	個人情報漏洩に関する記事を見つけて問題点を考えてみてください。
13	サイバーセキュリティ	・『サイバーセキュリティ』とは何か ・社会のグローバル化とリスク対策 ・事例 サイバーセキュリティ事件	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
14	法制度	・マイナンバーと個人情報 ・クラウドサービス利用の考慮点 ・法と情報セキュリティの業界基準	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習
15	まとめ	総括	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Web ニュース)の予習・復習

関連科目	情報処理基礎
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ソーシャルリスク	小林直樹	日経 BP 社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上対策の教科書	小林直樹	日経 BP 社
2	インターネットの光と影 Ver. 5	情報教育学研究会/情報倫理教育研究グループ	北大路書房	
3				

評価方法(基準)	課題レポートの提出(50%)、定期試験(50%)による総合評価を行う。
----------	-------------------------------------

学生への メッセージ	社会の構成員としての情報との接し方を学習します。本授業をととして、情報化社会におけるインターネットやソーシャルネットの情報の伝達等の行動における組織・個人の規範の形成が学べるよう、学習の機会を共有したいと思います。
担当者の 研究室等	11号館7階（北村教授室）
備考	

科目名	職業能力開発	科目名(英文)	Human Resources Development
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	<p>【目的】社会生活および職業に必要な能力の向上を目指す。 社会人・職業人に求められる社会的思考力、論理的な思考力、新しいアイデアを生み出す発想力の向上を目指す。</p> <p>【概要】 心理学の視点から人間に固有な社会的知性の発達を理解し、抽象的な思考の活用法を理解する。 学問の成立とその発展を振り返り、学問の意義を学び、論理的思考法と科学的思考法の基本を身につける。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の3大精神機能を理解する 2. 知的な精神活動の役割を知る 3. シンボル操作<言葉と数の活用法>を知る 4. 学問の発展と科学的な研究方法を知る 5. 言語の論理性と数学的思考の特徴を知る 6. 合理的な意思決定法の理念を知る 																																																																		
授業方法と留意点	配布資料とスライドに基づいて授業する。講義内容をよりよく理解するために、具体的な練習問題を課す。自ら考えて答えを出すように心掛けてください。																																																																		
科目学習の効果(資格)	論理的な思考法や科学的な思考法を習得し、活用することができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方</td> <td>講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。</td> <td>企業が求める人材について考える。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>講義目的と今日の課題</td> <td>教育の目的を理解するとともに日本における教育現状を考える。</td> <td>学力の国際比較を通して、日本における教育課題を考える。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人間の知性(1):3大精神機能</td> <td>知・情・意の3大精神機能の特徴を理解し、意思決定における知性の役割を知る。</td> <td>人間に特有な知性の特徴および知と情の関係を考えてみよう。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人間の知性(2):知能の研究</td> <td>人間の知性に関する心理学研究のプロセスを理解し、今日の知能研究の課題を知る。</td> <td>人間の知性に関する系統発生と個体発生の違いについて考えてみよう。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人間の知性(3):概念的思考の形成</td> <td>言葉や数などのシンボルを用いた世界認識の特徴を知る。</td> <td>言葉や数の有用性を考える。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学問の世界(1):学問の誕生</td> <td>古代文明の学問とギリシャ時代の学問を知る。ソクラテス・プラトン・アリストテレスによる学問の体系化を学ぶ。</td> <td>学問の意義と教育の重要性を考える。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学問の世界(2):近世の学問</td> <td>ルネサンス期の学問の特徴を理解する。パスカルやデカルトの考え方を学ぶ。</td> <td>理性主義、啓蒙主義とは何か、事前に調べる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学問の世界(3):科学的方法</td> <td>自然科学の発展と科学的研究方法を知る。</td> <td>ガリレオやニュートンの科学的発見について調べてみよう。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>思考の4つの様式</td> <td>人間の4つの思考法を理解する。演繹的思考法・帰納的思考法・類推的思考法・発想的思考法の特徴を学ぶ。</td> <td>4つの思考法のそれぞれの特徴を具体的な例を用いて説明できるようにする。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語的思考(1):演繹的思考法</td> <td>論理的思考法の特徴を理解し、論理思考の法則を学ぶ。</td> <td>課題<論理問題>を提示する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>言語的思考(2):命題論理</td> <td>否定文、連言文、選言文、条件文の「論理法則」について学ぶ。</td> <td>課題あり。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>言語的思考(3):述語論理</td> <td>全称と存在の理解を深める。</td> <td>課題あり。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>数的思考(1):数の活用</td> <td>数の性質を理解する。基数と序数の違い、代数学と幾何学の特徴を知る。</td> <td>数理能力とその有用性を考える。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>数的思考(2):文章問題と数的理解</td> <td>具体的な問題を通して数式や図式の活用法を学ぶ。</td> <td>課題あり。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のまとめ</td> <td>社会的知性の発達と思考の重要性を再確認する。</td> <td>ビジネスに必要な思考力と決断力について、整理しまとめる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。	企業が求める人材について考える。	2	講義目的と今日の課題	教育の目的を理解するとともに日本における教育現状を考える。	学力の国際比較を通して、日本における教育課題を考える。	3	人間の知性(1):3大精神機能	知・情・意の3大精神機能の特徴を理解し、意思決定における知性の役割を知る。	人間に特有な知性の特徴および知と情の関係を考えてみよう。	4	人間の知性(2):知能の研究	人間の知性に関する心理学研究のプロセスを理解し、今日の知能研究の課題を知る。	人間の知性に関する系統発生と個体発生の違いについて考えてみよう。	5	人間の知性(3):概念的思考の形成	言葉や数などのシンボルを用いた世界認識の特徴を知る。	言葉や数の有用性を考える。	6	学問の世界(1):学問の誕生	古代文明の学問とギリシャ時代の学問を知る。ソクラテス・プラトン・アリストテレスによる学問の体系化を学ぶ。	学問の意義と教育の重要性を考える。	7	学問の世界(2):近世の学問	ルネサンス期の学問の特徴を理解する。パスカルやデカルトの考え方を学ぶ。	理性主義、啓蒙主義とは何か、事前に調べる。	8	学問の世界(3):科学的方法	自然科学の発展と科学的研究方法を知る。	ガリレオやニュートンの科学的発見について調べてみよう。	9	思考の4つの様式	人間の4つの思考法を理解する。演繹的思考法・帰納的思考法・類推的思考法・発想的思考法の特徴を学ぶ。	4つの思考法のそれぞれの特徴を具体的な例を用いて説明できるようにする。	10	言語的思考(1):演繹的思考法	論理的思考法の特徴を理解し、論理思考の法則を学ぶ。	課題<論理問題>を提示する。	11	言語的思考(2):命題論理	否定文、連言文、選言文、条件文の「論理法則」について学ぶ。	課題あり。	12	言語的思考(3):述語論理	全称と存在の理解を深める。	課題あり。	13	数的思考(1):数の活用	数の性質を理解する。基数と序数の違い、代数学と幾何学の特徴を知る。	数理能力とその有用性を考える。	14	数的思考(2):文章問題と数的理解	具体的な問題を通して数式や図式の活用法を学ぶ。	課題あり。	15	講義のまとめ	社会的知性の発達と思考の重要性を再確認する。	ビジネスに必要な思考力と決断力について、整理しまとめる。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。	企業が求める人材について考える。																																																																
2	講義目的と今日の課題	教育の目的を理解するとともに日本における教育現状を考える。	学力の国際比較を通して、日本における教育課題を考える。																																																																
3	人間の知性(1):3大精神機能	知・情・意の3大精神機能の特徴を理解し、意思決定における知性の役割を知る。	人間に特有な知性の特徴および知と情の関係を考えてみよう。																																																																
4	人間の知性(2):知能の研究	人間の知性に関する心理学研究のプロセスを理解し、今日の知能研究の課題を知る。	人間の知性に関する系統発生と個体発生の違いについて考えてみよう。																																																																
5	人間の知性(3):概念的思考の形成	言葉や数などのシンボルを用いた世界認識の特徴を知る。	言葉や数の有用性を考える。																																																																
6	学問の世界(1):学問の誕生	古代文明の学問とギリシャ時代の学問を知る。ソクラテス・プラトン・アリストテレスによる学問の体系化を学ぶ。	学問の意義と教育の重要性を考える。																																																																
7	学問の世界(2):近世の学問	ルネサンス期の学問の特徴を理解する。パスカルやデカルトの考え方を学ぶ。	理性主義、啓蒙主義とは何か、事前に調べる。																																																																
8	学問の世界(3):科学的方法	自然科学の発展と科学的研究方法を知る。	ガリレオやニュートンの科学的発見について調べてみよう。																																																																
9	思考の4つの様式	人間の4つの思考法を理解する。演繹的思考法・帰納的思考法・類推的思考法・発想的思考法の特徴を学ぶ。	4つの思考法のそれぞれの特徴を具体的な例を用いて説明できるようにする。																																																																
10	言語的思考(1):演繹的思考法	論理的思考法の特徴を理解し、論理思考の法則を学ぶ。	課題<論理問題>を提示する。																																																																
11	言語的思考(2):命題論理	否定文、連言文、選言文、条件文の「論理法則」について学ぶ。	課題あり。																																																																
12	言語的思考(3):述語論理	全称と存在の理解を深める。	課題あり。																																																																
13	数的思考(1):数の活用	数の性質を理解する。基数と序数の違い、代数学と幾何学の特徴を知る。	数理能力とその有用性を考える。																																																																
14	数的思考(2):文章問題と数的理解	具体的な問題を通して数式や図式の活用法を学ぶ。	課題あり。																																																																
15	講義のまとめ	社会的知性の発達と思考の重要性を再確認する。	ビジネスに必要な思考力と決断力について、整理しまとめる。																																																																
関連科目	キャリア能力の向上を目指す科目と連動する。自ら考えて答えを出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書は指定しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書は指定しない。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	教科書は指定しない。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門!論理学</td> <td>野矢茂樹</td> <td>中公新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>使える!確率的思考法</td> <td>小島寛之</td> <td>ちくま新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門!論理学	野矢茂樹	中公新書	2	使える!確率的思考法	小島寛之	ちくま新書	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門!論理学	野矢茂樹	中公新書																																																																
2	使える!確率的思考法	小島寛之	ちくま新書																																																																
3																																																																			
評価方法(基準)	期末定期試験の成績(70%)。授業後の小レポート課題の成績(30%)。これらの成績をもとに総合的に評価する。なお、出席管理システムによる出欠管理データは成績評価に用いないが、学生証の提示は必須。																																																																		
学生へのメッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。																																																																		
担当者の研究室等	11号館7階「福田研究室」																																																																		
備考	講義に関する質問には積極的に対応します。																																																																		

科目名	職業能力開発論 I	科目名 (英文)	Human Resources Development I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	<p>【目的】 経営における心理学の役割について学ぶ 企業などの組織の運営と管理における心理学的な課題を理解し、併せて、組織行動に必要な知識やスキルの向上を図る。</p> <p>【概要】 企業の存在価値および存続価値を理解し、経営の基本が人であることを認識し、組織管理における人間理解の重要性や労働の意義を学ぶ。まず、リーダーシップ機能などの組織管理、人事管理における心理学的課題を学び、次に、企業の対社会的な活動について学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の生き方と組織行動の特徴を知る 2. 企業で働く意義・目的・課題を知る 3. 組織管理論とリーダーシップ理論の変遷を知る 4. 産業能率と労働意欲の関係をj知る 5. 産業ストレスと労働者の健康管理について学ぶ
授業方法と留意点	プリントおよびスライドを用いて授業を行う。配布資料はなくさないように。授業内容に即した参考図書を適宜紹介する。
科目学習の効果 (資格)	企業経営における心理学的な課題に関心を持つことによって、心理学の視点から企業を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	企業と人間	人間の社会性を理解し、企業で働く人々に関係する多様な心理学的な課題を知る。	企業における人々の組織行動の目的と課題について考えてみよう。
3	組織管理と心理学 (1):「ホーソン実験」の心理学的価値	「ホーソン実験」の成果を理解し、“産業能率”と“労働効率”の関係について学ぶ。	組織における人間的な要素を取り上げてみよう。
4	組織管理と心理学 (2):組織論の変遷	テイラーの科学的管理論から始まる組織論の変遷を学び、組織設計と組織管理について考える。	組織効率とは何か、考えてみよう。
5	組織管理と心理学 (3):リーダーとリーダーシップ	トップマネジメントの重要性とリーダーの特性およびリーダーシップ機能に関する心理学的な研究を理解する。	様々な経営者について調べ、その特徴をあげてみよう。
6	人的資源管理と心理学 (1):労働意欲	産業能率と労働効率の関係を学び、労働意欲を向上させる諸条件について考える。	人事考課や勤務評定はなぜ必要か、考えてみよう。
7	人的資源管理と心理学 (2):モチベーションおよび報酬と罰	労働におけるモチベーションの理論を学び、併せて、労働における報酬と罰の効果について考える。	仕事における報酬と罰の効果について考えてみよう。
8	人的資源管理と心理学 (3):労働における「安全配慮義務」	労働に伴う疲労とストレスを理解し、健康に働くための社会的取り組みや企業の対応について学ぶ。	これまでの「労災問題」について調べてみよう。
9	職業選択と心理学 (1):職業選択とミスマッチ	職業の適性診断とその心理学的手法を学ぶ。職業適性論は職業選択の決め手となるかについて考える。	自分にあう仕事とは何か。職業選択と適性について考えてみよう。
10	職業選択と心理学 (2):職業教育と職業発達	社会生活における人間を理解し、職業における人格的発達について考える。	仕事を通して人は成長すると言われる理由を考えてみよう。
11	職業能力と心理学 (1):社会人基礎力	社会人基礎力と職業能力の関係を理解し、企業が求める理想的な人材像を考える。	企業が求める人材について考えてみよう。
12	職業能力と心理学 (2):組織開発と思考	「考える能力」と「チームワーク力」の関係を理解し、組織的行動の成立条件を考える。	協働を成功させる諸条件について考えてみよう。
13	産業ストレスと心理学 (1):疲労とストレス	疲労とストレスの実態を理解し、労働者の健康問題を考える。	疲労と病気、ストレスと病気の関係を調べてみる。
14	産業ストレスと心理学 (2):ストレスとその対処法	メンタルヘルスクエアへの社会的な取り組みと企業の対応法について具体的な事例を通して学ぶ。	健康に働くための企業の取り組みについて考えてみよう。
15	講義のまとめ	経営学における心理学の役割とその有効性について振り返る。	講義内容から最も関心があったところをまとめる。

関連科目 組織管理や人的資源管理などの学習内容に心理学の知識が数多く含まれている。本講義を通してこれらの知識をよりよく理解できる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は指定しない。		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義の中で適宜紹介する。		

評価方法 (基準)	期末定期試験の成績 (70%)。小レポートの成績 (30%)。小レポートは授業終了時に実施する。2つの成績をもとに総合的に評価する。なお出席管理システムによる出欠管理は成績評価の対象としないが、必ず学生証の提示を行うこと。
学生へのメッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室厳禁。スマホ・携帯の使用厳禁。居眠り厳禁。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。
担当者の研究室等	11号館7階「福田研究室」
備考	授業内容に関する質問には積極的に対応します。

科目名	職業能力開発論Ⅱ	科目名(英文)	Human Resources Development II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	<p>【目的】社会生活および職業に必要な能力の向上を目指す。社会人・職業人に求められる社会的思考力、論理的な思考力、新しいアイデアを生み出す発想力の向上を目指す。</p> <p>【概要】心理学の視点から人間に固有な社会的知性の発達を理解し、抽象的な思考の活用法を理解する。学問の成立とその発展を振り返り、学問の意義を学び、論理的思考法と科学的思考法の基本を身につける。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の3大精神機能を理解する 2. 知的な精神活動の役割を知る 3. シンボル操作<言葉と数の活用法>を知る 4. 学問の発展と科学的な研究法を知る 5. 言語の論理性と数論的思考の特徴を知る 6. 合理的な意思決定法の理念を知る 																																																																		
授業方法と留意点	配布資料とスライドに基づいて授業する。講義内容をよりよく理解するために、具体的な練習問題を課す。自ら考えて答えを出すように心掛けてください。																																																																		
科目学習の効果(資格)	論理的な思考法や科学的な思考法を習得し、活用することができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方</td> <td>講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。</td> <td>企業が求める人材について考える。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>講義目的と今日的課題</td> <td>教育の目的を理解するとともに日本における教育現状を考える。</td> <td>学力の国際比較を通して、日本における教育課題を考える。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人間の知性(1):3大精神機能</td> <td>知・情・意の3大精神機能の特徴を理解し、意思決定における知性の役割を知る。</td> <td>人間に特有な知性の特徴および知と情の関係を考えてみよう。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人間の知性(2):知能の研究</td> <td>人間の知性に関する心理学研究のプロセスを理解し、今日の知能研究の課題を知る。</td> <td>人間の知性に関する系統発生と個体発生の違いについて考えてみよう。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人間の知性(3):概念的思考の形成</td> <td>言葉や数などのシンボルを用いた世界認識の特徴を知る。</td> <td>言葉や数の有用性を考える。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学問の世界(1):学問の誕生</td> <td>古代文明の学問とギリシャ時代の学問を知る。ソクラテス・プラトン・アリストテレスによる学問の体系化を学ぶ。</td> <td>学問の意義と教育の重要性を考える。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学問の世界(2):近世の学問</td> <td>ルネサンス期の学問の特徴を理解する。パスカルやデカルトの考え方を知る。</td> <td>理性主義、啓蒙主義とは何か、事前に調べる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学問の世界(3):科学的方法</td> <td>自然科学の発展と科学的研究方法を知る。</td> <td>ガリレオやニュートンの科学的発見について調べてみよう。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>思考の4つの様式</td> <td>人間の4つの思考法を理解する。演繹的思考法・帰納的思考法・類推的思考法・発想的思考法の特徴を学ぶ。</td> <td>4つの思考法のそれぞれの特徴を具体的な例を用いて説明できるようにする。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語的思考(1):演繹的思考法</td> <td>論理的思考法の特徴を理解し、論理思考の法則を学ぶ。</td> <td>課題<論理問題>を提示する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>言語的思考(2):命題論理</td> <td>否定文、連言文、選言文、条件文の「論理法則」について学ぶ。</td> <td>課題あり。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>言語的思考(3):述語論理</td> <td>全称と存在の理解を深める。</td> <td>課題あり。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>数的思考(1):数の活用</td> <td>数の性質を理解する。基数と序数の違い、代数学と幾何学の特徴を知る。</td> <td>数理能力とその有用性を考える。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>数的思考(2):文章問題と数的理解</td> <td>具体的な問題を通して数式や図式の活用法を学ぶ。</td> <td>課題あり。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のまとめ</td> <td>社会的知性の発達と思考の重要性を再確認する。</td> <td>ビジネスに必要な思考力と決断力について、整理しまとめる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。	企業が求める人材について考える。	2	講義目的と今日的課題	教育の目的を理解するとともに日本における教育現状を考える。	学力の国際比較を通して、日本における教育課題を考える。	3	人間の知性(1):3大精神機能	知・情・意の3大精神機能の特徴を理解し、意思決定における知性の役割を知る。	人間に特有な知性の特徴および知と情の関係を考えてみよう。	4	人間の知性(2):知能の研究	人間の知性に関する心理学研究のプロセスを理解し、今日の知能研究の課題を知る。	人間の知性に関する系統発生と個体発生の違いについて考えてみよう。	5	人間の知性(3):概念的思考の形成	言葉や数などのシンボルを用いた世界認識の特徴を知る。	言葉や数の有用性を考える。	6	学問の世界(1):学問の誕生	古代文明の学問とギリシャ時代の学問を知る。ソクラテス・プラトン・アリストテレスによる学問の体系化を学ぶ。	学問の意義と教育の重要性を考える。	7	学問の世界(2):近世の学問	ルネサンス期の学問の特徴を理解する。パスカルやデカルトの考え方を知る。	理性主義、啓蒙主義とは何か、事前に調べる。	8	学問の世界(3):科学的方法	自然科学の発展と科学的研究方法を知る。	ガリレオやニュートンの科学的発見について調べてみよう。	9	思考の4つの様式	人間の4つの思考法を理解する。演繹的思考法・帰納的思考法・類推的思考法・発想的思考法の特徴を学ぶ。	4つの思考法のそれぞれの特徴を具体的な例を用いて説明できるようにする。	10	言語的思考(1):演繹的思考法	論理的思考法の特徴を理解し、論理思考の法則を学ぶ。	課題<論理問題>を提示する。	11	言語的思考(2):命題論理	否定文、連言文、選言文、条件文の「論理法則」について学ぶ。	課題あり。	12	言語的思考(3):述語論理	全称と存在の理解を深める。	課題あり。	13	数的思考(1):数の活用	数の性質を理解する。基数と序数の違い、代数学と幾何学の特徴を知る。	数理能力とその有用性を考える。	14	数的思考(2):文章問題と数的理解	具体的な問題を通して数式や図式の活用法を学ぶ。	課題あり。	15	講義のまとめ	社会的知性の発達と思考の重要性を再確認する。	ビジネスに必要な思考力と決断力について、整理しまとめる。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。	企業が求める人材について考える。																																																																
2	講義目的と今日的課題	教育の目的を理解するとともに日本における教育現状を考える。	学力の国際比較を通して、日本における教育課題を考える。																																																																
3	人間の知性(1):3大精神機能	知・情・意の3大精神機能の特徴を理解し、意思決定における知性の役割を知る。	人間に特有な知性の特徴および知と情の関係を考えてみよう。																																																																
4	人間の知性(2):知能の研究	人間の知性に関する心理学研究のプロセスを理解し、今日の知能研究の課題を知る。	人間の知性に関する系統発生と個体発生の違いについて考えてみよう。																																																																
5	人間の知性(3):概念的思考の形成	言葉や数などのシンボルを用いた世界認識の特徴を知る。	言葉や数の有用性を考える。																																																																
6	学問の世界(1):学問の誕生	古代文明の学問とギリシャ時代の学問を知る。ソクラテス・プラトン・アリストテレスによる学問の体系化を学ぶ。	学問の意義と教育の重要性を考える。																																																																
7	学問の世界(2):近世の学問	ルネサンス期の学問の特徴を理解する。パスカルやデカルトの考え方を知る。	理性主義、啓蒙主義とは何か、事前に調べる。																																																																
8	学問の世界(3):科学的方法	自然科学の発展と科学的研究方法を知る。	ガリレオやニュートンの科学的発見について調べてみよう。																																																																
9	思考の4つの様式	人間の4つの思考法を理解する。演繹的思考法・帰納的思考法・類推的思考法・発想的思考法の特徴を学ぶ。	4つの思考法のそれぞれの特徴を具体的な例を用いて説明できるようにする。																																																																
10	言語的思考(1):演繹的思考法	論理的思考法の特徴を理解し、論理思考の法則を学ぶ。	課題<論理問題>を提示する。																																																																
11	言語的思考(2):命題論理	否定文、連言文、選言文、条件文の「論理法則」について学ぶ。	課題あり。																																																																
12	言語的思考(3):述語論理	全称と存在の理解を深める。	課題あり。																																																																
13	数的思考(1):数の活用	数の性質を理解する。基数と序数の違い、代数学と幾何学の特徴を知る。	数理能力とその有用性を考える。																																																																
14	数的思考(2):文章問題と数的理解	具体的な問題を通して数式や図式の活用法を学ぶ。	課題あり。																																																																
15	講義のまとめ	社会的知性の発達と思考の重要性を再確認する。	ビジネスに必要な思考力と決断力について、整理しまとめる。																																																																
関連科目	キャリア能力の向上を目指す科目と連動する。自ら考えて答えを出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td colspan="3">教科書は指定しない。</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書は指定しない。																																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	教科書は指定しない。																																																																		
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門!論理学</td> <td>野矢茂樹</td> <td>中公新書</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門!論理学	野矢茂樹	中公新書																																																								
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門!論理学	野矢茂樹	中公新書																																																																
評価方法(基準)	期末定期試験の成績(70%)。授業後の小レポート課題の成績(30%)。これらの成績をもとに総合的に評価する。なお、出席管理システムによる出欠管理データは成績評価に用いないが、学生証の提示は必須。																																																																		
学生へのメッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。																																																																		
担当者の研究室等	11号館7階「福田研究室」																																																																		
備考	講義に関する質問には積極的に対応します。																																																																		

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	黒澤 敏朗

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるような相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	堀井 千夏

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるような相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樋口 友紀

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるような相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるような相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるような相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	黒澤 敏朗

授業概要・目的	ゼミでは「マーケティングにおけるデータに基づく合理的な経営・管理やITを活用した経営・管理」を行うための種々の経営管理に関する技術・技法についての研究・教育を行います。 卒業研究を通じて、企業経営において、ITやデータ解析法を活用した高い成果をあげるためのさまざまな理論や手法、そして各種の優れた事例を学び、卒業論文にまとめます。			
到達目標	卒業研究を通じて、マーケティングやITに関するさまざまな理論、手法や事例を学び、卒業論文にまとめて提出し、その概要をゼミ生の前で報告できること。			
授業方法と留意点	卒業研究では、個人あるいはグループで「企業におけるマーケティングや優れたIT活用」について調査し、順次発表するというステップを1年間にわたり実施し、最終的に卒業研究論文として完成させます。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究では、個人あるいはグループで「企業におけるマーケティングや優れたIT活用」について調査し、順次発表するというステップを1年間にわたり実施し、最終的に卒業研究論文として完成させます。HPに掲載されているデータを用いるだけでなく、実際に企業を訪問・見学して得られたIT活用の事例や、ゼミの仲間などからのアンケートによるデータなどを積極的に収集・活用することを期待します。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導します。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成することが必要です。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	まずは調査・研究し、その結果を発表することが必要です。そのようなプロセスと最終的に提出された卒業論文と報告(プレゼン)をあわせて総合的に評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	11号館7階 黒澤教授室			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井 千夏

授業概要・目的	<p>専門分野の研究において「情報収集(サーベイ)」、「情報の加工(構造化)」、「情報の発信(デザイン化)」といった情報の活用は欠かせない。卒業研究では、高度情報化社会の現状を把握して実社会をモデルにした研究テーマを取り上げ、このテーマを題材に情報活用能力を発揮する演習を行っていく。最終的にはこの演習結果を卒業論文としてまとめ、プレゼンテーションやディスカッションの場を利用して情報発信能力を高めていく。</p>			
到達目標	<p>演習 I および演習 II を土台として卒業研究を実施し、この結果を卒業論文としてまとめる。</p>			
授業方法と留意点	<p>卒業論文の作成と就職活動について個別に指導していく。卒研究生は不正防止のための研究倫理を十分に踏まえた上で卒業論文を作成すること。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習 I および演習 II で取り組んだ問題をさらに専門的な視点から解析する。この結果を卒業論文としてまとめる。卒業論文作成に当たっては、不正防止のための研究倫理について指導・教育する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>卒業論文(100%)で評価する。ただし、卒業論文の添削を受けない者については減点する。</p>			
学生へのメッセージ	<p>卒業研究は卒業要件に関係するため、卒業論文の制作や提出に遅れが生じないように注意すること。</p>			
担当者の研究室等備考	<p>11号館8階 堀井教授室</p>			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 貞也

授業概要・目的	ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。 卒業研究において、大学4年間で学んだ知識や技術に裏付けられた主張を示し、研究論文、または、卒業制作としてまとめる。 ゼミでは、研究という最高の知的活動を通じて、人としての成長を遂げることを目的としている。																		
到達目標	卒業研究においては以下の到達目標を設定する。 (1) 研究テーマに対する説明責任を果たす (2) QCDを意識したプロジェクト管理を行える (3) 研究倫理を十分に理解した研究活動の実施																		
授業方法と留意点	適宜、全員進捗状況を報告する。中間報告、経過報告での議論とブラッシュアップを重視すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	大学における学びの集大成として、卒業研究もしくは卒業制作をおこなう。演習 I・演習 II を通じて身に付けた専門知識を体系化し、自らが定めたテーマに関して研究を進める。研究、制作の成果は、卒業研究発表会において報告し、卒業研究論文を作成する。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	卒業研究論文の内容 (中間報告、発表会、報告書のすべてを満たしていることが条件) 研究内容 80%、その他 20%																		
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。																		
担当者の研究室等	久保准教授室 (11号館7階)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的	4年間の集大成である卒業論文を作成していくことを目的とします。			
到達目標	完成度の高い卒業論文の作成を目指します。			
授業方法と留意点	進捗状況をゼミで発表してもらいます。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業論文を作成し、提出するまでについて指導します。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業論文とその途中経過により評価します。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	<p>演習では、主に以下の2つの内容について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業のマーケティング活動におけるメディア戦略 2. コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析 <p>これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業のITマーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に、高度なデータ解析技術を習得していく。</p>																		
到達目標	<p>・卒業論文の作成</p>																		
授業方法と留意点	<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自が定めたテーマについて研究し、その発表を行う 2) 卒業論文を執筆する 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各自の卒業研究テーマについて取り組む。 なお卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえて卒業論文を執筆すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>提出物、発表内容</p>																		
学生へのメッセージ	<p>就職活動と合わせて計画的にすすめてください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>11号館7F 針尾准教授室</p>																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木 紀哉

授業概要・目的	経営情報学の分野に関するテーマでの研究活動をさらに突き詰め、卒業論文としてまとめる。テーマは個別に設定し、個人の責任のもとで研究を進める。定期的にゼミの中で研究経過を相互に報告し、意見交換しながら卒業論文を完成させる。		
到達目標	社会人になるための準備として、自らの判断で意思決定し行動できるようになることを目指す。また、研究内容について、知識・理解を深め、論理的に説明できるようになることを目指す。活動では、他のゼミ生とも協力しながら、相互に高め合うことを目指す。並行して行う就職活動では、自分の将来について目標を持って取り組む。		
授業方法と留意点	研究経過を定期的に報告することで、進捗状況を自己管理しながら計画的に研究を進める。他のゼミ生の意見を参考にしながら、相互に協力し合い、他のゼミ生の知識・経験を高めることにも協力する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	各自が定めた研究テーマに基づいて、文献調査を行いながら研究内容を絞り込み、卒業論文にまとめる。その際、演習Ⅰ・Ⅱを通じて身につけた専門知識を取り入れながら、各自工夫しながら計画的に研究を進める。就職活動も伴うため、効率良い作業を求める。 なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。		
関連科目	演習Ⅰ、演習Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	レポート課題、卒業論文等 (60%)、演習への参加状況 (40%) 演習が中心となるため、欠席・遅刻は演習内容や成績評価に影響します。		
学生への メッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。技能の習得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。		
担当者の 研究室等	11号館8階 (栢木准教授室)		
備考	教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介する。 必要に応じて書籍を購入してもらおう場合もある。		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 純

授業概要・目的	<p>[授業概要] コンピュータサイエンスのゼミである。 コンピュータは人類の英知の結晶とも言えるもので、パソコン1台の中にも、実にさまざまなアイデアが活かされている。こうしたアイデアを開発し、応用していくのがコンピュータサイエンスである。 このゼミではコンピュータのハードウェア・ソフトウェアを通じて幅広い知識を習得し、プログラミング等の技能を身につけると同時に、こうしたアイデアを正しく理解する。</p> <p>[目的] コンピュータ・情報技術のエキスパートを目指す。 情報技術の発展は目覚しく、今日の知識も明日は古くなっているかも知れないという状況である。したがって、情報技術のエキスパートは、常に自分の知識や技能を更新し、高めていく必要がある。その際に必要なのが個々の知識や技術を有機的に関連付け、統合する能力であり、それは背景にあるアイデアの理解によってはじめて得られる。 このゼミでは、コンピュータ・情報技術に関する個々の「知識」や「技能」の習得に止まらず、それらを統合的に捉え、発展させていくために必要な「理解」を得ることを目的とする。</p>																
到達目標	各自の選択したテーマについて研究を進め、卒業論文を作成する。																
授業方法と留意点	卒業研究は、中間発表とそれに対する質疑応答の形式で進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[授業テーマ] コンピュータと情報に関する基礎的な知識と技能を習得する。</p> <p>[内容] 各自の選択したテーマについて研究を進め、卒業論文を作成する。</p> <p>なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	卒業論文と、平常の学習状況・報告内容・レポートなどにより総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	<p>[学生へのメッセージ] プログラミングは作曲や、楽器の演奏、絵を描いたりするのと同様な知的創造活動です。皆さんにもプログラミングの喜びを知ってほしいと思います。ただし、楽器の練習と同様、基礎的な技能をコツコツと高めていく必要があります。 また、ゼミでは全員が積極的に議論に参加し、意見等を述べるのが求められます。そのためにはレポーターだけでなく、全員が十分な準備をしてゼミに臨む必要があります。</p>																
担当者の研究室等備考																	

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山本 圭三

授業概要・目的	本ゼミにおける目標は、社会学に関するさまざまな知識を習得すること、各自で卒業論文を仕上げることである。本ゼミでは、3年次までの学習内容をふまえて、各自の関心に基づいた研究テーマを選択する。それぞれの研究テーマに沿って、もっとも適切な研究方法を選択し、それに基づいて分析をおこなう。分析を通して新たな知見を得て、それをまとめるかたちで論文を仕上げていく。			
到達目標	独力で論文が書ける。必要なデータを独力で収集できる。			
授業方法と留意点	ゼミ生は、それぞれの研究の進捗状況を授業時間内に報告する。ゼミ生は、報告に対して教員や他のゼミ参加者などから出される意見を手掛かりに、よりよいものに仕上げていく。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	3年次までの学習内容などに基づき、卒業論文を完成させる。自身が設定した問題に関連する文献を幅広く参照すること、それをふまえて独自の分析をおこない、得られた知見をまとめて論文に仕上げる。 なお、卒業論文の作成にあたっては、配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。受講生は修得した研究倫理を十分にふまえて卒業論文を作成する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	研究の着眼点、研究方法の適切さ、分析と成果のまとめ方の正確さ、卒業論文内容および報告内容			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室			
備考	他のゼミ生の報告内容から自分自身の研究のヒントを得ることもあるので、発表担当以外の日にも参加すること。無断欠席は厳禁とする。			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 幸志

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理学を学ぶゼミである。卒業研究では、各自の興味に応じて研究テーマを決定し、卒業研究を実施していく。研究をまとめ、論文の書き方を学ぶことを目的とする。		
到達目標	卒業研究では、経営における心理、消費者心理、人間関係などに関するテーマを自分で決め、前期は研究計画を立てる。後期は、テーマに関する研究を実験、調査、面接などの手法を用いて実施していく。		
授業方法と留意点	卒業研究では、毎回担当者が卒業研究の途中経過の発表を行う。6月くらいにはテーマを決定し、9月には卒業研究を実施していく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ・内容：経営における心理、消費者心理、マーケティングなど 方法：各自のテーマの文献を購読し、研究計画を立て、研究を進める。 事前・事後課題：事前に予習、事後に復習 なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。</p>		
関連科目	卒業研究を受講するまでに「消費者心理」を受講しておくこと。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究途中経過の発表(30%)、授業参加度(20%)、卒業研究(50%)の評価などで総合的に判断する。		
学生へのメッセージ	必ず出席し、卒業研究を着実に進めること。		
担当者の研究室等	11号館7階 牧野(幸)研究室		
備考	牧野(幸)ゼミは、経営学部で心理学を学ぶゼミである。特別な情報の技術(プログラミングなど)は必要としないが、確率統計の知識は必要となる。また、プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPointなどが普通に使える必要がある。何よりも人としての心理を大切にすることを、時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ないなど人としての最低限のマナーは必ず守ること。		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樋口 友紀

授業概要・目的	<p>本ゼミでは、マーケティング及びマーケティング・リサーチを基本的なテーマとして扱います。卒業研究では、演習Ⅰ・Ⅱで学んできた内容をもとに、卒業論文の完成を目指します。各自で選択した卒業論文のテーマにより、必要に応じて資料調査、調査票の設計やデータ収集、分析及び計算、考察を通して卒業論文を作成してゆくこととなります。</p> <p>これまで以上に各自の責任が大きくなるため、卒業に向けてしっかりスケジュールをたて、計画的に作業を進めてください。また、卒業論文のテーマ選択は基本的に各自の興味を優先するため、普段の生活の中でもマーケティングを意識しておくよう、努めてください。</p>																
到達目標	<p>演習Ⅰ・Ⅱでは卒業論文作成時に必要となる、マーケティング及びマーケティング・リサーチ技術を習得してきました。これらの知識、技術を用いて卒業論文を完成させることが卒業研究の目標となります。</p> <p>また、卒業論文の完成に向け、適宜必要な知識を学習してもらいます。</p>																
授業方法と留意点	<p>演習Ⅰ・Ⅱで学んできた内容をもとに、卒業論文の完成を目指します。</p> <p>テーマについては、学生自身で興味のある内容を選択してもらうことになります。選択したテーマについて、どのように卒業論文をまとめあげていくかについては、教員による指導や、ゼミ生同士の話し合いを通して模索していきます。</p> <p>また、適宜ゼミ内での学生による卒論発表を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>卒業研究では、卒業論文の完成に向け、個別指導が中心となります。</p> <p>同時に、ゼミ内での卒業論文進捗発表などを適宜実施します。</p> <p>年度末にはゼミ生全員に各自の卒業論文をプレゼンテーションしてもらいますので、そのつもりで各自責任をもって作成に取り組むこと。また、設定された締切等は守るように努めること。</p> <p>研究に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも、引き続き努めます。これを踏まえて卒業論文を作成してください。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	出席率、授業態度、発表の内容などにより、総合的に判断します。																
学生へのメッセージ	就職活動など各自の事情については考慮しますので、必ず連絡をするようにしてください。																
担当者の研究室等	11号館8階(樋口研究室)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木 僚祐

授業概要・目的	各自選定したテーマに基づいて、卒業論文の作成・指導を行う。卒業論文は、各自がテーマを設定し、文献・資料を収集し、論文を完成させていく。授業では、調べた内容を発表してもらって、意見交換しながら、内容面・形式面の充実を図っていく。並行して、定期的に卒業論文経過報告書を提出してもらって、各人の進捗状況に応じて、個別指導も行う。			
到達目標	問題発見能力、論理的思考力および問題解決能力を身につける。			
授業方法と留意点	卒業論文の作成に真摯に取り組み、4年間の大学生活の集大成となるような卒業論文を完成させてほしい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の完成度を高めていく。なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業態度、授業中の発言、卒業論文の内容などを総合的に考慮して評価する。			
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにしましょう。			
担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)			
備考				

科目名	知的財産管理論	科目名(英文)	Intellectual Properties Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西岡 泉

授業概要・目的	事業経営において知的財産はますます重要になった。「知的財産をうまく使う者が勝ち、そうでない者は負ける」と言われている。これからは経営情報学科の学生でも知的財産の基礎は必要であり、この授業は経営情報学科における唯一の知的財産の授業として貴重な学習機会である。到達目標は、これからの企業に必要な知的財産の基本的な知識を習得する事にある。
到達目標	企業活動に必要な知的財産の基本を習得し、応用できること。
授業方法と留意点	大阪工科大学知的財産研究科の企業出身の教員が授業を進める。大きく分類して(1)知的財産の基礎関係、(2)知的財産の活用関係、(3)事業・研究開発・知財の戦略関係の3つについて授業を行う。毎回、授業の終わりに小テストを実施する。
科目学習の効果(資格)	企業出身の教員から学ぶので実際の知的財産知識が習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、ルール等について解説する。併せて、世界の中で日本が置かれた知的財産の状況について説明する。	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
2	知財戦略とは	知財戦略の基本について考え、議論する。 教科書<ヒント その1>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
3	特許は生き残れるか	特許制度のあり方について考え、議論する。 教科書<ヒント その2>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
4	技術に値段を付けられるか	技術の金額評価について考え、議論する。 教科書<ヒント その4>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
5	やがて哀しきノウハウ	特許とノウハウについて考え、議論する。 教科書<ヒント その7>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
6	開発するという事	企業の研究開発における知財部門の役割について考え、議論する。 教科書<ヒント その8>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
7	特許の不思議なところ	特許の独占権について考え、議論する。 教科書<ヒント その9>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
8	小括	これまでの授業で学び、議論したことをまとめてレポートする。	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
9	特許が消える？	特許の「消尽論」を踏まえた知財戦略について考え、議論する。 教科書<ヒント その12>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
10	スピードが命	特許の新規性、進歩性、先願主義について考え、議論する。 教科書<ヒント その13>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
11	正露丸と懐中電灯と販売戦略	判例から、企業の販売戦略と知財戦略の関係について考え、議論する～その1～。 教科書<ヒント その15>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
12	コカコーラはえらい	判例から、企業の販売戦略と知財戦略の関係について考え、議論する～その2～。 教科書<ヒント その16>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
13	Think Globally Act Locally	外国に特許を出願する意味と目的について考え、議論する。 教科書<ヒント その18>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
14	特許の怪物	知財制度の新しいあり方について考え、議論する。 教科書<ヒント その21>の章	事前課題；次回授業の教科書の章を読んでおくこと。 事後課題；授業中の小テスト提出を復習とする。
15	ケーススタディ	教員が実際に経験した特許裁判の事例を発表し、特許裁判の企業経営に与える影響について議論する。	これまでの授業全体を総括する事。

関連科目	民法 I 民法 II
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	誰も書かなかった知的財産論 22のヒント-未来の知財のために-	西岡 泉	静岡学術出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回小テストを実施し合計点で評価する。ただし、欠席が5回未満であることを条件とする。
学生への メッセージ	小テストの評価、レポートの評価を厳正に行う。真に知的財産権について学ぶ強い意思を持った学生のみ受講すること。
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部事務室)
備考	教科書は必須です。教科書を読みながら授業を進めます。

科目名	電子商取引	科目名(英文)	E-Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北尾 隆夫

授業概要・目的	<p>インターネットを使ったネットビジネスの波が日本にも波及しつつあり、今後、ネットビジネスが日本の産業の分野に拡大して行くことは明らかです。従って、ネットビジネスの歴史、ビジネス・モデルの現状、方向性を知ることにはこれからの社会に巣立つ学生諸氏にとっては重要であると考えます。</p> <p>本講義では、コンピュータ発展の歴史を振り返りながら、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ネットワークやインターネットの概念 (2) EDI、EC（電子商取引）を構成する要素とそのビジネス・モデル (3) そこに用いられている論理 (4) ネットワーク社会の脅威に対応するための情報セキュリティ など <p>について丁寧に解説し、ネットビジネスの現状と課題を理解していただきます。</p>
到達目標	<p>受講者諸氏が、ネットワークビジネスの現状や方向性を理解されることが到達目標です。</p> <p>具体的な内容は、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) コンピュータ発展の歴史とネットワーク技術 (2) 企業におけるECと日常生活におけるEC (3) 情報セキュリティを中心とした情報化社会における留意点 <p>が、そのポイントです。</p>
授業方法と留意点	<p>講師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画を促す目的で、レポートやその発表を多く取り入れたものにします。授業全体を通じ、その時々々の社会情勢を中心に、プリントやパワーポイントにより新しい動向を紹介し、全員で考えながら授業を進めます。また、毎回ではありませんが、課題を出し次講義で発表いただく場合もあります。毎回講義内容を復習しておいてください。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>ネットビジネスの仕組みや活用方法、課題を習得し、実社会に活用できる知識を身につけて戴けます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに =ECの定義・分類・発展について=	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義ガイダンス 講義の概要、進め方、評価方法、注意事項などについての説明 (2) 「EC」とは何か ECの定義・分類・発展について、その概要を解説します。 	シラバスをよく読んでおいてください。
2	ECを取り巻く環境	ネットビジネスとは何か、また、「情報化」とはどのようなことを指すのかを解説します。	テキスト第1章、第2章を読んでおいてください。
3	企業における情報技術の活用	無意識に遣り過ぎてしまいがちな「サービスの価値化」を理解いただき、情報処理とコンピュータの関係について解説します。	テキスト第3章、第4章を読んでおいてください。
4	インターネットとWeb	インターネットの機能と、Webの仕組みについて解説すると共に、パソコンやスマホでのインターネット活用を考えます。	テキスト第5章、第6章を読んでおいてください。
5	ビジネスモデル	インターネットでのビジネスモデル、それに纏わる収益モデルを理解いただくと共に、その変化について解説します。	テキスト第9章を読んでおいてください。
6	インターネットマーケティング	Webによるマーケティング戦略、インターネットの活用についての理解を深めていただきます。	テキスト第11章を読んでおいてください。
7	企業間での電子商取引 I	企業間での電子商取引の戦略と事例(EDI)について解説します。	テキスト第8章を読んでおいてください。
8	企業間での電子商取引 II	企業間での電子商取引の戦略と事例(eマーケットプレイス、サプライチェーンマネジメント)を解説し、電子商取引のメリット、デメリットに言及します。	企業間での電子商取引の事例を調べておいてください。
9	企業と一般消費者間での電子商取引	企業と一般消費者間での電子商取引の市場や課題について解説します。	経験したことがある一般消費者での電子商取引の具体例を整理しておいてください。
10	自治体との電子商取引、一般消費者間での電子商取引	自治体が行う電子商取引の事例を解説します。また、そこにおける問題点などにもふれます。一方、消費者同士がネット上で取引を行う場合の諸課題に触れ、そこに潜む問題点を、一緒に考えます。	一般消費者間取引の場合の事例について整理しておいてください。
11	(1) オンライン・オークション (2) バーチャル・コミュニティ	<ol style="list-style-type: none"> (1) オンライン・オークションと関連ビジネスについて解説します。 (2) バーチャル・コミュニティとモバイルビジネスについて解説します。 	テキスト第10章を読んでおいてください。
12	ECの環境	ECに関する法律、倫理を解説し、我々の日常ネット利用に関わる問題点を検証します。	テキスト第14章を読んでおいてください。
13	ECのセキュリティ	ECを提供する側のセキュリティ、ECを利用する側のセキュリティに触れ、実際に発生する危険性に対し、企業なり、我々一般消費者が留意すべきことを一緒に考えます。	テキスト第13章を読んでおくこと
14	ECの決済	決済とはどのようなことをいうのかを理解いただき、ECにおける決済手段を解説します。	「決済」という言葉の意味を調べておいてください。また、テキスト第12章を読んでおいてください。

	15	まとめ	これまでの講義全体の復讐と、学期末試験を意識したポイントを整理します。また、そのための模擬テストの実施、Q & A対応を行います。	教科書、配付資料の全てを持参ください。
関連科目	インターネット概論、コンピュータ概論、情報倫理、情報産業論 他			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネットビジネス進化論	中村忠之	中央経済社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	e ビジネスの教科書 第4版	幡鎌博	創成社
	2	Electronic Commerce	Gary Schneider	Course Technology
	3			
評価方法 (基準)	<p>全体評価は、平常評価（35%）と学期末試験評価（65%）により行います。 平常評価は、課題レポート、小テスト、および授業ごとの感想レポートにより行い、学期末試験評価は、文章表現力向上の目的も兼ねて一部論述式とします。 また、学期末試験への教材持ち込みは禁止します。</p>			
学生への メッセージ	<p>コンピュータとネットワークが作り出すECは、もうすでに新しい流れを生み出しています。今見える多くの話題から将来を想起して欲しいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回出席をとります [連絡カード配付]。遅刻をしないようにしてください。 ・ 座席は前から詰めて着席してください [座席は指定しません]。 ・ 授業中の私語は謹んでください [真面目な受講者の弊害となる場合は退場戴く場合もあります]。 ・ 不明な事柄は放置せず、積極的に質問してください。 			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室、講師控え室			
備考				

科目名	ネットワーク運用管理	科目名(英文)	Network Operations and Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏

授業概要・目的
 本講義では、ネットワークの運用・管理に関する基礎知識を学び、社会にとって必要不可欠なインターネットを用いたコミュニケーションを題材にクライアント/サーバシステムの仕組みやプロトコルなどについて理解を深めていく。更には、プログラミングとしてJavaScriptやPHPを用いた演習を行い、動的なネットワークコミュニケーションを実現するための技術を習得する。

到達目標
 ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶ。

授業方法と留意点
 初回に授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。また、コンピュータの基本的な利用が困難な者は、授業の内容をよく確認してから受講を決めて欲しい。

科目学習の効果(資格)
 ITパスポート試験や基本情報技術者試験など、コンピュータやネットワークに関連する資格取得に関連した科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ネットワーク管理の基本	ネットワークコミュニケーション、ネットワークの運用と管理の基本事項	練習問題(1)
2	TCP(1)	クライアント/サーバシステム、TCPの特徴と役割	練習問題(2)
3	TCP(2)	TCPとUDP	練習問題(3)
4	IP(1)	IPの役割、IPパケット	練習問題(4)
5	IP(2)	IPアドレス、IPヘッダー、ICMP、チェックサム	練習問題(5)
6	Webブラウザの仕組み	Webクライアント/サーバシステム、HTTPプロトコル	練習問題(6)
7	Webブラウザの拡張機能	プラグイン・インタフェース、Cookie管理、暗号化・認証	練習問題(7)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半の復習と小テスト	練習問題(8)
9	ホームページの基礎知識	HTMLによるホームページ作成の基本技術	練習問題(9)
10	JavaScriptプログラミング(1)	プログラミング環境の設定、操作手順、イベントハンドラ	練習問題(10)
11	JavaScriptプログラミング(2)	関数、条件分岐	練習問題(11)
12	JavaScriptプログラミング(3)	繰り返し処理、クッキー情報の活用	練習問題(12)
13	PHPプログラミング(1)	PHPプログラミングの基本、フォーム	練習問題(13)
14	PHPプログラミング(2)	配列関数、おみくじ機能	練習問題(14)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半の復習と小テスト	練習問題(15)

関連科目
 情報処理関連の基礎科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 授業中の課題(20%)、小テスト(20%)、期末試験(60%)により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の1/3回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者(寝る、喋る等)は欠席扱いとする。

学生へのメッセージ
 この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、コンピュータの基本的な利用が困難な者は、授業の内容をよく確認してから受講を決めて欲しい。

担当者の研究室等
 11号館8階 堀井教授室

備考

科目名	ビジネス IT 演習	科目名 (英文)	Practice in Business IT
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 貞也

授業概要・目的	情報社会の重要なビジネススタイルである IT を駆使したビジネスについて、特にネットショップに着目して、その設計、構築、さらに運用に関する演習を行う。具体的には、実際のネットショップの分析を行い、次に、仮想店舗のコンセプトの提案、商品ページの設計、ウェブサイト全体のデザインを実習する。さらに、契約、決済などを現在の法制度に基づいて検討するとともに、コンテンツマネジメントシステムの利用を前提とした構築実習を行う。
到達目標	この講義によって以下の事柄を達成することが目標です。 (1) ネットショップを構成する技術の説明ができる (2) ネットショップの企画からページ作りまでを一貫して行うことができる (3) ネットショップの運営に際しての法的な課題について概説できる
授業方法と留意点	演習は毎時間情報処理室で行う。演習課題を実行しながら、現在のネット環境の理解を進める。
科目学習の効果 (資格)	情報技術を活用した経営の総合的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本演習の狙い、評価方法についてなど	シラバスを読んでおくこと
2	既存ネットショップの分析 (1)	実在するネットショップを調査し、傾向を分析する。	ネットショップの事例を探しておく
3	既存ネットショップの分析 (2)	ネットショップの必要事項を把握する。	各自が構築を目指すネットショップのイメージを考える
4	コンセプトの検討	構築するネットショップのコンセプトを明確にする。	既存のネットショップに対する位置付けを確認する
5	商品群の企画	ネットショップのコンセプトに適した商品のデータを集める。	数多くの商品データの収集方法を検討する
6	商品ページのデザイン	商品を提示する際の画面デザイン、説明文の規定などを検討する。	商品ページのデザインを分析しておく
7	ウェブサイトの設計	商品群を魅力的に見せるための構成方法の検討を行なう。	情報のまとめ方、アクセスしやすいウェブサイトの要件を調べる
8	取引書類の検討	免責事項、配送基準などの契約書類を作成する。	現在の法制度に基づく契約書類の調査
9	CMS 実習	コンテンツマネジメントの利用方法を学ぶ。	現在の CMS の利用可能性の把握
10	構築実習 (1)	ネットショップの内容を CMS に登録する。	CMS の利用方法の予習・復習
11	構築実習 (2)	ネットショップの内容を CMS に登録する。	CMS の利用方法の予習・復習
12	グループ発表	各自が構築したネットショップを相互評価する。	既存のネットショップとの比較
13	キャンペーン計画	ネットショップの活性化を考慮したイベントの企画を行う。	実在のネットショップのキャンペーンを調べる
14	最新技術動向	これからのネットショップに用いられる技術動向の検討	インターネット技術の最新動向の調査
15	本演習のまとめ	本演習で学んだことの振り返り	本演習で作成した課題の見直し

関連科目 プログラミング、マルチメディア処理Ⅰ・Ⅱ、情報ネットワーク

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期テスト 80%、レポート等 20%で評価する。

学生へのメッセージ この演習では、情報技術をいかに効果的に活用して新しいビジネスを立ち上げるかを体験しようと思っています。プログラミングが苦手でも大丈夫ですので、楽しく受講してください。

担当者の研究室等 11号館7階久保准教授室

備考

科目名	ビジネスインターンシップ I	科目名 (英文)	Business Internship I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	授業概要：夏季休暇中に実施するインターンシップ実習に参加するための事前指導科目です。 目的：自分がどのような行動特性を持っており、それを社会のどのような環境や業種の中で活かしていけるかを考え、将来に対するライフプランを明確にしていく。
到達目標	①組織人に求められる社会的役割および責任、仕事への情熱等を身につけ、主体的に発言できるプレゼンテーション能力の開発。 ②インターンシップ体験や就職活動などを積極的にアプローチし、かつ、臨機応変な対応ができるバランスのとれた人格の形成。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参加方式の授業のため、演習や発表を多く取り入れたものにする。
科目学習の効果 (資格)	将来の職業選択意識を高め適切に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 【4月12日】	・授業の全体的な流れと進め方に関する説明 ・インターンシップの狙いと重要性について	予習：自分がなぜ、インターンシップに参加したいのかを考え、整理しておいてください (安久・高尾)
2	やりたい仕事を探してみよう 【4月19日】	・自分がやりたい仕事についてワークを通じて考える ・自分の行動特性を考える	予習：自分のやりたい職種を3つ考えてきてください (安久・高尾)
3	アルバイトと正社員の違いについて考える 【4月26日】	・仕事の内容から求められる能力や資質について考える ・目標達成意欲度診断の実施	予習：アルバイトと正社員との違いを比較表にしてまとめてきてください (安久・高尾)
4	職種から求められる資質と行動・考え方 【5月10日】	・職種から求められる資質と行動・考え方 ・インターンシップ先希望調査 (受け入れ先一覧の配布)	予習：職種から求められる資質はどのようなものがあるのかを考えてきてください (安久・高尾)
5	自分のキャリアスタイルを考える 【5月17日】	・キャリアスタイルの分析を通じて、自分の行動特性をチェックする ・キャリアスタイル診断の実施 ・インターンシップ先とのマッチング	予習：自分の長所と短所を3つずつ考えてきてください (安久・高尾)
6	インターンシップの狙いと重要性 【5月24日】	・インターンシップの狙いと重要性の再確認 ・インターンシップの目的を明確にする	予習：インターンシップに参加する目的を整理しておいてください (安久・高尾)
7	社会人基礎力について① 【5月31日】	・採用企業と学生の認識の違いについてグループワーク	予習：社会人基礎力について調べてきてください (安久・高尾)
8	社会人基礎力について② 【6月7日】	・採用企業と学生の認識の違いについてグループ発表	予習：企業は社会人基礎力の中のどの能力を優先するかを考えてきてください (安久・高尾)
9	社会人基礎力について③ 【6月14日】	・社会人基礎力診断の実施 ・履歴書の書き方の再確認 ・インターンシップ実習についての事務連絡	予習：履歴書の書き方で気になることを整理しておいてください (安久・高尾)
10	企業の求める人材像 【6月21日】	・企業管理者による講演会 (予定)	予習：事前に講演者の企業情報を調べ、積極的に質問できるようにしておくこと (安久・高尾)
11	事前訪問事業所の調査 【6月28日】	・事業所への事前訪問 (電話応答から訪問まで)のシナリオを考える ・グループで考えたシナリオを使ってロールプレイ	予習：事前訪問事業所の情報を Web ページで調べておいてください (安久・高尾)
12	業界研究 【7月5日】	・インターン先の業界が同種のグループごとに特徴や課題をプレストする ・課題等を KJ 法を使ってまとめグループごとに発表する	インターンシップ先が属する業界について調べてきてください (安久・高尾)
13	マナーについて知ろう 【7月12日】	・社会人としての基本的なマナーについて考える ・挨拶、席次、敬語、名刺交換など	マナーとエチケットの違いについて調べてきてください (安久・高尾)
14	事前訪問の準備 【7月19日】	・事前訪問先でのマナーや面談応答のロールプレイ	予習：名刺を作成し、名刺ケースを持参してください (安久・高尾)
15	まとめ 【7月26日】	・インターンシップに参加するための目的を再度、明確にする ・インターンシップに参加した先輩との意見交換 (予定)	なぜ、インターンシップに参加するかを明確にし、200字程度の文章にまとめてください (安久・高尾)

関連科目 「ビジネスインターンシップ II」 (企業等での就業体験実習) を希望する学生は、必ずこの科目を同時履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	原則、講義レポートの内容(50%)と定期期末試験結果(50%)で評価します。
学生への メッセージ	インターンシップの流れ(予定) 4月下旬に事業所リスト公開→5月上旬に希望事業所の絞り込み→5月下旬に受け入れ可能かの回答→7月上旬に事前訪問→8月13日(土)～9月7日(水)の間(夏季休暇期間中)に、原則2週間(実質10日以上)のインターンシップ実習に参加すること。
担当者の 研究室等	11号館8階 安久研究室
備考	授業の進捗状況により一部内容や進め方を変更することがあります。

科目名	ビジネスインターンシップⅡ	科目名(英文)	Business Internship II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	授業概要：夏季休暇中に実施するインターンシップ実習(10日間以上)のための集中(土曜日午前2コマ連続)科目です。 目的：職業人としての社会的役割および責任、仕事への情熱と意欲、組織人としての在り方等について自ら学習できる学生の育成。
到達目標	インターンシップを通して「企業とは」「組織とは」「仕事とは」について学び、就職に対する心構えを養い、自ら責任を自覚して主体的に発言・行動ができるバランスのとれた人格の形成を目指す。
授業方法と留意点	①「事前指導(講義)」「インターンシップ(実習・研修)」「事後指導(就業体験の発表)」すべてに出席(参加)すること。 ②無断欠席は絶対にしないこと。必ず事前連絡を担当教員が経営学部事務室(11号館6階)にすること。 ③事前に授業のある土曜日のスケジュール(以下の「授業テーマ」内に明記)は、確保しておくこと。 ④全学部代表による発表会を10月29日(土曜日)に予定しているので、全員リクルートスーツ着用で出席のこと。 ⑤体験報告書のゼミ担当教員氏名欄には署名と押印がされたものを、期日までに提出のこと。 ⑥「ビジネスインターンシップ」実習記録簿は、毎日実習日誌を書き、受け入れ先担当者のコメントと署名押印をもらい、インターンシップ終了後は、所定の必要事項を記入しゼミ担当教員氏名欄に署名、押印されたものを、期日までに提出のこと。 ⑦実習期間は、実質10日間以上でない単位履修したことにはならないので、くれぐれも注意すること。
科目学習の効果(資格)	①就業体験を通して、実社会への足掛かりをつかむ。 ②職業意識を高め、職業選択を適切に行い、就職活動への意欲を高める。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前教育 6月25日(土) 1限目	・インターンシップの心構え、体験報告書等について ・マナー講座(学外講師を含む)	・ビジネスマナーについて考える ★スーツ着用で参加してください (安久・高尾)
2	事前教育 6月25日(土) 2限目	・マナー講座(学外講師を含む) ★授業終了後、インターンシップ先が同一の他学部の学生との顔合わせを行います	正しい電話のかけ方を考える ★次回の授業前に「履歴書」と体験実習先での「目的(テーマ)と実習内容」をまとめたレポートを提出してください (安久・高尾)	
3	事前教育 7月23日(土) 1限目	・パソコン講習Ⅰ(情報センター職員を含む)	学んだことを実習先で活用できるように機能などをマスターしておいてください (安久・高尾)	
4	事前教育 7月23日(土) 2限目	・パソコン講習Ⅱ(情報センター職員を含む)	学んだことを実習先で活用できるように機能などをマスターしておいてください (安久・高尾)	
5	インターンシップ(就業体験実習)	・夏期休暇期間中の8月13日(土)～9月7日(水)の間、原則2週間(実質10日間以上)の実習を行う	事前に企業等の理念や事業内容について調べ、ノートにまとめておいてください (安久・高尾)	
6	インターンシップ(就業体験実習)	・夏期休暇期間中の8月13日(土)～9月7日(水)の間、原則2週間(実質10日間以上)の実習を行う	インターンシップのテーマ(ねらい、目的)を明確にしたうえで参加してください (安久・高尾)	
7	体験報告書の作成	・体験報告書の作成指導	「報告書の書き方」を熟読してください (安久・高尾)	
8	体験報告書のゼミ教員指導	・ゼミの先生による体験報告書のチェックと指導(署名、押印)	誤字・脱字がないか確かめてから指導を受けてください (安久・高尾)	
9	報告書の提出	・インターンシップ担当教員による体験報告書のチェックと指導 ★担当教員への提出と教務課へ電子データを9月15日(木)までに提出<期日厳守>	「インターンシップ体験報告集」に掲載されますので、何度も読み返して報告書の内容を推敲してください (安久・高尾)	
10	事後指導 9月17日(土) 1限目	・「インターンシップに参加して」① ・インターンシップ終了学生によるグループ発表と選抜	・ゼミ担当教員の指導を受けチェックされた体験報告書の提出 ・7分間で体験報告の発表ができるように各自内容をまとめ出席してください(時間が短かったり、長すぎないように注意してください) (安久・高尾)	
11	事後指導 9月17日(土) 2限目	・「インターンシップに参加して」② ・グループ代表の選抜 ・目標達成意欲度、キャリアスタイル、社会人基礎力診断の実施	・ゼミ担当教員の指導を受けチェックされた体験報告書の提出 ・7分間で体験報告の発表ができるように各自内容をまとめ出席してください(時間が短かったり、長すぎないように注意してください) (安久・高尾)	
12	事後指導 9月24日(土) 1限目	・「インターンシップに参加して」③ ・グループ代表による発表 ★発表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください	グループ代表者は12分で報告できるようパワーポイントにまとめてください(パワーポイントは、文字の大きさや見やすさに気を配ってください) (安久・高尾)	

	13	事後指導 9月24日(土) 2限目	<ul style="list-style-type: none"> ・「インターンシップに参加して」④ ・グループ代表による発表と選抜選抜 ★発表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください 	<p>グループ代表者は12分で報告できるようなパワーポイントにまとめてください (パワーポイントは、文字の大きさや見やすさに気を配ってください)</p> <p>(安久・高尾)</p>																
	14	事後指導 10月22日(土) 1限目	<ul style="list-style-type: none"> ・「インターンシップに参加して」⑤ ・学部代表報告 発表 ★学生代表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください ★授業開始前までに体験報告書と実習記録簿を提出すること 	<p>学生代表者はパワーポイントで報告してください(15分程度)</p> <p>(安久・高尾)</p>																
	15	事後指導 10月22日(土) 2限目	<ul style="list-style-type: none"> ・「インターンシップに参加して」⑥ ・学部代表報告 発表と全学代表者の選抜 ★学生代表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください 	<p>学生代表者はパワーポイントで報告してください(15分程度)</p> <p>(安久・高尾)</p>																
関連科目	キャリア科目「ビジネスインターンシップⅠ」を必ず合格していること。																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 45%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 15%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>キャリアデザイン</td> <td>安久典宏、羽石寛寿</td> <td>清風出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 45%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 15%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	原則、事前指導(20%)、インターンシップ-受け入れ事業所の評価および実習記録簿、報告書の提出を含む(25%)、事後指導(55%)のすべての受講態度、提出物等により決定します。インターンシップだけの参加では、単位認定はできません。																			
学生へのメッセージ	<p>①「ビジネスインターンシップⅠ・Ⅱ」を履修申請するためには、2月26日(土)の履修ガイダンスを予定しているので出席することが必須となります。履修希望者は必ず出席し、「ビジネスインターンシップⅠ、Ⅱ」の事前申請書を提出すること。やむを得ない理由により参加できない場合は、速やか(事前に)に安久(研究室:11号館8階)まで申し出ること。</p> <p>②「ビジネスインターンシップⅠ」を同時履修すること。</p> <p>③3年次で履修するのが望ましい。</p> <p>④10月29日(土)午前は、全学部の各代表による報告会があります。当日はスーツ着用。</p> <p>⑤履修希望者が多い場合は、選考する場合があります。</p>																			
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室																			
備考	・授業の進捗状況や履修者数により一部内容や進め方を変更することがあります。																			

科目名	ビジネスゲーミング	科目名(英文)	Business Gaming for Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	目的：ビジネスに必要な社会的思考力の向上を図る 概要：多様な人間関係を維持するための社会的知性の特性を学び、複雑な利害対立の解決を目指す戦略的な思考力の向上をはかる。経済学で追究されてきたゲーム理論の基本と合理的な意思決定法について学習する。併せて、様々な利害対立や葛藤を解決するための戦略的な意思決定に関する心理学的な研究方法を学ぶ。
到達目標	1. 社会的知性および社会的思考の心理学的な特性を知る 2. 人々の経験する多様な対立の種類とその特徴を理解する 3. 社会行動を理解するための心理学実験法やシミュレーション技法などを学ぶ 4. ゲーム理論<ゼロ和ゲーム理論と非ゼロ和ゲーム理論>の基本を学ぶ 5. ゲームを用いた社会行動の分析手法を学ぶ
授業方法と留意点	多様な対立を分類し、個々の対立に関する解決方法を自ら考えて答えを出すように努力をせよ。本講義は自ら答えを出すという実践的な理解を求めている。授業後の復習に力を注ぎ、疑問点は必ず質問し、解決するように心がける。
科目学習の効果(資格)	合理的な意思決定法を理解することによって、利害対立の解決に必要な社会的スキルの向上が期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネスゲームの技法(1)：ゲーム・シミュレーションの導入	経済行動やビジネス活動における諸問題を理解し、ビジネスゲーミング技法の導入意義を知る。	梶井厚志著『戦略的思考の技術』(中公新書)。小島寛之著『数学的思考の技術』(ベスト新書)
3	ビジネスゲームの技法(2)：ゲーム理論による社会行動の分析	戦略決定における合理性、論理性、倫理性を学ぶ。ゲーム理論の目的やシミュレーションゲームの教育的意義について学ぶ。	「公共財ゲーム」の開始。毎回授業の初めに回答を求める。
4	社会的思考法(1)：社会的知性と戦略的思考	様々な対立や葛藤を取り上げ、これらを解消する合理的な思考法を学ぶ。多様なゲームの課題と目的を理解する。	説得や交渉が成立するための条件、協力が成立する条件を考える。
5	社会的思考法(2)：ゲーム理論の目的と課題	戦略論としてのゲーム理論と必勝法を理解する。併せて、戦略的意思決定における合理的な思考法を学ぶ。	勝敗を争うボードゲームにおける合理的な戦略を考えてみよう。
6	ゲーム理論の紹介：ゲーム理論の基礎	ゲーム理論を構成する基本用語を理解する。併せて、展開型ゲームと行列型ゲームの相違点を学ぶ。	ゲームにおける思考法を振り返ってみよう。
7	ゼロ和ゲームの世界(1)：ゼロ和ゲームの基本	ゼロ和ゲームに関する理論とその解法を学ぶ。また、ミニマックス戦略とマックスミニ戦略などの基本概念を理解する。	具体的なゲームを通して「競争型ゲーム」の特徴を理解しよう。
8	ゼロ和ゲームの世界(2)：混合戦略と期待値	じゃんけんゲームを解説し、混合戦略と期待値の関係を理解する。また、合理的なゲームの解を求める計算方法を学ぶ。	均衡戦略と均衡解の求め方を理解する。練習問題を解いて理解を深める。
9	ゼロ和ゲームの世界(3)：ゼロ和ゲームの応用	ゼロ和ゲームに関する心理学的課題を知る。戦略決定における合理性について考える。	「専制者ゲーム」や「最後通牒ゲーム」の心理社会的な特徴を考える。
10	非ゼロ和ゲームの世界(1)：非ゼロ和ゲームの基本	「囚人のジレンマゲーム」の特徴を理解する。利害対立の合理的な解決方法および約束が成立する要因について考える。	協力や約束が成立する条件を考えよう。
11	非ゼロ和ゲームの世界(2)：非協力型ゲームと協力型ゲーム	ナッシュ均衡と合理的な交渉の進め方を理解する。プレイヤー間の「駆け引き」について考える。	松原望著、『ゲームとしての社会戦略』(丸善ライブラリ)。
12	非ゼロ和ゲームの世界(3)：非ゼロ和ゲームの応用	「チキンゲーム」や「異文化対立ゲーム」などのゲームを理解し、それらの特徴と心理学的課題を知る。	具体的な戦略的場面をゲームの構造として捉え、最善の戦略を考える。
13	ゲームによる社会行動分析(1)：ゲーム理論と社会行動	「公共財ゲーム」や「共有地の悲劇ゲーム」を理解する。社会行動における公正や正義について考える。	「公共財ゲーム」および「共有地の悲劇ゲーム」を具体例を考えてみよう。
14	ゲームによる社会行動分析(2)：社会的合意と報酬分配	ゲーム理論の観点から、合意の形成や社会的ルールの成立について考える。併せて、協力行動と報酬分配について学ぶ。	「共有地の悲劇」が起こらないためのルールを考えなさい。
15	講義のまとめ	多様な対立が渦巻く社会生活とビジネス活動を正しく理解し、正しい決定を下すための社会的知性を振り返る。	社会的に価値のある決定を下すために必要なことは何か、再度考えてみよう。

関連科目：マイクロ経済学、職業能力開発、経営戦略論などの意思決定に関する科目を併せて受講すると理解が深まる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は指定しないが、読んでほしい参考図書を随時紹介する。		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	戦略的思考の技術 - ゲーム理論を実践する	梶井厚志	中公新書

評価方法(基準)：小レポートの成績(30%)と期末定期試験の成績(70%)を合算し、総合的に評価する。小レポートは授業内容と関係するので、誠実に回答すること。

学生へのメッセージ：遅刻厳禁！居眠り厳禁！私語を慎み、中途退室は避けること。

	講義中のスマホ・携帯の使用禁止。 出席管理システムのデータは成績評価に用いないが、学生証によるチェックは忘れないこと。
担当者の 研究室等	11号館7階（福田研究室）
備考	現実には理論通りにはならない。しかし、理論を知ることが重要である。 授業を通して、理論と実践の相違点を理解するとともに、社会的な思考術を身につけてほしい。

科目名	ビジネスシミュレーション	科目名 (英文)	Business Simulation
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	黒澤 敏朗

授業概要・目的	マネジメントサイエンスにおける問題解決法の一つにシミュレーション（コンピュータによる模擬実験）がある。この科目では、その基本原理を理解し、いくつかの典型的な経営問題のモデルについて、表計算ソフトExcelを用いて実際に演習を行い、その方法を習得することを目的とする。
到達目標	ビジネスにおけるシミュレーション技法の基礎を理解し、経営における現実の課題への応用の指針を構築できることが到達目標である。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを用いた授業を行う。まず、テキストをもとに基本モデルを説明し、次にExcelの関数を用いてモデル化を行い、いろいろなパラメータ値でシミュレーションを行う。Excelによるプログラミングの技法を学ぶというより、モデルを理解して経営問題でどのようにシミュレーションを利用するか、についての学習に重点を置いている。
科目学習の効果（資格）	基本情報処理技術者や中小企業診断士を始め、情報系・経営系の資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	シミュレーション入門（1）	自動販売機の釣り銭モデルによるシミュレーションの基礎演習	シラバスを再確認しよう。そして、身近にあるシミュレーションの利用事例を探してみよう。
2	シミュレーション入門（2）	確率現象を用いた自動販売機の釣り銭シミュレーションの応用演習	授業中に行った演習課題を復習しよう。
3	変動量と統計（1）	ランダムネスの検定	授業中に行った演習課題を復習しよう。
4	変動量と統計（2）	統計量と確率分布	授業中に行った演習課題を復習しよう。
5	疑似乱数の作成と検定	一様乱数の作成と適合度の検定	授業中に行った演習課題を復習しよう。
6	計画の検討（1）	定期預金とローンの利息のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
7	計画の決定（2）	定期預金とローンのシミュレーションについての応用課題	授業中に行った演習課題を復習しよう。
8	決定問題（1）	決定の木を用いた中古バイクの売却問題のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
9	決定問題（2）	取引相手の決定についてのシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
10	在庫問題（1）	新聞売り子問題のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
11	在庫問題（2）	定期発注方式による在庫計画のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
12	在庫問題（3）	発注点（定量）発注方式による在庫計画のシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
13	待ち行列（1）	ランダムサービスの場合のモデル化とシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
14	待ち行列（2）	ランダム到着、ランダムサービスの場合のモデル化とシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。
15	待ち行列（3）	複数窓口をもつ場合のモデル化とシミュレーション	授業中に行った演習課題を復習しよう。

関連科目	経営統計学、マネジメントサイエンス、ビジネス情報処理Ⅱ
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シミュレーション（Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ4巻）	荒木勉、栗原和夫	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	定期試験（50%）と、授業中に行う演習課題のレポート（50%）とで評価します。
学生へのメッセージ	毎回、Excelを用いたシミュレーションを行いますので、Excelの関数を使える程度の予備知識は必要です。基本的な技法を繰り返し、かつ積み重ねながら学習することになりますので、できるだけ欠席しないようにしてください。
担当者の研究室等	11号館7階 黒澤教授室
備考	

科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	A B C D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	栢木 紀哉

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。本講義では、コンピュータの機能を知るとともに、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、および PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能習得を目指す。
授業方法と留意点	履修に際して予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、学内ネットワーク利用方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
2	コンピュータの機能	コンピュータの仕組み、ファイル操作	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
3	インターネットの利用と情報検索?	インターネットによる情報収集、情報倫理	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
4	文書作成 (1) ?	Word の基礎知識、文書の書式設定	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
5	文書作成 (2) ?	表の作成・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
6	文書作成応用 (1) ?	表現力を高める文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
7	文書作成応用 (2) ?	応用文書の作成?	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと学力診断テスト	前半の内容を整理しておく
9	表計算 (1)	Excel の基礎知識、データの入力と編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
10	表計算 (2)	表の作成・編集、計算式の作成と編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
11	表計算 (3)	基本的な関数の利用、グラフの作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
12	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の基礎知識、プレゼンテーション資料の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
13	プレゼンテーション (2)	図やオブジェクトの挿入と編集、画面切り替え効果、アニメーション効果の設定	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
14	プレゼンテーション応用 (1)	テーマ別プレゼンテーション資料の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答テキストの該当箇所を読んでおく
15	プレゼンテーション応用 (2)	プレゼンテーション相互評価	全体の内容を復習しておく

関連科目 I C T 概論、ビジネス情報処理 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践コンピューターリテラシー入門	宮脇典彦、小沢和浩、坂本憲昭、安藤富貴子、新村隆英	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の課題 (40%)、レポート課題 (30%)、小テスト (20%)、授業への参加状況 (10%) をもとに総合的に評価する。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等備考	11 号館 8 階 (栢木准教授室)

科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	E F G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史

授業概要・目的	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。本講義では、コンピュータの機能を知るとともに、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、および PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能習得を目指す。
到達目標	Office 「Word」「Excel」「PowerPoint」の基本操作をマスターする。
授業方法と留意点	毎回演習を行うスタイルです。講義用の資料を毎回配布するので、教科書（参考書）は購入しなくても大丈夫です。 また、履修に際して予備知識は特に必要としませんが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、PC 操作が苦手な方は各自復習しましょう。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作法	特になし
	2	インターネットの利用と情報検索	インターネット環境と情報の検索方法	特になし
	3	文書作成ソフトウェア（1）	Word の基礎知識、文書の作成	特になし
	4	文書作成ソフトウェア（2）	文書の書式設定、レイアウト変更	特になし
	5	文書作成ソフトウェア（3）	表の作成・編集	特になし
	6	文書作成ソフトウェア（4）	表現力を高める文書の作成	特になし
	7	表計算ソフトウェア（1）	Excel の基礎知識、データの入力と編集	特になし
	8	表計算ソフトウェア（2）	表の作成・編集、計算式の作成と編集	特になし
	9	表計算ソフトウェア（3）	基本的な関数の利用、グラフの作成	特になし
	10	プレゼンテーション（1）	PowerPoint の基礎知識、プレゼンテーション資料の作成	特になし
	11	プレゼンテーション（2）	図やオブジェクトの挿入と編集など	特になし
	12	プレゼンテーション（3）	プレゼンテーション資料の作成	特になし
	13	プレゼンテーション（4）	プレゼンテーション資料の作成 2	特になし
	14	プレゼンテーション（5）	画像処理など	特になし
	15	まとめ	まとめ、フォローアップなど	全体の内容を整理しておく

関連科目	I C T 概論、ビジネス情報処理 II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践コンピューターリテラシー入門	宮脇典彦、小沢和浩、坂本憲昭、安藤富貴子、新村隆英	
	2			
	3			

評価方法（基準）	毎回授業時に出す課題（100%）をもとに評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
----------	---

学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等備考	1 1 号館 6 階（経営学部事務室）
------------	---------------------

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題およびレポートの作成やプレゼンテーションに必要となる情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。本講義では、Excel を用いた表計算の応用、ビジネスデータの分析に関する技能習得を目指す。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などのIT系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excelの基礎・復習	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	表計算(1)	表の作成・編集、計算式の作成と編集、 相対参照と絶対参照	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	表計算(2)	基本的な関数を使った資料の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	表計算応用(1)	Excelの応用利用、様々な関数を使った 資料の作成(1)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	表計算応用(2)	Excelの応用利用、様々な関数を使った 資料の作成(2)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
6	表計算応用(3)	データベースの利用とデータ分析(1)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
7	表計算応用(4)	データベースの利用とデータ分析(2)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を整理しておく
9	数値データの解析(1)	記述統計の基礎、基本統計量の計算	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	数値データの解析(2)	基本統計量の具体例、度数分布、ヒストグラム	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	データ解析の応用(1)	相関と相関係数、相関係数の算出方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	データ解析の応用(2)	クロス集計の基礎、クロス表と変数の関連	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	データ解析の応用(3)	独立性の検定(カイ二乗検定)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	データ解析の応用(4)	回帰分析の基礎、回帰分析の方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめと確認テスト	後半の内容を整理しておく

関連科目 I C T 概論、ビジネス情報処理Ⅰ、経営統計学、ビジネスデータ分析

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実践コンピューターリテラシー入門	宮脇典彦、小沢和浩、坂本憲昭、 安藤富貴子、新村隆英	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 授業中の課題(40%)、レポート課題(30%)、小テスト(20%)、授業への参加状況(10%)をもとに総合的に評価する。
この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。

担当者の研究室等 11号館8階(栢木准教授室)

備考

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	EFG
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史

授業概要・目的	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。
到達目標	Office「Excel」を用いた表計算の応用、ビジネスデータの分析に関する技能習得を目指す。
授業方法と留意点	演習方式の講義で、毎回講義用の資料を用意します。参考書は載せていますが、購入しなくても大丈夫です。 なお、ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましいです。予備知識は特に必要としませんが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、PCが苦手な方は復習しましょう。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などのIT系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法	特になし
	2	Excelの活用	Excelの活用方法の紹介	特になし
	3	表計算(1)	表の作成・編集、計算式の作成と編集、相対参照と絶対参照	特になし
	4	表計算(2)	基本的な関数を使った資料の作成	特になし
	5	表計算応用(1)	Excelの応用利用、様々な関数を使った資料の作成(1)	特になし
	6	表計算応用(2)	Excelの応用利用、様々な関数を使った資料の作成(2)	特になし
	7	表計算応用(3)	データベースの利用とデータ分析(1)	特になし
	8	表計算応用(4)	データベースの利用とデータ分析(2)	特になし
	9	数値データの解析(1)	記述統計の基礎、基本統計量の計算	特になし
	10	数値データの解析(2)	基本統計量の具体例、度数分布、ヒストグラム	特になし
	11	データ解析の応用(1)	相関と相関係数、相関係数の算出方法	特になし
	12	データ解析の応用(2)	クロス集計の基礎、クロス表と変数の関連	特になし
	13	データ解析の応用(3)	独立性の検定(カイ二乗検定)	特になし
	14	データ解析の応用(4)	回帰分析の基礎、回帰分析の方法	特になし
	15	まとめ	まとめ、フォローアップ	特になし

関連科目	ICT概論、ビジネス情報処理Ⅰ、経営統計学、ビジネスデータ分析
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践コンピューターリテラシー入門	宮脇典彦、小沢和浩、坂本憲昭、安藤富貴子、新村隆英	
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回授業時に出す課題(100%)をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
----------	--

学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等備考	11号館6階(経営学部事務室)
------------	-----------------

科目名	ビジネスデータ分析	科目名 (英文)	Business Data Analysis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	統計学は、入手したデータから有用な情報を得るために量的データを要約する方法を学ぶ学問である。経営分野では、企業経営におけるリスクの評価や意思決定を支援するためのデータ解析の手法として用いられており、生産、財務、マーケティングなど、その応用範囲は広い。本講義では、統計学の基礎的知識を持つ学生を対象に、統計学の応用としてコンピュータを用いた統計解析に重点を置き学んでいく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを使った基本的な統計分析を行うことができる。 ・データ解析のためのソフトウェア (SPSS) の基本的な操作方法を身につける。
授業方法と留意点	データ解析のためのソフトウェア (SPSS) と教材データを用いて統計解析を行う。定期的に小テストを実施する。本講義では、コンピュータの基本的使い方 (起動、シャットダウン、ファイル保存等) と統計学の基礎については説明しない。そのため情報処理系の講義、経営統計学といった関連講義で学ぶ程度の知識は身につけておく必要が有る。

科目学習の効果 (資格)	社会調査士
--------------	-------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の概要、統計学の基礎カテスト	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
2	記述統計 (1)	SPSS の基本操作 グラフ・表作成	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	記述統計 (2)	標準統計量の算出 変数の加工 2変数の関係を探る方法	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	相関と回帰 (1)	相関分析を使って2変数の関係を探る 相関係数	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	相関と回帰 (2)	回帰分析を使って売り上げを予測する 回帰係数 R二乗決定係数 多重共線性の問題	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	確率分布 (1)	確率と確率分布の基本的考え方	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	確率分布 (2)	離散的確率分布 (正規分布、カイ二乗分布、t分布)	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	前半内容のまとめと中間テスト	前半内容のまとめとテスト	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	前半内容のまとめと中間テスト		予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	検定 (1)	検定の考え方と手順	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	検定 (2)	分散、比率の検定、独立性の検定、適合度の検定	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	推定 (1)	推定の考え方と手順	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	推定 (2)	平均、平均差、比率の推定	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	多変量解析に向けて	多変量解析と応用事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	後半内容のまとめと総復習	後半内容のまとめと総復習	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

関連科目	経営統計学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間・期末テスト(80%)、小テスト・レポート(20%)にて評価する。 私語、携帯の使用など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意してください。			
学生への メッセージ	社会調査士の資格取得に必要な科目です。この講義を理解するには経営統計学の知識が必要となります。しっかり勉強しておいて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館7階(針尾准教授室)			
備考	各回で使用するデータは、基本的に前回において受講生が加工したものを使用します。従って欠席した場合は、各自で欠席回の分析作業を進めておかなければなりません。			

科目名	ビジネスプラン	科目名(英文)	Business Plan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 貞幸

授業概要・目的	社会経済が激動する昨今、キャリアプランを考える際に「起業」が一つの選択肢になりつつあります。起業は自らの価値観にあった働き方であり、ひいては経済に活力を与える源泉であるといえます。そこで「ビジネスプラン」の講義では、起業環境を認識し、そして起業する際に必要とされるものの学習をはじめ、起業成功確率を高める「ビジネスプラン」の書き方、作り方学びます。また「ビジネスプラン」を実行する際の経営戦略法、市場戦略手法についても解説します。
到達目標	ビジネスプランの書き方・作り方を習得する。
授業方法と留意点	レジュメ(プリント)を用い講義し、起業・ビジネスプラン・経営戦略に関する知識の習得だけでなく、実際の起業現場において、どのようなビジネスプランが作成されているのかを体験します。
科目学習の効果(資格)	ビジネス系資格取得のプラス知識になります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	起業・起業環境を知る	起業の現状と課題 日本経済社会の現状とこれからの考える	「生きる」「仕事をする」ことについて考える機会を得る
2	「働くということ」を考える	自分のキャリアプランを考える	自分の人生について考えてみる
3	起業家の条件	起業を成功させるためのポイント	自分自身の「起業家」に向いている部分について考えてみる
4	ビジネスプランとは?	ビジネスプランの目的・必要性・ポイント	ビジネスをはじめるといふことについて考える
5	ビジネスアイデアとビジネスモデル	ビジネスアイデアによるビジネスモデルの違い	同業態企業であってもアイデアによってビジネスモデルが違っているその違いを分析してみる
6	ビジネスアイデア	ビジネスアイデア発想とビジネスとしての採算性	ビジネスを発想してみるそしてその採算性について検討しビジネスとして成立するかどうかを考える
7	ビジネスモデルの構築	ビジネスモデルとは何か、またそのポイントを知る	知っている企業のビジネスモデルについて考える
8	起業とSNSマーケティング	SNSを活用したマーケティングを知る	SNSを体験してみる
9	ビジネスプランの書き方・作り方	ビジネスプランの書き方について学ぶ	ビジネスプランを書いてみる
10	ビジネスプランの構成と経営戦略	ビジネスプランの構成を学び、実行する際の経営戦略について考える	知っている企業の戦略について考える
11	ビジネスプラン作成実習(1)	起業家になったつもりで自分の考えていることを、ビジネスプランとして明文化する	いろいろな業種業態について考えてみる
12	ビジネスプラン作成実習(2)	フリー時代にマッチしたビジネスプランを作成する	フリー時代の生き方について考えてみる
13	ビジネスプランのプレゼンテーション	ビジネスプランを完成させ、表現する	作成したビジネスプランをプレゼンテーションしてみる
14	実践現場のビジネスプラン	実際のビジネスプランをみてる	実際の起業や新規事業において、どんなビジネスプランが作られているかを知る
15	ビジネスプランのまとめ	ビジネスプラン作成のポイントをおさえる	ビジネスプランのポイントを覚える

関連科目 「ベンチャービジネス論」「ビジネスインターンシップI・II」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) レポートと試験 (レポートの評価50%、試験の評価50%)
(レポートは4回提出、試験は後期試験期間中に実施)

学生へのメッセージ 起業・事業創業は生きがいを求める人生へのチャレンジ。今後のキャリアプランにおいて「起業」という選択肢が無縁ではなくなりつつあります。また、会社の一員であっても 新規事業開発の局面を含め、ますます新しい思考、アイデアが求められ、ビジネスプランとしてアウトプットできる能力が必要です。

担当者の研究室等 11号館6階(経営学部事務室)

備考

科目名	ブランド戦略	科目名 (英文)	Brand Strategy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	マーケティング論のなかでも近年はブランドに注目が集まっている。我々の生活を見渡しても、商品としてのブランド、企業のブランド、地域のブランドなど多様である。本授業がブランドがなぜここまで注目を浴びる存在となったのかを明らかにし、ブランドの種類や機能、ブランド価値を向上させるためのマーケティング戦略について具体的事例を交えながら解説する。マーケティング論におけるブランドの意義やブランド戦略を理解することを目的とする
到達目標	ブランドの働きなどブランドに関する基本的知識が身に付く。 組織のマーケティング戦略と「ブランド」を関係づけて考察する能力が身に付く。 「ブランド」価値を高める戦略について多角的に分析、評価、構築することができるようになる。
授業方法と留意点	講義が中心だが、一部グループワークを行う。
科目学習の効果 (資格)	ブランド・マネジメント能力が身に付く

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	マーケティングにおける製品戦略	マーケティング論の復習を行い、マーケティングにおけるブランドの位置づけを行う。
2		製品開発とブランド	ブランドが本当に必要となのかを考えてみる。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
3		ブランドの登場	ブランドの起源と歴史、ブランドの種類、構成要素（ブランド名、ロゴ、シンボル、キャラクター、パッケージ、スローガン等）からブランドをとらえる	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
4		ブランドの価値と機能	ブランドの価値の評価、育成、マーケティング活動への活用をブランドが持つ機能から考える。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
5		ブランド・イメージ	ブランド・イメージの重要性とどのように形成されるかを学ぶ。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
6		サービスのブランド戦略	サービス提供組織のブランド戦略について解説する。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
7		ブランドと経験価値	経験価値の概念をブランドに導入して考察する。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
8		ブランド構築と組織能力	ブランド価値を生み出す仕組みとブランディングの枠組みを解説し、ブランド構築に必要な組織能力について検討する。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
9		ブランド・マネジメント組織の現状と課題	ブランド・マネージャー制の解説とその現状と課題について検討する。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
10		ブランド戦略の実際 演習 1	これまでの復習を行い、演習のための解説を行う。	【事前学習】 これまでのノートの整理。 【事後学習】 演習のための準備。
11		ブランド戦略の実際 演習 2	ゲストスピーカーより、ブランディングについてお話をいただく。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 講義の要点整理
12		ブランド戦略の実際 演習 3	ブランド戦略のための議論をグループで行う。	【事前学習】 戦略構築の私案を考える。 【事後学習】 グループでの意見を整理する。
13		ブランド戦略の実際 演習 4	グループ単位で議論したものをプレゼンテーション資料としてまとめる。	【事前学習】 グループ内で役割分担をし、担当部分をこなす。 【事後学習】 発表の準備
14		ブランド戦略の実際 演習 5	成果発表	【事前学習】 発表の練習 【事後学習】 他の班の発表内容と比較し、自分のグループの発表内容のよい点、改善点を考える。
15		ブランドの統合的理解	組織のマーケティング活動のなかのブランドの果たす意義を確認し、今後、ブランドが果たす役割はどのように変わるのかを検討する。	【事前学習】 これまでの要点整理。 【事後学習】 試験のための準備。

関連科目	マーケティング論 マーケティング演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	製品・ブランド戦略	青木幸弘・恩蔵直人	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 (50%) グループワークの成果物・発表・小テスト・(50%)			
学生への メッセージ	日ごろ、身近にあるブランドを意識しながら授業に積極的に参加されたい。またブランド関係のニュースや記事などにも触れてほしい。			
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂教授室			
備考				

科目名	プログラミング	科目名(英文)	Programming
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也

授業概要・目的	プログラミングはコンピュータを理解するために重要な技術です。この授業では情報システムの設計に繋がるプログラミングについて、基礎から発展を含めて学びます。
到達目標	(1) C言語の文法が理解できる (2) 情報システム内の処理過程が想像できる (3) プログラミング言語を独習できる知識が身につく
授業方法と留意点	授業の前半で解説を行い、後半は演習を行う。 毎回の出席と課題提出が単位取得に必須である。
科目学習の効果(資格)	基本情報技術者試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	この授業の進め方、評価方法について	予習：シラバスを読んでくること
2	プログラミングとはなにか【発展】	プログラミングの流れ、情報システムの設計	復習：日常の行動についてフローチャートを作ってみる
3	Cによるプログラミング	コンパイルとは、プログラムの構造、プログラムの書き方	復習：自宅でCプログラミング環境を作ってみる
4	文字列の表示	文字列、拡張表記、コメント	復習：授業の課題を見直す
5	整数の計算と表示	整数値の表示、文字%の表示、整数値のいろいろな表示、整数の四則計算	復習：授業の課題を見直す
6	実数の計算と表示	実数、実数値の表示、実数値のいろいろな表示、実数の四則演算	復習：授業の課題を見直す
7	変数	型、変数、代入、変数の初期化	復習：授業の課題を見直す
8	scanf 関数	キーボードからの読み込み	復習：授業の課題を見直す
9	インタフェース【発展】	画面設計、認知行動、操作性	予習：ヒューマンインタフェースについて調べる 復習：授業の課題を見直す
10	if文(その1)	if文、条件を表す式	復習：授業の課題を見直す
11	if文(その2)	if文の入れ子、ブロック	復習：授業の課題を見直す
12	while文	while文、while文の特徴	復習：授業の課題を見直す
13	do文	do文、do文の特徴	復習：授業の課題を見直す
14	制御変数	制御変数と繰り返し、増分演算子と減分演算子、複合代入演算子	復習：授業の課題を見直す
15	for文	for文、for文の特徴	復習：授業の課題を見直す
16	中間テスト	中間テスト、これまでの振り返り	予習：中間テスト勉強
17	多重ループ	二重ループ、多重ループ	復習：授業の課題を見直す
18	break文とcontinue文とgoto文	break文、continue文、goto文	復習：授業の課題を見直す
19	switch文と条件演算子	switch文、条件演算子	復習：授業の課題を見直す
20	配列	配列、配列要素、添字、配列の初期化	復習：授業の課題を見直す
21	多次元配列	2次元配列、多次元配列	復習：授業の課題を見直す
22	データの扱い方【発展】	実際の情報システムでのデータの扱い方、データベース	予習：データベースについて調べてくる
23	構造体	構造体の定義、構造体の配列	復習：授業の課題を見直す
24	関数(その1)	標準ライブラリ関数の呼び出し、関数定義と関数呼び出し、関数プロトタイプ宣言	復習：授業の課題を見直す
25	関数(その2)	返却値のない関数、変数の有効範囲と寿命	復習：授業の課題を見直す
26	マクロ	オブジェクト形式マクロ、関数形式マクロ	復習：授業の課題を見直す
27	関数の便利さ【発展】	GoogleMAPS、API、SDK	予習：APIについて調べてくる 復習：授業の課題を見直す
28	文字と文字列	char型と文字定数、文字の入出力、文字列と文字列リテラル、文字配列の初期化、文字列の入出力	復習：授業の課題を見直す
29	文字と文字列の標準ライブラリ関数	文字処理関数、文字列処理関数	復習：授業の課題を見直す
30	全体のまとめ	期末試験に向けた復習	予習：これまでの課題を見直す

関連科目	情報システム系の科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験 30%、中間テスト 20%、授業中の課題 50%
----------	-------------------------------

学生への メッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、欠席や遅刻をしないこと。欠席するとそれ以降の授業の理解は困難となる。
担当者の 研究室等	11号館7階(久保准教授室)
備考	

科目名	ベンチャービジネス論	科目名(英文)	Venture Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	<p>授業概要：大学を卒業しても就職することだけが目的ではなく、自分自身で起業（ベンチャー企業）してみるのも一つの方法です。ベンチャービジネスとは何か、どうすれば起業できるのかについて、わかりやすく解説します。</p> <p>目的：この授業では起業を目指す学生だけではなく、就職する学生にとってもベンチャースピリットがいかに大切かについて学習します。</p>
到達目標	豊富な社会経験を積んだ多くの講師から、働き方についての幅広い知識や知恵などを学び、その中でベンチャースピリットの重要性についての理解を深める。
授業方法と留意点	<p>授業方法：</p> <p>(1) 専門家によるリレー講義です。</p> <p>(2) 経験豊富な実務家の貴重なビジネス体験談が受講できます。</p> <p>(3) 原則 j、毎回レジュメ（プリント）が配布されます。事前にファイリングするフォルダー（2穴）などを準備すること。</p> <p>留意点：重要な点をきちんとメモして、提出レポートに反映させること。また、聴講のマナーを厳守すること。</p>
科目学習の効果（資格）	経験豊富なさまざまな専門家（起業家）の体験談を直接聞き学ぶことで、社会に対する認識と仕事選択に対する考え方や選択肢を広げることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ベンチャービジネス 概説 【4月14日】	・ベンチャービジネスの歴史と定義・今日的な時代要請 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：ベンチャービジネスについて雑誌またはホームページで調べてみましょう。
3	ベンチャービジネス 方法論 (1) 【4月21日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-従業員採用における基礎知識- 総合事務所ネクスト 所長 特定社会保険労務士 小西 勝 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：従業員を募集・採用する時の注意点について調べてください。
4	ベンチャービジネス 方法論 (2) 【4月28日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-創業と政府系金融機関の役割- 日本政策金融公庫大阪創業支援センター 所長 永井俊二 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：政府系金融機関の役割について調べてください。
5	ベンチャービジネス 現状論 (1) 【5月12日】	・ベンチャービジネス分野別の現状と課題<小売業>-食品小売業界- AKR 共栄会 事務局長 大西基裕 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：食品小売業界について雑誌またはホームページで調べてください。
6	ベンチャービジネス 現状論 (2) 【5月19日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-子ども対象の実践的英会話スクールの運営、学童保育事業の今後- 株式会社 CLC 代表取締役 砂田千秋 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：子供の英会話スクールについて調べてください。
7	ベンチャービジネス 現状論 (3) 【5月26日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-投資育成の実践- 株式会社ファンドファンクション 代表取締役 萩原貞幸 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：投資育成についてホームページで調べてください。
8	ベンチャービジネス 現状論 (4) 【6月2日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-地域密着型情報発信事業- 特定非営利活動法人週刊ひがしおおさか代表 前田寛文 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：「週刊ひがしおおさか」の活動を Web ページで調べてください。
9	ベンチャービジネス 方法論 (3) 【6月9日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-携帯アプリ開発事業の現状と今後の方向性- 株式会社フィードテイラー 代表取締役 大石裕一 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：天気予報アプリ「そら案内」について調べてください。
10	ベンチャービジネス 現状論 (5) 【6月16日】	・国による中小・ベンチャー企業支援と東日本大震災の復興支援-震災復興事業のコンサルティングについて- (独) 中小企業基盤整備機構 震災復興支援部 復興支援課 担当課長 (商業支援、販路) 地域活性化伝道師 (内閣府) 長坂泰之 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：東日本大震災の復興の現状について調べてください。
11	ベンチャービジネス 現状論 (6) 【6月23日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-設計製造分野での IT 活用①- キャディック株式会社 代表取締役 筒井真作 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：「キャディック株式会社」について調べてください。
12	ベンチャービジネス 現状論 (7) 【6月30日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-NPO 法人による社会救済支援- グッド・サマリタン・チャーチ 牧師 金子道仁 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：NPO 法人による社会救済支援活動がどのようなものか調べてください。

	13	ベンチャービジネス 現状論 (8) 【7月7日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-交野市活性化企画「おりひめ大学」「交野キャンパス」のプロデュースと地域と大学との関係性-クリエイティブディレクション 代表 甲斐健 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：交野市の「おりひめ大学」の活動について調べてきてください。																
	14	ベンチャービジネス 現状論 (9) 【7月14日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-バリ島との国際交流事業-株式会社 ミレーノ 取締役部長 上田 豊 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：バリ島の学校教育について調べてきてください。																
	15	ベンチャービジネス論 まとめ 【7月21日】	・まとめ ・モチベーションと行動特性の変化の確認(セルフチェック診断) 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：今までの講義の資料を持参ください。																
関連科目	ビジネスプラン、経営学、経営管理論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	原則、講義レポートの内容 (50%) と定期期末試験結果 (50%) で評価します。																			
学生へのメッセージ	ベンチャービジネスの専門家と直接話し合ってみませんか。皆さんの将来に対する夢が膨らみます。																			
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室																			
備考																				

科目名	貿易実務	科目名(英文)	Trading Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 和巳

授業概要・目的	①貿易は広く世界を相手にする非常に魅力のある分野である。 ②言葉・文化・法律・通貨制度が全く違う未知なる国、相手方との交渉であり、常にリスクが存在するといえる。 ③この異なるものとの商取引のルールを知ることが、貿易実務の学習です。 ④更に、経済・金融のグローバル化が学生達の現在・将来の生活環境にどのような影響を及ぼすのか、彼ら・彼女らに考える機会をも提供する。
到達目標	貿易・国際金融全体を理解できる人材を育成する。
授業方法と留意点	①各授業でテーマ毎のプリント配布。 ②課題を与え、グループディスカッションを行うこともある。 ③授業終了時に、学んだこと・興味を持った点・疑問・先週一週間で「貿易」に関するニュース・記事は？を指定用紙に学生に記入依頼し、回収後次回の授業で再度説明あるいは答える。
科目学習の効果(資格)	①貿易実務検定への挑戦 ②国際金融市場、外国為替市場の基本を学ぶことで、貿易に与える影響を把握する ③就職活動に役立つ実力をつける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			プリント	回数
1	オリエンテーション	講義の進め方、貿易とは何かを考える、貿易実務で何を学ぶか	プリント	1
2	貿易とは何か?	貿易はなぜ必要なのか?現在の経済と貿易、等	プリント	2
3	貿易専門用語(1)	貿易実務専門用語(1)日本語・英語	プリント	3
4	貿易専門用語(2)	貿易実務専門用語(2)日本語・英語	プリント	4
5	貿易(商品貿易、売買)における「商流」、「物流」と「金融」(1)	「商流」:取引先の選択市場調査、信用調査、取引関係の形成輸出入取引の交渉、等(1)	プリント	5
6	貿易(商品貿易、売買)における「商流」、「物流」と「金融」(2)	「商流」:取引先の選択市場調査、信用調査、取引関係の形成輸出入取引の交渉、等(2)	プリント	6
7	貿易取引の手段信用状(1)	信用状、外国為替手形、船積書類、等(1)	プリント	7
8	貿易取引の手段信用状(2)	信用状、外国為替手形、船積書類、等(2)	プリント	8
9	貿易をめぐる国際的枠組み	MFを中心とする国際通貨体制 プレトンウッズ体制、GATT、等	プリント	9
10	直接投資の増大と貿易	世界的に拡大する直接投資、貿易構造の変遷、等	プリント	10
11	国際金融とは「リスクの多様性?」「国際間には中央銀行が存在しない?」	国際金融取引の特色、異種通貨の売買—外国為替取引の発生、リスクの多様性、等 為替の意義、原理、仕組み、外国為替の意義、外国為替取引の特質、等	プリント	11
12	外国為替市場 固定相場と変動相場 外国為替リスク管理 「トヨタの為替リスク管理は?」 外国為替相場の決定理論	外国為替市場の構成者、外国為替相場の発生、等 先物相場と先物為替予約、先物相場の決まり方、為替リスク管理の意義と種類 為替相場は需要と供給の均衡点で決まってくるが、為替の需要と供給は、どのように決定されるのだろうか、等	プリント	12
13	アジア通貨危機	1997年7月2日 タイ 管理為替制度の放棄?発生要因、日本の金融機関への影響	プリント	13
14	カントリーリスク	「日本企業とカントリーリスク」、 「カントリーリスクの定義」	プリント	14
15	2008年末金融危機	サブプライムローン問題・リーマンショック、等と貿易への影響	プリント	15

関連科目	グローバルビジネス、金融論
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門・貿易実務	椿 弘次	日本経済新聞出版社
	2	「国際金融の基礎知識」第2版	桜井錠治郎	中央経済社
	3	「国際商取引入門」第2版	亀田尚己他	文真堂

評価方法 (基準)	定期試験60%、小テスト20%、授業参加度20%
学生への メッセージ	学生諸君が生まれる少し前の1995年の春頃に日本は急激な円高・ドル安の進行に見舞われ、対ドルの為替レートが85円前後の円高になった。その結果、国内産業の海外移転が始まり「産業の空洞化」が一層進行した。 このような時代を含め日本が現在までどのような道を歩んだのかを貿易及び大きな枠組みの国際金融の世界での出来事を通じて知ることが出来る。 貿易、国際ビジネス、国際金融、更にグローバルな展開に一つでも興味のある学生諸君に受講を勧めたい。
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部非常勤講師控え室
備考	

科目名	貿易と金融	科目名(英文)	Trade and Finance
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的	本講義のテーマは、貿易構造の決定要因、国際金融市場の役割、外国為替市場取引の仕組みを理解することである。そして、海外との関わりにおいてどのような影響を受けるのかを理解し、分析することを目的とする。
到達目標	経済の国際的側面を理論的に理解し、説明できる。
授業方法と留意点	テキストに従った講義形式。必要に応じてプリントなどを配布。
科目学習の効果(資格)	公務員試験・経済学検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	グローバル経済論とは	国際経済の現状	テキストを事前に読む、配布プリントを復習
2	国際貿易の基本構造(1)	貿易の発生する理由、比較生産費説	テキストの第1章
3	国際貿易の基本構造(2)	ヘクシャー=オーリン理論	テキストの第1章
4	国際貿易の基本構造(3)	産業内貿易、その他の貿易理論、	テキストの第1章
5	国際貿易システム	WTO、自由貿易協定	テキストの第2章
6	経常収支とマクロ経済(1)	国際収支表、経常収支、資本収支	テキストの第3章
7	経常収支とマクロ経済(2)	資金過不足と貯蓄・投資バランス、双子の赤字	テキストの第3章
8	為替レートの理論(1)	外国為替市場、為替レートの変動による影響	テキストの第3章
9	為替レートの理論(2)	購買力平価説	テキストの第3章
10	為替レートの理論(3)	アセットアプローチ	テキストの第3章
11	為替レートの理論(4)	ファンダメンタルズとバブル、為替レート変動のリスク	テキストの第3章
12	金融のグローバル化と国際通貨システム(1)	ブレトンウッズ体制、ドル本位制	テキストの第4章
13	金融のグローバル化と国際通貨システム(2)	デリバティブ取引、国際金融市場のこれから	テキストの第4章
14	グローバル化と経済開発	貧困問題と市場経済機能、政府の役割	テキストの第5章
15	まとめ		

関連科目	マクロ経済学、ミクロ経済学、ベンチャーファイナンス、グローバルビジネス、経済発展論Ⅰ、Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グローバル・エコノミー	岩本武和他	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 75% 平常点(レポート、小テストなど) 25%
学生へのメッセージ	現在の日本経済を理解するには、不可欠の知識となるであろう。普段から、新聞やテレビを通じて、現実の経済の動向には興味を持っておくこと。また、マクロ経済学、ミクロ経済学の理解が必要なので、並行して履修して下さい。
担当者の研究室等	11号館6階(杉本研究室) sugimoto@kjo.setsunan.ac.jp
備考	

科目名	簿記入門	科目名(英文)	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石橋 康男

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きにまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果(資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	簿記の基礎②	取引と勘定	教科書の該当箇所参照
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	教科書の該当箇所参照
4	簿記の基礎④	試算表	教科書の該当箇所参照
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	教科書の該当箇所参照
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	教科書の該当箇所参照
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
8	現金・預金①	現金・現金過不足	教科書の該当箇所参照
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	教科書の該当箇所参照
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	教科書の該当箇所参照
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	教科書の該当箇所参照
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	教科書の該当箇所参照
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	教科書の該当箇所参照
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	教科書の該当箇所参照
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	教科書の該当箇所参照
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借入金、商品券、他店商品券	教科書の該当箇所参照
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	教科書の該当箇所参照
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	教科書の該当箇所参照
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	教科書の該当箇所参照
21	決算②	費用・収益の見越し	教科書の該当箇所参照
22	決算③	試算表の作成1	教科書の該当箇所参照
23	決算④	試算表の作成2	教科書の該当箇所参照
24	決算⑤	精算表の作成	教科書の該当箇所参照
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	教科書の該当箇所参照
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	教科書の該当箇所参照
27	伝票会計	証ひょうと伝票、伝票の集計・管理	教科書の該当箇所参照
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	教科書の該当箇所参照
30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	教科書の該当箇所参照

関連科目 財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 学期末試験の結果により評価する。

学生へのメッセージ 簿記は借方・貸方などの専門用語があつて最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかりと身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。

担当者の研究室等 11号館6階(非常勤講師室)

備考

科目名	マーケティング演習	科目名 (英文)	Practice in Marketing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	これまで学んできたマーケティングに関する知識を活用しながらケーススタディの課題を検討することでマーケティングの総合力を身に付けることを目的とします。 本授業ではグループでケーススタディを理解し、メンバーで議論しながら、設問に対する妥当解を導き、皆の前で発表する形式をとります。
到達目標	マーケティング論の知識を応用し課題解決方法を検討する能力が身につきます。 グループワークを通じて、考え方の異なるメンバーと相互理解を深めるためのコミュニケーション能力が身に付きます。
授業方法と留意点	グループワークと講義で構成します。 毎回ふりかえりシートを記載してもらいます。 またケーススタディを4つ行いますがそれぞれレポートの提出を求めます。
科目学習の効果 (資格)	マーケティングの総合力が身に付きます

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティング論のふりかえりとグループ分けを行います。	【事前学習】 マーケティング論の復習を行うこと。 【事後学習】 マーケティング戦略構築から実行までの流れを理解する。 グループのメンバー間で連絡がとれるようにしておくこと。
2	コミュニケーション演習	グループのメンバーで準備的な演習を行います。	【事前学習】 マーケティングの復習 【事後学習】 演習において自分の果たした役割や参画した程度などをふりかえる。
3	ケースⅠの導入	内容の解説行った上とグループメンバーで問題の共有化を図ります。	【事前学習】 ケーススタディの内容をしっかりと理解しておくこと。 【事後学習】 議論の整理
4	ケースⅠの検討	各グループで課題に対する回答を議論します。	【事前学習】 自分の意見をまとめておく。 【事後学習】 議論の内容を理解し、時間内でまとまらない場合は適宜グループで集まり議論すること。
5	ケースⅠの取りまとめ	グループ毎にとりまとめを行い、グループ案を提出します。	【事前学習】 グループでの議論の内容のポイントをまとめる。 【事後学習】 グループ案をふりかえる。
6	ケースⅡの導入	問題を共有したのち、企画書の書き方を解説します。	【事前学習】 ケーススタディの内容をしっかりと理解しておくこと。 【事後学習】 企画書の作成の復習
7	ケースⅡの検討	企画書を各自パワーポイントを使って作成します (情報処理室利用)	【事前学習】 ケーススタディの内容のポイント整理。 【事後学習】 自分の企画書作成
8	ケースⅡの検討	各自の企画書から班の案にまとめる作業を行います。 (情報処理室利用)	【事前学習】 自分の案をしっかりとまとめておく。 【事後学習】 他のメンバーの考え方とどのように異なるか理解し、班の意見についてプレゼンテーションできるようにしておく。
9	ケースⅡの発表	各班の発表をみんなで評価する	【事前学習】 自分の班の案をプレゼンできるようにしておく 【事後学習】 発表のふりかえり
10	ケースⅢに導入	ケースの内容を共有します	【事前学習】 ケースを読み、理解する。 【事後学習】 ケースのポイント整理
11	ケースⅢの検討	グループ毎に課題を検討します。	【事前学習】 課題についての私案をまとめる。 【事後学習】 グループでの議論の整理。
12	ケースⅢの取りまとめ	グループ内の意見をまとめます。	【事前学習】 グループでの議論のふりかえり 【事後学習】 発表のための、ポイント整理
13	ケースⅢの発表	グループごとに発表をし、みんなで評価します。	【事前学習】 発表の準備 【事後学習】 自分の班の発表ができるようにしておくこと。 他の班との違いを理解すること。

	14	ケースIVの導入・検討	課題を共有し検討をします。	【事前学習】 ケースの内容を理解すること。 【事後学習】 ポイントの整理																
	15	ケースIVの議論・取りまとめ	班のとりまとめを行います。	【事前学習】 ケースの内容についてふりかえる 【事後学習】 授業の総まとめ																
関連科目	マーケティング論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
評価方法 (基準)	レポート (50%)、グループワークの成果物、発表 (50%)																			
学生への メッセージ	積極的にグループワークに参加することでかなりの力がつきます。そのためには課題に真摯に取り組む姿勢が求められます。																			
担当者の 研究室等	鶴坂教授室 (11号館7階)																			
備考																				

科目名	マーケティング概論	科目名 (英文)	Introduction to Marketing Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	現在、いかなる組織においても、マネジメントを効果的に行い、目標を達成するにはマーケティング発想が不可欠である。本授業では、事例を交えながらマーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。各々がマーケティング論的な視点で物事をとらえる事ができるようになることを到達目標とする。
到達目標	マーケティングの基礎的な知識を習得する。 マーケティング論的な視点で物事をとらえる事ができるようになる。
授業方法と留意点	講義が中心だが、授業の中で課題の考察・検討の時間を設ける
科目学習の効果 (資格)	マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようになる。マーケティング論的発想ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	マーケティングの本質	マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 内容の復習し、ポイントを整理する。
	2	マーケティングのなり立ち	マーケティングの歴史を学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	3	STP	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	4	マーケティング戦略とは	マーケティングの4Pと戦略の意義・構築について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	5	市場での競争と自社の存在意義	戦略構築のために自社の置かれている状況を把握する意義、手法について学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	6	競合他社について考える	競合他社と自社との関係から戦略構築を考える。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	7	製品のマネジメント	製品開発プロセスやライフサイクルからマネジメントを考える	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	8	ブランドのマネジメント	ブランドの意義を理解し、マネジメントのための戦略について考える	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	9	流通	流通チャネルやサプライチェーンマネジメントについて理解する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	10	営業のマネジメント	人的販売で重要な役割を果たす営業について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	11	価格のマネジメント	価格設定の考え方や戦略について学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	12	顧客理解	多様化した顧客をいかに理解し、企業のマーケティング戦略構築に反映させるかを学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	13	顧客とのコミュニケーション	顧客との双方方向のコミュニケーションによって関係を構築する意義やそれを活用した戦略について考える。 可能であればゲストスピーカーを招く。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	14	サービス・マーケティング	サービス業のマーケティングについて学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
	15	ソーシャル・マーケティング	コーズ・リレーティッド・マーケティングなどCSRを意識したマーケティングについて解説する	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 試験にむけた復習
関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、マーケティング戦略論			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内課題30%、期末試験70%			
学生への メッセージ	日常生活において企業がどのような製品をどのような手段で告知し、それをどのような価格でどのような方法で販売しているのかに関心を持って講義に臨んでもらいたい。			
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂教授室			
備考				

科目名	マーケティングサイエンス	科目名(英文)	Marketing Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口 友紀

授業概要・目的	近年、ビジネスにおいてマーケティングは欠かすことのできないツールとなった。商品を生産すれば売れた時代とは違い、現在では多様化する消費者ニーズに的確に対応することが、企業にとって市場で生き残っていくためのカギとなっている。本講義では、マーケティング戦略を立案する上で必要不可欠となるデータの扱い方を紹介し、各自でリサーチを実行してもらう。市場の動向を読むための技術を身につけることは非常に重要である。
到達目標	マーケティング・リサーチ手法について学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようにする。
授業方法と留意点	教員からの講義の他に、講義内容に関連した実際の問題について学生自身にも考え、発表してもらう。これは、学生の発想力と創造力を伸ばすためでもある。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	二次データの収集	マーケティング・リサーチの実行手順、仮説の立案	配布プリントの復習
3	一次データの収集	二次データの整理と基礎統計	配布プリントの復習
4	データ分析(1)	一次データの収集方法、質問票の設計	配布プリントの復習
5	データ分析(2)	質問票データの入力、コーディング、集計	配布プリントの復習
6	データ分析(3)	仮説検定とは、独立性の検定、無相関検定	配布プリントの復習
7	データ分析(4)	平均値差による検定、分散分析	配布プリントの復習
8	データ分析(5)	相関、回帰分析、重回帰分析	配布プリントの復習
9	データ分析(6)	重回帰分析を用いた時系列分析、指数平滑法	配布プリントの復習
10	データ分析(7)	数量化Ⅰ類、判別分析、数量化Ⅱ類	配布プリントの復習
11	データ分析(8)	クラスター分析、相関係数分析	配布プリントの復習
12	マーケティング・リサーチ演習(1)	これまでの講義内容をふまえ、各自でマーケティング・リサーチを実行する	リサーチ内容を計画し、適切な分析手法を選択することができるように、講義内容について復習し、情報収集を心がけること。
13	マーケティング・リサーチ演習(2)	設計したリサーチ内容を発表資料としてまとめる	考案したリサーチ内容について、プレゼンテーションができるように掘り下げて考える。また、リサーチに必要な情報を収集し、まとめること。
14	マーケティング・リサーチ演習とプレゼンテーション	考案・設計したリサーチ内容をプレゼンテーションする。また、他の学生の考案したリサーチ内容について分析と考案を行う。	リサーチ内容について掘り下げて考えるよう心掛けること。
15	講義まとめ	授業に関する質問に回答します。	半年間の復習をしておく。

関連科目	マーケティング論など
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義内課題 70%、期末試験 30%
----------	--------------------

学生へのメッセージ	日ごろ自分達がどのように考え、どういった商品を購入しているかを思い浮かべつつ、講義に臨んでもらいたい。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館8階、樋口研究室
----------	--------------

備考	学生の理解度により、適宜講義内容を変更する場合がある。
----	-----------------------------

科目名	マーケティング情報解析	科目名(英文)	Marketing Information Analysis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口 友紀

授業概要・目的	近年、マーケティング戦略の立案などに際し、市場調査が頻繁に利用されている。市場調査により収集されたマーケティング・データは、企業の意味決定において様々な形で利用される。ただし、これらのデータはそのままの形では有効に利用することが難しい。よって、種々の分析手法をもって、まずは有益な情報に変換されることとなる。本講義では、このようなマーケティング・データを扱うためのデータ分析手法について、多変量解析を中心に学習する。
到達目標	マーケティング・リサーチの手法とデータの扱い方を習得することで、各種マーケティング上の課題に対処する力を身につける。
授業方法と留意点	本講義ではExcel、SPSSを利用する。この点を理解の上履修すること。 また、毎回の講義中に、講義内容に関連する課題を課す。
科目学習の効果(資格)	「社会調査士」の資格取得のため必須科目。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マーケティング・リサーチとデータ分析の関係について	配布プリントの復習
	2	リサーチの流れとデータの役割	マーケティング・リサーチの基本知識、実行手順などについて	配布プリントの復習
	3	基礎統計	記述統計、グラフなど	配布プリントの復習
	4	仮説検定(1)	無相関検定	配布プリントの復習
	5	仮説検定(2)	カイ二乗検定	配布プリントの復習
	6	仮説検定(3)	平均値の差による検定	配布プリントの復習
	7	多変量解析(1)	回帰・重回帰分析	配布プリントの復習
	8	多変量解析(2)	重回帰分析を使用した需要予測	配布プリントの復習
	9	多変量解析(3)	時系列解析手法	配布プリントの復習
	10	多変量解析(4)	分散分析・数量化理論Ⅰ類	配布プリントの復習
	11	多変量解析(5)	SPSSを使用した多変量解析の計算手法	配布プリントの復習
	12	多変量解析(6)	判別分析・数量化理論Ⅱ類	配布プリントの復習
	13	多変量解析(7)	クラスター分析・コレスポンデンス分析	配布プリントの復習
	14	多変量解析(8)	主成分分析・因子分析	配布プリントの復習
	15	講義まとめ	半年間の講義のまとめと復習、質問への対応など	半年間の復習をしておいてください。

関連科目	経営統計学、ビジネスデータ分析、市場調査法、市場調査実習
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義内課題70%、期末試験30%
----------	------------------

学生へのメッセージ	講義内容の復習を各自で出来るだけ行うこと。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	11号館8階、樋口研究室
----------	--------------

備考	学生の理解度などにより、適宜講義内容を変更する場合がある。
----	-------------------------------

科目名	マーケティング論	科目名(英文)	Marketing Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的	近年の成熟市場環境下における企業間競争の激化によって、マーケティングの重要性が高まっています。マーケティング活動の内容が、企業の成否を決するといっても過言ではないでしょう。 マーケティング論の講義では、マーケティングの諸問題について解説していきます。初めてマーケティングを学習する人を対象としていて、マーケティングの基本的概念、枠組みを理解することを目指します。この講義を通じて、マーケティングの楽しさ・面白さを伝えていきたいと思っています。
到達目標	マーケティングの基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義が中心ですが、企業の実態にそったマーケティングを理解していきます。
科目学習の効果(資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティング論の全体像を示します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
2	マーケティングとは	マーケティングの概略について、説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
3	マーケティングの誕生	マーケティングがいかにか誕生したのかについて、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
4	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
5	製品政策(1)	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
6	製品政策(2)	製品政策について、企業の具体的事例を取り上げて、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
7	価格政策(1)	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
8	価格政策(2)	価格政策について、企業の具体的事例を取り上げて、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
9	流通チャネル政策(1)	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
10	流通チャネル政策(2)	流通チャネル政策について、企業の具体的事例を取り上げて、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
11	マーケティングと広告	どのように商品をアピールするかについて考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
12	マーケティングのSTPアプローチ(1)	市場細分化戦略について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
13	マーケティングのSTPアプローチ(2)	製品のポジショニングについて、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
14	マーケティングのダイナミクス	製品ライフサイクル戦略について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
15	中間的まとめ	前半部分のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
16	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスの諸手段について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
17	トータル・マーケティング	消費者を起点とするトータル・マーケティングについて考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
18	消費行動(1)	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
19	消費行動(2)	消費行動の歴史的変遷について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
20	消費行動(3)	顧客満足とブランドロイヤリティについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
21	競争の3角形	戦略論の基礎である競争の3角形や成長戦略について考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
22	マーケティング・リサーチ(1)	マーケティング・リサーチの意義・役割について解説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
23	マーケティング・リサーチ(2)	マーケティング・リサーチの方法について解説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
24	マーケティング・リサーチ(3)	質問票を作成していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
25	競争の戦略(1)	企業の資金配分の方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
26	競争の戦略(2)	ポーターの競争の戦略、企業の地位別戦略について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
27	競争の戦略(3)	バリューチェーン分析、SWOT分析等について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
28	流通の役割(1)	流通の存立根拠について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
29	流通の役割(2)	卸売商業、小売商業について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
30	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目 経営学、マーケティングと歴史

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その都度、指示します。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%			
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。			
担当者の 研究室等	1 1 号館 8 階 (武居教授室)			
備考				

科目名	マクロ経済学	科目名(英文)	Macro Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的
現代経済学は体系化された科学としてマクロ経済学とミクロ経済学に大別されます。マクロ経済学では、国家レベルの経済問題や社会全体など大きな動きについて論じます。なお、ミクロ経済学では、経済主体の意思決定プロセスや市場について議論することを目的とします。これによりビジネスニュースや新聞の経済面をより深く読むことが出来るようになることを目指します。

到達目標
マクロ経済学の理論を通して、日本経済の問題を理解、説明できる。

授業方法と留意点
教科書を中心に行うが、適宜、新聞やTVで取り上げられたトピックも用いる。

科目学習の効果(資格)
公務員試験・経済学検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問か？マクロ経済学とミクロ経済学の違い	経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。
2	GDPとは何だろうか？(1)	付加価値、三面等価の原則	テキスト第1章を読んでおくこと。
3	GDPとは何だろうか？(2)	GDPの範囲、GNI(GNP)との違い、名目値と実質値	テキスト第1章を読んでおくこと。
4	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(1)	ケインズ型の消費関数	テキスト第2章を読んでおくこと。
5	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(2)	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向	テキスト第2章を読んでおくこと。
6	設備投資と在庫投資(1)	資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論	テキスト第3章を読んでおくこと。
7	設備投資と在庫投資(2)	調整費用モデル、在庫投資	テキスト第3章を読んでおくこと。
8	金融と株価(1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択	テキスト第4章までを復習しておくこと。
9	金融と株価(2)	株価の決定理論、トービンのq	テキスト第4章を読んで復習しておくこと。
10	貨幣の需要と供給(1)	貨幣の機能、貨幣需要関数、	テキスト第5章を読んでおくこと。
11	貨幣の需要と供給(2)	貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利率の決定	テキスト第5章を復習しておくこと。
12	乗数理論とIS-LM理論(1)	有効需要の原理、乗数理論	テキスト第6章を予習しておくこと。
13	乗数理論とIS-LM理論(2)	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、IS-LM分析	テキスト第6章を読んでおくこと。
14	経済政策の有効性	クラウディング・アウト、流動性のわな、非伝統的金融政策	テキスト第7章を読んでおくこと。
15	財政赤字と国債	財政政策の意義、日本の財政赤字、国債の中立命題	テキスト第8章を読んでおくこと。

関連科目
ミクロ経済学、貿易と金融

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学・入門	福田慎一・照山博司	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)
定期試験 75%
平常点(レポート提出,小テストなど) 25%

学生へのメッセージ
授業中は私語厳禁,携帯電話の利用禁止。
テキストやノートでの復習は必ずすること。

担当者の研究室等
11号館6階(杉本研究室)
sugimoto@kjo.setsunan.ac.jp

備考

科目名	マネジメントサイエンス	科目名(英文)	Management Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒澤 敏朗

授業概要・目的	マネジメントサイエンス(経営科学、オペレーションズ・リサーチ)とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では、線形計画法、待ち行列や意思決定(ゲーム)理論を中心とした基本的な知識と技法(解法)について修得することが目的である。
到達目標	数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓を用いた数値計算で最適解を見つけることができる。
授業方法と留意点	授業で配布するプリントを用いてモデルを解説し、次にゲームやシミュレーション形式の例題を用いた演習中心の授業を行う。課題に取り組む中で、数学的知識というよりもむしろ経営における問題の発見やその構造のあらましを把握する能力を養ってほしい。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、販売士や中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	マネジメントサイエンスの学び方	授業計画とマネジメントサイエンスの対象と方法についてのあらましの解説と「受注計画ゲーム」による演習	復習：シラバスを読み直す
2	線形計画法(1)	線形計画問題の基礎概念、最大・最小問題の図的解法(演習)	復習：課題を解いてみよう
3	線形計画法(2)	シンプレックス法による最適解と最適値の解説とパソコンによる解法のデモ	復習：パソコンで課題を解いてみよう
4	線形計画法(3)	出荷計画ゲーム(演習)	復習：配付されたプリントを読み直す
5	線形計画法(4)	輸送計画法の解説と演習	復習：配付されたプリントを読み直す
6	整数計画法(1)	アルバイトの配置(割当)の計画(演習)	復習：与えられた課題(宿題)に取り組もう
7	整数計画法(2)	職員の定期異動計画(演習)	復習：配付されたプリントを読み直す
8	整数計画法(3)	職員の適材配置計画(演習)	復習：配付されたプリントを読み直す
9	待ち行列(1)	待ち行列の基礎：到着時間とサービス時間の分布	復習：与えられた課題(宿題)に取り組もう
10	待ち行列(2)	待ち行列の理論：行列の長さ待ち時間の期待値	復習：配布されたプリントを読み直そう
11	決定理論(1)	不確実性下の意思決定：ミニマックス原理ほか	復習：配布されたプリントを読み直そう
12	決定理論(2)	ゼロサムゲームと利得表	復習：与えられた課題(宿題)に取り組もう
13	決定理論(3)	四人のジレンマと社会的ジレンマ	復習：与えられた課題(宿題)に取り組もう
14	決定理論(4)	マーケットデザイン：安定結婚問題	復習：与えられた課題(宿題)に取り組もう
15	まとめ	前期に学習した内容のまとめ	復習：前期試験の準備をしよう

関連科目	数学基礎 I、数学基礎 II、経営統計学
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門オペレーションズリサーチ	松井泰子、ほか	東海大学出版会
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(60%)および授業中に行う課題に対する取り組みやレポート(40%)により評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	高度な数学は使いませんが、演習を中心とした授業を行いますので、8割以上の出席が必要です。毎回、数値を扱うので電卓(関数電卓でなくてよい)を持参してください。また、説明は最初から聞かないと理解できませんから、遅れないようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館7階(黒澤教授室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	マネジメントサイエンス I	科目名 (英文)	Management Science I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒澤 敏朗

授業概要・目的
 マネジメントサイエンス(経営科学、オペレーションズ・リサーチ)とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では、線形計画法、待ち行列や意思決定(ゲーム)理論を中心とした基本的な知識と技法(解法)について修得することが目的である。

到達目標
 数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓を用いた数値計算で最適解を見つけることができる。

授業方法と留意点
 授業で配布するプリントを用いてモデルを解説し、次にゲームやシミュレーション形式の例題を用いた演習中心の授業を行う。課題に取り組む中で、数学的知識というよりもむしろ経営における問題の発見やその構造のあらましを把握する能力を養ってほしい。

科目学習の効果(資格)
 ITパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、販売士や中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	マネジメントサイエンスの学び方	授業計画とマネジメントサイエンスの対象と方法についてのあらましの解説と「受注計画ゲーム」による演習	復習：シラバスを読み直す
2	線形計画法(1)	線形計画問題の基礎概念、最大・最小問題の図的解法(演習)	復習：課題を解いてみよう
3	線形計画法(2)	シンプレックス法による最適解と最適値の解説とパソコンによる解法のデモ	復習：パソコンで課題を解いてみよう
4	線形計画法(3)	出荷計画ゲーム(演習)	復習：配付されたプリントを読み直す
5	線形計画法(4)	輸送計画法の解説と演習	復習：配付されたプリントを読み直す
6	整数計画法(1)	アルバイトの配置(割当)の計画(演習)	復習：与えられた課題(宿題)に取り組もう
7	整数計画法(2)	職員の定期異動計画(演習)	復習：配付されたプリントを読み直す
8	整数計画法(3)	職員の適材配置計画(演習)	復習：配付されたプリントを読み直す
9	待ち行列(1)	待ち行列の基礎：到着時間とサービス時間の分布	復習：与えられた課題(宿題)に取り組もう
10	待ち行列(2)	待ち行列の理論：行列の長さ待ち時間の期待値	復習：配布されたプリントを読み直そう
11	決定理論(1)	不確実性下の意思決定：ミニマックス原理ほか	復習：配布されたプリントを読み直そう
12	決定理論(2)	ゼロサムゲームと利得表	復習：与えられた課題(宿題)に取り組もう
13	決定理論(3)	囚人のジレンマと社会的ジレンマ	復習：与えられた課題(宿題)に取り組もう
14	決定理論(4)	マーケットデザイン：安定結婚問題	復習：与えられた課題(宿題)に取り組もう
15	まとめ	前期に学習した内容のまとめ	復習：前期試験の準備をしよう

関連科目
 数学基礎 I、数学基礎 II、経営統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門オペレーションズリサーチ	松井泰子、ほか	東海大学出版会

評価方法(基準)
 定期試験(60%)および授業中に行う課題に対する取り組みやレポート(40%)により評価する。

学生へのメッセージ
 高度な数学は用いませんが、演習を中心とした授業を行いますので、8割以上の出席が必要です。毎回、数値を扱うので電卓(関数電卓でなくてよい)を持参してください。また、説明は最初から聞かないと理解できませんから、遅れないようにしてください。

担当者の研究室等備考
 11号館7階(黒澤教授室)

科目名	マルチメディア処理 I	科目名 (英文)	Multimedia Processing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏

授業概要・目的	マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。さらに、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の利用技術と生成手法について学び、情報技術を駆使した多彩な表現力について修得する。
授業方法と留意点	初回到授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。 マルチメディア処理 I はマルチメディア処理 I を履修していないと合格しない。マルチメディア処理 I I の履修を予定している者は、必ずこの科目を履修すること。

科目学習の効果 (資格)	CG検定, 画像処理検定, マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。
--------------	---------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	マルチメディアを用いた応用技術	ガイドランス、CG 映画、ビデオゲーム、マルチメディア通信応用システム、仮想現実感	練習問題(1)
2	基本的なシーンファイルの設定	座標系、カメラと照明の設定	練習問題(2)
3	CG の基本演習	CG 作成手順、簡単な立体形状の作成、CG 画像の実例紹介	練習問題(3)
4	マルチメディアと人間の知覚特性	恒常現象、図の認識、錯覚、図と地	練習問題(4)
5	視覚特性と聴覚特性	両眼立体視、図の動き、色の見え、聴覚効果	練習問題(5)
6	物体の移動・回転・縮小・拡大	移動・回転・縮小・拡大の設定と見え方	練習問題(6)
7	色彩表現	加法混色、減法混色、RGB/XYZ 表示系、マンセル表色系	練習問題(7)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半のまとめと小テスト	練習問題(8)
9	色彩演習	立体の色彩表現	練習問題(9)
10	2次元画像処理の基礎	画像の標本化と量子化、2値化処理、濃淡、陰線・陰面消去	練習問題(10)
11	合成と変換	平滑化、鮮鋭化、モザイク処理、コントラストの変換、特殊効果	練習問題(11)
12	立体の表現方法	ステレオ画像処理、時分割メガネ方式、ステレオペア方式	練習問題(12)
13	基本的な立体形状の作成	基本的な立体形状の作成方法	練習問題(13)
14	物体の質感	さまざまな物体の質感	練習問題(14)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半のまとめと小テスト	練習問題(15)

関連科目	情報処理関連の基礎科目、マルチメディア処理 II
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の課題 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者 (寝る、喋る等) は欠席扱いとする。
-----------	--

学生へのメッセージ	この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、コンピュータの基本的な利用が困難な者は、授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。
-----------	--

担当者の研究室等備考	11号館8階 堀井教授室
------------	--------------

科目名	マルチメディア処理 II	科目名 (英文)	Multimedia Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀井 千夏

授業概要・目的	マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。さらに、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の利用技術と生成手法について学び、情報技術を駆使した多彩な表現力について修得する。
授業方法と留意点	初回到授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。 マルチメディア処理 I I はマルチメディア処理 I を履修していないと合格しない。履修する際には確認すること。またこの授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていくため、経営学科の学生は受講しないように。

科目学習の効果 (資格)	CG検定、画像処理検定、マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。
--------------	-------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	模様と凹凸表現	質感とテクスチャ	練習問題(1)
2	CG 演習 (1)	質感の変更、テクスチャマッピング、パンプマッピング	練習問題(2)
3	カメラとライティング	ワールド座標とローカル座標、座標変換、透視変換	練習問題(3)
4	CG 演習 (2)	カメラや光源の種類の設定	練習問題(4)
5	モデリング	モデリング手法	練習問題(5)
6	レンダリング	レンダリング手法	練習問題(6)
7	講義のまとめと小テスト	講義前半のまとめと小テスト	練習問題(7)
8	CG 演習 (3)	複雑な立体形状の作成	練習問題(8)
9	立体表現の応用	スイープ表現、曲線表現 (スプライン曲線、ベジェ曲線)	練習問題(9)
10	CG 演習 (4)	正多面体、半多面体、トーラス図形、CG 文字の作成	練習問題(10)
11	CG アニメーション	アニメーションの原理、映画などで利用されている CG の事例紹介	練習問題(11)
12	CG 演習 (5)	CG アニメーションの作成	練習問題(12)
13	講義のまとめと小テスト	講義後半のまとめと小テスト	練習問題(13)
14	作品制作(1)	作品制作とまとめ	練習問題(14)
15	作品制作(2)	作品制作とまとめ	練習問題(15)

関連科目	情報処理関連の基礎科目、マルチメディア処理 I
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の課題 (10%)、小テスト (20%)、最終課題 (10%)、期末試験 (60%) により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者 (寝る、喋る等) は欠席扱いとする。
-----------	---

学生へのメッセージ	マルチメディア処理 I I はマルチメディア処理 I を必ず履修していること。マルチメディア処理 I I だけを受講しても合格しない。履修する際には注意すること。またこの授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていくため、経営学科の学生は受講しないように。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館8階 堀井教授室
------------	--------------

科目名	ミクロ経済学	科目名(英文)	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	現代経済学の理論は、体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。そのうち、ミクロ経済学は、消費者や企業の行動原理を、もっともらしい仮定を起点として論理を積み上げ説明する経済理論である。本講義では、ミクロ経済学の理論を現実事象と照らし合わせながら説明する。
到達目標	経済主体の意思決定や市場について理解すること
授業方法と留意点	講義は極力教科書に沿って行うので、必ず教科書を購入のこと。理解度を重視して進めるので、講義計画の変更もある。漠然と講義に出席するのではなく、予習・復習を行い、発言することを求める。発言は評価の対象である。
科目学習の効果(資格)	TV や新聞、インターネットから無造作に流される経済的事象を自らで整理し、自らで判断するための初歩的な能力が身につく。さらに、教員免許取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	需要の理論	市場需要曲線、曲線のシフト要因、消費者余剰	事前に第2章を読んでおくこと。復習も行うこと。
3	消費者行動の理論(1)	最適消費点	事前に第3章を読んでおくこと。復習も行うこと。
4	消費者行動の理論(2)	需要曲線の導出、曲線のシフト要因再考	事前に第3章を読んでおくこと。復習も行うこと。
5	供給の理論(1)	限界費用、供給量の決定、供給曲線、生産者余剰	事前に第4章を読んでおくこと。復習も行うこと。
6	供給の理論(2)	右上がりの限界費用曲線、市場供給曲線、供給曲線のシフト要因	事前に第4章を読んでおくこと。復習も行うこと。
7	限界概念と微分	限界概念と微分との関係について説明する。	予習はできないが、復習をしっかりと行うこと。
8	需給曲線と弾力性	需要と供給の弾力性、弾力性を左右する要因	事前に第5章を読んでおくこと。復習も行うこと。
9	ここまでのまとめと中間テスト	これまでのまとめと中間試験を行う	事前に復習を行っておくこと。
10	市場の理論	さまざまな市場構造、社会的余剰、効率性、分配の公正性、市場の失敗	事前に第6章を読んでおくこと。復習も行うこと。
11	需要と供給で解く経済問題	需給曲線を用い経済問題を考える	事前に第7章を読んでおくこと。復習も行うこと。
12	余剰分析で解く経済問題	余剰を用い経済問題を考える	事前に第8章を読んでおくこと。復習も行うこと。
13	市場の失敗(1)	外部効果、公共財	事前に第9章を読んでおくこと。復習も行うこと。
14	市場の失敗(2)	情報の非対称性	事前に第10章を読んでおくこと。復習も行うこと。
15	市場の失敗(3)	独占市場	事前に第11章を読んでおくこと。復習も行うこと。

関連科目	くらしと経済、マクロ経済学、金融論、企業金融論 等
------	---------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	中間試験(40%)と期末試験(60%)で評価する。なお、詳細は初回講義で述べる。
----------	--

学生へのメッセージ	経済の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要です。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	民法 I	科目名 (英文)	Civil Law I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵

授業概要・目的	民法 I および民法 II を通じて、民法というものの全体を扱います。各講義は選択制ですので、民法は財産法と呼ばれる部分を、民法講は家族法と呼ばれる部分を扱います。しかし、時間との関係から本講義では財産法の全体像をとらえることを中心としています。また、時間の合間に民事に関する紛争を解決した判例というものを簡単に見ていきたいとも思っています。
到達目標	民法の財産法といわれる部分を扱うため、人と物との法律関係、人と人との法律関係を講義で扱います。それにより、社会の問題がいかにして生じるのか、またそのような問題に対して、いかに対応すべきか、いかに議論を進めるべきかの端緒を得ることができる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定です。復習などのために資料を配布することも行います。法律科目ですので、六法が必要であり、六法を入手する予定のない方には本講義をお勧めしません。六法なしに受講する意味はありません。
科目学習の効果 (資格)	宅地建物取引主任者、行政書士などを旨とする人の入門として

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持つ部分を是非見つけてください。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	1 回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えてみてください。
3	民法と契約という制度①	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを把握してみてください。
4	民法と契約という制度②	契約をするうえで、何らかの問題がある場合を前回に続いて確認する予定です。	人は間違いをしてしまうものです。契約において何らかの問題があった場合の事例の対処方法などを考えてください。
5	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
6	代理	人は完全に自分ひとりで物事を処理できません。契約もそうです。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人が必要となります。そのような人についてみていく予定です。	他人が自分のために契約をしてくれる便利さと怖さを確認してください。
7	時効	契約は無限に続くのか、他人の物を知らずに占有しているとどのようなこととなるのかなどを確認する予定です。	犯罪捜査における時効とは何が違い、また時効の必要性についても考えてください。
8	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	友達との約束についても法的に考えてみてください。
9	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？これを、法的に考えてみてください。
10	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのでしょうか。考えてみてください。
11	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	他人に損害賠償を請求するということの難しさを考えてみてください。
12	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について考えてください。
13	債務の弁済について①	契約を守ってもらえない場合に対して、あらかじめ対処する方法などを見る予定です。	お金の貸し借りの難しさと、その対処方法を考えてみてください。
14	債務の弁済について②	担保をという制度を把握し、それが実行されたのちの関係などをみる予定です。	他人を信頼することの難しさ、債権というものを担保する必要性を今一度考えてください。
15	講義のまとめ	講義全体のまとめをしながら、財産法を持つ意義をもう一度確認する予定です。	全体的な復習を通して、財産法とはどのような視点から見るべきかを考えてみてください。

関連科目 後期の民法 II と共に受講をしていただきたいと思います。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法入門	小川富之他編	一学舎
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 講義中の復習テストを 2 回行い、各 10 点として評価に加える予定 (初回に確認します)。定期試験 (80 点) で評価の予定 (初回に確認します)。

学生へのメッセージ 講義内容の性質から、民法以外の法律にも触れることとなります。それゆえ、民法以外の法にも興味を持っていただけると、より理解が進むと思います。

担当者の 研究室等	11号館9階 大川研究室
備考	近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	民法Ⅱ	科目名(英文)	Civil Law II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵

授業概要・目的	民法Ⅰおよび民法Ⅱを通じて、民法というものの全体を扱います。各講義は選択制ですので、民法Ⅱは財産法と呼ばれる部分を、民法Ⅰは家族法と呼ばれる部分を扱います。しかし、時間との関係から本講義では財産法の全体像をとらえることを中心としています。また、時間の合間に民事に関する紛争を解決した判例というものを簡単に見ていきたいとも思っています。
到達目標	民法の家族法といわれる部分を扱うため、家族関係、人の死後の財産関係に関する法律問題を講義で扱います。それにより、社会で生じている家族間の問題等がいかにして生じるのか、またそのような問題に対して、いかに対応すべきか、いかに議論を進めるべきかの端緒を得ることができると期待します。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定です。資料等を配布することもあります。法律科目ですので、六法が必要です。六法を入手する考えのない方にはお勧めしません。また、受講する意味もありません。
科目学習の効果(資格)	宅地建物取引主任者、行政書士などを目指す人の入門として

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	財産法と家族法の確認	民法Ⅰでみた財産法の内容について確認しつつ、家族法の全体を確認する予定です。	前期で扱った財産法の部分を復習しておいて下さい。
2	家族法総論	家族法全体について、また家族とはどのようなものなのかを見ていく予定です。	家族とはどのような人たちか、法的にどのように考えられているのかを確認すること。ここで確認した用語を今後使用します。
3	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えてください。
4	婚姻の効果ならびに離婚	婚姻が成立するとどのような権利義務が生じるのかを確認する予定です。また、婚姻関係が終了する場合の一つである、離婚についても簡単に確認する予定です。	一緒に住むこと以外にも、婚姻には大きな意義があることを確認すること。
5	離婚に関する諸問題	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。
6	婚姻類似の関係	婚姻関係にないが内縁関係のように、類似する場面もある。それを法的にどのようにとらえるのかをみる。	なぜ、そのような関係を保護するのか、その必要性を考えること。
7	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	法律が完全に正義を実現しているのかどうかを考える重要な問題が出てきます(非嫡出子の問題)。それを考えること。
8	養子縁組	実子以外と親子関係を形成する手段である養子縁組の制度を見ながら、現代の生殖補助の問題も確認する予定です。	養子制度の必要性や現代における科学技術の進歩についても意識する必要がある。
9	親権	親は子に対してどのような義務を負うのかを確認していく。	法的に負わされた義務を本当に社会において実現されているのかを考えてみる。
10	相続について	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	法律がどのような範囲で相続を認めているのかを理解するため、家族というものを復習しておくこと。
11	相続できる者とは	相続とはどのような人間関係においてしょうじろのかを見る予定です。	誰でも相続できるのでしょうか。なぜ相続で争うのでしょうか。考えて下さい。
12	相続分について	誰がどのような内容を相続するのかについて確認する。	多少の計算が必要となります。自分の家族などに置き換えて、頭の中で考えること。
13	相続分の調整原理	相続が開始したとしても、それまでに多くの財産をもらっていた人や、財産形成に寄与した人もいます。その場合の調整方法を確認する。	計算などの場合、具体例を想定して考える必要があるため、あわせて考えること。
14	遺言	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	遺言の重要性と、不明確な場合の問題を現実の例から確認すること。
15	遺留分および講義のまとめ	相続人が最低限確保することが認められている相続分の意義について確認していく。また、講義全体のまとめにも入りたい。	全体の復習をしておくこと。

関連科目 民法Ⅰの内容を前提に講義をいたします。ただし、やる気のある方は、民法Ⅰを受講していなくても受講して下さってかまいません。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法	小川富之他編	一学舎
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	講義中の復習テストを2回行い、各10点として評価に加える予定(初回に確認します)。定期試験(80点)で評価の予定(初回に確認します)。
学生へのメッセージ	講義内容の性質から、民法以外の法律にも触れることとなります。それゆえ、民法以外の法にも興味を持っていただくと、より理解が進むと思います。
担当者の研究室等	11号館9階 大川研究室
備考	近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	メディア戦略論	科目名(英文)	Media Strategy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	本講義では、企業のマーケティング政策におけるメディア戦略の立案、各種広告技術、戦術的 ICT 運用、広告・集客・販売・顧客維持に向けた企業の取り組み事例について解説を行っていく。その際、情報ネットワーク時代における消費者の購買行動様式や企業の競争環境について理解しておくことが必要であることから、消費者行動論、競争戦略論の代表モデルについても取り上げる。 講義の主な目的は、メディア戦略についての基本的な考え方、技術的な仕組み、および事例ベースでのメディア活用戦術を受講生が説明できる程度まで学ぶことである。
到達目標	・メディア戦略についての基本的な考え方、技術的な仕組み、および事例ベースでのメディア活用戦術を理解し、説明できるようになる。 ・消費者行動モデル、競争戦略の基本的な考え方について説明できるようになる。
授業方法と留意点	教材資料を事前配布し、それをノートとして用いる。講義では、資料解説を中心とする。また定期的にスマートフォン、携帯電話を使った実習も行う。教材資料は、学内ポータルサイトの教材フォルダに上げており、受講生は各自印刷しておく必要がある。
科目学習の効果(資格)	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。 ITパスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について解説する。 ・企業のマーケティング政策とメディア戦略 ・マーケティングの歴史 ・IMC (統合型マーケティングコミュニケーション)	_____
2	インターネット広告 (1)	主に以下について解説する。 ・バナー広告 ・広告課金方式 ・アフィリエイトプログラム	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	インターネット広告 (2)	主に以下について解説する。 ・リスティング広告 ・アドワーズ ・ターゲティング広告 ・アクセス解析	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	モバイル広告 (1)	主に以下について解説する。 ・移動体情報通信技術 ・移動体情報通信端末向け広告 ・ターゲティング広告	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	モバイル広告 (2)	主に以下について解説する。 ・位置情報システム、GPS ・モバイル通信の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	ブログと CGM (1)	主に以下について解説する。 ・ブログ ・アドセンス ・RSS、XML ・CGM	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	ブログと CGM (2)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	ソーシャルネットワークシステム (1)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	ソーシャルネットワークシステム (2)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	メディア戦略の理論 (1)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	メディア戦略の理論 (2)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	メディア戦略の理論 (3)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	事例 (1)		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

	14	事例（2）		予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	15	まとめ	_____	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
関連科目	ICT 概論、経営情報システム、コンテンツビジネスなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>期末テスト (80%)、小テスト・レポート (20%) で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。</p>			
学生への メッセージ	<p>経営情報学科の学生である以上、企業経営における情報システムの最新動向については、常に関心を向けておく姿勢が必要です。特に本講義では、君たちに身近なウェブサービス、ソーシャルメディアを取り上げます。受講にあたっては、事前に講義資料で取り上げられる予定のメディアサービスを体験しておいてください。それを前提として講義を進めます。</p>			
担当者の 研究室等	11号館7階（針尾准教授室）			
備考				

科目名	リテールマーケティング	科目名 (英文)	Retail Marketing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的
マーケティングとは、企業の対市場活動です。このようにマーケティングを捉えると、マーケティングの領域は幅広くなります。この講義では、その中でも、小売業に焦点を当て、リテールマーケティングの基本的知識を身につけ、基本的概念・分析枠組みについて理解を深めることを目的とします。

到達目標
リテールマーケティングの基本的知識を修得し、活用できることを目指します。

授業方法と留意点
講義が中心ですが、ビデオも活用し、企業の実態に沿ったリテールマーケティングを理解していきます。

科目学習の効果 (資格)
小売業をマーケティングの視点から考察することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	マーケティングとは?	マーケティングについて、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
3	流通とは (1)	流通の役割について、考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
4	流通とは (2)	流通の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
5	小売業とは (1)	小売業の内容と役割について考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
6	小売業とは (2)	小売業の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
7	小売業の革新	小売業の革新的行動について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
8	百貨店のマーケティング	百貨店のマーケティング戦略について考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
9	スーパーのマーケティング (1)	スーパーのマーケティング戦略について、取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
10	スーパーのマーケティング (2)	スーパーのマーケティング戦略の具体的な事例を取り上げて、検討していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
11	コンビニエンス・ストアのマーケティング	コンビニエンス・ストアのマーケティング戦略について、考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
12	アウトレットモールのマーケティング	アウトレットモールのマーケティング戦略について、考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
13	ナショナルブランドとプライベートブランド	ナショナルブランドとプライベートブランドの相違点について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
14	流通系列化	流通系列化の現実的問題について考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目
マーケティング論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代商業学 新版	高嶋克義	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
期末テストの成績 70%、授業内課題 30%

学生へのメッセージ
授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。

担当者の研究室等
11号館8階 (武居教授室)

備考

科目名	流通システム論	科目名(英文)	Distribution Systems
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	若松 敏幸

授業概要・目的	小売業、卸売業などの流通業界は、消費者ニーズの多様化・個性化と競争環境の激化に対応して、魅力ある品揃え、無駄の排除と効率化、ローコストオペレーション等を積極的に進めている。また、インターネットを活用したビジネスモデルも進化を遂げており、今日の商取引に多大な影響を与えている。このような流通業界の経営課題を確認しつつ、そのビジネスモデルを支える流通情報システムの仕組みを理解することを目的とする。
到達目標	流通業界の情報システムについて関心を深め、どのような場面でどのような工夫がなされ、今後の課題は何かを理解できるようになること。
授業方法と留意点	毎回、パワーポイントのスライド教材と動画の教材を用いて授業を進める。講義内容についての理解度テストを適時行う。
科目学習の効果(資格)	販売士検定3級試験、中小企業診断士試験の学習に有効

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよび流通情報システムの概要	講義の進め方、概要、評価方法などについて説明する。 また、流通情報システムの概要について説明する。	――
2	小売業の機能と業態	小売業の主な業態(チェーンストア、百貨店、GMS、SM、DIY、ドラッグストア、CVS)の機能・特徴について学ぶ。	授業で紹介する小売業のうち身近な業態についてよく研究すること。
3	卸売業の機能と役割	中間流通業者としての卸売業の機能、役割、ならびに主要商品別流通経路の特性について学ぶ。	代表的な卸売業について、ホームページなどで企業研究すること。
4	販売情報システム	小売業の情報システムの基本ともいえる販売情報システムについて学ぶ。 特にPOSシステムとJAN商品コードを中心に。	小売店でのPOSシステムのオペレーションを観察すること。
5	発注・仕入管理とEOS、EDI(電子データ交換)	小売業と卸売業を結ぶ発注・仕入管理とその情報システムについて学ぶ。EOS、EDI(電子データ交換)の仕組みと機能を知る。	EOS、EDIの事例をインターネットで調べる。
6	流通ビジネスプロトコル	EDIにおける標準ビジネスプロトコルの役割と必要性を学ぶ。	ビジネスプロトコルの種類について復習をすること。
7	物流情報システム	物流の機能と、物流情報システムについて学ぶ。物流からロジスティクス、SCM(サプライチェーン・マネジメント)へと発展した考え方を学ぶ。	物流の機能について、ホームページなどで研究すること。
8	顧客管理とカードシステム	顧客管理と顧客満足経営(CS経営)、顧客管理の方法について学ぶ。 RFM分析、カードシステム、ワン・トゥ・ワンマーケティングなど。	カードの利用場面を観察し、ワン・トゥ・ワンマーケティングについて研究すること。
9	商圈分析と店舗管理の情報システム	店舗の立地条件と商圈の考え方、GIS(地図情報システム)、売場づくりの考え方について学ぶ。棚割(プラノグラム)システムなど。	インターネットで利用できるGISを研究すること。
10	サプライチェーン・マネジメント	流通の川上(製造業)から川下(小売業)へのスムーズな取り引きを実現するSCM(Supply Chain Management)の考え方と仕組みを学ぶ。	SCMの事例について、ホームページや書籍などで研究すること。
11	電子商取引：B to C のEC(Electronic Commerce)(1)	インターネットを使った企業と消費者間の電子商取引(B to CのEC)について学ぶ。インターネットショップ、インターネットモールなど。	人気のあるインターネットショップを例に、なぜ人気があるのか研究すること。
12	デジタルコンテンツの流通	デジタル音楽配信、電子書籍などの動向と課題について学習する。	音楽配信、電子書籍の普及状況について観察し、その普及理由について研究すること。
13	電子商取引：B to B のEC(Electronic Commerce)	インターネットを使った企業と企業間の電子商取引(B to BのEC)について学ぶ。マーケットプレイス、インターネットEDIなど。	授業で紹介するB to BのECモデルについてインターネットで研究すること。
14	食品流通のトレーサビリティ	食の安全・安心のためのトレーサビリティ・システムについて学ぶ。	身近な食品を通して安全・安心をどうやって確認できるのか考えてみる。
15	講義のまとめ	授業全体のまとめ	今日の流通業全体が抱える課題について整理すること。

関連科目 経営情報システムⅠ、Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを毎回配布する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	流通情報システム化の動向 2014-2015	一般財団法人 流通システム開発センター	一般財団法人 流通システム開発センター
	2	販売士ハンドブック(基礎編)-販売士検定試験 3級対応-	日本商工会議所・全国商工会連合会	キャリアック
	3			
評価方法 (基準)	<p>期末試験、理解度テストによって評価する。(期末試験を6割、理解度テストを4割の割合。) また、授業での質問や意見表明など積極的な学習姿勢も評価する。</p>			
学生への メッセージ	<p>日常の買い物などを通して、商品バーコードやPOSシステムなど、流通情報システムの一端に接することが出来る。最新事例も含めて、流通情報システムに対する理解を深めて頂きたい。</p>			
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部事務室)			
備考				

科目名	流通情報システム	科目名(英文)	Distribution Information System
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	若松 敏幸

授業概要・目的	小売業、卸売業などの流通業界は、消費者ニーズの多様化・個性化と競争環境の激化に対応して、魅力ある品揃え、無駄の排除と効率化、ローコストオペレーション等を積極的に進めている。また、インターネットを活用したビジネスモデルも進化を遂げており、今日の商取引に多大な影響を与えている。このような流通業界の経営課題を確認しつつ、そのビジネスモデルを支える流通情報システムの仕組みを理解することを目的とする。
到達目標	流通業界の情報システムについて関心を深め、どのような場面でどのような工夫がなされ、今後の課題は何かを理解できるようになること。
授業方法と留意点	毎回、パワーポイントのスライド教材と動画の教材を用いて授業を進める。講義内容についての理解度テストを適時行う。
科目学習の効果(資格)	販売士検定3級試験、中小企業診断士試験の学習に有効

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	小売業の機能と業態	小売業の主な業態(チェーンストア、百貨店、GMS、SM、DIY、ドラッグストア、CVS)の機能・特徴について学ぶ。	授業で紹介する小売業のうち身近な業態についてよく研究すること。
3	卸売業の機能と役割	中間流通業者としての卸売業の機能、役割、ならびに主要商品別流通経路の特性について学ぶ。	代表的な卸売業について、ホームページなどで企業研究すること。
4	販売情報システム	小売業の情報システムの基本ともいえる販売情報システムについて学ぶ。 特にPOSシステムとJAN商品コードを中心に。	小売店でのPOSシステムのオペレーションを観察すること。
5	発注・仕入管理とEOS、EDI(電子データ交換)	小売業と卸売業を結ぶ発注・仕入管理とその情報システムについて学ぶ。EOS、EDI(電子データ交換)の仕組みと機能を知る。	EOS、EDIの事例をインターネットで調べる。
6	流通ビジネスプロトコル	EDIにおける標準ビジネスプロトコルの役割と必要性を学ぶ。	ビジネスプロトコルの種類について復習をすること。
7	物流情報システム	物流の機能と、物流情報システムについて学ぶ。物流からロジスティクス、SCM(サプライチェーン・マネジメント)へと発展した考え方を学ぶ。	物流の機能について、ホームページなどで研究すること。
8	顧客管理とカードシステム	顧客管理と顧客満足経営(CS経営)、顧客管理の方法について学ぶ。 RFM分析、カードシステム、ワン・トゥ・ワンマーケティングなど。	カードの利用場面を観察し、ワン・トゥ・ワンマーケティングについて研究すること。
9	商圈分析と店舗管理の情報システム	店舗の立地条件と商圈の考え方、GIS(地図情報システム)、売場づくりの考え方について学ぶ。棚割(プラングラム)システムなど。	インターネットで利用できるGISを研究すること。
10	サプライチェーン・マネジメント	流通の川上(製造業)から川下(小売業)へのスムーズな取り引きを実現するSCM(Supply Chain Management)の考え方と仕組みを学ぶ。	SCMの事例について、ホームページや書籍などで研究すること。
11	電子商取引:B to CのEC(Electronic Commerce)(1)	インターネットを使った企業と消費者間の電子商取引(B to CのEC)について学ぶ。 インターネットショップ、インターネットモールなど。	人気のあるインターネットショップを例に、なぜ人気があるのか研究すること。
12	デジタルコンテンツの流通	デジタル音楽配信、電子書籍などの動向と課題について学習する。	音楽配信、電子書籍の普及状況について観察し、その普及理由について研究すること。
13	電子商取引:B to BのEC(Electronic Commerce)	インターネットを使った企業と企業間の電子商取引(B to BのEC)について学ぶ。 マーケットプレイス、インターネットEDIなど。	授業で紹介するB to BのECモデルについてインターネットで研究すること。
14	食品流通のトレーサビリティ	食の安全・安心のためのトレーサビリティ・システムについて学ぶ。	身近な食品を通して安全・安心をどうやって確認できるのか考えてみる。
15	講義のまとめ	授業全体のまとめ	今日の流通業全体が抱える課題について整理すること。

関連科目 経営情報システムⅠ、Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを毎回配布する。		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	流通情報システム化の動向2014-2015	一般財団法人 流通システム開発センター	一般財団法人 流通システム開発センター

評価方法(基準) 期末試験、理解度テストによって評価する。(期末試験を6割、理解度テストを4割の割合。)
また、授業での質問や意見表明など積極的な学習姿勢も評価する。

学生への 日常の買い物などを通して、商品バーコードやPOSシステムなど、流通情報システムの一部に接することが出来る。最新事例も含めて、流通情報シ

メッセージ	STEMに対する理解を深めて頂きたい。
担当者の 研究室等	11号館6階（経営学部事務室）
備考	

科目名	労働法 I	科目名 (英文)	Labor Law I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田 剛志

授業概要・目的	契約自由の原則を貫くと、使用者と労働者の間には経済的な差があるため、労働者は、劣悪な労働条件や失業の危険にさらされることになりかねません。こうした不都合を修正するために、労働法が生成し、発達してきたと言われています。その中でも、労働者の保護を目的とする法律のことを「労働保護法」と呼ぶことがあります。この授業では、労働保護法の分野の中から、労働基準法、労働契約法、男女雇用機会均等法などを概観したいと考えています。
到達目標	労働保護法の中心となる労働基準法や労働契約法、男女雇用機会均等法などの基本的な内容を理解することを目標とします。また、同じ場面でも、使用者としての立場か、労働者としての立場かによって、事実の評価や取りうる手段が異なる場合があります。労働という事象をとらえると、使用者も労働者もその主たる当事者であることを理解し、その関係を規律する法律の基本的知識を理解することが目標です。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果 (資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。また、企業経営にとって労働者は不可欠で、労使関係を規律する法律を学ぶことは、実際の経営に有益と考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	労働法の歴史と機能	・労働法の誕生、発展 ・労働法の機能	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでくると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働法の基本構造と法源	・労働法の全体像、規律構造 ・労働法の法源	労働法の全体像を把握し、労働法の法源には何があるかを理解してください。
3	労働法上の当事者	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲 ・労働者派遣法 ・パートタイム労働者、外人労働者問題	労働法でいわれる「労働者」、「使用者」とは何かを理解してください。また、現代における多様な働き方についても概観します。
4	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	労働契約によって使用者と労働者にどのような権利・義務が発生するかを理解してください。
5	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	採用に至る各段階について労働法がどのような規定をおいているかを概観してみましょう。
6	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	日本企業は人事に対して広範な決定権限を持っているといわれています。その具体的な内容と問題点を理解してください。
7	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	企業による懲戒の法的根拠、内容、種類などを理解してください。
8	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	雇用関係が終了する事由にはどのようなものがあるかを概観してみましょう。
9	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	労働条件のうちで最も重要なものの1つである賃金について、その内容を理解してください。
10	基本的労働条件②	・労働時間法制の意義と現状 ・労働時間制度の基本的枠組み	賃金と並んで労働者にとって最も重要な労働条件の1つである労働時間について、労働法がどのような規制をしているか理解してください。
11	基本的労働条件③	・労働時間制度の特則	労働時間の基本的枠組みに対して、これを柔軟化するための特別の制度が労働基準法には定められています。それぞれの制度の内容と意義を理解してください。
12	基本的労働条件④	・休暇	日本で法律上認められている休暇について、どのようなものがあるかを確認してください。
13	労働者の安全、健康の確保	・労働安全衛生 ・労災補償	労働者が働くうえで安全や健康を確保することが、労働法の原点の1つです。そのために、労働法がどのような定めをしているかを確認してください。
14	年少者、女性の保護 労働と私生活の調和	・年少者の保護 ・女性の保護 ・育児介護休業法	近年、労働と私生活の調和を図ることの重要性が認識されるようになってきました(ワーク・ライフ・バランス)。年少者、女性の保護とあわせて、その内容を理解してください。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと。

関連科目	法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第10版]	菅野 和夫	弘文堂、2012年
	2	労働法 [第5版]	水町 勇一郎	有斐閣、2014年
	3	労働法 [第12版]	安枝 英紳/西村 健一郎	有斐閣、2014年

<p>評価方法 (基準)</p>	<p>原則として学期末テストの成績の点数(100%)によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらうことがありますが、それらは加点事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります(レポートを実施した場合の評価基準は、レポートが70%、確認テストが30%)。前年度までと成績評価方法が異なるので、その点注意しておいてください。</p>
<p>学生への メッセージ</p>	<p>現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)</p>
<p>備考</p>	<p>学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。</p>

科目名	労働法Ⅱ	科目名(英文)	Labor Law II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 剛志

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、団体的労働関係法などに大きく分けられるといわれています。この授業では、団体的労働関係法に属し、労働者、使用者と並ぶ重要な主体である労働組合について規定している労働組合法の内容を概観します。また、雇用保障に関する法律を概観したいと考えています。
到達目標	勤労者の団結する権利は憲法28条によって保障されています。労働組合の組織率が低下しており、争議行為も減少している現在においても、「労働者が使用者との交渉において対等の立場にたつことを促進することにより労働者の地位を向上させること」、「労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ること」を目的とする労働組合は、なお重要な地位を占めているということが出来ます。そうした、労働組合の意義、内容、問題点を理解することをこの授業では目標としています。 また、労働者に就労の機会を保障し、労働者の雇用の安定を図り、失業した労働者の労働関係への復帰を促進することを目的とする法律の内容を認識することも目標となります。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	団体的労働関係法の歴史と現状	・労働法制の概観 ・労使関係の現状と問題点 ・労働法の意義、性格	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでみると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	労働組合がなぜ法的に保護されているのかの理由、労働組合の要件について理解してください。
3	団体交渉	・団体交渉の法的枠組み ・団体交渉義務の内容 ・団交拒否の救済方法	労働者の集団が代表者を通じて使用者と行う交渉である団体交渉について、基本的な内容を理解してください。
4	労働協約①	・労働協約の意義 ・労働協約の効力	労働協約の意義と効力について理解してください。
5	労働協約②	・労働協約の拡張適用(一般的拘束力) ・労働協約の終了	労働協約がどのような場合に組合員以外に拡張して適用されるかを理解してください。
6	労働者の団体行動①	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性 ・争議行為と賃金	「争議行為」について、その内容やどのような場合に保障をうけることができるかを理解してください。
7	労働者の団体行動②	・違法な争議行為とその責任 ・争議行為と第三者	違法な争議行為が行われた場合の責任について、理解してください。
8	労働者の団体行動③	・使用者の争議対抗行為	使用者が、ストライキを中心とする労働者の争議行為に対抗する手段にどのようなものがあるか、概観してみましょう。
9	労働者の団体行動④	・法律による争議権の制限 ・労働争議の調整	争議行為が法律により制限・禁止されている場面、労働争議の調整を定める労働関係調整法の規定を概観します。
10	組合活動	・組合活動の法的保障 ・就業時間中の組合活動 ・企業施設利用の組合活動 ・組合活動に対する便宜供与	就業時間中に組合活動を行うこと、ビラ貼り、ビラ配布の正当性、組合活動への便宜供与について、判例の流れを参照にして、理解してください。
11	不当労働行為①	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の主体	労働組合法7条に定められている不当労働行為の趣旨を理解してください。
12	不当労働行為②	・不当労働行為の成立要件	不当労働行為にはどのような種類があり、それぞれどのような要件があれば成立するかを理解してください。
13	不当労働行為③	・不当労働行為の救済	不当労働行為の救済として、労働委員会による救済と、裁判所による救済の2つのルートを概観します。
14	雇用保障	・雇用保障の意義と体系 ・職業紹介、募集 ・職業訓練 ・失業防止、雇用安定と失業者救済	雇用保障に関する法律の内容を概観します。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を捕捉したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目 法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第10版]	菅野 和夫	弘文堂、2012年
	2	労働法 [第5版]	水町 勇一郎	有斐閣、2014年
	3	労働法 [第12版]	安枝 英紳/西村 健一郎	有斐閣、2014年

評価方法 (基準)	原則として学期末テストの成績の点数(100%)によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらうことがありますが、それらは加点事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります(レポートを実施した場合の評価基準は、レポートが70%、確認テストが30%)。前年度までと成績評価方法が異なるので、その点注意しておいてください。
学生への メッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。

基礎科目

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	飯井 恵美子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	概要説明	――	――
	2	Lesson3	代名詞	演習 3
	3	Lesson4	代名詞	演習 4
	4	Lesson5	時制	演習 5
	5	Lesson6	時制	演習 6
	6	Lesson7	時制	演習 7
	7	Lesson8	助動詞	演習 8
	8	Lesson9	助動詞	演習 9
	9	Lesson10	態	演習 10
	10	Lesson11	態	演習 11
	11	Lesson12	不定詞	演習 12
	12	Lesson13	不定詞	演習 13
	13	Lesson3～13	Grammar Point のまとめ	授業の復習
	14	総合復習	総合復習	授業の復習
	15	プリント教材	TOEIC 演習	――

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Mastering Basic English Grammar	北山長貴	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%
-----------	--

学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	予習、復習は毎回1時間 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書 Unit 1 の予習。
2	Unit 1: Local firms use creativity to build up business	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 1-6 単語: NO. 1-30
3	Unit 2: Hospital clown offers laughter as the best medicine	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 7-12 単語: NO. 21-50
4	Unit 3: U.N. says world eating too much sugar	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 13-18 単語: NO. 41-70
5	Unit 4: Panel discusses human-AI coexistence	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 19-24 単語: NO. 61-90
6	Unit 5: White hackers eyed for cyberdefence	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 25-30 単語: NO. 81-110
7	教科書 Unit 1-5 テスト	Unit 1~5 までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
8	中間試験解説及び評	演習	単語: NO. 101-130
9	Unit 6: Opportunities found in depopulated areas	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 31-36 単語: NO. 121-150
10	Unit 7: U.K. moves toward allowing 3-parent babies	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 37-42 単語: NO. 141-170
11	Unit 8: Handshake sets stage for historic Obama-Castro meeting	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 43-48 単語: NO. 161-190
12	Unit 9: Removal of Internet search results must be balanced with right to know	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 49-54 単語: NO. 181-210
13	Unit 10: 'Doomsday Clock' moves 2 minutes closer to midnight	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 55-60 単語: NO. 201-230
14	教科書 Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	Unit 6-10 復習 単語: NO. 221-248
15	教科書 Unit 6-10 テスト	Unit 6~10 までの内容について小テストを行う。	Unit 6-10 テスト勉強

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspaper 2016	Yasuhiko Wakaari	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%
-----------	--

学生へのメッセージ
この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等
-------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習
	2	Welcome to Japan	動詞の現在形	テキストの予習と単語の学習
	3	That Sounds Like Fun(1)	代名詞(1)	テキストの予習と単語の学習
	4	That Sounds Like Fun(2)	代名詞(2)	テキストの予習と単語の学習
	5	We Leave on Friday Morning	時を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
	6	You Know a Lot about Trains (1)	基本5文型(1)	テキストの予習と単語の学習
	7	You Know a Lot about Trains (2)	基本5文型(2)	テキストの予習と単語の学習
	8	I Didn't Want to Leave (1)	動詞の過去形(1)	テキストの予習と単語の学習
	9	I Didn't Want to Leave (2)	動詞の過去形(2)	テキストの予習と単語の学習
	10	You're Working Late (1)	進行形(1)	テキストの予習と単語の学習
	11	You're Working Late (2)	進行形(2)	テキストの予習と単語の学習
	12	I'm Sure He'll Understand	未来形	テキストの予習と単語の学習
	13	I'll Remember That (1)	助動詞(1)	テキストの予習と単語の学習
	14	I'll Remember That (2)	助動詞(2)	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English First - Basic	Robert Hickling 他	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Chapter 1 5 つの基本文型	授業の進め方、成績の基準、受講にあたっての心構えを説明する。また、教科書の構成を紹介し、予習・復習の内容を指示する。	Chapter 1 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
2	Chapter 2 動詞 (1 回目)	文法解説を行った後、EXERCISES(文法問題)、Rearranging(並び替え)、Basic composition(基礎和文英訳)の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
3	Chapter 2 動詞 (2 回目)	Dialogue(対話文解釈)、Reading Comprehension(長文読解)の問題を解く。	Chapter 2 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
4	Chapter 3 進行形・未来形・助動詞 (1 回目)	Chapter 2 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES(文法問題)、Rearranging(並び替え)、Basic composition(基礎和文英訳)の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
5	Chapter 3 進行形・未来形・助動詞 (2 回目)	Dialogue(対話文解釈)、Reading Comprehension(長文読解)の問題を解く。	Chapter 3 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
6	Chapter 4 名詞・冠詞・代名詞 (1 回目)	Chapter 3 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES(文法問題)、Rearranging(並び替え)、Basic composition(基礎和文英訳)の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
7	Chapter 4 名詞・冠詞・代名詞 (2 回目)	Dialogue(対話文解釈)、Reading Comprehension(長文読解)の問題を解く。	Chapter 1~4 の復習。
8	まとめのテストおよび短いリーディング	Chapter 1~4 の内容についてまとめのテストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
9	Chapter 5 前置詞・接続詞 (1 回目)	文法解説を行った後、EXERCISES(文法問題)、Rearranging(並び替え)、Basic composition(基礎和文英訳)の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
10	Chapter 5 前置詞・接続詞 (2 回目)	Dialogue(対話文解釈)、Reading Comprehension(長文読解)の問題を解く。	Chapter 5 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
11	Chapter 6 形容詞・副詞と比較級 (1 回目)	Chapter 5 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES(文法問題)、Rearranging(並び替え)、Basic composition(基礎和文英訳)の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
12	Chapter 6 形容詞・副詞と比較級 (2 回目)	Dialogue(対話文解釈)、Reading Comprehension(長文読解)の問題を解く。	Chapter 6 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
13	Chapter 7 命令文・感嘆文 (1 回目)	Chapter 6 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES(文法問題)、Rearranging(並び替え)、Basic composition(基礎和文英訳)の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
14	Chapter 7 命令文・感嘆文 (2 回目)	Dialogue(対話文解釈)、Reading Comprehension(長文読解)の問題を解く。	Chapter 5~7 の復習。
15	まとめのテストおよび短いリーディング	Chapter 5~7 の内容についてまとめのテストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	前期で学んだ事項を復習。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Slow & Steady 大学生の総合基礎英語	佐藤哲三	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	この授業では、教科書のタイトル通り、「ゆっくりと着実に」、基礎力の修得を目指します。それは、日常会話・新聞・雑誌・論文・文学などすべての英語に必要不可欠なものです。受け身ではなく、各自が積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	サトラー トニー

基礎科目

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。集中的 (intensive) に読解を行うことで、文意を的確に把握しながら、ポイントをつかんでいく訓練をする。 This is a high beginner level English communication class with the goal of developing students listening, reading and speaking skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	時事的な英文を読むことで、英語読解力の増強だけでなく、多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず充分予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。 また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。 Reading, listening, speaking and writing activities, done individually, as well as pair/small group work and class discussions.
科目学習の効果 (資格)	Students will develop the skills and confidence to use English more fluently and accurately.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 Introductions	Greetings and useful language for exchanging personal information. Textbook activities	Preview vocabulary for next lesson
3	Unit 1 continue	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
4	Unit 2 What a life!	Talking about daily routines and life as a student. Listening, reading, speaking activities	Study for U1 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
5	Unit 2 cont.,	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
6	Unit 3 Free time	Talking about social life and leisure. Listening, reading, speaking activities	Study for U2 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
7	Unit 3 cont.,	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
8	Unit 4 Places	Discussing hometowns and neighborhoods. Listening, reading, speaking. Review vocabulary and grammar for Units 1-3 exam	Study for U3 vocab/grammar quiz. Review grammar, vocabulary,
9	Mid-semester exam (Units 1-3)	Mid-semester exam (Units 1-3) Vocabulary, grammar, listening	Preview Units 1-3 grammar and vocabulary for exam
10	Unit 4 cont.,	Review students exam results. Talking about hobbies and interests. Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
11	Unit 5 Getting around	Language for talking about getting around town, asking for/giving directions. Listening, reading, speaking activities	Study for U4 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
12	Unit 5 cont.,	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
13	Unit 6 Shopping	Talking about celebrations and festivals. Listening, reading, speaking activities	Study for U5 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
14	Unit 6 cont.,	Talking about shopping, checking prices. Listening, reading, speaking activities. Review Units 4-6 for the end of semester exam next week	Study for U6 vocab/grammar quiz. Review vocabulary and grammar for end of semester exam next week
15	End of semester exam (Units 4-6)	End of semester exam (Units 4-6) Vocabulary, grammar, listening	Review Units 4-6 before exam

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1	Miles Craven	Macmillan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance/attitude/effort (30%), Mid-semester test (20%), End of semester test (30%), Small tests/quizzes, assessed homework (20%)
学生への メッセージ	This is a communication course, so students should try to use English as much as possible. Students are expected to be courteous to one another and to the teacher, and to demonstrate a co-operative attitude to learning. Habitual lateness, sleeping in class, forgetting to bring the textbook, using cell phones other than as a learning aid, are examples of unacceptable behaviour and repeat offenders will receive a lower grade or may find it difficult to pass this course. If a student forgets to bring his/her textbook to class, the student is responsible for making a copy of someone else's textbook for that lesson. Students are expected to do assigned homework at home, by themselves. Failure to submit homework when it is due will result in a lower grade. There will be a number of short quizzes/tests throughout the course which will count towards a student's grade.
担当者の 研究室等	Building 7, 2nd floor.
備考	予習復習を含めた事前事後学習の総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム

授業概要・目的	Students will be able to have a basic predictable business conversation. Understand basic announcements and business conversations. Understand basic office english.
到達目標	The students can: (1) improve reading skills in English; (2) learn English pronunciation; (3) improve communication skills in English; and (4) improve listening skills in English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students will be given reading and writing review exercises. These review exercises must be completed a brought to the the next class. Bring your textbook to every class.
科目学習の効果 (資格)	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction.	Course overview, objectives, learning outcomes, and explanation of assessment	Students make sure they have the textbook.
	2	Occupations and duties.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	3	Introductions, positions and responsibilities.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	4	Finding your way around an office building.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	5	Instructions and processes.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	6	Invitations and preferences.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	7	Review	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	8	Quizz and review.	Listening, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	9	Media	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	10	Travel arrangements.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	11	Requests for information and assistance.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	12	Sales Figures.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
	13	Review	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the units and complete the homework review sheet and review for the quiz.
	14	Quiz & Review.	Listening, reading and writing.	Students should review the units.
	15	Issues	Dealing with any issues.	Make sure all your work is up to date and has been seen by the teacher.

関連科目	他の英語関係科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford UP
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Short quizzes 30%, Homework and Preparation for class 20% Written work in class 15% Lisening in class 20% Clear accurate Speaking in class 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be very useful in the future. (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル

授業概要・目的	The Network textbook will help you navigate the English social media landscape learning inter-connectedness, profile creation and general on-line communication skills. 興味をわくトピックを通じて英語の基礎力を伸ばし、応用への基盤を作る。
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果 (資格)	・・・

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	First Term Test Review	評価方法など、次回の単語テストの予習。テキスト	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	テスト一回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	テスト2回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	テスト3回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	テスト4回目	Feedback session	・・・

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network: Get Connected (Starter)	Tom Hutchinson, Kristin Sherman	Oxford (OUP) ISBN 978-0-190467157-6
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		SEIBIDO
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の単語テスト・・・30% テスト4回+音読+授業態度・・・70%
-----------	--

学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	・・・
----	-----

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	アレク ニール

授業概要・目的	Students will develop basic skills, reading, writing, listening and speaking in English
到達目標	Students will use teacher worksheets. Pair and team work will be used
授業方法と留意点	Attendance and active work are the basic requirements. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	Students try to work together and enjoy reading English.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	2	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	3	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	4	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	5	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	6	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	7	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	8	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	9	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	10	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	11	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	12	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	13	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	14	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	15	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Handouts distributed in class		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Student participation 30% TOEIC test 20% Student worksheets 50%
-----------	---

学生へのメッセージ	4技能の向上を目指しましょう。 Let's aim to improve the four skills.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	サトラー トニー

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。集中的 (intensive) に読解を行うことで、文意を的確に把握しながら、ポイントをつかんでいく訓練をする。 This is a high beginner level English communication class with the goal of developing students listening, reading and speaking skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	時事的な英文を読むことで、英語読解力の増強だけでなく、多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず充分予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。 また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。 Reading, listening, speaking and writing activities, done individually, as well as pair/small group work and class discussions.
科目学習の効果 (資格)	Students will develop the skills and confidence to use English more fluently and accurately.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Welcome back after vacation. Unit 7 What's happening	Worksheet pair interviews, summer vacation questionnaire. Begin U7, things happening now and around now.	Preview the vocabulary
2	Unit 7 continue,	Talking about household chores and everyday tasks. Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
3	Unit 8 People	Describing people's appearance and character. Listening, reading, speaking activities from textbook.	Study for U7 vocab/grammar quiz. Review vocabulary for next lesson
4	Unit 8 cont.,	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
5	Unit 9 Having fun	Talking about social activities, free time, leisure, invitations. Listening, reading, speaking activities	Study for U8 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
6	Unit 9 cont.,	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
7	Unit 9 cont.,	Listening, reading, speaking activities	Study for U9 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson.
8	Unit 10 Vacation	Talking about what people do on vacation. Listening, reading, speaking. Review vocabulary and grammar for Units 7-9 exam	Review for mid-semester exam (Units 7-9) grammar, vocabulary, reading comprehension
9	Mid term exam (Units 7-9)	Mid-semester exam (Units 7-9) Vocabulary, grammar, listening	Preview vocabulary, grammar for exam.
10	U 10 cont.	Go over students mid term exam results. Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
11	Unit 11 Life stories	Talking about milestones in life. Listening, reading, speaking activities	Study for U10 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
12	Unit 11 cont.,	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
13	Unit 12 Hopes and intentions	Talking about personal ambitions and life goals. Listening, reading, speaking activities	Study for U11 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
14	Unit 12 cont.,	Listening, reading, speaking activities. Review Units 10-12 for the end of semester exam next week	Study for U12 vocab/grammar quiz. Review vocabulary and grammar for the end of semester exam next week
15	End of semester exam (Units 10-12)	End of semester exam (Units 10-12) Vocabulary, grammar, listening	Review Units 10-12 for exam.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1	Miles Craven	Macmillan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance/attitude/effort (30%), Mid-semester test (20%), End of semester test (30%), Small tests/quizzes, assessed homework (20%)
-----------	---

<p>学生への メッセージ</p>	<p>This is a communication course, so students should try to use English as much as possible. Students are expected to be courteous to one another and to the teacher, and to demonstrate a co-operative attitude to learning. Habitual lateness, sleeping in class, forgetting to bring the textbook, using cell phones other than as a learning aid, are examples of unacceptable behaviour and repeat offenders will receive a lower grade or may find it difficult to pass this course. If a student forgets to bring his/her textbook to class, the student is responsible for making a copy of someone else's textbook for that lesson. Students are expected to do assigned homework at home, by themselves. Failure to submit homework when it is due will result in a lower grade. There will be a number of short quizzes/tests throughout the course which will count towards a student's grade.</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>Building 7, 2nd floor.</p>
<p>備考</p>	<p>予習復習を含めた事前事後学習の総時間をおおよそ 15 時間程度とする。</p>

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム

授業概要・目的	Students will be able to have a basic predictable business conversation. Understand basic announcements and business conversations. Understand and use basic office English.
到達目標	The students can: (1) improve reading skills in English; (2) learn English pronunciation; (3) improve communication skills in English; and (4) improve listening skills in English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students will be given reading and writing review exercises. These review exercises must be completed a brought to the the next class. Bring your textbook to every class.
科目学習の効果 (資格)	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Telephoning & emailing.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
3	Plans for the future.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
4	Review.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
5	Your work and personal history.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
6	Making arrangements for meeting and conferences.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
7	Review	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
8	Arts and media.	Listening and reading.	Students should make sure all their work is up to date.
9	Promotional campaigns.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
10	Locations, directions and arranging meeting places.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
11	Congratulating team members and well wishing.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
12	Review	Listening, speaking, reading and writing.	Students should review the unit and complete the homework review sheet.
13	The festive season.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should prepare for the review quiz.
14	Quizz and review.	Listening, speaking, reading and writing.	Students should prepare for the review quiz.
15	Issues	Dealing with any issues.	Make sure all you work is up to date and has been seen by the teacher.

関連科目	他の英語関係科目
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	In-class activities and participation (50%) Short quizzes (30%), Homework and preparation for class (20%)
-----------	---

学生へのメッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be very useful in the future. (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル

授業概要・目的	The Network textbook will help you navigate the English social media landscape learning inter-connectedness, profile creation and general on-line communication skills. 興味のおトピックを通じて英語の基礎力を伸ばし、応用への基盤を作る。
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果 (資格)	・・・

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト	First Term Test Review	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	テスト一回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	テスト2回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	テスト3回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	テスト4回目	Feedback session	・・・

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network: Get Connected (Starter)	Tom Hutchinson, Kristin Sherman	Oxford (OUP) ISBN 978-0-190467157-6
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		SEIBIDO
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の単語テスト・・・30% テスト4回+音読+授業態度・・・70%
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	・・・

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	アレク ニール

授業概要・目的	Students will develop basic skills, reading, writing, listening and speaking in English
到達目標	Students will use teacher worksheets. Pair and team work will be used.
授業方法と留意点	Attendance and active work are the basic requirements. All class activities will be in English
科目学習の効果 (資格)	Students try to work together and enjoy reading English

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	2	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	3	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	4	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	5	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	6	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	7	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	8	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	9	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	10	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	11	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	12	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	13	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	14	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson
	15	Exercises	Translation and group work	Students should study the content if the day's lesson

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Handouts distributed in class		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Student participation 30% TOEIC test 20% Student Worksheet 50%
学生へのメッセージ	4技能の向上を目指しましょう。 Let's aim to improve the four skills
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	EnglishⅡa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 1 Education and Gender	授業内容についての説明 読解・問題 (pp.13~15) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0714-0728)
	2	Unit 1 Education and Gender	Review 読解・問題 (pp.16~18) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0729-0743)
	3	Unit 2 Global Warming	読解・問題 (pp.19~21) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0744-0758)
	4	Unit 2 Global Warming	Review 読解・問題 (pp.22~24) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0759-0773)
	5	Unit 3 Drinking Water	読解・問題 (pp.25~27) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0774-0788)
	6	Unit 3 Drinking Water	Review 読解・問題 (pp.28~30) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0789-0803)
	7	Unit 4 Poverty and Hunger	読解・問題 (pp.31~33) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0804-0818)
	8	Unit 4 Poverty and Hunger	Review 読解・問題 (pp.34~36) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0819-0833)
	9	Unit 5 Fighting Disease	読解・問題 (pp.37~39) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0834-0848)
	10	Unit 5 Fighting Disease	Review 読解・問題 (pp.40~42) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0849-0863)
	11	Unit 6 Terrorism	読解・問題 (pp.43~45) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0864-0878)
	12	Unit 6 Terrorism	Review 読解・問題 (pp.46~48) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0879-0893)
	13	Unit 7 Internment	読解・問題 (pp.51~53) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0894-0908)
	14	Unit 7 Internment	Review 読解・問題 (pp.54~56) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (0909-0916)
		15	General Review	Unit 1~Unit 7までの総まとめ
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)			20% 10% 70%
学生への メッセージ	予習・復習をしっかりとやりましょう。 授業への積極的な参加を期待します。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	EnglishⅡa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	新入社員	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
2	職場の風景	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
3	映画上映	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
4	事業を興す 読解教材	作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
5	事業を興す 読解教材	作業用紙による練習問題と解答	授業内容の復習 確認テスト
6	休日	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
7	銀行ATM	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
8	授業1回～7回の総復習 中間テスト	質問と回答 中間テスト	1回～7回授業の質問をまとめておく。 中間テストの事前勉強
9	郵便・宅急便	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
10	外食	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
11	外人観光客を呼び込む 読解教材	作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
12	外人観光客を呼び込む 読解教材	作業用紙による練習問題と解答	授業内容の復習 確認テスト
13	定期検診	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
14	健康維持	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
15	授業9回～14回の総復習 まとめのテスト	質問と回答 まとめのテスト	9回～14回授業の質問をまとめておく。 まとめのテストの事前勉強

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
2	Basic Listening for the ToEIC Test	Shari J. Berman, Alice L. Bratton, Makoto Hayasaka, Toshihiro Okada	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題A 全学共通英語課題B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ
授業はリズムカルにテンポよく進めます。
集中力をきらさず一生懸命ついてきてください。

担当者の研究室等
7号館2階(非常勤講師室)

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 II a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子

授業概要・目的 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。

「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。

「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

授業方法と留意点 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格) TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	Where is the PC room?	場所を訪ねる/ 自己紹介	テキストの予習と単語の学習
3	What does "term" mean?	わからない言葉を探る/ お気に入りの場所の紹介	テキストの予習と単語の学習
4	When does Golden Week start?	日程を確認する/ 休日の過ごし方	テキストの予習と単語の学習
5	I'm a member of the International Exchange Club.	クラブ活動を説明する/ 自分の所属クラブの紹介	テキストの予習と単語の学習
6	I have a part-time job as a sales clerk.	アルバイトについて説明する/ 自分のアルバイトについて書く	テキストの予習と単語の学習
7	What do you think about this program?	相手の意見を聞く/ eメール	テキストの予習と単語の学習
8	How will you spend your vacation?	夏休みの予定について話す/ 自分の夏休みの計画を書く	テキストの予習と単語の学習
9	When is the due date?	レポートの締め切りを探る/ スケジュール	テキストの予習と単語の学習
10	May I take a bath every night?	ホストファミリーのルールを探る/ 手紙の返事を書く	テキストの予習と単語の学習
11	Is this the right bus to go downtown?	行き先の確認をする	テキストの予習と単語の学習
12	Do you need some help?(1)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	テキストの予習と単語の学習
13	Do you need some help?(2)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	テキストの予習と単語の学習
14	It looks like my GPA has improved.	成績について話す/ 自分の成績や単位について書く	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Campus English	田村 雅昭他	セーラーズエデュケーション株式会社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 全学共通英語課題 A 20%
全学共通英語課題 B 10%
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%

学生へのメッセージ 辞書を持参して毎回出席すること、指定された箇所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 事前・事後学習には1時間以上かけること。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	EnglishⅡa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中本 明子

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	教科書全体に目を通しておくこと
	2	Unit 1 Fashion	名詞	Unit 1の単語の確認と予習・復習
	3	Unit 2 Companies	代名詞	Unit 2の単語の確認と予習・復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	4	Unit 3 Business Trips	自動詞・他動詞・リンキング動詞	Unit 3の単語の確認と予習・復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	5	Unit 4 Transportation and commuting	助動詞	Unit 4の単語の確認と予習・復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	6	Unit 5 Marketing, Sales and Products	不定詞・動名詞	Unit 5の単語の確認と予習・復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	7	Unit 1からUnit 5までの復習	名詞、代名詞、動詞、助動詞と不定詞・動名詞	Unit 1からUnit 5までの復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	8	Unit 6 Offices and Supplies	場所・動きを表す前置詞	Unit 6の単語の確認と予習・復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	9	Unit 7 Meetings and Presentations	時間を表す前置詞	Unit 7の単語の確認と予習・復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	10	Unit 8 Art	形容詞・副詞	Unit 8の単語の確認と予習・復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	11	Unit 9 Restaurants and Food	原級・比較級・最上級	Unit 9の単語の確認と予習・復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	12	Unit 10 Housing	接続詞(1)	Unit 10の単語の確認と予習・復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	13	Unit 11 The Environment and Recycling	現在時制と現在進行形	Unit 11の単語の確認と予習・復習 リングボルト課題 英会話・各種英語資格講座への参加またはE-learningのATR-CALL
	14	Unit 6からUnit 11までの復習	前置詞、比較、接続詞と現在形	前期の総復習
15	前期の総括	前期まとめテストと解説	テストの復習	
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多 吉彦	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A			20%
	全学共通英語課題 B			10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)			70%
学生への メッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。英和辞書は毎回携帯して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIB
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	オリエンテーション、評価方法など	Students should study the content of the day's lesson
2	Pleased to meet you	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
3	Do you remember me?	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
4	Job Interviews	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
5	I spoke to Ms. Hayashi Yesterday	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
6	When does the meeting start?	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
7	Solving Problems	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study for the midterm test
8	Midterm	中間テスト	Students should study the content of the day's lesson
9	Can you meet me at the airport?	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
10	Feel Free to ask me anytime	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
11	Introducing Companies and Products	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
12	I'm thinking about quitting my job	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
13	I'll give her your message	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
14	Communicating on the Phone	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめテスト	Feedback session	・・・

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Read Aloud & Learn English	Teruhiko Kadoyama and Simon Capper	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ
語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。

担当者の研究室等
7号館3階 吉村 征洋 研究室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿

授業概要・目的 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

授業方法と留意点 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果 (資格) TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	—————
2	Unit 1 Lions 百獣の王ライオン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 1-4
3	Unit 2 Ramen ラーメン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 5-8
4	Unit 3 The Leaning Tower ピサの斜塔	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 9-12
5	Unit 4 A Smart Dog 賢いワンちゃん	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 13-16
6	Unit 5 Twenty-First Century Books 電子書籍	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 17-20
7	Unit 6 Valentine's Day バレンタインデー	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 21-24
8	Unit 7 The Taj Mahal ある愛の形	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 25-28
9	Unit 8 A Computer Problem コンピューターのホットな問題	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 29-32
10	Unit 9 The Mobius Band 不思議な輪	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 33-36
11	Unit 10 A Long Weekend 休日の落とし穴	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 37-40
12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など前期範囲一通り

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版	Cathy Malarcher, 原田慎一	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 全学共通英語課題 A 20%
全学共通英語課題 B 10%
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%

学生へのメッセージ 「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れま。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English I Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	猪股 祐介

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などについて説明する。	
	2	CASE 1 Pickpocket	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz
	3	CASE 2 Arsonist	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	4	CASE 3 Painting Heister	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	5	CASE 4 Burglar	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	6	CASE 5 Pearl Thief	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	7	CASE 6 Intruder	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	8	CASE 7 Assaulter	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	9	Review Test	これまでの復習を併せて行う。	Vocabulary Quiz (前回分) Review Test
	10	CASE 8 Shooter	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	11	CASE 9 Kidnapper	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	12	CASE 10 Drug Dealer	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	13	CASE 11 Murderer	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	14	CASE 12 Bandit	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)
	15	まとめのテスト	これまでの復習を併せて行う。	授業中の課題 Listening Quiz Vocabulary Quiz (前回分)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Crime Never Pays</td> <td>Atsuko Uemura, Arene Iwasaki</td> <td>CENGAGE Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Crime Never Pays	Atsuko Uemura, Arene Iwasaki	CENGAGE Learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Crime Never Pays	Atsuko Uemura, Arene Iwasaki	CENGAGE Learning													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

<p>評価方法 (基準)</p>	<p>全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%</p>
<p>学生への メッセージ</p>	<p>みなさんの英語力をフルに駆使して、課題に臨みましょう。 リーディングでは、目に入ってくる順に、「意味のまとまり」ごとに、内容を把握していく速読スキルを身に付けます。 リスニングでは、細部まで聞き取ること、会話練習では、臨場感ある音読を心がけましょう。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館2階 非常勤講師室</p>
<p>備考</p>	<p>事前学習課題：リーディングの下読みをし、わからない単語は辞書で調べてくる。 事後学習課題：Summaryを作成する。Vocabulary Quizに備え、単語のスペルを暗記する。 毎回、英和辞典を持参すること。 出席日数は平常点としない。 授業を妨げる行為は減点対象とする。 授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもある。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。</p>

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅田 尋道

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	教科書を購入しておく
2	Exercises	Listening drill and grammar review	新出語彙の確認
3	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 901-920
4	Exercises	Listening drill and grammar review	新出語彙の確認
5	Exercises	Listening drill and grammar review	新出語彙の確認
6	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 921-940
7	Exercises	Reading drill and grammar review	新出語彙の確認
8	Exercises Midterm exam	Reading drill and grammar review	第1～7週の既習箇所の復習
9	Exercises	Reading drill and grammar review	新出語彙の確認
10	Exercises	Reading drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 941-1000
11	Exercises	Reading drill and grammar review	新出語彙の確認
12	Exercises	Listening drill and grammar review	新出語彙の確認
13	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1001-1020
14	Exercises	Listening drill and grammar review	新出語彙の確認
15	Review Final exam	Individual task, pair work, and group work	第9～14週の既習箇所の復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>21st century reading 1</td> <td>r. longshaw 他</td> <td>cengage learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	21st century reading 1	r. longshaw 他	cengage learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	21st century reading 1	r. longshaw 他	cengage learning														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂														
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	<table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%
全学共通英語課題 A	20%						
全学共通英語課題 B	10%						
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%						
学生へのメッセージ	映画からいろいろな「使える表現」と「文化」を学ぼう。						
担当者の研究室等	7号館2階講師控え室						
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。						

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8 Atomic Weapons	授業内容についての説明 読解・問題 (pp57~59) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1091-1105)
	2	Unit 8 Atomic Weapons	Review 読解・問題 (pp. 60~62) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1106-1120)
	3	Unit 9 Genocide and Crimes against Humanity	読解・問題 (pp. 63~65) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1121-1135)
	4	Unit 9 Genocide and Crimes against Humanity	Review 読解・問題 (pp. 66~68) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1136-1150)
	5	Unit 10 Landmines	読解・問題 (pp. 69~71) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1151-1165)
	6	Unit 10 Landmines	Review 読解・問題 (pp. 72~74) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1166-1180)
	7	Unit 11 Refugees	読解・問題 (pp. 75~77) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1181-1195)
	8	Unit 11 Refugees	Review 読解・問題 (pp. 78~80) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1196-1210)
	9	Unit 12 Nelson Mandela	読解・問題 (pp. 83~85) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1211-1225)
	10	Unit 12 Nelson Mandela	Review 読解・問題 (pp. 86~88) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1226-1240)
	11	Unit 13 Aung San Suu Kyi	読解・問題 (pp. 89~91) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1241-1255)
	12	Unit 13 Aung San Suu Kyi	Review 読解・問題 (pp. 92~94) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1256-1270)
	13	Unit 14 The Red Cross and Red Crescent Movement	読解・問題 (pp. 95~97) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1271-1285)
	14	Unit 14 The Red Cross and Red Crescent Movement	Review 読解・問題 (pp. 98~100) 単語テスト Quiz	授業範囲の予習と復習 単語テスト (1286-1296)
	15	General Review	総まとめ	授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと。
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues Towards peace	Keiso Tatsukawa 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)			20% 10% 70%
学生への メッセージ	予習・復習をしっかりとやりましょう。 授業への積極的な参加を期待します。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる【CEFR-J B1-1 目標】。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	体調不良	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
2	賃貸市場	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
3	停電さわぎ	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
4	就活 読解教材	作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
5	就活 読解教材	作業用紙による練習問題と解答	授業内容の復習 確認テスト
6	為替レート	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
7	品物を選ぶ	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
8	授業1回～7回の総復習 中間テスト	質問と回答 中間テスト	1回～7回授業の質問をまとめておく。 中間テストの事前勉強
9	割引券	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
10	フライトの時間	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
11	世界遺産登録 読解教材	作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
12	世界遺産登録 読解教材	作業用紙による練習問題と解答	授業内容の復習 確認テスト
13	チェックイン	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
14	市内観光	聞き取りテスト スクリプトによる読解演習	授業内容の復習 確認テスト
15	授業9回～14回の総復習 まとめのテスト	質問と回答 まとめのテスト	9回～14回授業の質問をまとめておく。 まとめのテストの事前勉強

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
2	Basic Listening for the ToEIC Test	Shari J. Berman, Alice L. Bratton, Makoto Hayasaka, Toshihiro Okada	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ	授業はリズムカルにテンポよく進めます。 集中力をきらさず一生懸命ついてきてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子

基礎科目

授業概要・目的	2次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の確認、プリント	テキスト前期の内容の確認、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	I don't know which to choose.	ゼミ決定を相談する/ゼミ決定の理由を書く	テキストの予習と単語の学習
3	He got a job with a copy machine company.	就職活動について話す/自分の職業適性について書く	テキストの予習と単語の学習
4	How do you make them laugh?	学園祭での模擬店/お茶の入れ方の手順を書く	テキストの予習と単語の学習
5	it is a celebrationday for kids.	日本文化を紹介する/日本の祝日	テキストの予習と単語の学習
6	What is your favorite dish at the cafeteria?	学食のメニューについて話す/自分の好きな(嫌いな)メニューについて書く	テキストの予習と単語の学習
7	What is Chistmas like in your country?	クリスマスの過ごし方/クリスマスカードを書く	テキストの予習と単語の学習
8	Your e-mail is full of garbled text.	メールの文字化けについて話す/新年のあいさつ、メール	テキストの予習と単語の学習
9	I'd like to talk about my research(1)	ゼミで発表する/自分の好きな世界遺産について書く	テキストの予習と単語の学習
10	I'd like to talk about my research(2)	ゼミで発表する/自分の好きな世界遺産について書く	テキストの予習と単語の学習
11	That's why I applied for the position.	人事面接を受ける/自分のアピールポイントを書く	テキストの予習と単語の学習
12	Who's your date?	バレンタインデーの過ごし方/ラブソングの歌詞	テキストの予習と単語の学習
13	Why don't you plan a farewell party?	追い出しコンパを企画する/追い出しコンパの計画を書く	テキストの予習と単語の学習
14	I have set three goals for myself.	目標を決める/自分の来年度の目標を書く	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Campus English	田村 雅昭他	セーラーズ・エデュケーション株式会社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	前期の重要ポイントの復習 (品詞、5 文型など)	教科書全体に目を通しておくこと リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	2	Unit 12 Business Profile	過去時制	Unit 12 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	3	Unit 13 Schedules	未来	Unit 13 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	4	Unit 14 Computers and the Internet	現在完了時制・過去完了時制	Unit 14 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	5	Unit 15 Industry and Manufacturing	能動態と受動態	Unit 15 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	6	Unit 16 Making Arrangements	接続詞 (2)	Unit 16 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	7	Unit 12 から Unit 16 までの復習	過去形・未来形、完了形、態と接続詞	Unit 12 から unit 16 までの復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	8	Unit 17 Business Culture	否定文	Unit 17 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	9	Unit 18 Recruitment	疑問文・疑問詞・付加疑問文	Unit 18 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	10	Unit 19 Entertaining and Socializing	関係代名詞・関係副詞	Unit 19 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	11	Unit 20 Education	後置修飾	Unit 20 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	12	Unit 21 Banking	仮定法	Unit 21 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	13	Unit 22 Health	話法	Unit 22 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 英会話・各種英語資格講座への参加または E-learning の ATR-CALL
	14	Unit 17 から Unit 22 までの復習	否定文、疑問文、関係詞、後置修飾、仮定法と話法	後期の総復習
	15	後期の総括	後期まとめテストと解説	テストの復習
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多 吉彦	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。英和辞書は携帯して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	オリエンテーション、評価方法など	Students should study the content of the day's lesson
2	I haven't received the latest figures	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
3	The cafeteria is closed today	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
4	Technology	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
5	We expect higher sales in China	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
6	I'd like to check in.	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
7	Traveling on Business	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study for the midterm test
8	Midterm	中間テスト	Students should study the content of the day's lesson
9	How about going to the theater?	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
10	I like to travel a lot	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
11	Social with Confidence	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
12	What are your plans for the future?	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
13	Negotiating for Success	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
14	Participating in a Meeting	ダイアログのリスニングと音読、およびペアワーク	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめテスト	Feedback session	・・・

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Read Aloud & Learn English	Teruhiko Kadoyama and Simon Capper	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ
語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。

担当者の研究室等
7号館3階 吉村 征洋 研究室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿

基礎科目

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	前期に習った内容の復習	—————
2	Unit 11 Breakfast in America アメリカの朝食	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.41-44
3	Unit 12 The World Cup ワールドカップ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.45-48
4	Unit 13 Blood Types 血液型で性格判断	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.49-52
5	Unit 14 Reality TV リアリティ番組	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.53-56
6	Unit 15 Rodeos ロデオ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.57-60
7	Unit 16 Women's Sumo 女子相撲	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.61-64
8	Unit 17 Studying Abroad ある愛の形	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.65-68
9	Unit 18 The Palace of Salt しょっぱいホテル	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.69-72
10	Unit 19 The Mona Lisa モナリザの微笑	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.73-76
11	Unit 20 Lizards トカゲは好きですか	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.77-80
12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など後期範囲一通り

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版</td> <td>Cathy Malarcher、原田慎一</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版	Cathy Malarcher、原田慎一	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版	Cathy Malarcher、原田慎一	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
----------	---

学生へのメッセージ
 「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！

担当者の研究室等
 7号館2階非常勤講師室

備考
 事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	猪股 祐介

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などについて説明する。	
2	Chapter 1 Learning a Second Language	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
3	Chapter 2 The Best Place to Live	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
4	Chapter 3 A Musical Family	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
5	Chapter 4 The McCaugheys: An Unusual Family	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
6	Chapter 5 The Importance of Exercise for Children	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
7	Chapter 6 The New York City Marathon: A World Race	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
8	Chapter 7 Margaret Mead: The World Was Her Home	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
9	Review Test	これまでの復習を併せて行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前: Review Test に備え、これまでの内容を復習する。
10	Chapter 8 Louis Pasteur: A Modern-Day Scientist	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
11	Chapter 9 The Origin of the Moon	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
12	Chapter 10 A New Route across the Top of the World	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
13	Chapter 11 Clues and Criminal Investigation	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
14	Chapter 12 Saving Lives with Weather Forecasting	読解・リスニング・音読練習を中心に授業を行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:重要語句を辞書で調べ、テキストに記入する。 リーディングを音読する。 事後: Summary を作成する。Vocabulary Quiz に備え、単語を復習する。
15	まとめのテスト	これまでの復習を併せて行う。 Vocabulary Quiz (前回分)	事前:まとめのテストに備え、これまでの内容を復習する。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Base	Miwako Yamashina, Mitsuru Yokoyama, Yasuko Okino	CENGAGE Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)		20% 10% 70%	
学生への メッセージ	アカデミックなテーマの英文に挑みます。論理的な構造をもつ複雑な文章になりますが、臆せずチャレンジしてきましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習課題は、上記の指示通りに必ずやってくること。 毎回、英和辞典を持参すること。 出席日数は平常点としない。 授業を妨げる行為は減点対象とする。 授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもある。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅田 尋道

授業概要・目的 2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標 「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。

「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。

「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。

授業方法と留意点 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格) TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	教科書を購入しておく
2	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1281-1300
3	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1301-1320
4	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1321-1340
5	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1341-1360
6	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1361-1380
7	Exercises	Reading drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1381-1400
8	Exercises Midterm exam	Reading drill and grammar review	第1～7週の既習箇所の復習
9	Exercises	Reading drill and grammar review	新出語彙の確認
10	Exercises	Reading drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1401-1420
11	Exercises	Reading drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1421-1440
12	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1441-1460
13	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1461-1480
14	Exercises	Listening drill and grammar review	ミニテスト予習 範囲: Nos. 1481-1500
15	Review Final exam	Individual task, pair work, and group work	第9～14週の既習箇所の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	21st century reading 1	r. longshaw 他	cengae learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 全学共通英語課題 A 20%
全学共通英語課題 B 10%
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%

学生へのメッセージ 映画からいろいろな「使える表現」と「文化」を学ぼう。

担当者の研究室等 7号館2階講師控え室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English I c
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	飯井 恵美子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	概要説明	—————	—————
	2	Lesson 1 4	分詞	演習 1 4
	3	Lesson 1 5	分詞	演習 1 5
	4	Lesson 1 6	動名詞	演習 1 6
	5	Lesson 1 7	動名詞	演習 1 7
	6	Lesson 1 8	形容詞	演習 1 8
	7	Lesson 1 9	比較	演習 1 9
	8	Lesson 2 0	比較	演習 2 0
	9	Lesson 2 1	関係詞	演習 2 1
	10	Lesson 2 2	関係詞	演習 2 2
	11	Lesson 2 3	仮定法	演習 2 3
	12	Lesson 2 4	仮定法	演習 2 4
	13	Lesson 1 4 - 2 4	Grammar Point の復習	授業の復習
	14	総合復習	総合復習	—————
	15	プリント教材	TOEIC 演習	—————

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Mastering Basic English Grammar	北山長貴	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）	70%

学生へのメッセージ
多くの英文を読みたいと思います。
予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。

担当者の研究室等
7号館2階（非常勤講師室）

備考
予習、復習は毎回1時間
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 11: Foreign tourists enjoy miso experience	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 61-66 単語: NO. 387-416
	2	Unit 12: Women leaping over the gender barrier	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 67-72 単語: NO. 397-426
	3	Unit 13: France moves to ban ultrathin models	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 73-78 単語: NO. 407-436
	4	Unit 14: Merkel joins survivors, U.S. vets to mark Dachau liberation	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 79-84 単語: NO. 417-446
	5	Unit 15: Starbucks to expand college tuition program	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 85-90 単語: NO. 427-456
	6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	教科書: 単語: NO. 437-466
	7	中間テスト	Unit 11~15 までの内容についてテスト	教科書: 単語: NO. 447-476
	8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	教科書: P. 単語: NO. 457-486
	9	Unit 16: U.S. remembers King amid racial tensions	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 91-96 単語: NO. 467-496
	10	Unit 17: Japan to lure foreign visitors off 'golden route'	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 97-102 単語: NO. 477-506
	11	Unit 18: Employers to ensure workers use vacation	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 103-108 単語: NO. 487-516
	12	Unit 19: Researchers test device to help deaf children detect sounds	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 109-114 単語: NO. 497-526
	13	Unit 20 : Ogimi goal epitomizes Nadeshiko fight to end	単語小テスト及び教科書演習	教科書: P. 115-120 単語: NO. 507-523
	14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	教科書 Unit 16~20 までの復習
	15	Unit 16-20 テスト	Unit 16~20 までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Meet the World: English through Newspapers 2016</td> <td>Yasuhiko Wakaari</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Meet the World: English through Newspapers 2016	Yasuhiko Wakaari	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Meet the World: English through Newspapers 2016	Yasuhiko Wakaari	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%
-----------	--

学生へのメッセージ
この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習/プリント教材</td> <td>前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Hiro Forgot (1)</td> <td>to 不定詞(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Hiro Forgot (2)</td> <td>to 不定詞(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>How Have You Been (1)</td> <td>現在完了(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>How Have You Been (2)</td> <td>現在完了(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>While They're Here (1)</td> <td>接続詞(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>While They're Here (2)</td> <td>接続詞(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>How Was Tennis? (1)</td> <td>比較(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>How Was Tennis? (2)</td> <td>比較(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>What Do You Mean?</td> <td>受動態</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Well, What Are You Waiting For? (1)</td> <td>分詞(現在分詞・過去分詞)(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Well, What Are You Waiting For? (2)</td> <td>分詞(現在分詞・過去分詞)(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>The Last Supper (1)</td> <td>関係詞(関係代名詞・関係副詞)(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>The Last Supper (2)</td> <td>関係詞(関係代名詞・関係副詞)(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト、復習</td> <td>これまでの内容の復習、まとめのテスト</td> <td>これまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習/プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習	2	Hiro Forgot (1)	to 不定詞(1)	テキストの予習と単語の学習	3	Hiro Forgot (2)	to 不定詞(2)	テキストの予習と単語の学習	4	How Have You Been (1)	現在完了(1)	テキストの予習と単語の学習	5	How Have You Been (2)	現在完了(2)	テキストの予習と単語の学習	6	While They're Here (1)	接続詞(1)	テキストの予習と単語の学習	7	While They're Here (2)	接続詞(2)	テキストの予習と単語の学習	8	How Was Tennis? (1)	比較(1)	テキストの予習と単語の学習	9	How Was Tennis? (2)	比較(2)	テキストの予習と単語の学習	10	What Do You Mean?	受動態	テキストの予習と単語の学習	11	Well, What Are You Waiting For? (1)	分詞(現在分詞・過去分詞)(1)	テキストの予習と単語の学習	12	Well, What Are You Waiting For? (2)	分詞(現在分詞・過去分詞)(2)	テキストの予習と単語の学習	13	The Last Supper (1)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(1)	テキストの予習と単語の学習	14	The Last Supper (2)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(2)	テキストの予習と単語の学習	15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習/プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習																																																																
2	Hiro Forgot (1)	to 不定詞(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Hiro Forgot (2)	to 不定詞(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	How Have You Been (1)	現在完了(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	How Have You Been (2)	現在完了(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	While They're Here (1)	接続詞(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	While They're Here (2)	接続詞(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	How Was Tennis? (1)	比較(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	How Was Tennis? (2)	比較(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
10	What Do You Mean?	受動態	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Well, What Are You Waiting For? (1)	分詞(現在分詞・過去分詞)(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	Well, What Are You Waiting For? (2)	分詞(現在分詞・過去分詞)(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	The Last Supper (1)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	The Last Supper (2)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English First - Basic</td> <td>Robert Hickling 他</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English First - Basic	Robert Hickling 他	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English First - Basic	Robert Hickling 他	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)		20% 10% 70%																																																																
学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)																																																																		
備考	事前・事後学習には 1 時間以上かけること。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。																																																																		

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松木園 久子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習および作文	前期に学んだ Useful Expressions などを参考に、グループ単位で自らの体験を英語で語り合い、作文する。	指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
	2	Chapter 8 不定詞 (1 回目)	文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
	3	Chapter 8 不定詞 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 8 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
	4	Chapter 9 動名詞と分詞 (1 回目)	Chapter 8 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
	5	Chapter 9 動名詞と分詞 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 9 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
	6	Chapter 10 各種疑問文・I t の特別用法 (1 回目)	Chapter 9 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
	7	Chapter 10 各種疑問文・I t の特別用法 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 8~10 の復習。
	8	まとめのテストおよび短いリーディング	Chapter 8~10 の内容についてまとめのテストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
	9	Chapter 11 受動態 (1 回目)	文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
	10	Chapter 11 受動態 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 11 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
	11	Chapter 12 完了形 (1 回目)	Chapter 11 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
	12	Chapter 12 完了形 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 12 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
	13	Chapter 13 接続詞 (II) (1 回目)	Chapter 12 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
	14	Chapter 13 接続詞 (II) (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 11~13 の復習。
	15	まとめのテストおよび短いリーディング	Chapter 11~13 の内容についてまとめのテストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	前期で学んだ事項を復習。
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Slow & Steady 大学生の総合基礎英語	佐藤哲三	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	この授業では、教科書のタイトル通り、「ゆっくりと着実に」、基礎力の修得を目指します。それは、日常会話・新聞・雑誌・論文・文学などすべての英語に必要不可欠なものです。受け身ではなく、各自が積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語コミュニケーション I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧川 宏樹

授業概要・目的	本授業では、実践的な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。ディスカッションのトピックを読みながら、読解力、語彙力、スピーチ力の強化を図る。
到達目標	ディスカッションを通じて英語力の向上を図るだけでなく、自らの考えをしっかりと持ち、それを発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	本授業では、ディスカッションの本文の読みを通して、リーディング力、語彙力、文法力を磨く。また本文に対する自分の意見を英語で発信する力も磨く。
科目学習の効果 (資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス Unit 1	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Unit 1 大学は秋入学にすべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	3	Unit 2 高校の部活は厳しすぎる	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	4	Unit 3 授業の出欠には指紋認証を使うべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	5	Unit 4 プロスポーツにもっと外国人選手を使うべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	6	Unit 5 物よりも経験を買う方が得である	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	7	Unit 6 初デートは男性がお金を払うべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	8	Unit 7 消費税は 15% に引き上げるべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	9	Unit 8 女性アイドルグループは若い子に良い影響を及ぼさない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	10	Unit 9 SNSは有益なメディアである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	11	Unit 9 SNSは有益なメディアである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	12	Unit 10 歩きスマホは違法にすべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	13	Unit 10 歩きスマホは違法にすべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	14	まとめ	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
15	まとめ試験	期末試験	試験対策	

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語で考え、英語で発信する	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験 50% 授業内発表、課題、小テスト 50%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧川 宏樹

授業概要・目的	本授業では、実践的な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。ディスカッションのトピックを読みながら、読解力、語彙力、スピーチ力の強化を図る。
到達目標	ディスカッションを通じて英語力の向上を図るだけでなく、自らの考えをしっかりと持ち、それを発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	本授業では、ディスカッションの本文の読みを通して、リーディング力、語彙力、文法力を磨く。また本文に対する自分の意見を英語で発信する力も磨く。
科目学習の効果(資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス Unit 11	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Unit 11 iPhoneは最高のスマートフォンである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	3	Unit 12 ゲームで遊ぶのは時間の無駄である	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	4	Unit 13 外国のお祭りを祝うのは悪いことではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	5	Unit 14 電車内でものを食べても構わない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	6	Unit 15 ラーメンは体に良くないので食べない方がよい	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	7	Unit 16 朝食はご飯よりもパンである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	8	Unit 17 血液型で人の性格は正しく分類できる	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	9	Unit 18 美容整形は悪いことではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	10	Unit 19 ビアスはするべきではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	11	Unit 19 ビアスはするべきではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	12	Unit 20 香水をつけるのは悪いことではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	13	Unit 20 香水をつけるのは悪いことではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	14	まとめ	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	15	まとめ試験	期末試験	試験対策

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語で考え、英語で発信する	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験 50% 授業内発表、課題、小テスト 50%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	この研修は、語学力（英語力）の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊はホームステイ形式である。費用は40万円前後を予定（為替レートにより変動の可能性あり）。*詳細は、3月～4月の募集ガイダンスで周知する。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。 ・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。 																
授業方法と留意点	<p>3月上旬～4月下旬 募集ガイダンス（日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する）、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施（全3回）</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p><研修スケジュール> [2週間コース] 8月中旬～8月下旬（予定）</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬（予定）</p> <p>9月下旬～10月上旬（予定） 成果報告会</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外渡航に関する基本的なガイダンス ・英語多読・英会話など、学内の教材や設備でできる英語学習（ガイダンス時に説明） ・インターネット上でもたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておく。 <p>海外研修中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はもちろん、授業外でも、講師やスタッフ、ホストファミリーなどに自分から英語で話してコミュニケーションをすすめる。 <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。 ・レポート。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	事前学習・成果報告会のプレゼン・レポート（30%） 研修先での成績（70%）																
学生へのメッセージ	ちがう学年、学部の学生と、切磋琢磨しながら成長できます。 海外研修は、自分の中のリーダーシップの芽生えが実感できるチャンスです。																
担当者の研究室等	国際交流センター																
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。 ・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修できる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今年度は受講できない場合もあります。 																

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之

授業概要・目的	スポーツ科学実習で習得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。																																																																		
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	【授業内容】 実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は下記のとおりである。 ①サッカー、②テニス、③ソフトボール、④バドミントン、バレーボール、バスケットボール⑤卓球 これら種目の他に、集中授業としてゴルフを開講しますが、通年授業の生涯スポーツ実習との重複履修は出来ません。 ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。																																																																		
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ																																																																
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニング理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	体育館1F 体育館事務室																																																																		
備考	【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤 潤

授業概要・目的	ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。																																																																		
到達目標	<p>《到達目標》</p> <p>①運動技能を向上させることができる ②競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：[A]</p>																																																																		
授業方法と留意点	事前ガイダンスと集中授業4日間合わせて5日間で行う。 5日間すべて受講できること。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前ガイダンス</td> <td>目的、内容、準備について ゴルフの概要</td> <td>ゴルフの概要を確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゴルフの基礎知識</td> <td>ゴルフのルール、マナーについて</td> <td>ルールの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ゴルフの基礎技術(1)</td> <td>グリップ、スウィング</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゴルフの基礎技術(2)</td> <td>打球練習場での練習 アイアン</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ゴルフの基礎技術(3)</td> <td>アプローチ、パター練習</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ゴルフの応用技術(1)</td> <td>打球練習場での練習 ドライバー</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ゴルフの応用技術(2)</td> <td>ミニラウンド</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ゴルフの実践</td> <td>ラウンド(9H)</td> <td>イメージトレーニング</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認	2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認	3	ゴルフの基礎技術(1)	グリップ、スウィング	技術の反復練習	4	ゴルフの基礎技術(2)	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習	5	ゴルフの基礎技術(3)	アプローチ、パター練習	技術の反復練習	6	ゴルフの応用技術(1)	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習	7	ゴルフの応用技術(2)	ミニラウンド	技術の反復練習	8	ゴルフの実践	ラウンド(9H)	イメージトレーニング	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認																																																																
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認																																																																
3	ゴルフの基礎技術(1)	グリップ、スウィング	技術の反復練習																																																																
4	ゴルフの基礎技術(2)	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習																																																																
5	ゴルフの基礎技術(3)	アプローチ、パター練習	技術の反復練習																																																																
6	ゴルフの応用技術(1)	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習																																																																
7	ゴルフの応用技術(2)	ミニラウンド	技術の反復練習																																																																
8	ゴルフの実践	ラウンド(9H)	イメージトレーニング																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ,Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス(半ズボンの場合はハイソックス着用)、運動靴(スパイク類は禁止)ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用ボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。																																																																		

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 洋平

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。

授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。
--------------	-----------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間 課題レポート
	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間 課題レポート
	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第2章の間 課題レポート
	4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の間 課題レポート
	5	1次方程式 (1)	・等式の基本法則	第3章の間 課題レポート
	6	1次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート
	7	1次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第3章の間 課題レポート
	8	1次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート
	9	連立1次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第4章の間 課題レポート
	10	連立1次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間 課題レポート
	11	連立1次方程式 (3)	・消去法	第4章の間 課題レポート
	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第5章の間 課題レポート
	13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の間 課題レポート
	14	確率 (1)	・確率の計算	第6章の間 課題レポート
	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間 課題レポート

関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎 (摂南大学数学研究室)		学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階 (数学準備室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早石 典史

授業概要・目的 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。

到達目標 高校の初年度級の数学的知識の復習を出発点として、経営系の学生にとって、最低限必要な数学的素養を確実に身につけることを目標とする。

授業方法と留意点 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果 (資格) 問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間	課題レポート
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間	課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第2章の間	課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の間	課題レポート
5	1次方程式 (1)	・等式の基本法則	第3章の間	課題レポート
6	1次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間	課題レポート
7	1次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第3章の間	課題レポート
8	1次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間	課題レポート
9	連立1次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第4章の間	課題レポート
10	連立1次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間	課題レポート
11	連立1次方程式 (3)	・消去法	第4章の間	課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第5章の間	課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の間	課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第6章の間	課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間	課題レポート

関連科目 数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。

担当者の研究室等 3号館3階(数学準備室)

備考

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	畑中 美帆

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	高校の初年度級の数学的知識の復習を出発点として、経営系の学生にとって、最低限必要な数学的素養を確実に身につけることを目標とする。

授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。
--------------	-----------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間 課題レポート
	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間 課題レポート
	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第2章の間 課題レポート
	4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の間 課題レポート
	5	1次方程式 (1)	・等式の基本法則	第3章の間 課題レポート
	6	1次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート
	7	1次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第3章の間 課題レポート
	8	1次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート
	9	連立1次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第4章の間 課題レポート
	10	連立1次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間 課題レポート
	11	連立1次方程式 (3)	・消去法	第4章の間 課題レポート
	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第5章の間 課題レポート
	13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の間 課題レポート
	14	確率 (1)	・確率の計算	第6章の間 課題レポート
	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間 課題レポート

関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎 II	科目名 (英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 洋平

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標とする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	数学基礎 I に引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	座標 平面の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎 I、統計学、経営数学
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等備考	3号館3階(数学準備室)

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早石 典史

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標とする。
到達目標	1次関数、2次関数の復習を出発点として、数列、簡単な微積分の計算などを習得することを目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	座標 平面の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等備考	3号館3階(数学準備室)
------------	--------------

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齊藤 遼

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標とする。
到達目標	1次関数、2次関数の復習を出発点として、数列、簡単な微積分の計算などを習得することを目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	座標 平面の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。

学生へのメッセージ どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 3号館3階(数学準備室)

備考

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目 (バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目 (サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果 (資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解
	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価
	4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの実論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
-----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
----------	-----------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)
----	--------------------------------

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目(サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解
	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
	5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ

関連科目 生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの実論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	—————
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動 1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動 2	自己 PR を書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール 1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール 2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール 3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール 4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール 5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール 6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール 7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール 8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール 9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
-----------	-------------------------

学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的
この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。

到達目標
抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。

授業方法と留意点
統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。

学生へのメッセージ
受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

担当者の研究室等
国際交流センター (3号館4階)

備考

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的	日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	8	トピック⑦	議論	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的
日本語会話F Iと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。

到達目標
抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。

授業方法と留意点
統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
8	トピック⑦	議論	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)
授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
国際交流センター(3号館4階)

備考

科目名	日本語上級会話 F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Speaking FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的 この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。

到達目標 抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。

授業方法と留意点 統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。

学生へのメッセージ 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

担当者の研究室等 国際交流センター (3号館4階)

備考

科目名	日本語上級会話 F II	科目名 (英文)	Advanced Japanese Speaking FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的
日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。

到達目標
抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。

授業方法と留意点
統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	8	トピック⑦	議論	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)
授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
国際交流センター (3号館4階)

備考

科目名	日本語上級作文 F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語上級作文FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動2	自己PRを書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語上級読解 F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2～3 の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2～3 の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2～3 の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2～3 の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2～3 の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2～3 の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2～3 の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む (1)	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む (2)	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む (1)	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む (2)	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む (1)	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む (2)	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語上級読解F II	科目名 (英文)	Advanced Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行いません。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	日本語総合 F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行いません。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2～3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	語彙テスト、授業への参加態度 (課題やタスクへの取り組み) 等を総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

基礎科目

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 涙</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「あたりまえ」を疑う社会学</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習	4	背理法①	読解、内容理解	復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	復習	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習	14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解	復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習																																																																
8	ついでに何を？①	読解、内容理解	復習																																																																
9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習																																																																
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習																																																																
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習																																																																
14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語読解 I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	語彙テスト、授業への参加態度 (課題やタスクへの取り組み) 等を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。																																																																		

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	語彙テスト、授業への参加態度(課題やタスクへの取り組み)等を総合的に評価します。
----------	--

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指す。
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果 (資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、レポートや論文の適切な表現、書き方のルールを身につけることを目指す。
到達目標	レポートや論文の適切な表現、書き方のルールを身につける。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成する。
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文Ⅰ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。 また、授業内で書き進めたレポートを評価の対象とする。
----------	--

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指す。
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文Ⅱ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。
----------	------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室) 3号館2階 (学習支援センター)
----------	---------------------------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	DE
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	FG
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大石 真由香

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈

基礎科目

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。																																																																		
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>授業の目的、進め方の説明</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの書き方</td> <td>レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>【課題1】レポート</td> <td>資料を引用して、意見を述べる文章を書く</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>敬意を表す言葉</td> <td>敬語の種類と用法を学ぶ</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>フィードバック</td> <td>課題1のフィードバック 敬語の練習問題</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>手紙の書き方</td> <td>手紙の書式・用語・マナーを学ぶ</td> <td>課題1を見直す</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>【課題2】手紙</td> <td>手紙を作成する</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>電子メールの書き方</td> <td>電子メールの基本とマナーを学ぶ</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>フィードバック</td> <td>課題2のフィードバック</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ディスカッション1</td> <td>グループ分けとディスカッションを行う</td> <td>課題2を見直す テーマの下調べ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ディスカッション2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う</td> <td>資料作成の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーション1</td> <td>資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う</td> <td>発表の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>プレゼンテーション2</td> <td>資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする</td> <td>発表の準備</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>【課題3】報告文</td> <td>ディスカッションの経過と結論を文書で報告する</td> <td>報告文の準備</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>小テストの復習 授業の総括</td> <td>小テストの復習テスト</td> <td>小テストの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————																																																																
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習																																																																
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習																																																																
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習																																																																
5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習																																																																
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す																																																																
7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習																																																																
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習																																																																
9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習																																																																
10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ																																																																
11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備																																																																
12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備																																																																
13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備																																																																
14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備																																																																
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習																																																																
関連科目	キャリアデザイン																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。																																																																		
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。																																																																		

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	DE
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	FG
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大石 真由香

基礎科目

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。																																																																		
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>授業の目的、進め方の説明</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの書き方</td> <td>レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>【課題1】レポート</td> <td>資料を引用して、意見を述べる文章を書く</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>敬意を表す言葉</td> <td>敬語の種類と用法を学ぶ</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>フィードバック</td> <td>課題1のフィードバック 敬語の練習問題</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>手紙の書き方</td> <td>手紙の書式・用語・マナーを学ぶ</td> <td>課題1を見直す</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>【課題2】手紙</td> <td>手紙を作成する</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>電子メールの書き方</td> <td>電子メールの基本とマナーを学ぶ</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>フィードバック</td> <td>課題2のフィードバック</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ディスカッション1</td> <td>グループ分けとディスカッションを行う</td> <td>課題2を見直す テーマの下調べ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ディスカッション2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う</td> <td>資料作成の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーション1</td> <td>資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う</td> <td>発表の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>プレゼンテーション2</td> <td>資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする</td> <td>発表の準備</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>【課題3】報告文</td> <td>ディスカッションの経過と結論を文書で報告する</td> <td>報告文の準備</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>小テストの復習 授業の総括</td> <td>小テストの復習テスト</td> <td>小テストの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————																																																																
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習																																																																
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習																																																																
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習																																																																
5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習																																																																
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す																																																																
7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習																																																																
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習																																																																
9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習																																																																
10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ																																																																
11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備																																																																
12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備																																																																
13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備																																																																
14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備																																																																
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習																																																																
関連科目	キャリアデザイン																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。																																																																		
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的
この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標
中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点
教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果 (資格)
高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目
日本語文法 II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
小テスト、授業への参加態度 (練習への取り組み) 等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ
日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！

担当者の研究室等
7号館2階 (非常勤講師室)

備考
(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。
(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的
この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標
中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点
教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果 (資格)
高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目
日本語読解 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
小テスト、授業への参加態度 (練習への取り組み) 等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ
日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！

担当者の研究室等
7号館2階 (非常勤講師室)

備考
(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。
(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的
この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標
中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点
教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果(資格)
高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目
日本語読解 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
小テスト、授業への参加態度(練習への取り組み)等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ
日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!

担当者の研究室等
7号館2階(非常勤講師室)

備考
(1)授業外の質問等には、メールで対応する。
(2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。

到達目標 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします

授業方法と留意点 各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習

科目学習の効果(資格) 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。

学生へのメッセージ 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。

担当者の研究室等 7号館4階(門脇研究室)

備考

科目名	日本事情F II	科目名(英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的
日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。

到達目標
日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。

授業方法と留意点
各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習

科目学習の効果(資格)
自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目
日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法(基準)
各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。

学生へのメッセージ
映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。

担当者の研究室等
7号館4階(門脇研究室)

備考

科目名	日本事情R I	科目名(英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習

科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度
-------------	--------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法(基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本事情R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的
日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。

到達目標
日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。

授業方法と留意点
各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習

科目学習の効果(資格)
自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目
日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法(基準)
各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。

学生へのメッセージ
映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。

担当者の研究室等
7号館4階(門脇研究室)

備考

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎

授業概要・目的	ビジネスに関するさまざまな場面と文章を想定した英語を学ぶ。企業の海外進出、海外企業との合併、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。この授業ではビジネス英語の基本的事項を習得します。
到達目標	企業での来客応対、ビジネスエチケット、レジユメの作製などを習得する。また、TOEICの教材も使用し、スコアアップ(460点)を目指します。
授業方法と留意点	テキスト、TOEICの副教材、単語集を用い、音声、文法、語彙をバランスよく学習します。
科目学習の効果(資格)	ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEICのスコアアップを目指します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 Takuya's job hunt	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
3	Unit 1 Takuya's job hunt	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
4	Unit 2 Asking a favor	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
5	Unit 2 Asking a favor	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
6	Unit 3 Decision time	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
7	Unit 3 Decision time	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
8	Unit 4 A lucky break	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
9	Unit 4 A lucky break	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
10	Unit 5 Fun in the sun	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
11	Unit 5 Fun in the sun	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
12	Unit 6 Welcome to the land of the rising sun	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
13	Unit 6 Welcome to the land of the rising sun	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
14	Unit 7 Bottoms up!	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
15	Unit 7 Bottoms up!	テキストからの音声、文法問題で学習	期末試験の準備 リングポルタ

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Working abroad ISBN978-4-88198-706-3	行時 潔 他	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験60%、小テスト40%で評価する。
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	電子辞書を持参。必ず予習をすること。リングポルタで自習して下さい。成績評価に反映されます。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館非常勤講師室
----------	-----------

備考	
----	--

科目名	ビジネスイングリッシュ II	科目名 (英文)	Business English II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎

授業概要・目的	ビジネスに関するさまざまな場面と文章を想定した英語を学ぶ。企業の海外進出、海外企業との合弁、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。この授業ではビジネス英語の基本的事項を習得します。
到達目標	企業での来客応対、ビジネスエチケット、レジユメの作製などを習得する。また、TOEICの教材も使用し、スコアアップ(460点)を目指します。
授業方法と留意点	テキスト、TOEICの副教材、単語集を用い、音声、文法、語彙をバランスよく学習します。
科目学習の効果(資格)	ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEICのスコアアップを目指します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEICの説明など	講義の進め方、評価方法などを説明、リングボルトの利用方法の説明	予習、復習 リングボルト
2	Unit 8 The world's most comfortable city	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
3	Unit 8 The world's most comfortable city	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
4	Unit 9 Touching base	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
5	Unit 9 Touching base	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
6	Unit 10 The lion city	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
7	Unit 10 The lion city	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
8	Unit 11 Heading down under	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
9	Unit 11 Heading down under	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
10	Unit 12 Dreams come true	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
11	Unit 12 Dreams come true	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
12	Unit 13 An unexpected invitation	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
13	Unit 13 An unexpected invitation	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
14	Unit 14 The sweet, spicy, and sour wonderland	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
15	Unit 14 The sweet, spicy, and sour wonderland	テキストからの音声、文法問題で学習	期末試験の準備 リングボルト

関連科目	ビジネスイングリッシュ I
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Working abroad ISBN978-4-88198-706-3	行時 潔 他	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験60%、小テスト40%で評価する。
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	電子辞書を持参。必ず予習をすること。リングボルトで自習して下さい。成績評価に反映されます。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館非常勤講師室
----------	-----------

備考	
----	--

科目名	ビジネス中国語基礎 a	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。

到達目標 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。

授業方法と留意点 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。

科目学習の効果 (資格) 中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 第1課 発音 1	ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。	練習問題を解答する。
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	練習問題を解答する。
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	練習問題を解答する。
4	第4課 発音 4	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	命令文, 同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第4課 おいくら?	動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第4課 おいくら?	こそあどの言い方, 単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第5課 どの先生が好き?	前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目 ビジネス中国語基礎 c

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準) 授業参加と単元テストによる。

学生へのメッセージ 教室でも家でも声を出してよく読みましょう。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	ビジネス中国語基礎 b	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課 こんにちは	発音1 中国語の音節、声調	練習問題を解答する。
	2	第2課 おはようございます	発音2 単母音 複母音	練習問題を解答する。
	3	第3課 おひさしぶりです	発音3 子音 1	練習問題を解答する。
	4	第4課 おかけください	発音4 子音 2	練習問題を解答する。
	5	第5課 どこの国の人ですか	動詞「是」の使い方 いろいろな疑問文	練習問題を解答する。
	6	第6課 お名前はなんですか	姓の言い方、尋ね方 フルネームの言い方、尋ね方	練習問題を解答する。
	7	第7課 何を食べたいですか	動詞文 選択疑問文 復習 (5～7課)	練習問題を解答する。
	8	第8課 図書館に行きたいです	☆ 単元テスト1 連動文 助動詞「想」	練習問題を解答する。
	9	第9課 キャンパスに銀行はありますか	動詞「有」 動詞「在」	練習問題を解答する。
	10	第10課 今日は何曜日ですか	年月日、曜日の言い方 助動詞「得」と「要」 復習 (8～10課)	練習問題を解答する。
	11	第11課 中国語は難しいですか	☆ 単元テスト2 形容詞述語文 時間の言い方	練習問題を解答する。
	12	第12課 いくらですか	お金の言い方 量詞	練習問題を解答する。
	13	第13課 彼女は今年18歳です	年齢の言い方、尋ね方 前置詞「在」	練習問題を解答する。
	14	第14課 動物園に行きました	文末の「了」 動詞の重ね型	練習問題を解答する。
	15	第15課 復習	復習 (11～14課) ☆ 単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	ビジネス中国語基礎 a (経S) ビジネス中国語基礎 a (経D)
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『いま始めよう！アクティブラーニング—初級中国語—』	陳淑梅 張	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		小学館
	2	日中辞典		小学館
	3			

評価方法 (基準)	授業参加と単元テストによる。 出席回数は10回以上；単元テストの平均点が60点を越えていることを単位認定の最低基準とします。 音読発表は随時行いますが、その成績も平常評価として重視します。
-----------	--

学生へのメッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 教科書の音読練習は授業時間以外にも時間をとって練習してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階 (非常勤講師室)
------------	----------------

科目名	ビジネス中国語基礎 c	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第6課 今は3時5分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	副詞「經常」、例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第8課 小説は好きなの？	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」、副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第8課 小説は好きなの？	前置詞「離」、前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第10課 北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト2 助動詞「過」、助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第10課 北京ダックを食べたことある？	副詞「再」、副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」、副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」、仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	ビジネス中国語基礎 a
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	撰南大学 中国語入門	撰南大学外国語学部編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

評価方法 (基準)	授業参加と単元テストによる。
-----------	----------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階講師室
----------	----------

備考	
----	--

科目名	ビジネス中国語基礎 d	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business d
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。2年以後は外国語学部「中国語Ⅲ」「中国語Ⅳ」に継続可能。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 15 課 四川料理を食べたことはありますか	経験を表わす助詞「過」 比較を表わす前置詞「比」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 16 課 二胡は弾けますか	助動詞 二重目的語構文	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 17 課 みかんを味見してもいいですか	助動詞「可以」 「有点儿」と「一点儿」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 18 課 中国語はお上手ですね	様態補語 期間を表わす言い方	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	復習 (15～18 課)	☆ 単元テスト 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 19 課 もう一度言ってください	結果補語 回数の言い方	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 20 課 いつ失くしましたか	「是～的」構文 禁止の言い方	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 21 課 中で食べましょう	方向補語 完了の助詞「了」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 22 課 何をしていますか	進行を表わす表現 可能補語	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	復習 (19～22 課)	☆ 単元テスト 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 23 課 横浜は東京から遠いですか	前置詞「離」「從」「到」 程度補語	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 24 課 彼は来られません	助動詞「能」 助動詞「会」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 25 課 彼をスーパーへ買い物に行かせました	使役表現 主述述語文	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 26 課 早く窓を閉めてください	「把」構文 存現文	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	復習 (23～26 課)	単元テスト 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	ビジネス中国語基礎 c (経 S) ビジネス中国語基礎 c (経 D)
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『いま始めよう！アクティブラーニングー初級中国語ー』	陳淑梅 張	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		小学館
2	日中辞典		小学館
3			

評価方法 (基準)	単元テストの成績と平常点により総合的に判断する。 単元テストの平均点が 60 点以上；出席回数が 10 回以上であることが単位認定の最低条件となります。 音読発表も随時行いますが、その成績も平常点として重視します。
-----------	---

学生へのメッセージ	使用教科書は前期と同じなので、前期購入者は後期購入する必要はありません。但し、後期から新しく登録したものは教科書の購入が必要です。 私語を慎むように。他の受講生の迷惑になります。 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたします。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
------------	-------------------

科目名	保健論	科目名(英文)	Theory of Health
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	内部 昭彦

授業概要・目的	現代社会では、健康問題が最大の関心事である。特に生活習慣病は増加の一途をたどっている。この要因は食生活・運動・喫煙・飲酒・休養・ストレス等のライフスタイルに強く関連している。本講義では以上を踏まえて受講者が生涯にわたって自ら健康づくりを実践できる方途を具体的に論述する。
到達目標	①ライフスタイルの重要性について理解できる。 ②生活習慣病について理解できる。 ③健康づくりのための運動処方について理解できる。 ④疾病について理解できる。 学科の学習・教育目標との対応：[A]
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果(資格)	本人が自覚して健康維持・増進を図ることの出来る能力を身につけ、生活の内容を豊かにすることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	健康論とは	・ガイドダンス ・現代の健康についての概念	・筆記用具の準備
2	喫煙と健康	・煙草の種類 ・喫煙のリスク ・喫煙の弊害	・喫煙のリスク、健康への害に対する理解
3	薬物と健康	・違法薬物とは ・薬物中毒 ・薬物の内容・弊害	・違法薬物に対する理解
4	飲酒と健康	・飲酒と健康 ・飲酒の弊害	・アルコールの知識を理解を深める
5	思春期と性	・身体の変化 ・性とは	・性に対する理解を深める
6	妊娠・出産	・妊娠とは ・妊娠初期について ・妊娠中期について ・妊娠後期について ・産じょく期について	・妊娠初期、中期の理解 ・妊娠後期、産褥期の理解
7	性感染症	・性感染症とは ・現代の性感染症 ・予防方法	・現代の性感染症の確認と理解
8	エイズ	・エイズを知る ・現代のエイズ状況 ・HIV と AIDS ・感染経路 ・エイズの予防対策	・世界の現状を理解 ・エイズの感染経路の確認と理解 ・エイズの予防の確認と理解
9	生活習慣病予防としての運動の役割	・「運動」「栄養」「休養」について概説し、それらと生活習慣病との関連性について説明する。 ・五大栄養素とその役割について解説する。	・生活習慣病予防としての運動の理解
10	食事と睡眠・心身相関	・健康な食事と睡眠 ・心身の関係性	・正しい食事、睡眠の確認と理解
11	発育・発達・老化	・幼少期から青年期にいたる身体の形態発育・機能発達と、それらに運動トレーニングが及ぼす効果について解説 ・身体の形態・機能の老化について解説 ・中・高齢者における運動トレーニングの効果について解説	発育・発達・老化について理解
12	運動障害と予防、応急処置	・日常の応急手当、スポーツ障害、過換気症候群、RICE 処置、心肺蘇生法について解説 ・救急処置法 ・救急処置の実際	・日常生活やスポーツ実施時の応急処置の方法 ・事故などに関する応急処置の方法
13	健康づくりのための運動処方	・有酸素・無酸素運動、レジスタンストレーニングについて、健康づくりの観点から解説 ・年代・性差による違いについても説明	・健康づくりのための運動について理解
14	ストレス・疲労への対策	・ストレス要因の軽減・ストレスへの早期対応としてのスポーツの関わりを解説 ・疲労が起こるしくみとその対策について解説	・スポーツによる、ストレスの軽減を理解
15	健康論総括(テスト)	1 4 回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目	スポーツ科学実習 1・2 生涯スポーツ実習
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	健康論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。			
学生への メッセージ	質問等がある場合は、研究室あるいは総合体育館事務室に来て下さい。			
担当者の 研究室等	総合体育館1階 内部助教室			
備考				

教 養 科 目

科目名	朝日新聞社寄付講座「現代社会と向き合う」	科目名(英文)	face modern society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	朝日新聞社の現役記者が講師として、様々な社会問題の読み解き方や論理的文章の書き方について講義する。異なるテーマについて、それぞれ学生との意見交換を経たうえで、小論文を作成する。論文は全員分を持ち帰って添削し、後日の講義で講評する。
到達目標	新聞を通じて、社会の諸問題についての理解を深めるとともに、文章力や自己表現力を磨き、学生の「社会力」を高める。
授業方法と留意点	新聞を全員に配布したうえで、講義と意見交換、小論文作成と添削・講評をセットにした授業を展開する。
科目学習の効果(資格)	現代社会への問題意識を深め、文章力や論理的思考力を向上させる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	新聞の読み解き方	講義の目標、進め方、評価方法の説明、新聞の読み解き方の説明	事前に新聞を読んでおく
	2	論理的文章の書き方	論理的文章の書き方の説明	文章を書く習慣をつけておく
	3	海外の若者事情	海外の若者事情について説明	難民問題などについて考えをまとめておく
	4	同上	小論文作成	同上
	5	同上	海外の若者事情について解説、意見交換	同上
	6	同上	小論文の講評	同上
	7	正規雇用と非正規雇用の是非	正規雇用と非正規雇用について説明	雇用問題について考えをまとめておく
	8	同上	小論文作成	同上
	9	同上	正規雇用と非正規雇用について解説、意見交換	同上
	10	同上	小論文の講評	同上
	11	少子高齢化と18歳選挙権	少子高齢化と18歳選挙権について説明	少子化・高齢化と選挙制度との関わりを調べておく
	12	同上	小論文作成	同上
	13	同上	少子高齢化と18歳選挙権について解説、意見交換	同上
	14	同上	小論文の講評	同上
	15	社会問題の読み解き方	社会問題の読み解き方について説明、総括レポート作成	様々な社会問題について考えをまとめておく

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小論文3回×30点、総括レポート10点。100点満点で評価し60点で合格。
学生へのメッセージ	日常的に新聞を読む習慣をつけることで視野が広くなり、社会で生きる力を身につけることができます。
担当者の研究室等備考	教務部 教務課(寝屋川11号館1階)

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	佐井 英子

教養科目

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と相手国（インドネシア・バリ島）の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。 																
授業方法と留意点	<p>研修先として美術館（ホテル、レストラン併設）、PPLH（NPO）、ウダヤナ大学、コーヒー農園、ウブド高校、マングローブセンター等を予定しています。</p> <p>研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分個人面談を行い、話し合いの上決定します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習 4日 ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>現地実習 10日（移動日含む）</p> <p>1日目 移動 2日目 環境学習 マングローブセンター、PPLHにて実習 3日目 各研修先へ移動、ガイダンス 4日目～8日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施 9日目 現地視察 10日目 移動日</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、農業経営・フェアトレードの取り組みなど異なります。各自、毎日研修内容の報告書を作成する。</p> <p>事後学習 3日（資料の作成が間に合わない場合は、追加する） 報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p>																
関連科目	外国語関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	実習前の事前学習（10%）、海外現地研修60%（実習記録20%、実習態度50%（研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する）、実習報告書（20%）、全体報告会のプレゼン10%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 佐井研究室 11号館8階 高尾研究室																
備考	共同担当者 高尾教授																

科目名	科学技術教養 I～IV (A1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(A1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柳沢 学

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	建築とは何か	建築の考え方、建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	建築と都市環境	建築と都市の関係、都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	建築の内装	インテリア、家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築の外装・外構	外装材とはエクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築のUD	こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。期末試験は行わない。理工学部の出席規定を遵守すること。
-----------	---

学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 教科書 (配布予定) ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。
----	---

科目名	科学技術教養 I～IV (A2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(A2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柳沢 学

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	専門科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。期末試験は行わない。理工学部の出席規定を遵守すること。
-----------	---

学生へのメッセージ	受講者希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 教科書 (配布予定) ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり1.5時間以上をかける必要がある
----	--

科目名	科学技術教養 I～IV (C1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(C1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	頭井 洋

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	・基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 ・歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 ・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い。・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人々(建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・)	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか。 歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか。 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。 川、ダムと港の設計へ。 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

評価方法(基準)	受講態度 20%、受講メモ 40%、レポート・小論文 40%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。
学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 I～IV (C2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(C2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	頭井 洋

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト、地域プロジェクト、民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ、計画(意思決定)～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS 測量)、地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかわり、技術とのかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは?制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C2	都市環境工学科全教員	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			

評価方法(基準)	受講態度 20%、受講メモ 40%、レポート・小論文 40%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。
----------	--

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界でも厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。
-----------	---

担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
----------	--------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。
----	--

科目名	科学技術教養 I～IV (E1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(E1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鹿間 信介

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどのようなしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果 (資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	電気の歴史と電気回路の基礎	電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
	2	電池の構造と応用技術	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
	3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
	4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
	5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する、売電のしくみ	テキストを復習する。1時間
	6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
	7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験、変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
	8	モールス通信から携帯電話へ	モールス通信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
	9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
	10	パソコンの内部構造	真空管計算機ENIAC、電子回路で論理計算をする、ハードウェアとソフトウェア、CPUとメモリ、ハードディスクとSSD	テキストを復習する。1時間
	11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御、電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
	12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史、CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
	13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
	14	インターネットのつながり	インターネットのしくみ、ルータとハブ、無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
	15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御、電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講態度 20%、受講メモ 40%、小テスト 40%の総合点で評価する。
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学教員室
----------	--------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
----	---

科目名	科学技術教養 I～IV (E2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(E2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鹿間 信介

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン、磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	テキストを復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、初期のラジオ放送、電波に映像を載せる テレビ放送の開始からカラーテレビへ、デジタル化と双方向テレビ	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	有線電話から無線へ、無線基地局と無線ゾーン、携帯電話がつながるしくみ、メールやWebへの応用、携帯電話のこれから	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	電気通信から光通信へ	電気信号と光信号の変換、光で通信する光ファイバと高速・大容量化、光で測る	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	最新ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来 ハードとソフト(人工知能)はどこまでできているのか	テキストを復習する。1時間
15	電気と宇宙	第4の状態—プラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、 太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。1時間

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストを配付する		
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 20%, 受講メモ 40%, 小テスト 40%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館4階・5階電気電子工学科教員室			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	科学技術教養 I～IV (M1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(M1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪 晴彦

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配布資料に目を通しておくこと。
	2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
	3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
	4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか？ ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
	5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造（金属と何が異なるか？） ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
	6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
	7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械（工作機械の歴史） ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
	8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する（コンピュータと工作機械） ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
	9	ものづくり(3) - 工場（ファクトリー）	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
	10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
	11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
	12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
	13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
	14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
	15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	毎回、講義メモとレポートを提出する。 受講態度（20%）、講義メモ（40%）、レポート（40%）を評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどういう乗り物が実現されているのか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]
----------	------------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
----	---

科目名	科学技術教養 I～IV (M2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(M2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸本 直子

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにいてねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配付資料に目を通しておくこと
	2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力、蓄力、水力、風力、蒸気力	配付資料に目を通しておくこと
	3	活動の源(2) - 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力、風力、火力、地熱、原子力発電	配付資料に目を通しておくこと
	4	乗り物(1) - エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン（ガソリン等）、電気モータ	配付資料に目を通しておくこと
	5	乗り物(2) - 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通、船舶、鉄道	配付資料に目を通しておくこと
	6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	・空中を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力	配付資料に目を通しておくこと
	7	空間を移動する(2) - 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・しんかい6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム	配付資料に目を通しておくこと
	8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ・ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン	配付資料に目を通しておくこと
	9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定	配付資料に目を通しておくこと
	10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ、センシング技術、計測と誤差	配付資料に目を通しておくこと
	11	制御する	・制御の成り立ちと発展、自動制御とは？ ・調速機、結果を見て制御する（フィードバック）	配付資料に目を通しておくこと
	12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント	配付資料に目を通しておくこと
	13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング、生体工学の世界 ・生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコブグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット	配付資料に目を通しておくこと
	14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	・人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器	配付資料に目を通しておくこと
15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	・人間を測る、診る、まねる世界 ・生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット	配付資料に目を通しておくこと	

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	毎回、講義メモとレポートを提出する。 受講態度（20%）、講義メモ（40%）、レポート（40%）を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？近未来にどのような乗り物が実現されているか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の研究室等	担当教員の居室〔1号館の3階・4階・5階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養 I～IV (R1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(R1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森山 正和

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる技術、手法を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎知識を習得できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	都市デザインにおけるエコ技術	ヒートアイランド対策をはじめとする、都市デザインにおけるエコ技術について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のなほしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおける対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人と人の関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	居住地域を把握するー社会指標にみる地域の実態	我々が居住する地域について、社会指標を用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	アニメーションと空間デザイン	アニメーションを用いて空間を表現した事例紹介から、そのしくみと効果について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなど 80%で評価する。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の 研究室等	12号館 7階 各教員研究室
備考	出席に関しては、履修申請要領の「科目履修に当たっての注意事項」を遵守すること。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、 毎回1時間程度と考えてください。

科目名	科学技術教養 I～IV (R2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(R2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森山 正和

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会を創造するための手法を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザイン手法を習得できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	(オリエンテーション) 住まいと生活	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 住まいと何か。家庭生活や社会生活が複雑に多様化する中で、住まいの本来の機能や役割について学ぶ。	配布資料講義部分の復習を十分に行う。
	2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	3	住宅とまちの関係	事例紹介に沿って住環境としてのまちなみの個性と課題を解説する。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	4	まちのにぎわい	自然発生的建築の多義性、多様性を解説し、現代における住環境の空間デザイン論を語る。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	5	福祉住環境のデザイン	今までに携わってきた事例を紹介しつつ、住の延長としての医療福祉系住環境の課題を解説する。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	12	野生動物との共存のデザイン	具体的事例を通して、野生動物と人間が共存するための方策を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	13	冷暖房システムのエコ技術	日本の気候風土と冷暖房システムの現状を再考し、今後の暮らしのあり方について学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	14	暮らしの中の太陽エネルギー利用	太陽光発電システムと太陽熱利用システムをとりあげ、暮らしの中の太陽エネルギー利用について学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	15	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。 期末試験は行わない。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	12号館 7階 各教員研究室
----------	----------------

備考	履修申請要領の「科目履修にあたっての注意事項」を遵守する。 事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回1時間程度とすること。
----	--

科目名	科学技術教養 I～IV (T1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(T1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すぐたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。 「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。 数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果 (資格)	

教養科目

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。
2		人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
3		人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
4		三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
5		平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
6		身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
7		波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
8		波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
9		電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
10		レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創りだした「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
11		X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)

	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ 40%、レポート 60%で判定する。			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [8号館の2階, 3号館の3階]			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	科学技術教養 I~IV (T2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(T2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ:無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力(ちから)F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則) v. s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論---原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート

関連科目	数学・物理の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養(基礎理工)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義メモ40%、レポート60%で評価する。
-----------	-----------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
----	--

教養科目

科目名	科学技術教養 I～IV (V1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(V1)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 仁

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個人レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる、(2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	不妊のしくみ。	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われているが、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	配布資料を復習する (1 時間)。
2	病気と遺伝子。	内容：生物の DNA は常に外界の危険因子によって傷 (変異) を受けているが、生物の体内には傷を発見して治療する安全システムが存在している。この安全システムはどのように作動して、また不具合が生じた場合にどうなるのか？また身近に存在する危険因子や疾患の代表例について考える。	配布資料を復習する (1 時間)。
3	脳・神経の病気のしくみ。	脳や神経の病気は難病と言われているものが多く、治療、回復が困難な現状である。まず難病のいくつかを紹介し、それらの治療のためにどのようなことがなされているかを概説する。	配布資料を復習する (1 時間)。
4	免疫が引き起こす病気のしくみ。	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	配布資料を復習する (1 時間)。
5	がんの発生とその予防法。	死因別死亡率のトップはがんであり、約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の 30% を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	配布資料を復習する (1 時間)。
6	ミトコンドリアと病気。	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	配布資料を復習する (1 時間)。
7	くすりと遺伝子工学。	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物 (タンパク質) を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	配布資料を復習する (1 時間)。
8	くすりと組換え生物。	8 年ほど前にヒトのすべての DNA 配列が解読されて、ヒトには約 2 万 2 千の遺伝子があることが明らかにされた。ポストゲノム研究では、マウスやラットなどを用いた「遺伝子組み換え生物」が作製され、再生医療や疾患の新しい治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の作製などにも役立っている。遺伝子組み換え生物の作成と応用について考える。	配布資料を復習する (1 時間)。
9	くすりとバイオインフォマティクス。	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	配布資料を復習する (1 時間)。
10	くすりとタンパク質のかたち。	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	配布資料を復習する (1 時間)。
11	くすりとゲノム。	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	配布資料を復習する (1 時間)。
12	薬物乱用と依存性薬物。	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存というと、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	配布資料を復習する (1 時間)。

	13	遺伝子治療の最前線.	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	配布資料を復習する（1時間）。																
	14	神経再生治療の最前線.	ヒトの中枢神経は損傷から回復できない。また、抹消神経であっても神経細胞そのものがダメージを受けるとやはり回復は難しい。ヒトの神経及び神経細胞の損傷からの回復を目指して様々な努力が行われている。それらの研究をわかりやすく概説する。	配布資料を復習する（1時間）。																
	15	iPS細胞研究の最前線.	京都大学の山中伸弥教授によって作り出されたiPS細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義でiPS細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	配布資料を復習する（1時間）。																
関連科目	科学技術教養 V2.																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業態度 20%, 講義メモ 40%, およびレポート・小論文・演習問題などの課題 40%の総合点で評価する。																			
学生への メッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。																			
担当者の 研究室等	1号館9階 松川, 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 船越, 井尻, 居場研究室.																			
備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理します。																			

科目名	科学技術教養 I～IV (V2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(V2)
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青俣 治

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
5	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
6	最先端のバイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研究例や今後に期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
11	微生物酵素を用いる物質生産システム～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に遅れが見られる。かかる酵素の産業への応用を可能にする酵素利用技術(固定化酵素など)と酵素改変技術(分子進化学、逆進化学、タンパク質工学など)の現状と将来について概観する。	配布資料を復習する。
12	遺伝子工学からゲノム工学へ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の3つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノムDNAを扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。

	13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。																
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
関連科目	科学技術教養Ⅴ 1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業態度 20%、受講メモ 40%およびレポート、小論文、演習問題などの課題 40%の総合点で評価する。																			
学生への メッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。																			
担当者の 研究室等	1号館8階 環境分析学研究室(青笹)																			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。																			

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾山 廣

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。地域連携センター所属の教職員が授業の企画・運営に参画する。毎回、授業時間内に授業内容に沿ったレポート課題を課す(15分以上の遅刻には課題用紙を配布しない)。なお、事前に、北河内8市の広報HPを閲覧しておくこと。
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、自分自身が学ぶ摂南大学の歴史と、地域で活躍する方々の思いや人生観に触れることで、この地域がどのようなところで、そこには何があるのかを発見できる。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	摂南大学とこの地域を学ぶ「北河内を知る」	摂南大学の歴史と教育の理念、本学と地域社会との関わりなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
2	地域を考える(1)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	地域を考える(2)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	地域を考える(3)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
5	グループ・ディスカッション(1)	「地域を考える」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
6	地域をつくる(1)	北河内地域をモデルに都市の景観やシビルデザインの考え方を紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	地域をつくる(2)	北河内地域の交通網やライフラインの整備状況や計画などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
8	地域をつくる(3)	北河内地域の交通網やライフラインの整備状況や計画などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	地域をつくる(4)	北河内地域の環境とその保全、河川整備や防災対策などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループ・ディスカッション(2)	「地域をつくる」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	地域をまなぶ(1)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	地域をまなぶ(2)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	地域をまなぶ(3)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
14	地域をまなぶ(4)	淀川とその流域の北河内地域の地理・歴史や文化などを説明する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	グループ・ディスカッション(3)	「地域をまなぶ」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目 ソーシャルイノベーション副専攻科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	毎回の講義におけるレポート課題に対する評価とグループ・ディスカッションの相互評価(外部講師、教職員、学生など)を総合して評価する。なお、受講態度等を勘案し、更なるレポートを課すことがある(評価に加味)。
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか?
担当者の研究室等	1号館9階 尾山教授室
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。

科目名	近代文学から学ぶ	科目名(英文)	Modern Literature
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。 文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。																																																																		
到達目標	作品を味わい鑑賞する力を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	毎回、1編の短編作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメントを書く。																																																																		
科目学習の効果(資格)	文学に対する関心と知識が深まる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>明治の文学</td> <td>近代社会へ 言文一致運動</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>明治の文学</td> <td>夏目漱石の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>明治の文学</td> <td>谷崎潤一郎の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>明治の文学</td> <td>森鷗外の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>大正の文学</td> <td>志賀直哉の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>大正の文学</td> <td>佐藤春夫の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>大正の文学</td> <td>菊地寛の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>大正の文学</td> <td>小川未明の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>大正の文学</td> <td>芥川龍之介の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>昭和の文学</td> <td>横光利一の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>昭和の文学</td> <td>中島敦の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>昭和の文学</td> <td>太宰治の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>昭和の文学</td> <td>原民喜の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>現代文学へ</td> <td>安部公房の短編を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>近代の詩を読む</td> <td>高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む</td> <td>配布したプリントを読み、理解しておく</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	明治の文学	近代社会へ 言文一致運動	配布したプリントを読み、理解しておく	2	明治の文学	夏目漱石の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	3	明治の文学	谷崎潤一郎の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	4	明治の文学	森鷗外の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	5	大正の文学	志賀直哉の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	6	大正の文学	佐藤春夫の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	7	大正の文学	菊地寛の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	8	大正の文学	小川未明の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	9	大正の文学	芥川龍之介の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	10	昭和の文学	横光利一の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	11	昭和の文学	中島敦の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	12	昭和の文学	太宰治の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	13	昭和の文学	原民喜の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	14	現代文学へ	安部公房の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく	15	近代の詩を読む	高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	明治の文学	近代社会へ 言文一致運動	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
2	明治の文学	夏目漱石の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
3	明治の文学	谷崎潤一郎の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
4	明治の文学	森鷗外の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
5	大正の文学	志賀直哉の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
6	大正の文学	佐藤春夫の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
7	大正の文学	菊地寛の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
8	大正の文学	小川未明の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
9	大正の文学	芥川龍之介の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
10	昭和の文学	横光利一の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
11	昭和の文学	中島敦の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
12	昭和の文学	太宰治の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
13	昭和の文学	原民喜の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
14	現代文学へ	安部公房の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
15	近代の詩を読む	高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	配布したプリントを読み、理解しておく																																																																
関連科目	古典文学から学ぶ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業時の参加度・コメント(100%) 場合によっては、課題を出す。																																																																		
学生へのメッセージ	活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。 この機会に、小説好きになりましょう。 専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。																																																																		
担当者の研究室等	橋本研究室(7号館4階)																																																																		
備考	事前学習として、毎週1時間以上必要。																																																																		

科目名	くらしと経済	科目名(英文)	Life and Economy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的	日本を含め世界経済はダイナミックな変化の過程にある。例えば、先進国の経済成長率が鈍化する一方、新興国は世界経済の動力源として機能しつつある。ここで重要なのは、これらは私たちのくらしと決して無縁ではなく、むしろ私たちはこれら経済問題を積極的に理解し、自らの力で対処しなければならない、ということである。本講義では、経済に関する考え方や事例を私たちの身近なものから取り上げ説明し、できるだけ学生と対話しながら進めたい。
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果(資格)	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、「くらしと経済」で何を考え学ぶのかを解説する。新聞の読み方についても解説する。	復習すること
	2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第1章を予習復習のこと
	3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第2章を予習復習のこと
	4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第3章を予習復習のこと
	5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第4章を予習復習のこと
	6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第5章を予習復習のこと
	7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第6章を予習復習のこと
	8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと
	9	労働市場	学生にとって最も身に染みて感じるであろう労働市場について解説する。	教科書第7章を予習復習のこと
	10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。	教科書第8、9章を予習復習のこと
	11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第10章を予習復習のこと
	12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第11章を予習復習のこと
	13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第12章を予習復習のこと
	14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第13章を予習復習のこと
	15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第14章を予習復習のこと

関連科目: ミクロ経済学、マクロ経済学など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経済学	中谷武、中村保	碩学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間試験(50%)＋期末試験(50%)＋発言点をもとに評価する。中間・期末双方の試験を受験しなければ評価の対象とならない。私語は減点の対象となる。
学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
担当者の研究室等	11号館6階(杉本准教授室)
備考	

科目名	グローバル世界の倫理	科目名(英文)	Ethics in Global Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱 良祐

授業概要・目的 現代のグローバル化の進展や科学技術の発展によって人間存在や人間の社会にもたらされる変容について考察する。さらに、その変容から生じる倫理的諸問題を取り上げ、その解決への道を探る。

到達目標 (1) グローバル世界の諸問題に関する基礎的な知識を習得すること。
(2) 現代社会の諸問題に対する哲学的・倫理的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。
(3) 自らの思考を適切に伝える論理的表現力を高めること。

授業方法と留意点
講義形式
授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて適宜授業中に紹介する。
受講者には、授業で取り上げる諸思想を単に学習するだけでなく、そこで問題となっている事柄について自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。
前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。
授業期間中に数回、授業の理解度を試す小テスト、少レポートを実施する。

科目学習の効果(資格) 現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身に付けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。	〈復習〉ノート・資料の整理。
2	グローバリズムとグローバル化	政治・経済の領域におけるグローバル化によってもたらされた世界の変容について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
3	テクノロジーと人間	科学技術そのものが本質的に孕む危険性について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
4	未来への責任——環境倫理(1)	現代の自然環境の変化の責任をいかにして背負うのか、という倫理的問題に取り組む。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
5	自然の生存権——環境倫理(2)	自然と人間の共生について考察し、従来の人間中心主義に対する諸々の批判を検討する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
6	「死の選択」と生命の価値——生命倫理(1)	安楽死問題等の「死の選択」をめぐる議論を検討し、現代における生命の価値について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
7	生命の選択——生命倫理(2)	人工妊娠中絶や出生前診断などの生殖をめぐる現代の議論を検討し、現代における生命と幸福について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
8	クローン技術はなぜ規制されるべきなのか——生命倫理(3)	現代における遺伝子操作の技術的発達によって生じる倫理的問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
9	グローバル化と多文化主義	現代における移民と文化的アイデンティティーの問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
10	国民国家の衰退と〈帝国〉	グローバル化の帰結としての国家の衰退とそれ以後の世界の行方について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
11	現代における「正義」論(1)	ロールズの正義論を通して、現代における自由と正義の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
12	現代における「正義」論(2)	前回に引き続き、ロールズの正義論を通して、現代における自由と正義の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
13	グローバル時代の平和論	現代の国際社会における平和の可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
14	グローバル・テロリズムと平和	現代のグローバル化したテロリズムを、いかにして克服すべきなのかを考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。

関連科目 哲学、環境倫理、社会と人権、現代社会論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバル世界と倫理	石崎嘉彦、太田義器ほか共著	ナカニシヤ出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知の21世紀的課題	石崎嘉彦、石田三千雄、山内廣隆編	ナカニシヤ出版
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点(受講態度、授業後の質問、小テスト、小レポートなど)を40%、期末レポートの結果を60%として総合的に評価する。
学生への メッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室(授業日のみ入室)
備考	授業担当者メールアドレス: xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp

科目名	芸術の理解	科目名(英文)	Appreciation of Art
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 馨

授業概要・目的 現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現をとおして絵画芸術への影響、映像芸術について考える。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。

到達目標 様々なかたちで映像メディアと接する機会が増えているが、発信する側、受け手としての理解を深める。

授業方法と留意点 講義中はスライドを使用する。提示する図は必要に応じてノートに描きとどめてもらいたい。

科目学習の効果(資格) 学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ものを見る行為について	映像情報との関わりについて	視覚について本やWEBで調べる
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
3	カメラオプスキュラの活用	カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やWEBで調べる
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる
6	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19世紀の写真表現について本やWEBで調べる
7	都市の記録	写真による都市表象について	19世紀の写真について本やWEBで調べる
8	写真と絵画の交わり1	写真と西洋絵画における写実表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やWEBで調べる
9	写真と絵画の交わり2	日本の近代絵画への写真の影響について 主に花鳥画における表現の考察	日本の近代絵画について本やWEBで調べる
10	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響を考える	報道写真について本やWEBで調べる
12	カラー写真の登場	カラー写真による表現の変化について	カラー写真について本やWEBで調べる
13	現代写真表現1	アメリカの現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
14	現代写真表現2	日本の現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
15	まとめ	写真の歴史や表現から、21世紀の写真メディアの在り方を考える	写真について復習する

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 出席点40%、期末レポート点60%により評価する。

学生へのメッセージ 板書を写すだけでなく、講義の内容をノートすること。

担当者の研究室等 7号館5階(岩間研究室)

備考

教養科目

科目名	健康科学	科目名(英文)	Health Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美

授業概要・目的	<p>私たちを取り巻く社会は交通手段の発達や家事の自動化など利便性が増した結果、人々の身体活動量が著しく低下している。さらに食生活の欧米化等も影響して、肥満症や生活習慣病にかかる人口は増加の一途をたどっている。一方で、社会の多様化・情報化なども少なからず影響してここの健康を害する人口も増加しており、メンタルヘルス対策も重要な社会問題となっている。</p> <p>本講義では、学生諸君が在学中のみならず生涯にわたる心身の健康の維持・増進を目指して、健康に関する「科学的根拠に基づいた知識」を幅広く学び、講義内容を実践できる能力を修得することを目的とする。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]</p>
到達目標	健康は、知的職業人として生きていくうえの基盤である。健康に関する幅広い知識を理解し実生活に応用、心身両面における健康を保持することができる。
授業方法と留意点	毎回の授業開始時にレジュメを配布する。授業終了後、課題を課すので次週の授業開始時に提出のこと。
科目学習の効果(資格)	

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	日本人の健康に関する現状を理解し、本講義の意義について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
2	健康づくりの三本柱	運動・栄養・休養について概要を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
3	身体の生理機能	恒常性(ホメオスタシス)について理解し、生体が外部・内部環境の変化にどのように適応しているか、具体的に説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
4	運動トレーニングが肥満対策になる所以	メタボリック症候群を正しく理解し、運動トレーニングがどのように貢献しているか説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
5	運動トレーニングで何がかわるのか?	運動トレーニングによる筋力増強、持久力向上、エネルギー代謝の改善、またストレス軽減作用について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
6	どんな運動が健康によいのか?	肥満解消、筋力増大、メンタルヘルスの保持など目的に応じたトレーニング方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
7	基礎栄養学	各栄養素の種類や機能について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
8	食生活と健康	望ましい食事バランスや量について理解し、簡単な献立を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
9	ダイエット計画	体重と体脂肪率が表現することを正しく理解し、減量が必要な場合の望ましいダイエット方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
10	女性の健康・男性の健康	性別による生理的特徴を理解し、女性の月経や妊娠について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
11	ストレスマネジメント	ストレスの定義について理解し、それを軽減し得る方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
12	睡眠	睡眠の段階的役割を含めた必要性や、日中の生活へ及ぼす影響について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
13	アルコールと喫煙、薬物、性感染症	アルコールの代謝や遺伝的要因、タバコ、薬物が身体にもたらす影響について説明できる。また性感染症について罹患の原因、対策について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
14	高齢者の介護予防と運動	高齢者の形態・機能的特徴を理解すると共に、介護について説明できる。さらに運動など生活習慣が及ぼす影響についても説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に課題を提示する。 ・授業ノート等で復習すること。 ・次回の授業の予習をすること。
15	総括	本講義の総括と、健康に関する諸問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノート等で復習すること。

関連科目 スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	期末試験 50%、レポート 30%、授業態度 20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	皆さんが将来、知的職業人として社会で活躍するためには、まず心身の健康の保持が大切です。「病気にかかってから治療する」のではなく「病気にかからない」ための正しい知識を身につけ、それを実践して健康な日々を送りましょう！
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 藤林研究室
備考	1) 毎回の課題は 1 時間以上かけて作成のこと。 2) 毎回の課題以外に、講義の予習復習として 30 分以上かけること。 3) 自主学習は試験の準備を含めて、20 時間かけること。

科目名	古典文学から学ぶ	科目名 (英文)	Classic Literature
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	日本の古典文学の物語を読む。なお、古代から江戸時代までの作品を古典文学と位置づける。文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。この授業では、日本人が何を、どのように、何のために「物語」として描いたのか、そこに焦点を当てて考える。古典を読むことで、現代の我々の思考力と想像力を豊かにすることを目的とする。また、古典文学への抵抗をなくし、文学作品を読んで考える習慣を身につけることも目的とする。
到達目標	作品を味わい鑑賞する力を身につける。
授業方法と留意点	毎回、1作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメントを書く。 古典文学・文法に関する知識は一切必要ない。
科目学習の効果 (資格)	文学に対する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	物語とは何か 1	古典文学について、物語について講義する	配布した作品を読む
	2	神話の世界 1	古事記を読む	配布した作品を読む
	3	神話の世界 2	風土記を読む	配布した作品を読む
	4	男女の物語 1	伊勢物語を読む	配布した作品を読む
	5	信仰の文学 1	今昔物語集を読む	配布した作品を読む
	6	怪異を物語る 1	今昔物語集を読む	配布した作品を読む
	7	信仰の文学 2	宇治拾遺物語を読む	配布した作品を読む
	8	いくさの文学	平家物語を読む	配布した作品を読む
	9	下剋上の文学 1	室町時代の物語を読む	配布した作品を読む
	10	芸能と文学 1	狂言を読む	配布した作品を読む
	11	芸能と文学 2	説経浄瑠璃を読む	配布した作品を読む
	12	芸能と文学 3 男女の文学 2	人形浄瑠璃を読む	配布した作品を読む
	13	物語から小説へ 1	江戸時代の物語を読む	配布した作品を読む
	14	物語から小説へ 2 怪異を物語る 2	江戸時代の物語を読む	配布した作品を読む
	15	絵と物語 まとめ	絵と物語の関係について 物語について総括する	配布した作品を読む

関連科目	近代文学から学ぶ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業時の参加度・コメント (100%) 場合によっては、課題を出す。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	古典文学・文法の知識は一切必要ありません。でも関心は持って下さい。 しばし日常を離れ、古典の世界に遊びましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	橋本研究室 (7号館 4階)
----------	----------------

備考	事後学習として、毎週1時間以上必要 (授業での説明を参考にして作品を読み直す)。
----	--

科目名	自然科学 I	科目名 (英文)	Introduction to Natural Sciences I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 哲郎

授業概要・目的
授業内容はほぼヒトの生体の話である。生体内とはとりもなおさず、10 の器官系からなる我々の体の中のしくみと働きである。しかしながら、
案内、我々は自分の体の中で行われていることを知らない。この半年間、生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。

到達目標
新聞・ニュース等で解説される生物学の用語を理解し、簡単に概略を説明できる。

授業方法と留意点
ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。

科目学習の効果 (資格)
一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約 60 兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシヤボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目
自然科学 II と連動している。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新生物図表		浜島書店
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
小テストを 40%、臨時テストを 40% および授業態度を 20% で評価する

学生へのメッセージ
社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。

担当者の研究室等
枚方・薬学部 6 号館 3 階病理学研究室 1

備考
講義後の復習 (ノートをまとめ、重要単語を暗記する 1 時間 X15 回)。

教養科目

科目名	自然科学Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Natural Sciences II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹内 健治

授業概要・目的 人体の構造や機能から健康を害するしくみについて理解し、健康維持と病気治療への積極的な参加に必要な知識を得ることを目的とする。

到達目標 人体の構造や機能の知識を習得することで、自然科学および健康に関する教養を身につける。

授業方法と留意点 教科書やプロジェクター、配布資料などを用いて、モデル図や写真を使って解説します。小テストや課題により理解度を確認します。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	生体を構成する物質	全ての生物に共通する基本的な物質の種類。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
2	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸とタンパク質の構造と役割。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
3	遺伝子の構造と機能	遺伝子を構成する分子とその役割。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
4	セントラルドグマ	遺伝子を構成する分子とその役割。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
5	酵素が代謝を支える	代謝に関わる分子と、代謝を行うシステム。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
6	生体とエネルギー	代謝に関わる分子と、代謝を行うシステム。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
7	生命を支える細胞分裂	一個の受精卵からヒトの生命は出発する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
8	細胞の分化と細胞間の情報交換	多細胞生物を構成する細胞は独立した役割を持つ。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
9	がん	がん発生の仕組みとその原因。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
10	生殖の仕組み	生殖の仕組みを細胞レベルで解説します。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
11	細胞死と老化	細胞数を減少させる仕組み。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
12	個体の自己維持	恒常性維持の仕組み。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
13	生体防衛機構	免疫の仕組みと働き。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
14	遺伝の仕組み	遺伝の仕組みと遺伝子疾患。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
15	ヒトの遺伝病	遺伝の仕組みと遺伝子疾患。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。

関連科目 自然科学Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎生物学第2版	南雲保	羊土社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 小テスト(30%)、課題(10%)、定期試験(60%)により評価する。

学生へのメッセージ 質問は適宜受け付けます。

担当者の研究室等 枚方学舎1号館5階

備考

教養科目

科目名	社会学 I	科目名 (英文)	Sociology I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武田 祐佳

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念 (=キーワード) と社会的なものについて解説します。それらを通して、人が「社会的な存在」一他者から影響を受け、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいきます。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解説する「社会的思考力」を身につける。
授業方法と留意点	講義は1回完結のオムニバス形式でおこないます。毎回、レジュメを配布し、時には視聴覚資料を用いることもあります。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがあります。
科目学習の効果 (資格)	社会的なものについて学ぶことによって、これまであたりまえだと感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義をはじめるにあたって	オリエンテーション	授業内容に関する復習
	2	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間 (1) 一社会化	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	3	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間 (2) 一ジェンダー	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	4	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間 (3) 一役割	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	5	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間 (4) 一自己	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	6	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間 (5) 一感情	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	7	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間 (6) 一小括	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	8	社会学における基礎的知識と発想	集団のなかの個人 (1) 一規範と同調	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	9	社会学における基礎的知識と発想	集団のなかの個人 (2) 一逸脱	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	10	社会学における基礎的知識と発想	組織のなかの個人一官僚制	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	11	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果 (1) 一予言の自己成就	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	12	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果 (2) 一社会的ジレンマ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	13	社会学における基礎的知識と発想	社会学の古典から (1) 一自殺と社会	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	14	社会学における基礎的知識と発想	社会学の古典から (2) 一権威への服従	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習

関連科目	社会学 II
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験…80%、授業参加度 (授業中に配布するリアクション・ペーパー・課題内容を評価) …20%
-----------	---

学生へのメッセージ	「社会学」は小中高にはないカリキュラムなので、学問のイメージが浮かびにくいと思います。社会学では普段私たちがあたりまえと思っていたり、気にもとめないことがらを「見よう」「理解しよう」とするので、難しいことばが出てきますが、授業では身近な例をあげ、できるだけ平易に解説していきます。なお、授業中は私語を慎み、それなりの意欲をもって授業に臨んでください。私語には厳しく対処します。
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	社会学Ⅱ	科目名(英文)	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、家族と子ども、政治、宗教、社会意識といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	受講生が社会学の知識・考え方を身につけ、自らが直面する問題について社会学的な発想に基づいて多面的に理解し考察できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	テーマに関連するデータ資料や視聴覚教材をもちいる。
科目学習の効果(資格)	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義をはじめめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
	2	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	3	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	4	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	5	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	6	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	7	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	8	中間テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	配布レジメに基づく予習
	9	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	10	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	11	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	12	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	13	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	14	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習	

関連科目	社会学Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加度10%、試験(中間、期末)90%で評価する。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なのは「正解のない問題」に向きあう際の姿勢です。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣

授業概要・目的
就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。

到達目標
就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること

授業方法と留意点
授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。

科目学習の効果(資格)
就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的,意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目
コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜SmartSPIの活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他SPIや玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法(基準)
小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ
7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3年生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考
7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永見 誠二

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・テスト	講座の目的,意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
	9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠

授業概要・目的
就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。

到達目標
就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること

授業方法と留意点
授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。

科目学習の効果(資格)
就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的,意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目
コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜Smart SPIの活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他SPIや玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法(基準)
小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ
7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3年生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考
7号館3階 キャリア教育推進室

教養科目

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		小学校6年間の算数が6時間でわかる本	間地 秀三
2				
3				

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
 その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すとされています。早めに対策をしておく、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考: 7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 雅代

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学 I では、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学についての基礎知識を習得する。2) 人間の行動を理解する。3) 社会の中の自己を確認する。4) 実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じて VTR を使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果 (資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	心理学とはどのような学問か	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。	心理学の印象について自分なりの考えをまとめておいて下さい。
2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	前回の授業で紹介した VTR について A4 にまとめ提出する。
5	社会的学習	学習とは学校での勉強のことではなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	関連する文献を紹介するので読んでおくこと。
6	両側性転移	心理学実験「両側性転移」を行い学習についての理解を深めるとともに心理学の研究方法について理解を深める。	実験の概要について確認しておくこと。
7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	実験結果から何が読取れるか A4 用紙にまとめ提出する。
8	動機づけ (1)	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
9	動機づけ (2)	生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。	授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えを A4 用紙にまとめ提出する。
10	動機づけ (3)	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
11	パーソナリティ (1)	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	パーソナリティについて自分なりの考えを A4 用紙にまとめ提出する。
12	パーソナリティ (2)	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
13	パーソナリティ (3)	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
14	パーソナリティ (4)	パーソナリティについて自己分析を行う。	パーソナリティテストの結果について自分なりに解釈し A4 用紙にまとめ提出する。
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考えておく。

関連科目 心理学 II と併せて履修することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は特になし。講義内で資料配布する。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学の基礎	今田寛、宮田洋、賀集寛共編	培風館
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。
【定期試験 50%、レポート課題 30%、小テスト 20%】

学生へのメッセージ 心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ事例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。

担当者の研究室等 11 号館 6 階(経営学部事務室)または 11 号館 7 階福田研究室

備考

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 雅代

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、社会的現実と対比した日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学の知識を幅広く習得する。2) 社会と個人の関係を理解する。3) 集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。4) 状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTR等を使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果(資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	心理学とは何か、社会、集団の中でおこる心理	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究についての考え方について説明する。後期において取り扱うトピックの概要説明。	VTRについて自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
	2	知覚(1)	人間理解につながる「見えのしくみ」について概説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
	3	知覚(2)	知覚の種類や見えに及ぼす社会的影響について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
	4	知覚(3)	心理学の基礎実験の1つである「ミューラリヤーの錯視」実験を実施する。心理学におけるデータの取り扱い方、考え方や人間の知覚行為についての理解を深める。	実験結果について読み取れる問題をA4用紙にまとめ提出する。
	5	対人関係(1)	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
	6	対人関係(2)	人はどのような事をきっかけに親しくなったり、愛したりしていくものなのか、対人魅力について説明する。	対人魅力について自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
	7	対人関係(3)	人が態度を変えるとき、説得されるときとはどのようなときなのか、態度変容について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
	8	対人関係(4)	集団の持つ影響力として「同調」や「服従」について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
	9	対人関係(5)	リーダーシップについて説明する。	自己のリーダーシップのあり方についてA4用紙にまとめ提出する。
	10	うわさ	うわさによるパニック行動、うわさの種類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	授業で体験した伝達現象について自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
	11	攻撃行動(1)	人間の攻撃行動について概説する。	VTRについて自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
	12	攻撃行動(2)	人間が行なう攻撃行動の機能性について様々な実験例とともに説明する。またドメスティックヴァイオレンスなどについて説明を行なう。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
	13	援助行動(1)	援助行動の形成や発達の仕方について、また援助行動が行われる状況、行われない状況とはどのような状況か、意思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
	14	援助行動(2)	援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。ソーシャルサポートの重要性について解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
	15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考える。

関連科目	心理学Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし。講義内で資料配布する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学の基礎	今田寛、宮田洋、賀集寛共編	培風館
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。 【定期試験50%、レポート課題30%、小テスト20%】
----------	--

学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部事務室)または11号館7階福田研究室
備考	

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大高 和香

授業概要・目的	最も身近な空間である住居について、その歴史の中で生み出された住まいの工夫と文化を知り、快適な住生活と、特にデザインとのかかわりを考察する。また、「リノベーション」の実習を体験し、初歩的な知識と技術を修得する。
到達目標	将来、住み手の立場で必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・住まいとデザインのトピックス	授業の進め方や受講上の注意点などのガイダンスと、住まいとデザインのトピックスについて説明する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	2	インテリアの常識	身近なインテリアの用語、法規について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	3	インテリアの構成要素	住空間を構成する主な要素について学び、知識を深める。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	4	デザインスタイルの基礎	第5回目から第7回目までの授業の前段としてデザインスタイル全般について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	5	デザインスタイルの分類 (1)	モダン系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	6	デザインスタイルの分類 (2)	ナチュラル系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	7	デザインスタイルの分類 (3)	クラシック系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	8	J実習:ピフォーアフター「団地のリノベーション」(1)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーションを作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	9	実習:ピフォーアフター「団地のリノベーション」(2)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーション作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	10	「団地のリノベーション」作品講評会 (1)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	11	「団地のリノベーション」作品講評会 (2)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	12	「団地のリノベーション」作品講評会 (3)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	13	住まいの色彩計画	色彩計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	14	住まいの照明計画	照明計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	まとめ、リノベーションの実例から、「住まいとデザイン」に関し考えを深める。	リノベーションに関し自らの考えをレポートにまとめる。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験:60%、受講態度(出席・講義メモ・課題・小テストなど):40%を、合わせて評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	自分の周りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。きっと新しい発見があることでしょう。
-----------	--

担当者の研究室等	12号館7階、8号館3階 大谷准教授室
----------	---------------------

備考	出欠・遅刻に関する規定は、理工学部に準ずる。
----	------------------------

科目名	政治学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Politics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一

授業概要・目的	日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。
到達目標	政治学の基本的な項目について習得することを目標にする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果 (資格)	政治学の基本となる知識を習得できるようにしたい。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治目・国際面を読む習慣をつける
	2	「政治」とはなにか	「政治」の概念について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	3	近代国家の誕生	近代国家とはなにか、またその誕生について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	4	国家の政治体制 (1)	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	5	国家の政治体制 (2)	自由民主主義体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	6	国家の政治体制 (3)	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	7	政治と経済・福祉 (1)	政治と経済の関わりについて	政治学に関する参考文献を読んでおく
	8	政治と経済・福祉 (2)	戦後の福祉国家について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	9	政治制度と政治過程	国民代表・利益代表の政治過程について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	10	政策と行政	政策過程について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	11	政党制	政党とはなにか、また政党システムの類型について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	12	集権と分権	分権と連邦主義、国際統合について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	13	近代の国際政治と現代の国際政治 (1)	近代の国際体系＝ウェストファリア体制について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	14	近代の国際政治と現代の国際政治 (2)	現代の国際政治の特色について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	15	まとめ	講義のまとめと、試験について	試験に向けたノート作りをしておく

関連科目	政治学・国際政治・外交関連の科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代政治学	加茂利男・大西仁他	有斐閣
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末の試験 (論述式。5 問出題して 2 問を選択してもらいます) の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。
-----------	--

学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起きていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようしてください。共に勉強しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
----------	------------------------------

備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。ただし評価に出席点は加えません。
----	--

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Politics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一

授業概要・目的
この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。

到達目標
第二次世界大戦後の国際政治の流れについて習得し、現在の国際関係を正確に理解することを目標とする。

授業方法と留意点
プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。

科目学習の効果(資格)
現在の世界情勢を理解するうえで必要な知識を習得できるようにしたい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の国際面を読む習慣をつける
2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく
5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエル、パレスチナ問題について調べておく
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	最近の朝鮮半島情勢について調べておく
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	最近の日本の外交に関して調べておく
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする

関連科目
国際政治関係の科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア	有斐閣
2	国際政治をつかむ	村田晃司・君塚直隆他	有斐閣
3	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会

評価方法(基準)
期末の試験(論述式、5問出題して2問を選択してもらいます)の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。

学生へのメッセージ
日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。共に勉強しましょう。

担当者の研究室等
11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)

備考
出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。ただし評価に出席点は加えません。

教養科目

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマニエールの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2016年2月に実施）に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																

科目名	生命科学入門	科目名(英文)	Basics of Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人

授業概要・目的
 生命科学は、ウイルス、バクテリア、植物からヒトにいたるまでの生命の全体像を浮かび上がらせる学問分野であり、これまであまり生命科学になじみのなかった学生も社会常識として学ぶべき科目である。
 本授業では、高校で生物学を学んだことが無い学生でも、生命科学の基礎を学び、生命科学が自分たちの生活にどのような形で関わっているかを幅広く学べるように講義する。

到達目標
 ・生命科学の基礎を理解し、種々の生命現象を理論的に説明できる。
 ・課題(レポート)に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。

授業方法と留意点
 ・毎回の講義終了時に出席票をかねたミニレポート(小テストを含む)を提出させる。
 ・全講義終了後にレポートを提出させ、その内容を評価する。レポートの題材は、いずれかの回の講義内容に直結するものを受講生が探す。
 ・独自の論考を加えたものについては、高い点を与える。
 ・成績判定は出席とレポートの内容を総合して評価する。
 ・欠席が3回以上の場合(初回を含めて)は、レポートの採点はおこなわない。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	人類はどうやって生まれてきたか	生命の起源から地球環境と生命の進化について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
3	細胞の成り立ちと遺伝の仕組み	細胞を構成する物質から遺伝子の転写翻訳、エピジェネティクス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
4	進化の理論	ダーウィンの進化論・分子進化学・環境適応と進化等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
5	細胞が増える仕組み	増殖シグナルの伝達様式や細胞周期・染色体の分離と細胞分裂について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
6	性と生殖の不思議	生殖細胞と減数分裂及び幹細胞やES細胞・クローン、発生工学や遺伝子ノックアウト生物について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
7	老化と病	なぜ老化するのか? 抗老化ホルモンやアルツハイマー病、狂牛病や夢のやせ薬について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
8	なぜ、がんになるのか?	がんをとりまく遺伝子や浸潤と転移の仕組み、がんの分子標的治療について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
9	生体防御と感染	免疫を担う細胞群や自然免疫・獲得免疫の仕組み、アレルギーやアトピー性皮膚炎について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
10	遺伝子医療と感染症	遺伝子診断とオーダーメイド医療や遺伝子治療、再生医療と感染性疾患、インフルエンザ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
11	先端バイオ技術の応用	個人識別と犯罪捜査、遺伝子組換え植物や不毛の地の緑地化、青いバラ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
12	ナノテクが拓くバイオの未来	ナノテクノロジー、ナノ医療、RNA創薬などについて説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
13	「植物の発生」	植物の基本体制や種子形成、発芽、分枝、植物ホルモン等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
14	人類はどこに行くのか	人類と科学技術、地球上の生命にとっての人類の役割、メタンハイドレート、核融合、バイオマス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
15	エピローグ	この講義の総括、補習講義、全員による討論を行う。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生命科学の基礎	野島 博	東京化学同人
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	理系総合のための生命科学	東京大学生命科学教科書編集委員会	羊土社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 (60%)、レポート (40%)、60%で合格とする。 ・リアクションペーパーにより、出席確認・講義に関する質問および要望等を受け付けます。 ・欠席が3回以上の場合 (初回を含めて) は、レポートの採点はおこなわない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	世界の歴史	科目名(英文)	History of the World
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。古代や中国の例なども広く視野に入れることで、一種、常識となっているこのような通説を疑い、考えなおす。そのようにして、都市を窓口にして歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各单元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果(資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
	2	都市を窓に世界史を見る	文明はさまざまでも共通点がある	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	3	都市を窓に世界史を見る	日本史の特徴は世界史のなかで初めて分かる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	4	イスラーム都市	世界で最も先進的な文明	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	5	イスラーム都市	活発な経済と快適な生活の両立	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	6	イスラーム都市	都市文明と相性の良い宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	7	イスラーム都市	ヨーロッパはイスラームに学んだ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	8	中国都市	「同じことばかりくり返している」というウソ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	9	中国都市	1000年前の大転換	同上の課題に加えて小レポート。
	10	中国都市	現代を先取りした流通と消費	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	11	中国都市	エンターテインメント産業や外食産業も出現	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さい	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	13	ヨーロッパ都市	農業中心の経済と政治的な分裂のなかで	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対はない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+a)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
----------	--

学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	【教職科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【履修区分】必修
----	--

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治

授業概要・目的	<p><過疎地域における地域資源活用プロジェクト> 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは未定であるが、地域の連携団体と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p> <p>以下の手順で実施する</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治

授業概要・目的	<p><過疎地域における地域資源活用プロジェクト> 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは未定であるが、地域の連携団体と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手順で実施する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子

授業概要・目的	<p>概要：本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、6年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2016年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップでの発表</p> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。学外発表の場として、近畿水環境交流会(7月)、天若湖アートプロジェクト(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%)</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子

授業概要・目的	<p>概要：本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、6年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2016年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップでの発表</p> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。学外発表の場として、近畿水環境交流会（7月）、天若湖アートプロジェクト（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	レポート、参加態度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	レポート、参加態度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の継続的運営、社会教育（男女共同参画や安心安全など）への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>【内容】 対象予定とするサブプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編（寝屋川市）、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、男女共同参画センターの認知度向上（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、自治体職員のITスキル測定と地域企業への教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。また、これらのサブプロジェクトを発展させていくために、海外への情報発信や比較調査、および、拡大展開も視野に入れて活動する。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の継続的運営、社会教育（男女共同参画や安心安全など）への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>【内容】 対象予定とするサブプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編（寝屋川市）、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、男女共同参画センターの認知度向上（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、自治体職員のITスキル測定と地域企業への教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。また、これらのサブプロジェクトを発展させていくために、海外への情報発信や比較調査、および、拡大展開も視野に入れて活動する。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を活用した商品開発を行う。 ②自ら考え行動できる力をつける。 ③チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 また製品を製造してくれるメーカーに出向いたり、商品販売を行うために店頭に立つこともあります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する 由良町の現状を学ぶ2 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町の課題について報告書等で予習する 事後学習：総合戦略の報告書を理解し、自分なりにレポートにまとめる 現状と課題まとめ グループごとに発表を行います。 事前学習：発表の準備 事後学習：グループで課題整理と共有化 由良町の方とのディスカッション 由良町役場の方を交え、今後の由良町について意見交換を行います。 事前学習：自分の意見を発表できるようにする。 事後学習：意見交換した感想等をレポートにまとめる。 マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる 地域資源で活用できるものの絞り込み グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえて商品開発に使えるような地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む 商品開発候補案作成 商品開発案の議論を行う 事前学習：商品開発のアイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる 現地調査 由良町に出向き現地の方にインタビュー調査を行います。 事前学習：現地で調べる内容をまとめる 事後学習：調査結果をレポートにまとめる 商品開発候補案の絞り込み グループごとに出された案からさらにしぼりこみを行います 事前学習：調査結果から商品候補を絞り込む 事後学習：絞り込みされた案を企画書にする 消費者ニーズ調査 事前学習：調査方法や質問項目を考える 事後学習：データ整理 調査とりまとめ 事前学習：データ打ち込み 事後学習：データ分析 商品の仕様検討 事前学習：データまとめ 事後学習：商品仕様、STPをまとめる 試作 事前学習：試作先との調整 事後学習：試作品に対する自分の意見をまとめておく 試作評価 事前学習：類似商品を調べておく 事後学習：評価のまとめ

	18. 販売先の確保 事前学習：候補先のリスト作成 事後学習：販売先と調整																
	19. 製品最終仕様の決定 事前学習：販売先の商品に対する意見聴取 事後学習：量産にむけての準備																
	20. 販売促進方法の検討と実施 事前学習：販促案を考えてくる 事後学習：販促実施																
	21. 製品販売開始 事前学習：接客方法などマスター 事後学習：販売に対するふりかえりを行う																
	22. 現地での発表 事前学習：現地での発表準備 事後学習：総括、レポート作成																
関連科目	各学部マーケティング関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社														
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館														
3																	
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 30% 提出物 30% 最終レポート 40%																
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、製品がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を活用した商品開発を行う。 ②自ら考え行動できる力をつける。 ③チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。 また製品を製造してくれるメーカーに出向いたり、商品販売を行うために店頭に立つこともあります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する</p> <p>3. 由良町の現状を学ぶ2 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町の課題について報告書等で予習する 事後学習：総合戦略の報告書を理解し、自分なりにレポートにまとめる</p> <p>4. 現状と課題まとめ グループごとに発表を行います。 事前学習：発表の準備 事後学習：グループで課題整理と共有化</p> <p>5. 由良町の方とのディスカッション 由良町役場の方を交え、今後の由良町について意見交換を行います。 事前学習：自分の意見を発表できるようにする。 事後学習：意見交換した感想等をレポートにまとめる。</p> <p>6. マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>7. マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>8. 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる</p> <p>9. 地域資源で活用できるものの絞り込み グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえ商品開発に使えるような地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む</p> <p>10. 商品開発候補案作成 商品開発案の議論を行う 事前学習：商品開発のアイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる</p> <p>11. 現地調査 由良町に出向き現地の方にインタビュー調査を行います。 事前学習：現地で調べる内容をまとめる 事後調査：調査結果をレポートにまとめる</p> <p>12. 商品開発候補案の絞り込み グループごとに出された案からさらにしぼりこみを行います 事前学習：調査結果から商品候補を絞り込む 事後学習：絞り込みされた案を企画書にする</p> <p>13. 消費者ニーズ調査 事前学習：調査方法や質問項目を考える 事後学習：データ整理</p> <p>14. 調査とりまとめ 事前学習：データ打ち込み 事後学習：データ分析</p> <p>15. 商品の仕様検討 事前学習：データまとめ 事後学習：商品仕様、STPをまとめる</p> <p>16・試作 事前学習：試作先との調整 事後学習：試作品に対する自分の意見をまとめておく</p> <p>17. 試作評価 事前学習：類似商品を調べておく 事後学習：評価のまとめ</p>

	18. 販売先の確保	事前学習：候補先のリスト作成 事後学習：販売先と調整		
	19. 製品最終仕様の決定	事前学習：販売先の商品に対する意見聴取 事後学習：量産にむけての準備		
	20. 販売促進方法の検討と実施	事前学習：販促案を考えてくる 事後学習：販促実施		
	21. 製品販売開始	事前学習：接客方法などマスター 事後学習：販売に対するふりかえりを行う		
	22. 現地での発表	事前学習：現地での発表準備 事後学習：総括、レポート作成		
関連科目	各学部マーケティング関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社
	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館
	3			
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 30% 提出物 30% 最終レポート 40%			
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、製品がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。			
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 長谷川 淳

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場や小学校などで運転会を催す。 また、運転会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトの実施計画や進捗状況の把握程度(35%)、プロジェクト推進に対する貢献度(25%)、製作技術習得時の能動的態度(40%)について、ミーティングでの報告や作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 長谷川 淳

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場や小学校などで運転会を催す。 また、運転会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトの実施計画や進捗状況の把握程度(35%)、プロジェクト推進に対する貢献度(25%)、製作技術習得時の能動的態度(40%)について、ミーティングでの報告や作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎

授業概要・目的	<p>テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育 通年・前期1回、後期1回のコンペティション参加することである。</p> <p>コンペティションへの参加に当たっては、0. 専門知識の習得（復習・新たに勉強）、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会を実施する。各項目では、しっかりとエビデンスを残し進捗状況を確認できるようにする。</p> <p>・大きく分けて前期1回、後期1回のコンペティション参加 「前期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加</p> <p>「後期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加</p>																		
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基本を学ぶ構造力学</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新編 橋梁工学</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版	2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版																
2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会																
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めるので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎</p>																		
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																		
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎

授業概要・目的	<p>テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決し計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育 通年・前期1回、後期1回のコンペティション参加することである。</p> <p>コンペティションへの参加に当たっては、0. 専門知識の習得（復習・新たに勉強）、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会を実施する。各項目では、しっかりとエビデンスを残し進捗状況を確認できるようにする。</p> <p>・大きく分けて前期1回、後期1回のコンペティション参加 「前期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加</p> <p>「後期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加</p>																		
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基本を学ぶ構造力学</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新編 橋梁工学</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版	2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版																
2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会																
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めないので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎</p>																		
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																		
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介、マイケル ハーキー

授業概要・目的	<p><寝屋川市における国際交流推進プロジェクト>と題し、寝屋川キャンパス周辺地域の国際交流や多文化共生を推進する講演、パフォーマンス、交流会等のイベントを企画、運営するPBL授業です。</p> <p>NPO法人寝屋川市国際交流協会(NIEFA)と連携し、寝屋川市と米国ヴァージニア州・ニューポートニューズ市との姉妹都市交流をはじめ、寝屋川市内の様々な国際交流事業を支援します。両市の相互の訪問団派遣および受け入れ事業、街おこしイベント「新天地 in Neyagawa」等、NIEFAが手掛ける既存の事業への運営協力や広報活動に加えて、国際交流に関連する独自のイベントを企画、提案、実行します。過去2年間の「寝屋川市と米国ニューポートニューズ市の姉妹都市交流支援プロジェクト」を継承しながら、より幅広い国・地域出身の方々との交流を視野に入れます。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の非営利団体、自治体、企業、大学の相互連携について学び、社会人に相応しい責任感とコミュニケーション能力を身につけることが全履修者に共通の目標です。これに加え、各受講生が分担して受け持つ業務を通じて、アメリカ合衆国、その他対象地域に関する知識や実践的な英語コミュニケーション能力を高め、イベント運営や広告営業などの実地経験を積むことを目指します。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・年度を通じて定期ミーティングを行い、NIEFAをはじめとする協力団体、企業の方々や調整しながら活動します。 ・多様な関心分野、得意分野を持った学生の履修を期待しています。たとえば、 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国際交流に関心があり、日本語を話せない外国人を相手に物怖じせず、簡単な英語でコミュニケーションがとれる人、またはとれるように努力する意欲のある人。 (2) 多文化共生に関心があり、日本に在住または滞在している海外出身者と交流し、彼らの経験から学ぶ意欲のある人。 (3) アメリカ合衆国やニューポートニューズ市について詳しく学ぶことに意欲のある人。翻訳に興味のある人。姉妹都市について学んで日本語で情報発信したり、寝屋川市のことを先方に英語で発信する人が必要です。 (4) イベントの企画運営や広告営業など、学外の方々と共に仕事を進めることを経験し、社会人として働く力を高めたい人。履修者には各種のイベントを運営し、成功に導くスタッフとしての役割が期待されています。教室を離れて仕事の現場に飛び込む行動力のある人が必要です。 (5) ウェブ制作やプレゼン資料作成、チラシ、ポスター等印刷物のデザインに興味のある人。情報発信のための技能を持った人が来てくれると助かります。 (6) 協調性があるだけでなく、リーダーシップもとれる人。PBLは、学生が主体となって進めるものです。教員は、英語および翻訳の指導や事務処理についてのアドバイスをしますが、現場の要望を聞いて具体的な活動の中身を考え、実行し、フィードバックを受けて改善していくのは受講生の皆さん自身です。細かいプロジェクトごとにリーダーを決め、連絡を取り合いながらチームで動き、活動内容を定期的に教員に報告してもらいます。 <p>以上、どれか一つでも当てはまる人はぜひ履修を検討してください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～5月中に数回のミーティングをNIEFAスタッフを交えて行い、いくつかの優先すべき活動内容を決めてそれぞれリーダーを選出し、活動に入ります。前期中にいくつかの小さなイベントの運営をして経験を積み、夏休み後9月～12月の間に大きなイベントを一つ企画、運営します。今年度はおそらく、ニューポートニューズ市からの市民訪問団の歓迎会が主要なイベントとなることが予想されます。翌年1月には年間の活動報告プレゼンテーションを行います。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>ミーティングへの出席、各業務におけるリーダーシップ、学外関係者との関係など、評価項目を列挙したルーブリックを用いた自己評価に加え、定期ミーティングでの活動報告や活動現場での取り組み姿勢をみて総合的に評価します。</p>																
学生へのメッセージ	<p>外国語学部教員が指導を担当していますが、異なる視点を持ち込んでくれる他学部生の履修は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 鳥居研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介、マイケル ハーキー

授業概要・目的	<p><寝屋川市における国際交流推進プロジェクト>と題し、寝屋川キャンパス周辺地域の国際交流や多文化共生を推進する講演、パフォーマンス、交流会等のイベントを企画、運営するPBL授業です。</p> <p>NPO法人寝屋川市国際交流協会(NIEFA)と連携し、寝屋川市と米国ヴァージニア州・ニューポートニューズ市との姉妹都市交流をはじめ、寝屋川市内の様々な国際交流事業を支援します。両市の相互の訪問団派遣および受け入れ事業、街おこしイベント「新天地 in Neyagawa」等、NIEFAが手掛ける既存の事業への運営協力や広報活動に加えて、国際交流に関連する独自のイベントを企画、提案、実行します。過去2年間の「寝屋川市と米国ニューポートニューズ市の姉妹都市交流支援プロジェクト」を継承しながら、より幅広い国・地域出身の方々との交流を視野に入れます。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の非営利団体、自治体、企業、大学の相互連携について学び、社会人に相応しい責任感とコミュニケーション能力を身につけることが全履修者に共通の目標です。これに加え、各受講生が分担して受け持つ業務を通じて、アメリカ合衆国、その他対象地域に関する知識や実践的な英語コミュニケーション能力を高め、イベント運営や広告営業などの実地経験を積むことを目指します。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・年度を通じて定期ミーティングを行い、NIEFAをはじめとする協力団体、企業の方々や調整しながら活動します。 ・多様な関心分野、得意分野を持った学生の履修を期待しています。たとえば、 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国際交流に関心があり、日本語を話せない外国人を相手に物怖じせず、簡単な英語でコミュニケーションがとれる人、またはとれるように努力する意欲のある人。 (2) 多文化共生に関心があり、日本に在住または滞在している海外出身者と交流し、彼らの経験から学ぶ意欲のある人。 (3) アメリカ合衆国やニューポートニューズ市について詳しく学ぶことに意欲のある人。翻訳に興味のある人。姉妹都市について学んで日本語で情報発信したり、寝屋川市のことを先方に英語で発信する人が必要です。 (4) イベントの企画運営や広告営業など、学外の方々と共に仕事を進めることを経験し、社会人として働く力を高めたい人。履修者には各種のイベントを運営し、成功に導くスタッフとしての役割が期待されています。教室を離れて仕事の現場に飛び込む行動力のある人が必要です。 (5) ウェブ制作やプレゼン資料作成、チラシ、ポスター等印刷物のデザインに興味のある人。情報発信のための技能を持った人が来てくれると助かります。 (6) 協調性があるだけでなく、リーダーシップもとれる人。PBLは、学生が主体となって進めるものです。教員は、英語および翻訳の指導や事務処理についてのアドバイスをしますが、現場の要望を聞いて具体的な活動の中身を考え、実行し、フィードバックを受けて改善していくのは受講生の皆さん自身です。細かいプロジェクトごとにリーダーを決め、連絡を取り合いながらチームで動き、活動内容を定期的に教員に報告してもらいます。 <p>以上、どれか一つでも当てはまる人はぜひ履修を検討してください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～5月中に数回のミーティングをNIEFAスタッフを交えて行い、いくつかの優先すべき活動内容を決めてそれぞれリーダーを選出し、活動に入ります。前期中にいくつかの小さなイベントの運営をして経験を積み、夏休み後9月～12月の間に大きなイベントを一つ企画、運営します。今年度はおそらく、ニューポートニューズ市からの市民訪問団の歓迎会が主要なイベントとなることが予想されます。翌年1月には年間の活動報告プレゼンテーションを行います。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>ミーティングへの出席、各業務におけるリーダーシップ、学外関係者との関係など、評価項目を列挙したルーブリックを用いた自己評価に加え、定期ミーティングでの活動報告や活動現場での取り組み姿勢をみて総合的に評価します。</p>																
学生へのメッセージ	<p>外国語学部教員が指導を担当していますが、異なる視点を持ち込んでくれる他学部生の履修は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 鳥居研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 ・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 ・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 ・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに第2弾の紙芝居を作成する。 ・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市だけでも28回活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の作製を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等備考	7号館3階 外国語学部 天野貴史研究室																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 ・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 ・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 ・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに第2弾の紙芝居を作成する。 ・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	全体で行う活動やミーティングの参加態度 (40%)、自分の役割に対する貢献 (40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表 (20%)																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市だけでも28回活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の作製を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	7号館3階 外国語学部 天野貴史研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 佐井 英子

教養科目

授業概要・目的	摂南大学近隣の小学生を対象に、北大阪商工会議所青年部と共同で、「こども株式会社 ジュニア・エコノミーカレッジ」を成功させる。本プロジェクトでは、小学生に起業・会社経営の体験を通して社会や経済・経営の仕組みを学ばせ、働くことの意味および素晴らしさを体験させる。学生は、小学生の指導・支援を通して、起業・会社経営に求められる考え方を身につける。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、本プロジェクトでは、以下の3項目を達成目標として設定する。 ① 小学生の指導・支援を通し、経営学の基本を学ぶのは当然であるが、他人に教えることの難しさを体験しながら、マネジメント能力やコミュニケーション能力、指導力、行動力を身につける。 ② イベントの立案、準備、実施を通し、責任感、協調性を身につける。 ③ 北大阪商工会議所青年部との交流、協働をとおりて社会人としてのマナー・ルールを体得する。																
授業方法と留意点	北大阪商工会議所青年部と共同で、寝屋川市、交野市、枚方市の小学生に株式会社を設立させる。また、北大阪商工会議所主催のイベントを企画する。プロジェクト実践のためのイベントの会場提供・設定等は、北大阪商工会議所が主体となって進めるが、小学生への指導は、学生が主体となって計画・実施するため、打ち合わせやイベントには、必ず出席すること。また、経営や生産の現場を知るために、関連企業を見学するので参加すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：こども株式会社の設立と経営 内容：経営、マネジメント、経営戦術、会計等に関する基礎的な知識を学ぶ。 経営や生産の現場を知るために、企業見学を実施する。 小学生に、会社経営に必要な以下の知識を身につけさせる。 1. 小学生と友達になろう 2. 株式会社って何だろう 3. 株式会社をつくろう 4. 商売って何だろう。儲けてなんだろう 5. 経営計画をたてよう 6. マーケティングをしよう 7. 商品企画書の作成しよう 8. 銀行にお金を借りよう 9. 実際に販売してみよう 10. 帳簿をつけて決算書をつくろう 11. 税金を納めよう 12. 決算書を作成しよう 13. 経営報告会をしよう 講義方法：小学生に指導する前に、まず自分たちで上記のテーマを演習形式で学習し、その後担当ごとに分かれて活動する。 事前・事後学習課題：上記テーマ、イベントの結果報告等レポートを作成、提出する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)への参加度(70%)、プレゼンテーション(20%)、レポート課題(10%)により総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に参加し、履修者相互のコミュニケーション構築に努めてください。																
担当者の研究室等	11号館8階(栢木准教授室、佐井教授室)																
備考	必要に応じ適宜資料を配布します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 佐井 英子

授業概要・目的	摂南大学近隣の小学生を対象に、北大阪商工会議所青年部と共同で、「こども株式会社 ジュニア・エコノミーカレッジ」を成功させる。本プロジェクトでは、小学生に起業・会社経営の体験を通して社会や経済・経営の仕組みを学ばせ、働くことの意味および素晴らしさを体験させる。学生は、小学生の指導・支援を通して、起業・会社経営に求められる考え方を身につける。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、本プロジェクトでは、以下の3項目を達成目標として設定する。 ① 小学生の指導・支援を通し、経営学の基本を学ぶのは当然であるが、他人に教えることの難しさを体験しながら、マネジメント能力やコミュニケーション能力、指導力、行動力を身につける。 ② イベントの立案、準備、実施を通し、責任感、協調性を身につける。 ③ 北大阪商工会議所青年部との交流、協働をとおりて社会人としてのマナー・ルールを体得する。																
授業方法と留意点	北大阪商工会議所青年部と共同で、寝屋川市、交野市、枚方市の小学生に株式会社を設立させる。また、北大阪商工会議所主催のイベントを企画する。プロジェクト実践のためのイベントの会場提供・設定等は、北大阪商工会議所が主体となって進めるが、小学生への指導は、学生が主体となって計画・実施するため、打ち合わせやイベントには、必ず出席すること。また、経営や生産の現場を知るために、関連企業を見学するので参加すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業テーマ：こども株式会社の設立と経営 内容：経営、マネジメント、経営戦術、会計等に関する基礎的な知識を学ぶ。 経営や生産の現場を知るために、企業見学を実施する。 小学生に、会社経営に必要な以下の知識を身につけさせる。 1. 小学生と友達になろう 2. 株式会社って何だろう 3. 株式会社をつくろう 4. 商売って何だろう。儲かってなんだろう 5. 経営計画をたてよう 6. マーケティングをしよう 7. 商品企画書の作成しよう 8. 銀行にお金を借りよう 9. 実際に販売してみよう 10. 帳簿をつけて決算書をつくろう 11. 税金を納めよう 12. 決算書を作成しよう 13. 経営報告会をしよう 講義方法：小学生に指導する前に、まず自分たちで上記のテーマを演習形式で学習し、その後担当ごとに分かれて活動する。 事前・事後学習課題：上記テーマ、イベントの結果報告等レポートを作成、提出する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業 (イベントを含む) への参加度 (70%)、プレゼンテーション (20%)、レポート課題 (10%) により総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に参加し、履修者相互のコミュニケーション構築に努めてください。																
担当者の研究室等	11号館8階 (栢木准教授室、佐井教授室)																
備考	必要に応じ適宜資料を配布します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久 典宏, 黒澤 敏朗, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>目的： 過去4年のPBL活動の実績を踏まえ、交野の魅力を伝え広めること。</p> <p>概要： PBL参加学生が主体となり、交野市(企画財政部)や「おりひめ大学(市民大学)」の市民による地域活性化を支援するための活動です。大きく3つのグループを通じて交野市の活性化を目指します。 ①<交野の産物・そば班>そばの栽培から収穫体験。酒粕やそば使った特産品を開発し、製造・販売委託先の開拓。 ②<イベント班>市民交流やアンケート調査の分析結果を次のイベントに役立てます。 ③<SNS班>PBL活動の情報発信、交野市の紹介プロモーションビデオ等の制作を行います。</p>																
到達目標	<p><共通到達目標> 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」「コミュニケーション力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指します。</p> <p><プロジェクト到達目標> PBL参加学生各自が本プロジェクトの目的を達成するため、集団の中で目標に向かって取り組むことで上述の社会人基礎力と「PDCA」サイクルの考え方・実践力を身に付けることです。</p>																
授業方法と留意点	<p>1. 連携先の関係者・グループとの意見交換を通じて、課題を明確にします。 2. PBL参加学生がどのような特産品を企画開発すればいいかについてのアンケート調査を行い、地元の生産者等にヒアリング(面接調査で、相手の話を聞くことを中心に情報収集する方法)調査を行います。 3. PBL参加学生が連携先の関係者の協力のもと、製造・販売委託先の開拓を計画的・自主的に行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 集団意思決定のための技術の習得 KJ法(収集した多量の情報を効率よく整理するための手法)をはじめとする各種の意思決定、創造性開発の技法の演習を授業期間中に学内で行います。 2. アンケート調査の方法の習得 3. 6次産業に関する実践的学習 ※6次産業化とは-「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者<1次産業従事者>がこれまでの原材料供給者としてだけでなく、自ら連携して加工<2次産業>・流通や販売<3次産業>に取組む経営の多角化を進めることで、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。 夏休みを利用して、農業産品の先進的な地域・プロジェクトの見学や実体験を行います。 4. 地域特産品に関する知識・情報の収集 先進的に特産品を創りだしている地域の調査を行います。</p>																
関連科目	「経営学」「マーケティング」、「市場調査」、「NPO」などに関わる科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「みんなの”かたの”基本構想」(2011)</td> <td>交野市</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」</td> <td>長坂 泰之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」</td> <td>久繁 哲之介</td> <td>ちくま新書</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市		2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」	長坂 泰之	学芸出版社	3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」	久繁 哲之介	ちくま新書
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市															
2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」	長坂 泰之	学芸出版社														
3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」	久繁 哲之介	ちくま新書														
評価方法(基準)	グループ作業が中心となるため、個人ごとの評価は簡単ではありませんが、諸活動への「参加度(回数、活動意欲、結果への貢献度、など)」をもとに評価します。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室、7階 黒澤研究室、山本(主)研究室																
備考	毎週金曜日の4限目と5限目に定例のミーティングを行いますが、テーマの性質上それ以外にも土曜日と日曜日の数日を使用して活動します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久 典宏, 黒澤 敏朗, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>目的： 過去4年のPBL活動の実績を踏まえ、交野の魅力を伝え広めること。</p> <p>概要： PBL参加学生が主体となり、交野市（企画財政部）や「おりひめ大学（市民大学）」の市民による地域活性化を支援するための活動です。大きく3つのグループを通じて交野市の活性化を目指します。 ① <交野の産物・そば班>そばの栽培から収穫体験。酒粕やそば使った特産品を開発し、製造・販売委託先の開拓。 ② <イベント班>市民交流やアンケート調査の分析結果を次のイベントに役立てます。 ③ <SNS班>PBL活動の情報発信、交野市の紹介プロモーションビデオ等の制作を行います。</p>																
到達目標	<p><共通到達目標> 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」「コミュニケーション力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指します。</p> <p><プロジェクト到達目標> PBL参加学生各自が本プロジェクトの目的を達成するため、集団の中で目標に向かって取り組むことで上述の社会人基礎力と「PDCA」サイクルの考え方・実践力を身に付けることです。</p>																
授業方法と留意点	<p>1. 連携先の関係者・グループとの意見交換を通じて、課題を明確にします。 2. PBL参加学生がどのような特産品を企画開発すればいいかについてのアンケート調査を行い、地元の生産者等にヒアリング（面接調査で、相手の話を聞くことを中心に情報収集する方法）調査を行います。 3. PBL参加学生が連携先の関係者の協力のもと、製造・販売委託先の開拓を計画的・自主的に行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 集団意思決定のための技術の習得 KJ法（収集した多量の情報を効率よく整理するための手法）をはじめとする各種の意思決定、創造性開発の技法の演習を授業期間中に学内で行います。 2. アンケート調査の方法の習得 3. 6次産業に関する実践的学習 ※6次産業化とは-「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者<1次産業従事者>がこれまでの原材料供給者としてだけでなく、自ら連携して加工<2次産業>・流通や販売<3次産業>に取組む経営の多角化を進めることで、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。 夏休みを利用して、農業産品の先進的な地域・プロジェクトの見学や実体験を行います。 4. 地域特産品に関する知識・情報の収集 先進的に特産品を創りだしている地域の調査を行います。</p>																
関連科目	「経営学」「マーケティング」、「市場調査」、「NPO」などに関わる科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「みんなの”かたの”基本構想」(2011)</td> <td>交野市</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-</td> <td>長坂 泰之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-</td> <td>久繁 哲之介</td> <td>ちくま新書</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市		2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-	長坂 泰之	学芸出版社	3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-	久繁 哲之介	ちくま新書
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市															
2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-	長坂 泰之	学芸出版社														
3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-	久繁 哲之介	ちくま新書														
評価方法（基準）	グループ作業が中心となるため、個人ごとの評価は簡単ではありませんが、諸活動への「参加度（回数、活動意欲、結果への貢献度、など）」をもとに評価します。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室、7階 黒澤研究室、山本（主）研究室																
備考	毎週金曜日の4限目と5限目に定例のミーティングを行いますが、テーマの性質上それ以外にも土曜日と日曜日の数日を使用して活動します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手続きで授業を展開する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手続きで授業を展開する</p> <ol style="list-style-type: none"> プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 マーケティング手法の学習（座学による） 連携先との面談 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 まとめと最終報告会 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦, 藤林 真美

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、履修学生が主となり実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、学生自身については実社会でも求められるリーダーシップを育成させる。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①小学生の運動活動を活性化させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ②学生が小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる			
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、ラグビーを指導する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。			
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。			
担当者の研究室等	総合体育館1F 内部研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦, 藤林 真美

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、履修学生が主となり実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、学生自身については実社会でも求められるリーダーシップを育成させる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①小学生の運動活動を活性化させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ②学生が小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる																		
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、タグラグビーを指導する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。																		
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。																		
担当者の研究室等	総合体育館1F 内部研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 内部 昭彦, 小川 宣子

授業概要・目的	<p>枚方市にお住まいの高齢者を対象とした運動教室を開催する。 我が国は「超高齢化社会」であり、高齢者とのよりよい共生社会の構築は重要課題である。 本プロジェクトは、高齢者の生理（加齢により、身体の老化や認知機能の低下が起こること）を理解したうえで、思いやりやいたわりの気持ちを持って人と接する力を身につけることができる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>大学内で運動教室の準備、枚方市自治会館において運動教室の実施。 自分が運動が得意であるか否かは全く問題ない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ：地域在住高齢者における運動教室の実施 内容、方法：受講学生の授業スケジュールをかんがみ本プロジェクトの集合時間を設定し、下記のとおり進行する。 事前勉強会→運動教室の練習→運動教室の実施→反省会→の繰り返し、報告会。 このなかで運動教室の参加により、認知機能の低下を遅らせることができたか、心理検査や生理機能検査を用いて確認する。 事前、事後学習課題：「事前学習」加齢による心身の変化について調べる。運動教室実施により「高齢者に喜んでいただく」ことが大目標であり、このことを常に念頭において準備してほしい。「事後学習」運動教室参加による変化について検討する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	事前準備～事後評価までルーブリックを用いて、個人・ピア評価を行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	総合体育館 藤林研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 内部 昭彦, 小川 宣子

授業概要・目的	<p>枚方市にお住まいの高齢者を対象とした運動教室を開催する。 我が国は「超高齢化社会」であり、高齢者とのよりよい共生社会の構築は重要課題である。 本プロジェクトは、高齢者の生理（加齢により、身体の老化や認知機能の低下が起こること）を理解したうえで、思いやりやいたわりの気持ちを持って人と接する力を身につけることができる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>大学内で運動教室の準備、枚方市自治会館において運動教室の実施。 自分が運動が得意であるか否かは全く問題ない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ：地域在住高齢者における運動教室の実施 内容、方法：受講学生の授業スケジュールをかんがみ本プロジェクトの集合時間を設定し、下記のとおり進行する。 事前勉強会→運動教室の練習→*運動教室の実施→*反省会→*の繰り返し、報告会。 このなかで運動教室の参加により、認知機能の低下を遅らせることができたか、心理検査や生理機能検査を用いて確認する。 事前、事後学習課題：「事前学習」加齢による心身の変化について調べる。運動教室実施により「高齢者に喜んでいただく」ことが大目標であり、このことを常に念頭において準備してほしい。「事後学習」運動教室参加による変化について検討する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	事前準備～事後評価までルーブリックを用いて、個人・ピア評価を行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	総合体育館 藤林研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	<p>さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみよう！」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。</p>										
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>プロジェクトとしての達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2. 計画を立て、段取りが組める 3. 小売業界の現状を理解する <p>プロセス</p> <p>学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。</p>										
授業方法と留意点	<p>他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。</p>										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ■4月 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ ■5月 <ul style="list-style-type: none"> ・ロフトでのミーティング ・ミーティングを受けて検討会 ・グループ決め ・提言のテーマ・内容の検討 ■6月 <ul style="list-style-type: none"> ・提言内容の作成 ■7月 <ul style="list-style-type: none"> ・梅田ロフトへ提言 プレゼンテーション実施 ■8月～9月 <ul style="list-style-type: none"> ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施 ■10月 <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ■11月 <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 ■12月 <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 										
関連科目											
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
評価方法(基準)	<p>活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。</p>										
学生へのメッセージ	<p>現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。</p>										
担当者の研究室等	<p>11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館10階 教務部長 荻田研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室</p>										
備考											

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	<p>さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい!」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。</p>										
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>プロジェクトとしての達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2. 計画を立て、段取りが組める 3. 小売業界の現状を理解する <p>プロセス</p> <p>学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。</p>										
授業方法と留意点	<p>他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。</p>										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ■4月 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ ■5月 <ul style="list-style-type: none"> ・ロフトでのミーティング ・ミーティングを受けて検討会 ・グループ決め ・提言のテーマ・内容の検討 ■6月 <ul style="list-style-type: none"> ・提言内容の作成 ■7月 <ul style="list-style-type: none"> ・梅田ロフトへ提言 プレゼンテーション実施 ■8月～9月 <ul style="list-style-type: none"> ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施 ■10月 <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ■11月 <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 ■12月 <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 										
関連科目											
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
評価方法(基準)	<p>活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。</p>										
学生へのメッセージ	<p>現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。</p>										
担当者の研究室等	<p>11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館10階 教務部長 荻田研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室</p>										
備考											

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返され理由について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修：企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる① ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の明暗について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる② ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえる ー オフィスからワークプレイスへー	<ul style="list-style-type: none"> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本① ー 仕事の進め方ー	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：問題プリント①を解く。 ・事後学修：問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修：一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修：CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニング ー セルフマネジメントと自己啓発ー	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案するためのグループワークを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：各自がテーマを見つける。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に企画を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・作成したビジネスプランに基づいて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修：最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論：付加価値創造のための基礎実務論 -- 改訂版	全国大学実務教育協会編	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	<p>予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。</p>			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	・ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
	2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにおける伝統や習慣について考える。 ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成する。
	3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修：ジェンダー視点に関するレポートを作成する。
	4	日本の近代化	・明治の落とし物	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
	5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
	6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返る。 ・事後学修：自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
	7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	・事前学修：共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修：自らの結婚観に関するレポートを作成する。
	8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修：M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
	9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
	10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修：アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修：アサーティブに話す練習をする。
	11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
	12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べる。 ・事後学修：男女共同参画社会に関して自分の意見をまとめ、レポートを作成する。
	13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティ・マネジメントに関するレポートを作成する。
	14	ダイバーシティ・マネジメント②	・プレゼンテーション	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるように練習する。 ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるように練習する。
	15	まとめ		・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学 ―明日を共に生きるために―</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学 ―明日を共に生きるために―	石井三恵	泉文堂	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	共に学ぶ女性学 ―明日を共に生きるために―	石井三恵	泉文堂													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第12回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 4月8日(金)5限	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (荻田・鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
	2	自己の探求 4月16日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
	3	自己の探求 4月17日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
	4	今、地域で何が起きているか 4月22日(金)5限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワードを調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
	5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月6日(金)5限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
	6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月13日(金)5限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。 地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (平田・稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
	7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 5月20日(金)5限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林・内部)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
	8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには？ー 5月27日(金)5限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (荻田・田中)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
	9	事前学習① グループワーク 6月3日(金)5限	5回目～8回目の4分野ごとに分かれ議論をし、グループごとに発表をします。	【事前学習】 これまでの授業の復習をして、ポイントを整理しておく。 【事後学習】 発表をきいて、再度、4分野ごとに要点をまとめておく。
10	事前学習② グループワーク 6月10日(金)5限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞きします。	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。	

	11	事前学習③ グループワーク 6月17日(金)5限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。																
	12	体験学習 (和歌山県由良町) 6月25日(土)、7月2日(土) のいずれか	和歌山県由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
	13	事後学習① グループワーク 7月8日(金)5限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
	14	事後学習② グループワーク 7月15日(金)5限	グループごとに成果発表を行います。	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させる。																
	15	事後学習③ グループワーク 7月22日(金)5限	グループごとに成果発表を行います。	【事前学習】 14回目に発表したグループの内容をふりかえる。 【事後学習】 最終レポート作成にむけての準備をする。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% 最終レポート 40% 60%で合格とする。																			
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																			
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																			
備考																				

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	本授業はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月12日火曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月19日火曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月26日火曜日6時限目:1134教室) 「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中~下旬) に、活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3(4月12日、4月19日、4月26日)は6時限目に1134教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(吉田研究室) 7号館3階(朝日研究室) 7号館3階(林研究室)																		
備考	第1回目事前授業を4月12日(火)に第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、昨年度「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみが登録できる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月12日火曜日6時限目：1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月19日火曜日6時限目：1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月26日火曜日6時限目：1134教室) 「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1～25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中～下旬)に、活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前教育1～3(4月12日、4月19日、4月26日)は6時限目に1134教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(吉田研究室) 7号館3階(朝日研究室) 7号館3階(林研究室)																		
備考	第1回目事前授業を4月12日(火)に第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																		

科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1]</p>
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	チームビルディングとは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る 	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーパータワーワーク (予定) ・チームの10カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する 	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける 	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ 	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム話し合う際の技術を学ぶ 	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> ・記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える 	チームでのディスカッションを振り返る。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ 	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでニッポンの課題の解決策を考える 	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の中間おさらい ・ヒーローインタビュー ・チームでプロジェクトを企画する 	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む 	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第●回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	チームでの提出物 25%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、最終レポート 45% で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野研究室)
----------	------------------------

備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。
----	---------------------

科目名	地誌学	科目名(英文)	Regional Geography
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今野 泰三

授業概要・目的	授業の目的は、日本の農村、河川、環境問題、近代産業、ツーリズム、エスニック問題、米軍基地問題、捕鯨問題、パレスチナ問題と幅広い地域や国を取り上げ、それらの地域の社会的・文化的・政治的状況を深く理解することである。
到達目標	本講義では、地誌学の方法論を習得し、グローバル化における地域社会の諸問題を学び、単なる地誌の把握に終わることなく、相対的なものの見方や地理学的想像力の涵養が期待される。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントで行う。毎回、資料を配布する。また、必要に応じて映像資料の活用も行なう。 講義終了後、毎回、評価対象となる小レポート(リアクション・ペーパー)の提出を求める。 授業中の私語に対しては、厳しく対処し、退出を命じることもある。
科目学習の効果(資格)	中学社会・高校地理歴史教育職員免許関係科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義ガイダンス	講義の目的・方法・進め方	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	2	地誌学とは何か	地理学と地誌	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	3	日本の農村と森林	農村における耕作放棄地の増加や山間地域における林業の衰退	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	4	日本の河川とダム	日本の河川政策の変遷とダム問題	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	5	水俣病ともやい運動	水俣病の発生からもやい運動に至る環境都市みなまたが形成されていくまでのプロセス	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	6	繊維産業の盛衰	女工哀史と東洋の魔女	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	7	産業遺産とまちづくり	近代産業遺産を活用したまちづくりの事例	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	8	場所を消費する	ツーリズムと観光のまなざし	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	9	エスニックコミュニティ	日本各地や世界のエスニックコミュニティの形成	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	10	沖縄と基地問題(1)	冷戦後の沖縄	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	11	沖縄と基地問題(2)	普天間基地の辺野古移設をめぐる問題	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	12	沖縄と基地問題(3)	標的の村—高江の事例	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。

	13	捕鯨問題と日本	日本の食文化と映画『ザ・コーヴ』	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。																
	14	パレスチナ問題とスペインオサイド（空間の扼殺）	イスラエルの対パレスチナ人政策を中心に	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。																
	15	講義のまとめ	講義の総括、および定期試験に関する説明。	全講義の内容を復習しておくこと。																
関連科目	地理学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図説 21 世紀日本の地域問題</td> <td>伊藤喜栄・藤塚吉浩（編）</td> <td>古今書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図説 21 世紀日本の地域問題	伊藤喜栄・藤塚吉浩（編）	古今書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	図説 21 世紀日本の地域問題	伊藤喜栄・藤塚吉浩（編）	古今書院																	
2																				
3																				
評価方法（基準）	定期試験 70%、毎回提出を求める小レポート（リアクション・ペーパー） 30%																			
学生へのメッセージ	授業は基本的に講義形式で行ないますが、疑問点や不明な点がある場合は積極的に質問をしてください。 ニュースで扱われる現象や身近な出来事を地理学的視点で見た場合にどのようなことがいえるのか、普段から敏感に考えるようにしてください。																			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																			
備考	講義の内容および評価方法に変更が生じるときには、講義中に随時連絡する。																			

科目名	地理学 I	科目名 (英文)	Geography I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則

授業概要・目的	『環境』ということばはいろいろの分野でよく使われているが、地理学では最も重要な述語の一つである。これは人間生活に影響を及ぼす種々の外的要因の全体を意味する。近年、人間活動にともなってこの環境に著しい変化が生じている。本講義は、環境改変者としての人類が、自然環境をどのように改変してきたかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。
到達目標	地理学は人間に関わる学問であり、学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動が取れるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で行う。参考書に上げた一冊には、地理学 I の 4 回分の講義に関する内容が記されている。もし、後期に地理学 II も履修する予定の人がいるならば、後期テキストとして使用する予定なので、購入をお勧めする。講義中に適宜プリントを配布していく予定である。
科目学習の効果 (資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学および自然地理学について	地理学の歴史および自然地理学の分野	高校時代に地理 A、あるいは地理 B を履修した者は、「環境」の項目を、しっかり読んでおいてください。
2	地理学と環境	人類による環境への働きかけの歴史 (過去から現在まで)	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
3	様々な地形と生活ーその 1ー	谷底平野・台地・河岸段丘の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
4	様々な地形と生活ーその 2ー	扇状地・自然堤防帯・三角州の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
5	世界の気候ーその 1ー	熱帯気候・乾燥気候・高山気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
6	世界の気候ーその 2ー	温帯気候・冷帯気候・寒帯気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
7	世界の植生と土壌	世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
8	都市気候ーその 1ー	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
9	都市気候ーその 2ー	・都市気候と緑地	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
10	水文環境と生活ーその 1ー	・水が我々の生活にいかなる影響を与えているか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
11	水文環境と生活ーその 2ー	・水資源と農業	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
12	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
13	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下 ・日本における海岸浸食の状況	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
14	離島における地下ダムの建設	・宮古島における地下ダムの建設	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
15	自然地理学の役割を考える	・全体のまとめ	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

関連科目	「環境関連科目」等
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験 80%、授業への参加状況 20%とする。なお、参加状況を把握するため、時々、チェックシートを配布し、授業内容について記入してもらうことにする。したがって、単なる出席点は付けないので、真剣に授業に取り組んで欲しい。
-----------	---

学生へのメッセージ	地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。現在の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいられると思われるが、もし高校時代に用いた地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。なお、前述したように参考書は後期の「地理学 II」でも使用する予定である。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館 2階 (非常勤講師控室)
------------	------------------

科目名	地理学Ⅱ	科目名(英文)	Geography II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原 俊則

授業概要・目的	我々人類は過去から現在に至るまで環境に種々の働きかけを行い、これを変化させてきた。前期の「地理学Ⅰ」の講義は、自然地理学的内容が中心であったが、後期はこれを受けて、人文地理学的内容を中心に話しを進めていきたいと考えている。自然環境と人文環境は分離して存在するのではなく、表裏一体をなして存在するものである。本講義は、このことを再確認してもらうことを目的としている。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら3点をクリアできれば、この科目を受講した事が諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、適宜講義中にプリントを配布していく予定である。
科目学習の効果(資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	都市化の進展と水文環境の変化	都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	指定テキストに目を通して下さい。
2	都市化にともなう流出の変化	都市化にともなう流出がどのように変化するか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
3	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例 ・都市の水害と下水道整備	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
4	農業地域における都市化と中小河川の治水	農業地域の都市化にともない農業水利組織によって行われてきた面的治水がどのように維持されたか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
5	親水と多自然型川づくり	・親水について ・多自然型川づくりについて	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
6	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその利用	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
7	ため池の潰廃とその保全	・開発にともないため池はどのように潰廃していくか ・開発にともないため池はどのように保全されるか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
8	日本における干拓の歴史	干拓の歴史と戦後の干拓	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
9	干拓地の自然的特性	干拓地の地形と水文環境	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
10	すみわけられた都市社会空間	・エスニックマイノリティー社会 ・インナーシティ問題	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
11	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
13	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
14	平安京の歴史的環境	・平安京の歴史的環境の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
15	伝統工業の地域構成	京都の伝統文化と伝統工業	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。

関連科目 「環境関連科目」等

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験80%、授業への参加状況20%とする。なお、参加状況を把握するため、時々チェックシートを配布し、授業内容について記入してもらうことにする。したがって、単なる出席点は付けないので、真剣に授業に取り組んで欲しい。

学生へのメッセージ	地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安部 彰

教養科目

授業概要・目的	<p>本講義では、哲学の主要分野である倫理学（道徳の哲学）について概説する。</p> <p>個人として「私」は、ただ生きるのではなく、できるだけ「よく」生きたい。これは、人間の普遍的な関心だ。他方で、「私」は各々、自分らしく生きることの喜びと同時に制約の源泉でもある他人との関わりのもとで生きるをえない。これは、人間の普遍的な事実だ。</p> <p>倫理学の目的は、そうした切実な関心と厳然たる事実との結びつきにおいて、「よき」生を探究することにある。いいかえれば「我々」の一員でもある個々の「私」にとって「よく」生きるとはどのような生きかたなのか、そして「よく」生きるためにはどうすればいいのかを探究することにある。</p> <p>しかし現代においては、かかる「よき」生の探究は、困難な課題となりつつある。すなわち、高度に複雑化した人間関係や生活環境のもと、他ならぬ我々じしんが、これまで自明視してきた「よき」生の構想はなお妥当なのか、その構想をよりよいものとするにはどうすればよいのかと、真摯に問いなおしは始めている。</p> <p>結論からいえば、倫理学は、そうした問いに明解な答えをあたえるものではない。つまり、その答えはあくまで、我々じしんが探究をつうじて導くしかない。でもあなたは、倫理学を学ぶことで、「よき」生を探究する方法を手に入れることはできる。他者と、相手への関心や想像力を相互に深め、豊かにすることはできる。その意味で、倫理学は希望の学、みずからの居場所はじぶんたちの手でさらによりよくすることができると思える、すべてのひとのための学である。</p>																																																																		
到達目標	<p>(1) 哲学の基本的知識と方法を身につけることができる。</p> <p>(2) 人間の多様なありかたへの想像力や理解力を養うことができる。</p> <p>(3) 現代の倫理問題について理解し考察することができる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>配布プリントをもちいた「ノート講義方式」を基本とする。</p> <p>授業時に出す課題（コメントペーパーなど）の提出基準を充たしている者だけを成績評価の対象とする。それゆえ、継続的な授業への出席は、いわば必須である。</p>																																																																		
科目学習の効果（資格）	<p>哲学を真摯に学べば、論理的で批判的な思考と豊かな感性の双方を養うことができる。それらは、さまざまな学問・職業領域において、個人や社会がかかえる問題の分析とその解決に意欲的にとり組んでいくうえで不可欠の素養・姿勢である。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 30%;">授業テーマ</th> <th style="width: 30%;">内容・方法 等</th> <th style="width: 30%;">事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の説明</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>倫理とはなにか（1）</td> <td>規範と価値の関係 ルールの違いについて</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>倫理とはなにか（2）</td> <td>規範の概念分析</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>倫理とはなにか（3）</td> <td>道徳の理由</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>倫理とはなにか（4）</td> <td>倫理的判断</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>倫理とはなにか（5）</td> <td>倫理的ディレンマ 倫理理論</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>哲学プラクティス（1）</td> <td>対話としての哲学</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>哲学プラクティス（2）</td> <td>思考実験</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>倫理理論（1）</td> <td>功利主義</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>倫理理論（2）</td> <td>義務論</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>倫理理論（3）</td> <td>徳倫理</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>現代の倫理問題（1）</td> <td>生命・医療・技術（1）</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>現代の倫理問題（2）</td> <td>生命・医療・技術（2）</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>現代の倫理問題（3）</td> <td>生命・医療・技術（3）</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>現代の倫理問題（4）</td> <td>生命・医療・技術（4）</td> <td>予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の説明	特になし	2	倫理とはなにか（1）	規範と価値の関係 ルールの違いについて	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	3	倫理とはなにか（2）	規範の概念分析	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	4	倫理とはなにか（3）	道徳の理由	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	5	倫理とはなにか（4）	倫理的判断	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	6	倫理とはなにか（5）	倫理的ディレンマ 倫理理論	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	7	哲学プラクティス（1）	対話としての哲学	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	8	哲学プラクティス（2）	思考実験	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	9	倫理理論（1）	功利主義	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	10	倫理理論（2）	義務論	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	11	倫理理論（3）	徳倫理	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	12	現代の倫理問題（1）	生命・医療・技術（1）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	13	現代の倫理問題（2）	生命・医療・技術（2）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	14	現代の倫理問題（3）	生命・医療・技術（3）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。	15	現代の倫理問題（4）	生命・医療・技術（4）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の説明	特になし																																																																
2	倫理とはなにか（1）	規範と価値の関係 ルールの違いについて	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
3	倫理とはなにか（2）	規範の概念分析	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
4	倫理とはなにか（3）	道徳の理由	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
5	倫理とはなにか（4）	倫理的判断	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
6	倫理とはなにか（5）	倫理的ディレンマ 倫理理論	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
7	哲学プラクティス（1）	対話としての哲学	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
8	哲学プラクティス（2）	思考実験	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
9	倫理理論（1）	功利主義	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
10	倫理理論（2）	義務論	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
11	倫理理論（3）	徳倫理	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
12	現代の倫理問題（1）	生命・医療・技術（1）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
13	現代の倫理問題（2）	生命・医療・技術（2）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
14	現代の倫理問題（3）	生命・医療・技術（3）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
15	現代の倫理問題（4）	生命・医療・技術（4）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。																																																																
関連科目	哲学 I I																																																																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 100%で評価する。			
学生への メッセージ	履修希望者は初回のオリエンテーションに必ず出席すること。 本講義で扱うテーマに関心をもつ者の受講をひろく歓迎する。ただし担当者は「私語」をはじめとする他者の受講権を侵害する行為にはかなり厳格に対処するので、履修にあたってはその点くれぐれも留意すること。 本シラバスの内容（とくに授業計画）は、受講生の人数や反応によって適宜改善する場合がある。			
担当者の 研究室等	非常勤講師控室			
備考	参考書等は授業時に適宜紹介する。			

科目名	哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱 良祐

授業概要・目的	「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。 この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では、西洋の哲学思想を学ぶことを通じて人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、私たち自身のあり方について考察していく。
到達目標	(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。 (2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。 (3) 自らの思考を適切に伝える論理的表現力を高めること。
授業方法と留意点	講義形式 授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。 受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけではなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。 前の回までの授業内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。 授業期間中に適宜、授業の理解度を試す小テストまたは中間レポートを実施する。
科目学習の効果(資格)	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について 「哲学」することの意義について	〈復習〉ノート・資料の整理。
	2	知の探求(1)	古代ギリシアの諸思想における「知」の可能性について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	3	知の探求(2)	ソクラテスにおける「無知の知」について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	4	正しさとは何か(1)	古代哲学における「正しさ」について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	5	正しさとは何か(2)	近代の社会契約論における「正しさ」について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	6	正しさとは何か(3)	現代正義論における「正しさ」について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	7	他者とは何か(1)	近代のドイツ哲学における他者把握の問題について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	8	他者とは何か(2)	現代フランス思想における他者論について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	9	自由とは何か(1)	カント哲学における自律としての自由について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	10	自由とは何か(2)	ヘーゲル哲学における自由の意義について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	11	社会と幸福(1)	ベンサムと J. S. ミルの功利主義思想について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	12	社会と幸福(2)	「幸福」の追求とはどのようなべきかについて	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	13	反理性と価値の創造(1)	ニーチェの思想におけるニヒリズムの意義について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	14	反理性と価値の創造(2)	絶対的な「価値」が崩壊した時代をどう生きるべきなのかを考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
	15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理

関連科目	哲学Ⅰ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(受講態度、小テスト、中間レポート)を50%、期末レポート(1600字程度)の成績を50%として総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。
-----------	---

担当者の 研究室等	非常勤講師控室 授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp
備考	講義資料、参考資料等は授業当日に配布する。参考図書等については授業内で紹介する。

科目名	日常の謎を解く心理学	科目名(英文)	Psychology to Clear Up Everyday Mysteries
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志

授業概要・目的	「なぜ、占いを信じてしまうのか?」、「急いでいるときにかぎって、電車が来ないのはなぜか?」、「なぜ、あの人は第一印象が良いのか?」、「テストの後、隣の人と答えが一緒だとなぜホッとするのか?」など日常には、あまり重要ではない小さな謎が多く存在する。この授業では、このような一見どうでもいいような疑問を心理学の科学的分析から簡単に解説していく。日常生活における小さな謎を解くことで、社会科学的問題解決方法を身につけることと知識を身につけることを目的とする。
到達目標	1)日常の中の謎を理解する。2)その謎を解く方法を見つける。3)実際に、「あるある体験」のメカニズムを解き明かしていく。
授業方法と留意点	パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。第1回授業で授業ルールなどについて説明するので必ず参加すること。毎回プリントをwebにて事前に配布する。
科目学習の効果(資格)	人間の態度および行動を記述・説明するための基本的な方法、理論を修得することで、社会科学的学习に対する理解を深める。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・心理学的な考え方	授業内容、授業方法について説明します。 心理学の分析手法	学習内容の復習
	2	人の知覚と認知①	なぜ、占いを信じてしまうのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	3	人間の知覚と認知②	悪口はなぜよく聞こえるのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	4	人間の知覚と認知③	急いでいるときにかぎって、電車が来ないのはなぜか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	5	人間の知覚と認知④	テストの後、隣の人と答えが一緒だとなぜホッとするのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	6	心理と人間関係①	なぜ、あの人は第一印象が良いのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	7	心理と人間関係②	偶然を勝手に運命を感じる時	事前資料による予習 授業内容の復習
	8	心理と人間関係③	最初は嫌いだったのに、今は好き	事前資料による予習 授業内容の復習
	9	心理と人間関係④	あばたもえくぼなのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	10	心理と人間関係⑤	落ち込んでいるときこそ、チャンス	事前資料による予習 授業内容の復習
	11	心理と対人行動①	なぜ、あの人の言うことに従ってしまうのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	12	心理と対人行動②	あの商品が欲しくなる理由	事前資料による予習 授業内容の復習
	13	心理と対人行動③	なぜ自分の予言は当たるのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	14	心理と対人行動④	とても会いたいから会いたいのか? 会えないから会いたいのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	15	まとめ	心理学的考察のまとめ	授業内容の復習

関連科目 各学部で開講されている「心理学Ⅰ」や「人間力と心理」と関連する。事前に基礎的な心理学を受けておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期試験(100%)の結果で評価します。60%で合格とする。

学生へのメッセージ 日常生活の中にはあまり重要ではない小さな謎が多く存在する。この授業では、そのような一見どうでもいいような疑問を心理学の科学的分析から簡単に解説していく。

担当者の研究室等 11号館7階 牧野(幸)准教授室

備考 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、スマホ・携帯電話の使用など)をすべて禁止します。

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	The Japanese Constitutional Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介

授業概要・目的	概要：日本国憲法の基本的な内容を理解できるように、授業テーマと関連する憲法上の問題をとりあげ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討します。目的：身近に生じる憲法上の問題を通して憲法の基本的な考え方を理解してもらうこと。
到達目標	憲法の基本的な知識を修得し、身近に生じる憲法上の問題を憲法の視点から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	日本国憲法とは1	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書11頁から20頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	2	日本国憲法とは2	日本国憲法の基本原理、国民主権の原理、平和主義の原理(第9条)について説明します。	事前に教科書19頁、217から229頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	3	基本的人権の保障1	人権歴史、人権の分類、人権の限界について説明します。	事前に教科書21頁から27頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	4	基本的人権の保障2	人権の享有主体、人権規定の私人間効力について説明します。	事前に教科書27頁から48頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	5	基本的人権の保障3	幸福追求権と法の下での平等について説明します。	事前に教科書49頁から70頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	6	基本的人権の保障4	信教の自由と政教分離について説明します。	事前に教科書71頁から82頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	7	基本的人権の保障5	表現の自由の保障とその限界について説明します。	事前に教科書83頁から94頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	8	基本的人権の保障6	表現活動の規制(検閲と事前抑制)について説明します。	事前に教科書95頁から104頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	9	基本的人権の保障7	職業選択の自由とその規制を中心に経済的自由権について説明します。	事前に教科書105頁から114頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	10	基本的人権の保障8	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書115頁から134頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	11	基本的人権の保障9	刑罰、刑事手続と憲法について説明します。	事前に教科書135頁から144頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	12	統治機構1	立法の委任を中心に国会と立法権について説明します。	事前に161頁から172頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	13	統治機構2	議院内閣制、内閣の組織と権能について説明します。	事前に教科書173頁から184頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	14	統治機構3	司法権、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書185頁から206頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	15	統治機構4	地方自治の本旨、条例制定権、住民投票について説明します。	事前に教科書207頁から216頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての憲法学(第3版)	中村睦男、岩本一郎、大島佳代子、木下和朗、齊藤正彰、佐々木雅寿、寺島壽一	三省堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

教養科目

評価方法 (基準)	定期試験 (60%)、小テスト (40%) の割合で評価します。小テストは、適宜、行います。
学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
備考	

科目名	日本の歴史	科目名(英文)	History of Japan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐伯 智広

授業概要・目的 自国の文化や海外の文化を理解するためには、まず私達たち自身の歴史を知り、文化の起り・移り変わり・成り立ち・特色について考えることが欠かせません。この講義では、そのための歴史の基礎知識を学んでいきます。対象は古代から現代までの全時代です。

到達目標 1. 日本文化の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識を身に付ける。
2. 観光資源としての史跡や、それに関わる歴史についての知識を身に付ける。
3. 上の2点について、正しく説明できる能力を身に付ける。

授業方法と留意点 板書講義形式です。プリントを利用します。教科書はありません。参考図書は講義内で適宜示します。

科目学習の効果(資格) 日本文化の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識と、それを説明する能力を身に付けることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 歴史と文化の接点	歴史と文化との関わり全般について概観します。	なし
2	飛鳥時代 一仏教伝来一	飛鳥時代の文化について学びます。	予習として、「聖徳太子」という人物について辞書的な経歴を調べる。
3	奈良時代 一仏教興隆一	奈良時代の文化について学びます。	予習として、「鎮護国家」という語について辞書的な意味を調べる。
4	平安時代前期 一仏教再編一	平安時代前期の文化について学びます。	予習として、「密教」という語について辞書的な意味を調べる。
5	平安時代中期 一消化と吸収一	平安時代中期の文化について学びます。	予習として、「念仏」という語について辞書的な意味を調べる。
6	平安時代後期・鎌倉時代前期 一地方への拡大一	平安時代後期・鎌倉時代前期の文化について学びます。	予習として、「武士」という語について辞書的な意味を調べる。
7	鎌倉時代後期 一異端の力一	鎌倉時代後期の文化について学びます。	予習として、「鎌倉新仏教」という語について辞書的な意味を調べる。
8	南北朝時代・室町時代 一京都への回帰一	南北朝時代・室町時代の文化について学びます。	予習として、「南北朝」という語について辞書的な意味を調べる。
9	戦国時代・安土桃山時代 一力と平和一	戦国時代・安土桃山時代の文化について学びます。	予習として、「小京都」という語について辞書的な意味を調べる。
10	江戸時代前期・中期 一天下泰平一	江戸時代前期・中期の文化について学びます。	予習として、「鎖国」という語について辞書的な意味を調べる。
11	江戸時代後期・末期 一世界的激動の中で一	江戸時代後期・末期の文化について学びます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。
12	明治時代 一西洋文明との出会い一	明治時代の文化について学びます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。
13	大正時代・戦前 一植民地時代の光と影一	大正時代・戦前の文化について学びます。	予習として、「モダニズム」という語について辞書的な意味を調べる。
14	戦後 一高度経済成長と現代一	戦後の文化について学びます。	予習として、「高度経済成長」という語について辞書的な意味を調べる。
15	冠婚葬祭にまつわるエトセトラ	冠婚葬祭にまつわる文化について学びます。	予習として、「冠婚葬祭」という語について辞書的な意味を調べる。

関連科目 ありません。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 予習シート30%、定期試験70%

学生へのメッセージ 教科書で勉強する高校の日本史とは違って、大学での講義はきゅうくつな枠組みはありません。ただ過去の歴史を追うのではなく、現在に残る遺跡・遺物・建築・美術工芸品などを紹介したり、歴史を題材にした文学作品・マンガを取り上げたりしながら、現代の私達にとって歴史が持つ意味についても、自由に考えていきましょう！また、最新の学説なども紹介していくので、研究の最先端で教科書が書き換わっていく面白さも知ってもらいたいと考えています。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 教科書はありません。参考書は講義内で適宜紹介します。

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正

教養科目

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」の刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・方が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	事前: 「犯罪被害者」について調べてみよう 事後: 重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット) ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> ・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> ・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 被告人質問と意見陳述 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
8	小テスト	第7回目までの理解度確認	事前: 前回までの復習 事後: わからなかった箇所を再確認
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間 	事前: 「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後: 重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害	<ul style="list-style-type: none"> ・DVとは何か ・配偶者による犯罪 ・DV被害者の保護と支援 ・保護命令 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	修復的司法	<ul style="list-style-type: none"> ・修復的司法の意義 ・わが国における修復的司法の展望 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時までに指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時までに指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時までに指示する																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストおよび期末試験の成績を総合評価する。なお、質疑応答を交えた場合は、その応答内容をプラスの方向でのみ評価する。 																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。 																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回0.5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回1時間以上の復習に取り組むこと。																			

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仁平 章子

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・仕事の基本動作とサイクル ・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動	・事前学修：企業のエコ活動について調べる。 ・事後学修：仕事とは何か、400字でまとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表作成について振り返り、まとめる (400字以上)。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (1000字以上)。
7	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：実際にメールをうつ。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：慶弔・贈答プリント②をする。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (30%)、期末試験 (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	武道論	科目名(英文)	Budo-ron (Theory of Japanese Martial Arts)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。 また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]																																																																		
到達目標	日本伝統文化である武道（意味・種類）についての理解を深めることができる。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深めることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。																																																																		
科目学習の効果（資格）	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業内容の説明と武道について</td> <td>武道について調べてくる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>武道とは何か</td> <td>武道の意味や言語について概説する</td> <td>武道にはどのような種類があるのか調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>武道と武術について</td> <td>武道と武術の違いについて</td> <td>武芸十八般について調べてくる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>武道（柔道）</td> <td>柔道について</td> <td>柔道について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>武道（剣道）</td> <td>剣道について調べ内容をまとめる</td> <td>剣道について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>武道（弓道・相撲）</td> <td>弓道・相撲について</td> <td>弓道・相撲について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>武道（空手・合気道）</td> <td>空手・合気道について</td> <td>空手・合気道について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心①</td> <td>武士道とは何か</td> <td>著者・著作にいたる背景を調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心②</td> <td>武士道の道徳心について</td> <td>武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心③</td> <td>武士道の道徳心について</td> <td>武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>武道と修行</td> <td>武道における修行について</td> <td>修行とは何かを調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>武道の国際化</td> <td>武道の国際化について</td> <td>武道がどのように世界に普及したか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>武道の身体技法①</td> <td>武道特有の身体技法について</td> <td>武道の身体技法とは何か調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>武道の身体技法②</td> <td>実際の身体技法を行う（総合体育館）</td> <td>武道の身体技法とは何か調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>武道論総括（テスト）</td> <td>1 4回まで行った授業の内容に関してテストを行う</td> <td>これまでの授業の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる	2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種類があるのか調べる	3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる	4	武道（柔道）	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる	5	武道（剣道）	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる	6	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる	7	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる	8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる	9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる	10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる	11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる	12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる	13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる	14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う（総合体育館）	武道の身体技法とは何か調べまとめる	15	武道論総括（テスト）	1 4回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる																																																																
2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種類があるのか調べる																																																																
3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる																																																																
4	武道（柔道）	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる																																																																
5	武道（剣道）	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる																																																																
6	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる																																																																
7	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる																																																																
8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる																																																																
9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる																																																																
10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる																																																																
11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる																																																																
12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる																																																																
13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる																																																																
14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う（総合体育館）	武道の身体技法とは何か調べまとめる																																																																
15	武道論総括（テスト）	1 4回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習																																																																
関連科目	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 健康論 保健論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今、なぜ武道か</td> <td>中村 民雄</td> <td>日本武道館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>武道を知る</td> <td>田中 守／藤堂 良明／東 憲一／村田 直樹</td> <td>不昧堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今、なぜ武道か	中村 民雄	日本武道館	2	武道を知る	田中 守／藤堂 良明／東 憲一／村田 直樹	不昧堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	今、なぜ武道か	中村 民雄	日本武道館																																																																
2	武道を知る	田中 守／藤堂 良明／東 憲一／村田 直樹	不昧堂																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	出席率75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は2回で1回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から30分以内に入室したことをいう） 武道論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象とする。）																																																																		
学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1F横山講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	プレゼンテーション論	科目名(英文)	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	1) 自己紹介等、自分のことを堂々と述べるようになる。 2) 相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 3) 自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿を撮影し、それを基に自分自身で改善していくことが望まれる。
科目学習の効果(資格)	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義	・事前学修：プレゼンテーションの意味を考える。 ・事後学修：初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修：漢字一文字表現を練習する。 ・事後学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間の要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。 ・事後学修：コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修：プレゼンテーションの基本は何かを考える。 ・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1分、3分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修：初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。 ・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その観点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修：自己紹介プレゼンを修正する。 ・事後学修：評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼンテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修：評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことを基に、評価表を作成する。	・事前学修：修正した自己紹介プレゼンをさらに練習する。 ・事後学修：グループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修：評価表作成を行う。 ・事後学修：グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修：評価表を完成させる。 ・事後学修：フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修：紹介プレゼンを完成させる。 ・事後学修：個人プレゼンを完成させる。
14	フィードアフォード	・「良かった点・改善すべき点」のフィードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修：個人プレゼンを完成させる。 ・事後学修：個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プレゼンテーションZEN 第2版	ガー・レイノルズ	丸善出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション (50%)、レポート (50%) で評価し、総点の60%で合格とする。			
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べるのが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中のさまざまな人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探究してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念、方法論について概説する。	特になし
	2	人類学の誕生 (1) : 博物学から人類学へ	19 世紀におこった博物学から進化論人類学へという変化をとおしていわゆる人類学の誕生をあとづける。	特になし
	3	人類学の誕生 (2) : 進化論人類学	タイラー、モーガン、フレイザーの研究を例に進化論人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	特になし
	4	機能主義人類学 (1) : マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、マリノフスキーとラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	特になし
	5	機能主義人類学 (2) : 有機的全体としての社会	前回の続き	特になし
	6	アメリカ文化人類学の誕生 (1) :	フランツ・ボアズの研究を概説する。	特になし
	7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き	特になし
	8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	特になし
	9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き	特になし
	10	構造主義 (1)	モースとレヴィ=ストロースの研究を中心に構造主義について概説する。	特になし
	11	構造主義 (2)	前回の続き	特になし
	12	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	特になし
	13	解釈人類学 (2)	前回の続き	特になし
	14	文化を書く	80 年代以降のポストモダン人類学について概説する。	特になし
	15	ポスト・ポストモダン人類学と文化の行方	これまでの議論のまとめと総括を行う。	特になし

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	100%試験によって評価する。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。
-----------	--

学生へのメッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	なし
----------	----

備考	
----	--

科目名	法学入門	科目名(英文)	Jurisprudence
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗

授業概要・目的	法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動していても、その行為の裏には法律関係若しくは法的問題のあるものが沢山あります。法を学ぶことは世の中を知ることもつながります。この講義では、現実の社会と法の世界がどのように関係しあっているかということについて理解してもらいたいと思います。法についての基本的な知識と考え方を身につけ、世の中の動きに関心を持ってもらえたらと思います。内容としては、国の基本法である憲法と私生活を規律する民法が中心となります。																																																																		
到達目標	①憲法が守ろうとしているものが何であるかを概ね理解できるようになること。 ②民法の枠組みと基本事項を理解できるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	講義方式を採ります。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を随時配付します。																																																																		
科目学習の効果(資格)	公務員試験や教員免許の取得等に参考になると思います。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とは何か</td> <td>法規範と道徳の違い、法源とは何かなど</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法の解釈</td> <td>法令解釈の基本</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国家と法</td> <td>国家と憲法、国民主権、三権分立</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>平和と法</td> <td>平和主義</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人権と法(Ⅰ)</td> <td>基本的人権の保障(自由権)</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人権と法(Ⅱ)</td> <td>基本的人権の保障(社会権)</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>政治と法</td> <td>統治機構</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国と地方</td> <td>地方自治</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>財産と法</td> <td>所有権の絶対性</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>契約と法(Ⅰ)</td> <td>契約自由の原則</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>契約と法(Ⅱ)</td> <td>契約各論</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>家族と法</td> <td>結婚と離婚、相続</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>犯罪と法</td> <td>罪刑法定主義</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>行政と法</td> <td>行政の仕組みと行政行為</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>紛争解決と法 まとめ</td> <td>争訟制度 授業全体のまとめ</td> <td>配付資料を復習しておいてください。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	随時資料を配付する	2	法の解釈	法令解釈の基本	随時資料を配付する	3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	随時資料を配付する	4	平和と法	平和主義	随時資料を配付する	5	人権と法(Ⅰ)	基本的人権の保障(自由権)	随時資料を配付する	6	人権と法(Ⅱ)	基本的人権の保障(社会権)	随時資料を配付する	7	政治と法	統治機構	随時資料を配付する	8	国と地方	地方自治	随時資料を配付する	9	財産と法	所有権の絶対性	随時資料を配付する	10	契約と法(Ⅰ)	契約自由の原則	随時資料を配付する	11	契約と法(Ⅱ)	契約各論	随時資料を配付する	12	家族と法	結婚と離婚、相続	随時資料を配付する	13	犯罪と法	罪刑法定主義	随時資料を配付する	14	行政と法	行政の仕組みと行政行為	随時資料を配付する	15	紛争解決と法 まとめ	争訟制度 授業全体のまとめ	配付資料を復習しておいてください。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	随時資料を配付する																																																																
2	法の解釈	法令解釈の基本	随時資料を配付する																																																																
3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	随時資料を配付する																																																																
4	平和と法	平和主義	随時資料を配付する																																																																
5	人権と法(Ⅰ)	基本的人権の保障(自由権)	随時資料を配付する																																																																
6	人権と法(Ⅱ)	基本的人権の保障(社会権)	随時資料を配付する																																																																
7	政治と法	統治機構	随時資料を配付する																																																																
8	国と地方	地方自治	随時資料を配付する																																																																
9	財産と法	所有権の絶対性	随時資料を配付する																																																																
10	契約と法(Ⅰ)	契約自由の原則	随時資料を配付する																																																																
11	契約と法(Ⅱ)	契約各論	随時資料を配付する																																																																
12	家族と法	結婚と離婚、相続	随時資料を配付する																																																																
13	犯罪と法	罪刑法定主義	随時資料を配付する																																																																
14	行政と法	行政の仕組みと行政行為	随時資料を配付する																																																																
15	紛争解決と法 まとめ	争訟制度 授業全体のまとめ	配付資料を復習しておいてください。																																																																
関連科目	憲法、民法、刑法など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験の結果で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野は勿論のこと他の分野について勉強することも将来何かの役に立つことと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば、新たな世界が見えてくると思います。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島研究室																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的
この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
学科の学習・教育目標との対応：[II]

到達目標
マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。

授業方法と留意点
講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。

科目学習の効果(資格)
マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目
マーケティング論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入体制の変遷—	武居奈緒子	千倉書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ—越後屋から三井財閥—	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動	武居奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法(基準)
期末テストの成績 70%、授業内課題 30%

学生へのメッセージ
授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。

担当者の研究室等
武居教授室

備考

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名(英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト(青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー)で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果(資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
9	ストーカー、DV(配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考				

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。 学科の学習・教育到達目標との対応:工学部[A],理工学部[II]
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、2~6回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	開講にあたって<検討中> 4月7日(木)	講義の受け方,報告書やプレゼン等の成果公表の基礎知識,重要性を習得する	開講にあたっての講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
2	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月14日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
3	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月21日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
4	企業・製造業・仕事の基本とは③ 5月28日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本①~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月12日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月19日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④~⑤の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
7	品質教育① 5月26日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	-----
8	品質教育② 6月2日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	品質教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月9日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
10	原価・コスト教育② 6月16日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
11	原価・コスト教育③ 6月23日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
12	課題解決教育① 6月30日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
13	課題解決教育② 7月7日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
14	課題解決教育③ 7月14日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途) また、14回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
15	全体討議・質疑応答 7月21日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%とした総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	1号館4階 奥野教授室			
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、高岡清			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川野 常夫

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化の中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ばせ、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。2, 3回、スカイプにより現地の人とのコミュニケーションを行う。授業日によっては「ものづくり系」と「サステイナブル(開発・建築・デザイン)系」が分かれて実習を行う。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEICや英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス, 海外渡航手続き概要, 英語コミュニケーション1	パスポート, チケット予約(航空機, ホテル), 保険, 海外渡航準備, 英語による自己紹介	今回の課題レポート作成 次回の英語による自己紹介の準備
	2	海外事情, 日系企業のグローバル化, 英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表, 海外の文化, 経済, グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
	3	研修先 事前調査, 英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査, 文化, 歴史, 経済事情, 企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
	4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える, ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
	5	社会人基礎力, 英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力, 英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
	6	英語コミュニケーション5	海外渡航, 海外生活, 大学紹介, 専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
	7	英語コミュニケーション6	研修先企業, 大学の調査, 英語による発表, 英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
	8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1, テクノセンター見学, ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
	9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2, テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
	10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3, テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
	11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
	12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
	13	マナー実習	挨拶, 礼儀, 服装, ミーティング, 質疑, 懇親会, 感謝, 気配り, 機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
	14	海外渡航, 海外生活	渡航準備, 入出国, 習慣, 食生活, 健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
	15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目 ものづくり海外インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本企業が欲しが「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
	2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社
	3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店

評価方法(基準) 課題レポート60%, 取組み姿勢20%, 成果発表20%として評価を行う。

学生へのメッセージ これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。

担当者の研究室等 1号館4階 川野教授室
12号館7階 白鳥准教授室

備考 【事前事後学習】レポート作成, 復習の学習時間: 20時間程度
【共同担当者】 諏訪教授, 白鳥准教授, 石田准教授, 理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。 学科の学習・教育到達目標との対応：[II]																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック(株)人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、インターンシップIIの準備 7/9(木) 6限目 ・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/16(木) 6限目 <p>宿泊実習(パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと ・4～5日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得(設計～生産)し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと ・6日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと ・7日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月3日(土) 1～4限目 プレゼンテーション指導 <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 体験報告書の添削指導 ・2回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・4回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・5回目 研修成果報告会(2回目) ・6回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・7回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評 																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習成果40%、研修成果報告会(2回)20%、実習最終レポート10%、体験報告書10%、実習・授業態度20%とした総合評価を行なう。																		
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。																		

担当者の 研究室等	奥野教授室 (1号館4階)
備考	<p>期間：2016年8月29日(月)～9月2日(金)、9月5日(月)～9月6日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9月3日(土)には撰大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	川野 常夫

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。業種は製造業（機械・電気系）、または建設業（建築・デザイン系）とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																		
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。																		
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン2箇所とタイ1箇所（合計3箇所）を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の川上である企画・設計部門、または建築・デザイン部門。（グループ演習） 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学、建築・デザイン作品見学、交流会 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習、または建設系のワークショップなど 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など、または建設系の建築・デザインワークショップなど。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル</td> <td>内永ゆか子</td> <td>朝日新聞出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の英会話伝わるフレーズ集</td> <td>ニック・ウィリアムソン</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版</td> <td>高橋書店編集部</td> <td>高橋書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版	2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社	3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版																
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社																
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店																
評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%）、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2回）15%として評価を行う。																		
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。																		
担当者の研究室等	1号館4階 川野教授室、諏訪教授室 1号館3階 伊藤教授室、石田准教授室 12号館7階 白鳥准教授室																		
備考	【注意事項】研修予定期間：2016年8月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間：20時間程度 【共同担当者】伊藤教授、石田准教授、諏訪教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員																		

科目名	役立つ金融知力	科目名(英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛

諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」は変わりようがありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会では「明日を創っていく」のですから、そこに決まり切った正解はありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかありません。

自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となるためには、まずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく必要があります。経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資に関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。

本講義の目的は、人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けることです。

到達目標

実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付け、経済生活やビジネスライフにおいて適宜的確に行動できるようになることを目指します。

講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、この目標に到達することはあり得ません。「講義を毎回きちんと受講し、自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力が不可欠です。

授業方法と留意点

本講義は、教科書を使用した講義形式の授業により、次の三つのステップで進めます。

- ① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。
- ② 次に、金融の基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。
- ③ 更に、それらを統合的に活用する能力(=金融インテリジェンス)を、社会生活に応用する方法を学びます。

本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、講義内容は教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。

科目学習の効果(資格)

経済生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P4~15> ・私たちの暮らしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P38~49> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~29> ・金融の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P147~149・152~159> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「リスクマネジメント」	テキスト<P74~81・150~152・159~161> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P82~91> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P92~98> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~37・50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品(株式等)」	テキスト<P118~129> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品(債券他)」	テキスト<P111~118> ・預貯金 ・信託 ・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P99~111> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「資産分散と時間分散」	テキスト<P130~146> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P54~63> ・ライフプランニング

	14	ライフプランニング ②	「ライフイベントごとの課題」	テキスト<P64～73> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名		著者名
	1	『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』 ISBN：978-4-907341-00-8 (必須。授業では毎回この教科書を使用しますので、必ず購入してください。)		金融知力普及協会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名		著者名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本科目への取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 : 20% (知識の正確性を評価します。) ・ 課題レポート : 50% (自分で考え、問題解決する能力を評価します。) ・ 平常点 : 30% (全体の受講状況と受講態度、質疑応答などを評価します。「出席点」ではありません。) 			
学生への メッセージ	<p>本講義でより高い成果を得るためには、下記の二点が非常に重要なポイントです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受講内容の復習を行い、身近な経済・時事問題などに疑問を持って考えること。 ② 最終回までに表計算ソフト「エクセル」で出題されるレポートの必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 			
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ この授業は、SMBC日興証券グループによる「寄附講座」です。 ・ 「事前・事後学習課題」について 予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む): 30分程度 復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する): 30分程度 ・ 当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。 私語が多い者、授業の妨げとなる者は容赦なく退席させる。 			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭

授業概要・目的 ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。

到達目標 教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解

授業方法と留意点 配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。

科目学習の効果(資格) 生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学(西矢)	授業の進め方を説明する。 特殊環境の微生物に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	食品微生物学(村田)	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
3	神経生物学(松川)	生命はどのようにして出現したのか、そしてそもそも生命とは何か考えてみよう。	講義後に小論文を課す。
4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関わりについて解説する。	課題レポートを課す。
10	タンパク質科学(丸山)	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きるためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	発生遺伝学(吉岡)	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目 生物学概論、生化学I、生物無機化学、生物統計学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。

学生へのメッセージ 不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。

担当者の研究室等 1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科専任教員)

備考

教養科目

科目名	歴史学 I	科目名 (英文)	History I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次		クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐伯 智広

授業概要・目的 自国の文化や海外の文化を理解するためには、まず私達たち自身の歴史を知り、文化の起こり・移り変わり・成り立ち・特色について考えることが欠かせません。この講義では、そのための歴史の基礎知識を学んでいきます。対象は古代から現代までの全時代です。

到達目標 1. 日本文化の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識を身に付ける。
2. 観光資源としての史跡や、それに関わる歴史についての知識を身に付ける。
3. 上の2点について、正しく説明できる能力を身に付ける。

授業方法と留意点 板書講義形式です。プリントを利用します。教科書はありません。参考図書は講義内で適宜示します。

科目学習の効果 (資格) 日本文化の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識と、それを説明する能力を身に付けることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 歴史と文化の接点	歴史と文化との関わり全般について概観します。	なし
2	飛鳥時代 —仏教伝来—	飛鳥時代の文化について学びます。	予習として、「聖徳太子」という人物について辞書的な経歴を調べる。
3	奈良時代 —仏教興隆—	奈良時代の文化について学びます。	予習として、「鎮護国家」という語について辞書的な意味を調べる。
4	平安時代前期 —仏教再編—	平安時代前期の文化について学びます。	予習として、「密教」という語について辞書的な意味を調べる。
5	平安時代中期 —消化と吸収—	平安時代中期の文化について学びます。	予習として、「念仏」という語について辞書的な意味を調べる。
6	平安時代後期・鎌倉時代前期 —地方への拡大—	平安時代後期・鎌倉時代前期の文化について学びます。	予習として、「武士」という語について辞書的な意味を調べる。
7	鎌倉時代後期 —異端の力—	鎌倉時代後期の文化について学びます。	予習として、「鎌倉新仏教」という語について辞書的な意味を調べる。
8	南北朝時代・室町時代 —京都への回帰—	南北朝時代・室町時代の文化について学びます。	予習として、「南北朝」という語について辞書的な意味を調べる。
9	戦国時代・安土桃山時代 —力と平和—	戦国時代・安土桃山時代の文化について学びます。	予習として、「小京都」という語について辞書的な意味を調べる。
10	江戸時代前期・中期 —天下泰平—	江戸時代前期・中期の文化について学びます。	予習として、「鎖国」という語について辞書的な意味を調べる。
11	江戸時代後期・末期 —世界的激動の中で—	江戸時代後期・末期の文化について学びます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。
12	明治時代 —西洋文明との出会い—	明治時代の文化について学びます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。
13	大正時代・戦前 —植民地時代の光と影—	大正時代・戦前の文化について学びます。	予習として、「モダニズム」という語について辞書的な意味を調べる。
14	戦後 —高度経済成長と現代—	戦後の文化について学びます。	予習として、「高度経済成長」という語について辞書的な意味を調べる。
15	冠婚葬祭にまつわるエトセトラ	冠婚葬祭にまつわる文化について学びます。	予習として、「冠婚葬祭」という語について辞書的な意味を調べる。

関連科目 ありません。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準) 予習シート30%、定期試験70%

学生へのメッセージ 教科書で勉強する高校の日本史とは違って、大学での講義はきゆうくつな枠組みはありません。ただ過去の歴史を追うのではなく、現在に残る遺跡・遺物・建築・美術工芸品などを紹介したり、歴史を題材にした文学作品・マンガを取り上げたりしながら、現代の私達にとって歴史が持つ意味についても、自由に考えていきましょう！
また、最新の学説なども紹介していくので、研究の最先端で教科書が書き換わっていく面白さも知ってもらいたいと考えています。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 教科書はありません。参考書は講義内で適宜紹介します。

キャリア形成科目



科目名	インターンシップ基礎	科目名(英文)	Introduction to Internship
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	授業概要：キャリアデザインの授業内容を基礎に、さらに自己理解や社会に対する見識を深めるためのキャリア形成科目です。 目的：企業の仕事現場や仕事に関連するミュージアムなどを見学（取材）することで仕事や社会に対する理解を深める。
到達目標	前期のキャリアデザインで学んだ自己理解をさらに深め、グループワークなどを通じて自ら発信できるコミュニケーション能力を高め、コンセンサスが取れる能力を養う。 先輩のインターンシップ体験について学ぶことで、社会に対する見聞をさらに広め、職業観を養う。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的・自律的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れている。
科目学習の効果(資格)	「ビジネスインターンシップⅡ」の就業体験を有意義に行うための基礎的な考え方や社会の理解を深めるのに役立ちます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 【9月13日】	・授業ガイダンス ・インターンシップとは	予習：インターンシップの意味を調べてください。 (安久、高尾)
	2	SPI試験対策 【9月20日】	・SPI模擬試験	予習：SPI試験の問題集などで事前に対策をしておいてください。 (安久、高尾)
	3	目標設定と自己理解 【9月27日】	・前期の振り返りと新たな目標設定、「PDCA」の確認 ・アピールポイントを考えることで自己理解を深める	予習：前期で設定した目標を見直し、新たな目標を考えてください。 (安久、高尾)
	4	コミュニケーション① 【10月4日】	・コミュニケーションの目的 ・「傾聴」とは	予習：「傾聴」の意味を調べてください。 (安久、高尾)
	5	経営学部で有利な資格等を考える 【10月18日】	・資格の解説と対策講座の紹介 ・SPI模擬試験結果の解説	予習：自分が興味を持っている分野の仕事に役立つ資格が何があるかを考えてください。 (安久、高尾)
	6	コミュニケーション② 【10月25日】	・第一印象について再確認 ・「伝え方」について考える	予習：相手に話をきちんと聞いてもらうためには、どんな点に配慮したらいいかを考えてください。 (安久、高尾)
	7	コミュニケーション③ 【11月1日】	・「ロジックシンキング」とは ・「三角ロジック」とは	予習：「ロジックシンキング」の意味と、なぜ大切だと言われるのかを考えてください。 (安久、高尾)
	8	コミュニケーション④ 【11月8日】	・グループごとのコンセンサストレーニング	予習：チームでコンセンサス（合意形成）を図るためには、どんなこと配慮しないといけないかを考えてください。 (安久、高尾)
	9	社会人基礎力① 【11月15日】	・社会人基礎力診断の実施 ・目標達成意欲度診断の実施	予習：「社会人基礎力」について調べてください。 (安久、高尾)
	10	社会人基礎力② 【11月22日】	・社会人基礎力診断の実施 ・目標達成意欲度診断の実施	予習：自分にとって「社会人基礎力」のどの部分が足りないのかを考えてください。 (安久、高尾)
	11	自己分析 【11月29日】	・自分自身の振り返り ・心の中にいる5人の私について考える	予習：自分の行動の癖（特性）を一言でいうと、どんなタイプなのかを考えてください。 (安久、高尾)
	12	インターンシップ体験をした先輩に学ぶ 【12月6日】	・インターンシップを体験した先輩の報告（予定）	予習：インターンシップで何を学びたいかを考えてください。 (安久、高尾)
	13	履歴書の書き方を学ぶ 【12月13日】	・履歴書の書き方のポイントを学ぶ ・自分の履歴書を書いてみる	予習：履歴書を見る立場になって、どんな点を注意してみるか（ポイント3つ）を考えてください。 (安久、高尾)
	14	会社や見学（取材）先を探そう① 【12月20日】	・グループや個人で見学（取材）先を探してみよう ・見学（取材）計画を立てよう	予習：「工場見学」（昭文社）などの書籍から自分が見学したい事業所などをリストアップしてください。 (安久、高尾)
	15	会社や見学（取材）先を探そう② 【1月10日】	・見学（取材）計画のまとめ ・見学（取材）計画書の提出	予習：電話でのアポの取り方などを考えてください。 (安久、高尾)

キャリア形成科目

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアデザイン（前期）」と「インターンシップ基礎（後期）」は通年でカリキュラム構成しているため、通年受講することが望ましい。 ・「ベンチャービジネス論」の講義は関連が深く、受講しておくことが社会に対する理解を深めることに役立ちます。 ・インターンシップの就業体験を希望する者は、「インターンシップ基礎」を履修（合格）しておくことが望ましい。 																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>キャリアデザイン</td> <td>安久典宏、羽石寛寿</td> <td>清風出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版	2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	原則、講義レポートの内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。																		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義レポートや提出物で授業の習熟度の確認をします。欠席をしないように。 ・グループワークを取り入れます積極的に参画し発言してください。 ・グループ学習などでは、他人に迷惑を（遅刻・欠席）をかけないように。 ・企業見学等は、授業終了後の補講・特別教育機関の間に実施予定です。 ・授業の進捗状況で一部内容や進め方を変更することがあります。 																		
担当者の 研究室等	11号館8階 安久研究室																		
備考	※補講・特別教育期間中<1月17日（火）～23日（月）>に見学（取材）予定。計画書をもとに、各自行動すること。																		

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment design I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマに沿って本学の教職員から多様な生き方を聴く。大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることで、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とのかかわることについて考える契機となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義を振り返る
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～「自分スイッチ」をつけるチャンスは摂南大学にある～（担当：地域連携センター 係長 古屋豊吾）	みなさんと同じ摂大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話しします。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。	・講義を振り返る
3	学生生活② 漢字が教えてくれること -古代人からわたしたちへのメッセージ-（担当：外国語部 教授 中西正樹）	漢字には3000年前の人々の物の見方や宗教、社会、戦争などのありさまが刻み込まれている。漢字の成り立ちを通して現代を生きる私たちにとって必要な知恵や教訓を見つけ出す。	・講義を振り返る
4	学生生活③ 社会に出て働くために（担当：枚方事務室 酒井俊輔）	社会人として働く前にやるべきこと、やっておいて欲しいことはどんなことか？ 自身の大学時代や一般企業での経験などをもとにお話しします。	・講義を振り返る
5	学生生活④ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室）	・講義2回から4回のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る ・第1回「学生生活」に関するレポート締切
6	学修① 大学生活における学習への動機づけ（担当：経営学部 准教授 牧野幸志）	大学での学習における様々な動機づけについて考える 機会を提供する。大学の勉強とは？どの席に座っている人が成績は良いのか？やる気はあるのか？など。また、どのように学習が大学では効率的かを心理学的に解説する。	・講義を振り返る
7	学修② チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法-（担当：経営学部 准教授 久保貞也）	(1) 摂南大学をうまく活かした先輩たち（事例紹介） (2) チャンスを失う典型的な学生（注意喚起） (3) 摂大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
8	学修③ 基礎科学における大学院進学と研究職への道（担当：理工学部 准教授 東武大）	本講義では基礎科学分野での大学院での研究の在り方、及びポストク問題（OD問題）等、研究職に就くまでの様々な現実について解説します。	・講義を振り返る
9	学修④ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室）	・第6回から8回までの講義のまとめ ・第1回「学生生活」レポートからの反省と第2回レポートに向けて	・講義を振り返る ・第2回「学修」に関するレポート締切
10	キャリアパス① 海外駐在員の仕事及び生活（担当：経済学部 学部長 教授 久保廣正）	観光・短期留学で一時的に滞在する場合と異なり、海外駐在、それも家族を同伴する駐在の場合、数多くの課題に直面します。ある企業の駐在員として5年間、ロンドンに滞在した経験を紹介し、大学での学びを振り返ります。	・講義を振り返る
11	キャリアパス② 危機感や劣等感を駆動力に変える（担当：外国語学部 教授 松田早恵）	自分の“marketability”を上げるために何ができるか考えてみましょう。	・講義を振り返る
12	キャリアパス③ 会社人生を楽しく生き抜くには？	企業での勤務体験を元に、それぞれの年代で必要となる知識や態度と、それを獲得するために大学で経験しておくべき事等について紹介します。	・講義を振り返る
13	キャリアパス④ 「私のキャリア」 キャリアアップを考える（担当：経済学部 教授 持永政人）	企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。	・講義を振り返る

キャリア形成科目

	14	キャリアパス① 法律とスポーツと将来の職（担当：法学部 准教授 石井信輝）	法とスポーツとの関係性は見出しにくいですが、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義を振り返る
	15	講義のまとめ（担当：キャリア教育推進室）	・キャリアパスを中心としたエンプロイメントデザインⅠの振り返り ・まとめのレポート書き方指導	・講義を振り返る ・講義のまとめのレポート
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のミニッツペーパー（15%）、グループワーク（15%）、グループ課題（10%）、レポート3回（60%）、を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	学生生活4年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の 研究室等	11号館10階（荻田） 7号館5階（石井） 7号館3階（水野）			
備考	教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment design II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。また、さまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となり、社会人としての真摯な態度での話の聴き方やメモを取り、積極的に質問をする習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(キャリア教育推進室)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・講義の感想を提出
2	「先人(企業家)に学ぶ～仕事への心構え」(商工会議所/管理職)	企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします	・講義の感想を提出
3	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで(摂大 OB/NPO 法人代表)	理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・講義の感想を提出
4	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・講義の感想を提出
5	企業人の私が経験した摂大 OB としての歩み方(摂南大学 OB・メーカー/営業管理職)	キャリアデザインへのアプローチ方法の観点から、先輩、同期、後輩のユニークなキャリアを紹介しつつ、在学中に人とのつながりを多く持ち、卒業後も自信を持って摂南大学卒 OB といえる人物であってほしい願いを込めてお話しします。	・講義の感想を提出
6	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介する DVD の上映も行います。	・講義の感想を提出
7	銀行の業務と役割について(銀行員)	銀行の業務とその社会的役割及び銀行員のキャリアについてお話しします	・講義の感想を提出
8	新卒での就職活動で全てが決まる!? (摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講義の中間まとめ ・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを体験を交えてお話しします。	・講義の感想を提出 ・中間レポート
9	情報サービス業の現状と展望(IT/人材育成)	仕事や生活のあらゆる場面で利用されている IT。文理問わず募集している理由や仕事内容、また将来に向けた課題をお話しします。	・中間レポートを提出 ・講義の感想を提出
10	これから～自分の将来像について考える～(摂大 OB/警備会社人事)	「どのような人生をどのように歩んでいきたいか」を、就職についての話を踏まえながら、学生のみなさんにも考えてもらいます。	・講義の感想を提出
11	業界の見極め方と就職活動に向けた心構え(商社 人事)	知っている会社と知らない会社の違いを分析し、世の中の仕組みについて考えます。社会の求める人材像を目指し、学生生活で身につけるべきスキルを紹介。就職活動に向けた心構えを伝授します。	・講義の感想を提出
12	高校教師の仕事(高校教師)	高校の教師の仕事についてお話しします。	・講義の感想を提出
13	信用金庫の歴史と社会的使命(金融/人財開発)	信用金庫の設立と信用金庫理念、そして北おおさか信用金庫の取り組みについて講義します。	・講義の感想を提出
14	今求められる公務員像(摂南大学 OB/市役所職員)	安定・厚遇という言葉だけが独り歩きする職業としての公務員。経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・講義の感想を提出
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・最終レポートを提出

関連科目: キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

キャリア形成科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (70%) を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	教務部 キャリア教育推進室 (7号館5階/石井、7号館3階/水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	4年間のキャンパス・ライフを有意義に送るための大学生活導入教育です。充実した大学生活が過ごせるかどうかは、入学当初の勉学態度にかかっています。そのため「キャリアデザイン」は、必修科目となっています。
到達目標	この講義を通して、 ①主体的に行動するための自己理解を深める。 ②コミュニケーションについて、理解を深める。 ③社会(企業)の変革に対して、自分のワーキングスタイルを今後どう考えるかの理解を深める。 ④大学生活およびライフプラン設計ができるようになる。 を講義の到達目標とします。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れます。
科目学習の効果(資格)	将来の目標を設定するための情報収集や、目標達成に向けた具体的な行動が起こせるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 【4月12日】	・講義の全体的な流れと進め方に関する説明 ・キャリア教育とは ・教育(研究)倫理について	テキストに目を通してから、出席してください (安久・高尾担当)
2	キャリア関連科目がなぜ大切なのか 【4月19日】	・「キャリアデザイン」がなぜ必修科目なのかを考える ・経営学部で取得可能な資格について学ぶ	大学に進学して、何がしたいかを整理し、300字程度にまとめてきてください (安久・高尾担当)
3	大学4年間で何をするか① 【4月26日】	・4年間の目標と計画作りの立て方(PDCA) ・講義の到達目標と各自の目標設定	4年間での3大目標を決め、その目標と理由を300字程度にまとめてきてください (安久・高尾担当)
4	大学4年間で何をするか② 【5月10日】	・4年間の目標と計画作り	学年ごとの目標を具体的に考えてきてください (安久・高尾担当)
5	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう① 【5月17日】	・行動と気づきの大切さを学ぶ ・目標達成意欲度診断の実施	今までに、やる気があった時とそうでなかった時のことをメモし、持参ください (安久・高尾担当)
6	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう② 【5月24日】	・自分の過去を振りかえり、自分のアピール材料を探す ・自己PRワークをおこなう	アルバムなどを見て、自分の過去の出来事を思い出しておいてください (安久・高尾担当)
7	自分発見マップ作り① 【5月31日】	・大学生活のすごし方と将来の目標や夢について、グループワークを通じ発見、確認をする	自分の将来の夢や目標について、考えてきてください (安久・高尾担当)
8	自分発見マップ作り② 【6月7日】	・自分発見マップのレイアウトと内容を整理	カードに書き出した内容以外にもエピソードを考えてきてください (安久・高尾担当)
9	自分発見マップ作り③ 【6月14日】	・自分の将来像を一枚の絵にまとめる	自分発見マップのワークから見えてきた夢などを整理しながら、一枚の絵を通してどのように表現するかを考えてきてください (安久・高尾担当)
10	コミュニケーションとは① 【6月21日】	・コミュニケーションについて再考する ・正確に伝え聞くためのコミュニケーションとは	コミュニケーションの意味について考えてきてください (安久・高尾担当)
11	コミュニケーションとは② 【6月28日】	・コミュニケーションワーク	ノンバーバルスキルの意味を調べてきてください (安久・高尾担当)
12	SPI試験対策 【7月5日】	・SPI模擬試験	SPI試験の問題などで事前に対策をしておいてください (安久・高尾担当)
13	ワーキングスタイルについて考える① 【7月12日】	・行動適応診断の実施 ・自己発見リファインシートの作成	周り人から自分はどのような行動の特徴があるかを確認しておいてください (安久・高尾担当)
14	ワーキングスタイルについて考える② 【7月19日】	・日本企業の雇用形態の変化について ・正社員とフリータ、ニートについて考える ・SPI模擬試験結果の解説	働き方の形態について調べてきてください SPI試験結果を参考に、後期にある2度目の試験に向けて対策をしておいてください。 (安久・高尾担当)
15	振り返りと新たな目標設定 【7月26日】	・モチベーション理論 ・キャリアスタイル診断の実施 ・これまでの振り返りと新たな目標を設定する	最初に設定した目標がどれだけ実現できたか調べてきてください (安久・高尾担当)

キャリア形成科目

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアデザイン（前期）」と「インターンシップ基礎（後期）」は通年でカリキュラム構成しているため、2科目履修することが望ましい。 ・「ベンチャービジネス論」の講義は関連が深く、受講しておくことが社会に対する理解を深めることに役立ちます。 ・インターンシップの就業体験を希望する者は、「インターンシップ基礎」を履修（合格）しておくことが望ましい。 			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則、講義レポートおよび提出課題の内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義レポートや提出物等で授業の習熟度の確認をします。欠席をしないように。 ・グループ学習などでは、他人に迷惑（遅刻・欠席）をかけないように。 ・大学生活のスタートとして重要な科目ですので必修となっています。 ・授業の進捗状況で一部内容や進め方を変更することがあります。 			
担当者の 研究室等	11号館8階 安久研究室			
備考				

科目名	キャリアプラン	科目名(英文)	Career Plan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	本講義は、就職部主催の「就職ガイダンス」と連携した講義になっており、就職活動に関する知識と実践技法も学ぶことができる。学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材(人財)になるために何をすべきかを考える。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の事を他者に伝えられるようになることを目標とする。その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	就職部主催の全4回の「就職ガイダンス」と連携した講義であり、全23回の変則的な講義になっているため、実施日に注意を払うこと。
科目学習の効果(資格)	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	4月22日 就職ガイダンス①	就職ガイダンス① ①現在の就職状況 ②就活スケジュール ③自己理解の大切さ	ガイダンス配布資料を熟読すること
3	5月13日 自分を知る①	・何故自己理解が必要なのかを理解する ・自分の未来を描く	自分の将来について考えること。
4	5月27日 就職ガイダンス②	就職ガイダンス② ①自己理解の進め方 ②仕事とのマッチング方法 ③適性検査を基にして解説	ガイダンス配布資料を熟読すること。
5	6月10日 自分を知る②	・現時点での自分の長所を知り、卒業後の社会への活かし方を考える	自分の活かし方について考えること。
6	6月17日 就職ガイダンス③	就職ガイダンス③ ①業界・企業研究の方法 ②インターンシップへの促進	ガイダンス配布資料を熟読すること
7	6月24日 社会を知る①	・成長企業のキーワード ・聴き手に共感される志望動機を考える	配布資料を熟読すること。
8	7月1日 社会を知る②	・一般消費者にはとっては知名度が高くはないが活躍している企業があることを知る	興味のある会社を研究すること。
9	7月8日 自分のことを伝える①	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する ・実際に自己PRを書いてみる	エントリーシート作成のポイントを復習すること。
10	7月15日 自分の事を伝える②	・学生生活での経験を振り返る ・自分が大事にしている事は何かを考える ・自分の特性を社会にどう活かすかを考える	エントリーシート作成のポイントを復習すること。
11	7月22日 前期の講義の振り返り	・前期の振り返り ・時事問題の大切さを知る。	夏休みの目標を立てること。 新聞の経済・社会面に目を通す習慣をつけること。
12	9月23日 後期のオリエンテーション	・後期のオリエンテーション ・夏休みの振り返り	夏休みを振り返ること。 課題提出(自己PR・学生時代に力を入れたことをそれぞれ400文字で書いて提出、提出先の指示あり)。
13	9月30日 就職ガイダンス④	就職ガイダンス④ ・大学指定履歴書作成方法と宿題渡し	ガイダンス配布資料を熟読すること。
14	10月14日 社会を知る③	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	自分にとっていい会社とは何かを考える。
15	10月21日 自分を知る③	・志望動機を考える ・自分と仕事を結びつける	現時点での志望企業向けの志望動機を書いてみる。 模擬面接の準備をしておくこと。 自分に合った仕事について考えること。
16	10月28日 グループでのコミュニケーション①	クラスを分割してグループディスカッション① ・GDとは何か、何を見られているか等を知る	集団の中でのコミュニケーションについて復習すること。
17	11月4日 グループでのコミュニケーション②	・クラスを分割してグループディスカッション②	集団の中でのコミュニケーションについて復習すること。
18	11月11日 グループでのコミュニケーション③	・クラスを分割してグループディスカッション③	集団の中でのコミュニケーションについて復習すること。
19	11月18日 面接における対人コミュニケーション①	・面接における対人コミュニケーションについて考える	配布資料を熟読すること。
20	11月25日 面接における対人コミュニケーション②	・クラスを分割して模擬面接を実施する	模擬面接の準備をしておくこと。
21	12月2日 面接における対人コミュニケーション③	・クラスを分割して模擬面接を実施する	模擬面接の準備をしておくこと。

	22	12月9日 成果を上げるための行動計画	・行動計画を立案する ・学生の行動事例の紹介 ・講義の振り返り	就職活動までの行動計画を立てること。
	23	12月16日 就職ガイダンス⑤	・就職活動開始に向けた総括と宿題(自己理解、業界・企業研究、SPI対策等)の指示	ガイダンス配布資料を熟読すること。
関連科目	インターンシップⅠ・Ⅱ、キャリアデザインⅠ・Ⅱ、ビジネスマナーⅠ、就職実践基礎、コミュニケーション能力開発			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の講義での提出物(30%)、個別の課題(10%) 期末レポート(40%)、授業への参加度(20%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの将来のことを一緒に考えましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 石井研究室 7号館3階 水野研究室 11号館8階 安久研究室 就職部			
備考	参考文献・書籍などは必要に応じて定義提示する。			

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名(英文)	Development of Communication Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠

授業概要・目的
就職活動時の筆記試験対策（言語、一般常識）について学びながら、社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は社会に必要なスキルですが、すぐに身に付くことはできません。この授業では毎回、話す、聴く練習をしながら、就職活動に必要な一般常識や言語の知識について学びます。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンを練習する機会はありません。講座を通して社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。

到達目標

授業方法と留意点
一般常識、言語に関しては毎回小テストで自分の理解を確認しながら、言語の基礎を学びます。
また、授業を通してコミュニケーションスキルを養います。
グループワークや読み書きの体験を中心とした実践型の授業ですので、積極的な姿勢で参加してください。

科目学習の効果(資格)
就職活動に必要な言語の知識とコミュニケーション能力を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは？	コミュニケーションとは？ なぜ、コミュニケーションが必要なのか？	シラバス熟読
2	聞く技術、話す技術	聞く技術、話す技術について基本的な方法を学びます。	前週に配布する”2語の関係①”をしっかりと復習してきてください。
3	企業について知る(時事)	就職サイトの求人情報を参考に、企業の情報や仕事内容の見方を知り、時事との関連を考えます。	前週に配布する”2語の関係②”をしっかりと復習してきてください。
4	グループディスカッション基礎	グループディスカッションの上手な進め方、役割を知ります。また、実際に体験します。	前週に配布する”語句の用法①”をしっかりと復習してきてください。
5	ビジネスと経済+GD 体験①	企業のお金の流れと、経済の仕組みについて学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
6	ビジネスと法律+GD 体験②	企業活動と法律について学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
7	長文読解と書く技術	ロジカルシンキングや論理的な文章を書ける読解を学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
8	グループディスカッション発展①	就職活動等で頻出される、アイデアを出すタイプのグループディスカッションを体験します。	中間レポートを提出します。 前週に配布する”長文問題”をしっかりと復習してきてください。
9	グループディスカッション発展②	就職活動等で頻出される、ディベートタイプのグループディスカッションを体験します。	前週に配布する”長文問題”をしっかりと復習してきてください。
10	プレゼンテーションについて	人前で上手に話す技術や聞き取りやすく分かりやすいプレゼンについて学びます。	前週に配布する”時事”をしっかりと復習してきてください。
11	敬語とマナー①	社会に出るための最低限のマナーや態度について学びます。	前週に配布する”敬語”をしっかりと復習してきてください。
12	敬語とマナー②	メールの書き方、電話対応など基本的なマナーと履歴書の書き方を学びます。	前週に配布する”敬語”をしっかりと復習してきてください。
13	面接演習①	グループ面接を体験します。	面接の準備をしっかりとってきてください。
14	面接演習②	グループ面接を体験します。	レポートを提出があります。
15	講義の振り返り	言語・一般常識確認テスト レポート振り返り	全ての範囲を事前に勉強しておいてください。

関連科目 キャリアデザインⅡ, 数的能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 平常点4割 授業内レポート&テスト6割(中間と最終レポート)で評価します。

学生へのメッセージ 3年生の後半からは始まる進路選択に向けて実践的なコミュニケーションを体験しながら、筆記試験で出される言語分野や一般常識について学びます。

担当者の研究室等備考

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣

授業概要・目的
 中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。

到達目標
 社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること

授業方法と留意点
 授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。

科目学習の効果(資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)
 授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します

学生へのメッセージ
 算数や数学を楽しんで学習してください。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。

担当者の研究室等
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太

授業概要・目的
 中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。

到達目標
 社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること

授業方法と留意点
 授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。

科目学習の効果(資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)
 授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します

学生へのメッセージ
 算数や数学を楽しんで学習してください。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。

担当者の研究室等
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子, 津村 忠

授業概要・目的
 中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。

到達目標
 社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること

授業方法と留意点
 授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。

科目学習の効果(資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)
 授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します

学生へのメッセージ
 算数や数学を楽しんで学習してください。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。

担当者の研究室等
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠

授業概要・目的
 中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。

到達目標
 社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること

授業方法と留意点
 授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。

科目学習の効果 (資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法 (基準)
 授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します

学生へのメッセージ
 算数や数学を楽しんで学習してください。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。

担当者の研究室等
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室) 3号館2階 (学習支援センター)
----------	---------------------------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	D E F
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階（非常勤講師室）
----------	----------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	GH
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大石 真由香

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
	15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	D E F
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	GH
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大石 真由香

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manners I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仁平 章子

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・仕事の基本動作とサイクル ・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動	・事前学修：企業のエコ活動について調べる。 ・事後学修：仕事とは何か、400字でまとめる。
3	目標設定とPDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO ととPDCA を考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表作成について振り返り、まとめる (400字以上)。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (1000字以上)。
7	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：実際にメールをうつ。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：慶弔・贈答プリント②をする。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (30%)、期末試験 (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名(英文)	Business Manners II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	企業等のビジネス組織における積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。 社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力(非言語ならびに言語能力)とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	第一に、社会人として理解し、行動に移さなければならない知識や技能としての実務領域を体得する。 第二に、ロールプレイやワークを取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	ビジネス実務能力が身に付く。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ビジネスマナーからビジネス実務へ	・授業のオリエンテーション ・ビジネスにおける最低限のルール確認	・事前学修: ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習する。受講していない学生は自身のマナーについて考える。 ・事後学修: オリエンテーション内容についてレポートを作成する。
2	正しい姿勢と動作	・第一印象の重要性の確認 ・姿勢のワンポイントアドバイス	・事前学修: 自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモする。 ・事後学修: 第一印象の重要性についてレポートを作成する。
3	PDCA サイクルと YTT 方式	・PDCA サイクルの重要性 ・YTT 方式の活用法	・事前学修: 日常において段取りが悪かった事例の内容を6W3Hでまとめる。 ・事後学修: その改善点を考え、記録する。
4	アサーティブな自己表現	・自分の意思を伝える方法 ・ロールプレイング	・事前学修: 日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモする。 ・事後学修: 相手に理解される伝え方についてレポートを作成する。
5	敬語表現と逆説得	・敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方	・事前学修: テキスト内の敬語に関する項目を完成する。 ・事後学修: 逆説得をまとめ、レポートを作成する。
6	環境プロデューサーとしての言動と「誠意」	・相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察	・事前学修: 「環境プロデューサー」の意味を考え、理解する。 ・事後学修: 「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成する。
7	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係	・信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード	・事前学修: 日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返る。 ・事後学修: ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なか理解し、レポートを作成する。
8	処理業務の基本と応用	・来客対応、業務処理、重複業務処理とTPOの関係性 ・具体例とその解決手順を考察	・事前学修: TPO意味を考え、処理業務の事例からその解決手順を考える。 ・事後学修: 処理業務に関するレポートを作成する。
9	設営の基本	・設営業務の基本	・事前学修: 会議等を開催する手順を考え、工程表を作成する。 ・事後学修: YTT方式を基に工程表を手直しする。
10	設営の応用とドキュメント作成	・文書処理、ならびにビジネス文書の書き方とファイリング	・事前学修: 手順を理解したら、人が集まる会合等を企画・計画する。 ・事後学修: 企画文書、開催通知を作成する。
11	ケーススタディ①	・事例研究	・事前学修: 自ら優先順位を決め、処理する手順を考える。 ・事後学修: ケーススタディプリント①をする。
12	ケーススタディ②	・事例研究	・事前学修: 実務処理能力を高めることを理解する。 ・事後学修: 「わかることからできること」に関するレポートを作成する。
13	わかることからできることへ	・必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ	・事後学修: ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。
14	キャリア開発と自己啓発	・自分で実践するキャリア開発	・事前学修: キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考える。 ・事後学修: キャリアに関するレポートを作成する。
15	振り返りとまとめ	・授業の振り返り	・事後学修: ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵、他	泉文堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ワークプレイス共生論	佐藤啓子、石井三恵、他	嵯峨野書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ワークならびに小テスト (30%)、レポート (30%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線にあります。決して初めて学ぶことではありません。だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っており、それを振り返ることから始まります。まずは、TPOを考え、自分の言動を意識してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

教 職 科 目



科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画、かつ、実践し、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進めるが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくこと。さらに各々の卒業校(中学校、高等学校)の学校概要について情報収集しておくことが望ましい。また本授業用のノートを1冊準備すること。授業でレジュメを配布予定としているが、板書やパワーポイント資料の中の重要キーワードについては口頭で説明することもあるので、そういった内容を記述するためのノートを1冊準備しておくこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
	2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
	3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
	4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
	5	教育評価	発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
	6	『総合的な学習の時間』について	・導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	7	学校化された社会	「隠れたカリキュラム」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	9	新しい教育課程 その2	「人権教育/平和教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	10	新しい教育課程 その3	「シティズンシップ」教育について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	12	教育課程と教育改革 その2	特色のある学校づくり＝高校編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣アルマ
	2	教育課程・方法論—コンピテンシーを育てる授業デザイン	松尾知明	学文社
	3	中学校・高等学校学習指導要領解説	文部科学省	ぎょうせい他

教職科目

評価方法 (基準)	出席 (8割以上必須)、学期末試験 (単位取得のためには60点以上必要)、中間試験 (予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度 (発表を含む) など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること (原則、第一回目から全15回出席すること。)
学生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第一回目の授業は必ず出席すること。 2. 欠席・遅刻はしない。 3. 私語はしない。 4. 授業では何事にも積極的に取り組む。 5. 授業内容の復習を怠らないこと。 6. 授業内容で分からない点については遠慮せずに質問する。
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	2009年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちにってはあたりまえで意識することものないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用の仕方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第3章1節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第3章2節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第7章1・2節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第3章3節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第7章2・3節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第4章1・2節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第4章3・4節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章1・2節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章3・4節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第8章1・2節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第8章3・4節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第2章1節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第2章2・3節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第6章を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育行政学 改訂版	勝野正章・藤本典裕編	学文社
	2			
	3			

教職科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		適宜指示します。	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、受講に係る積極的態度 10%の割合で総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合は成績評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。			

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようになります。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたいうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱えているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デュエイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
2			
3			

教職科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育思想史	眞壁宏幹編	慶應義塾大学出版会
	2	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房
	3			
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)			
備考				

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的 (1) 教育実習校における実習 (教育実習ⅡまたはⅢ) に必要な教育実践の基本を理解し、教科指導、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、授業が効果的に展開できるようにする。(2) 教育実習の実際についての情報を提供する。また、受講者は課題の報告・発表を行う。これらに基づき討議する。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについての理解を深める。

到達目標 教育実習の目的や意義、内容を理解し、十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。

授業方法と留意点 演習形式で行う。

科目学習の効果 (資格) 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。
【免許法施行規則に定める科目区分】
教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義	教育実習の目的と意義、免許制度の概要について	授業時に指示する
2	教育実習の内容と形態等	事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
3	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業と授業研究、評価の観点について	授業時に指示する
5	授業の方法と技術	学習指導と教材研究について	授業時に指示する
6	学習指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案の作成、板書計画	授業時に指示する
7	学習指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について。授業の評価とその観点	授業時に指示する
8	授業分析	授業分析の意義と方法について	授業時に指示する
9	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
10	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
14	特別支援教育の現状と課題	障害の種類と配慮事項、障害児理解と交流教育について	授業時に指示する
15	まとめ		

関連科目 これまで学んだすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 課題の提出状況とその内容、模擬授業、期末レポート等によって総合的に評価する。

学生へのメッセージ 教育実習は、これまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるように、十分に準備してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)教育実習体験発表会(6月～7月)は教員採用試験の日程により後期に実施を延期する場合がありますので、ガイダンス時の指示に従うこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出	
教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)	
前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成	
教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出	
後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成	
教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出	
教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出	
教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題	

関連科目	教職関連科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。
----------	--

学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。
----	------------------------------------

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)教育実習体験発表会(6月～7月)は教員採用試験の日程により後期に実施を延期する場合があるので、ガイダンス時の指示に従うこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出	
教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)	
前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成	
教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出	
後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成	
教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出	
教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出	
教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題	

関連科目	教職関連科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。
----------	--

学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。
----	------------------------------------

教職科目

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子

授業概要・目的
近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

到達目標
本講義の到達目標は以下の通りです。
1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点
講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で講義で取り扱う教育問題について発表し、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み（事前配布かテキスト使用）、それを講義日までに各自要約してきてもらいます（毎回要約を提出してもらうことになります。提出が不十分な学生は成績対象から外します。）。
○準備学習の具体的な方法
指定しているテキストを購入し、講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておいて下さい。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておいてください。また、履修する学生の皆さんには本講義用に1冊ノートを作成してもらいます。そのノートに上記、予習や新聞等の切り抜き等を貼り付けるなど利用して下さい（まとめかたは自由）。※ノートは提出してもらうこともあります。

科目学習の効果（資格）
（1）高等学校教諭1種免許状 （2）中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育の基礎理論に関する科目
各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：教科書の第1章、第2章の要約。
3	教師と子ども	「教師－生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：教科書の第3章、第4章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題（体罰等）が発生する背景や要因について考える。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：教科書の第7章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策；海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題：教科書の第9章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：教科書の第10章の要約。

関連科目
「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教職科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『[教師教育テキストシリーズ5] 教育社会学』	久富善之・長谷川裕編	学文社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席・授業貢献度、試験（毎時間行う小テストと期末試験）、課題（毎時間の要約）・ノートにより総合的に評価する。 ※出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とします（期末試験の受験資格なし）。			
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは過去に「長期間」にわたり経験したことがある）ことが必須条件です。学校での活動経験のない者については履修期間中、学校で活動することを義務づけることがあります。 また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。			

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
	2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
	3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
	4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
	5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
	6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
	7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
	8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
	9	こどもの学び2	様々な学習(2)……道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
	10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
	11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
	12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
	13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
	14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
	15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	心理学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
----------	-----------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的
教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。

到達目標
教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点
講義と演習を組み合わせて行う。

科目学習の効果(資格)
教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目
各科目に含める必要事項：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目
教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
グループ発表 50% 期末試験 50%

学生へのメッセージ
これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等備考
7号館3階(吉田研究室)

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応し、多角的な教育方法の実践的探究をめざすスタンダードなテキストにもとづいた講義、授業の力量を高めるための基礎的な技術の紹介、授業の対象・目標の決定、教材の研究・作成、発問・指示の具体化等、一連の授業づくりをチームで行うマイクロティーチングの実施により授業を構成する。受け身ではなく能動的な学びを経験することになる。</p> <p>それらのことを通じて、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とするような授業を構想する。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が専門性を向上させるだけでなく、相互に学び合える同僚性を構築すること、教育諸科学研究から新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要な場合はメモを残しておくこと)。</p> <p>(3) 第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(4) 定期試験を受験すること。</p>

科目学習の 効果(資格)	<p>教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目:教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項:教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>
-----------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	子どもは何を学ぶか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座④板書の技術	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	授業をどうデザインするか(計画論) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	教育の道具・素材・環境(教材論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	何をどう評価するか(評価論) チーム授業顔合わせ・自己紹介	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	欧米における授業の歴史 チーム授業①打ち合わせ	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	日本における授業の歴史 チーム授業②第1グループのマイクロ・ティーチング実施	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) チーム授業③第2グループのマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

	11	ICTを活用した授業をつくる ① チーム授業④第3グループ のマイクロ・ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	12	ICTを活用した授業をつくる ② チーム授業⑤第4グループ のマイクロ・ティーチング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	13	インクルーシブな授業をつくる 授業技術ミニ講座⑦個別指導 と一斉指導 チーム授業⑥マイクロティーチングの振り返り	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	14	授業のユニバーサルデザイン化 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	15	まとめへ学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育の方法</td> <td>佐藤学</td> <td>左右社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教育の方法	佐藤学	左右社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教育の方法	佐藤学	左右社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考																				

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。1グループは15～20名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く）の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の目的、内容方法についての確認 ・各自の教育実習後の課題についての確認 ・3回以降のグループ学習の各課題の確認 	・教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業について後、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同時に「人間」であり、「自律した市民」でもある。ここでは、こうした二重の生を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。	(事前)自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 (事後)小レポートの提出。
11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	(事前)自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 (事後)小レポートの提出。

	12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。
	13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日素明、大野順子、小山裕樹、林茂樹、吉田佐治子			
備考				

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)・進路選択に資する各種の機会の提供等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	テキスト第1章
3	教師教育と教職の専門性(1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	テキスト第10章
4	教師教育と教職の専門性(2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	テキスト第4章・第12章
5	教師教育と教職の専門性(3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	テキスト第3章
6	教師教育と教職の専門性(4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料 テキスト第11章
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	テキスト第2章・終章
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第5章・第8章
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第7章 教職員の構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	テキスト第9章

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 教職論—「よい教師」への扉を開く—	佐島群巳・小池俊夫編	学文社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1		適宜指示します。	
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験を実施します。その他、レポートの内容、受講に係る積極的態度も成績判定の資料とします。
学生への メッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	商業科教育法	科目名(英文)	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	河合 隆廣

授業概要・目的	<p>教育は、その時代の政治や経済に大きく左右される。本講義は『国際経済と我が国教育の変遷』をテーマとして、戦後の我が国の教育と国際社会の変化を歴史的に分析することにより、現行の学習指導要領に際し、どのような教育をめざしていくべきかを考察します。</p> <p>前半は「不易流行」の「流行」の面に重点を置き、後半は「不易」の面に重点を置き、大局的な観点から教育の意義・在り方を追究し、現代社会にどのような教育が必要であるか、教育者としてどのような姿勢で教育に臨むべきかなど、教育の原点について考察します。</p> <p>グローバル化が進む不透明な時代において、時代の変化に対応するとともに、普遍の真理を追究する資質と能力を育成することを目標とします。</p>
到達目標	<p>わが国の学習指導要領は、昭和22年に施行されて以来、8回の改訂のうち実に7回の全面改訂を行ってきました。戦後の国際社会や日本の政治・経済・国民生活等を個々に分析し、それが我が国の教育にどのように関わり、どのような教育を展開してきたかが理解できます。それにより、現代の国際社会の動向を分析する力をつけ、次代を担う教員として今後どのような教育を行うべきかを考察する力を身に付けることができます。</p> <p>特に、現在の高校の歴史教育では、戦後の歴史を学ぶ機会が少ないため、学習指導要領を真に理解することが難しい。そこで、戦後の歴史の流れを知ることにより、現在の国際社会の動向を理解し、教育の方向性を見極める力を身に付けることができます。</p> <p>この授業で習得・向上できる社会で役に立つ能力</p> <p>①人間関係を形成する力、②問題を発見し解決する力、③教育の意義を理解する力などの他、国際問題、経済問題などの時事問題にも強く、必ず教師を目指す自己の新しい発見につながります。</p>
授業方法と留意点	<p>一方的な教授法ではなく、経済、政治、教育などの理解を深めるために丁寧な解説を行い、学生の意見を尊重するとともに学生の疑問に的確に答え、調査研究成果を発表させるなどの対話型授業を行います。</p>

科目学習の 効果(資格)	<p>本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。</p> <p>「商業教育」は、教師と生徒とのかかわりが深く、大学で学んだ専門科目をそのまま活かせる魅力があります。</p> <p>「公民」「地理歴史」の履修者にとっても、次回の学習指導要領が戦後の歴史を重視する方向にあり、現代に至る国際社会や我が国の政治・経済・国民生活などの幅広い知識を身に付けることができます。</p> <p>“複数教科の教職員免許”を取得することは、教員採用を受ける側にとって受験機会が増えるだけでなく、採用する側にも少子化対策として高く評価する要素にもなります。</p>
-----------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	(1)教育の意義と商業教育の魅力 (2)政治と経済の混乱と民主国家の創造	(1)教育の意義と商業教育の魅力について考察する。 (2)戦後初の学習指導要領の施行と民主主義教育導入の意義を考察する。	教職をめざす理由と心構えについて、レポート作成・発表をさせる。 日本国憲法における民主主義教育の意義について研究させる。
	2	日本初の学習指導要領の教育理念(昭和23年)	デューイの経験主義的教授理論について学習し、「課題解決学習」が学習指導要領に活かされていることを考察する。	【事前学習】アメリカ教育使節団が日本の教育に与えた影響について研究させる。
	3	国際社会の二極化と日本への影響	国際社会の二極化(資本主義と社会主義)が経済の復興をもたらした要因について考察する。	【事前学習】ブレトンウッズ体制とマーシャルプラン、中華人民共和国の樹立について研究させる。
	4	東西冷戦と日本経済の復興	国際社会の二極化が日本の政治、経済、国民生活に及ぼした影響について考察する。	【事前学習】GHQの占領政策転換、朝鮮特需について研究させる。
	5	経済復興期の学習指導要領と商業教育(昭和25年)	経済復興期の学習指導要領と商業教育への期待について考察する。	【事前学習】経済復興期に望まれた教育について研究させる。
	6	日本の独立と高度経済成長	日本の独立と高度経済成長初期(神武景気)に向かう社会的背景について考察する。	【事前学習】高度経済成長初期に望まれた教育について研究させる。
	7	高度経済成長初期の学習指導要領と商業教育(昭和31年)	試案から国家主導の教育に転換した社会的背景について考察する。	【事前学習】教育経験主義的学習と知識重視の教育との違いについて研究させる。
	8	高度経済成長中期の日本経済と社会的背景	高度経済成長中期(岩戸景気)における技術革新と国民生活などの社会的背景について考察する。	【事前学習】高度経済成長中期の学習指導要領と商業教育について研究させる。
	9	高度経済成長中期の学習指導要領と商業教育(昭和35年)	高度経済成長中期(昭和35年)の学習指導要領と商業教育について考察する。	【事前学習】高度経済成長中期の学習指導要領と商業教育について研究させる。
	10	高度経済成長後期の日本経済と社会的背景	高度経済成長後期(いざなぎ景気)と教育の現代化に向かう社会的背景について考察する。	【事前学習】教育の現代化に向かう社会的背景について研究させる。
	11	高度経済成長後期の学習指導要領と商業教育(昭和45年)	高度経済成長後期の学習指導要領と商業教育について考察する。	【事前学習】「46答申」の経緯とその影響について研究させる。
	12	国際経済の混乱と日本の高度経済成長の終焉	国際経済の混乱(ブレトン・ウッズ体制の崩壊、オイル・ショック等)と日本の高度経済成長の終焉について考察する。	【事前学習】経済成長終焉期と教育の混迷について研究させる。
	13	高度経済成長終焉期と教育の混迷	高度経済成長の歪み(公害、教育現場の混乱)と教育の転換について考察する。	【事前学習】経済成長終焉期と教育の混迷について研究させる。
	14	高度経済成長終焉期の学習指導要領と商業教育(昭和53年)	高度経済成長終焉期の学習指導要領と教育の混迷について思考し、どのように教育に転換したかを考察する。	【事前学習】経済成長終焉期と教育の混迷について研究させる。
	15	教育転換期の社会的背景	国際社会が変動為替相場制に移行し、日本経済が混乱に陥る状況を考察する。	【事前学習】変動為替相場制の移行と日本経済の混乱について研究させる。
	16	教育転換期の学習指導要領と商業教育(平成元年)	教育の転換期の学習指導要領と商業教育について考察する。	【事前学習】ゆとり教育が必要とされた要因について研究させる。

	17	社会主義国家の崩壊と国際社会の混乱	国際社会の混乱（社会主義国家の崩壊）と日本国内の混乱について考察する。	〔事前学習〕 国際社会の混乱と日本国内の混乱について研究させる。																
	18	バブル経済の崩壊と新しい教育への転換	バブル経済の崩壊と日本社会の混乱、教育の混迷について考察する。	〔事前学習〕 日本社会の混乱と教育の混迷について研究させる。																
	19	ゆとり教育期の学習指導要領と商業教育（平成11年）	ゆとり教育期の学習指導要領と商業教育について考察する。	〔事前学習〕 総合的な学習の時間と商業教育について研究させる。																
	20	新学習指導要領改訂のねらい	新学習指導要領改訂の趣旨と目的について考察する。	〔事前学習〕 新学習指導要領改訂の趣旨と目的について研究させる。																
	21	「確かな学力」育成のための工夫	新学習指導要領改善点と「確かな学力」育成のための工夫について考察する。	〔事前学習〕 新学習指導要領改善点と「確かな学力」育成のための工夫について研究させる。																
	22	新学習指導要領と商業教育（平成21年）	新学習指導要領と商業教育について考察する。	〔事前学習〕 新学習指導要領と商業教育について研究させる。																
	23	「教育の現代的課題の分析	現代の教育的課題を協議させ、問題行動について考察する。	〔事前学習〕 各自の経験に基づいた教育的課題について研究させる。																
	24	人格形成と自立に向けた教育手法	人格形成と自立に向けた教育手法について考察する。	〔事前学習〕 発達段階と自立について研究させる。																
	25	アイデンティティの確立	心理社会的発達理論分析により、教育の大切さを考察する。	〔事前学習〕 学生自身のアイデンティティの確立について研究させる。																
	26	意欲を高めるための学習環境	脳科学による行動分析により、学習環境の大切さを考察する。	〔事前学習〕 よい学習環境をどうつくるのかを研究させる。																
	27	商業教育研究	商業教育研究成果のプレゼンテーションを行う。	〔事前学習〕 インターネットを活用して、商業高校の教育課程や新しい取り組み等を研究させる。																
	28	教材研究	模擬授業を行う科目の教材研究を行う。	〔事前学習〕 模擬授業科目について教材研究させる。																
	29	学習指導案作成	模擬授業の学習指導案を作成する。	〔事前学習〕 模擬授業のための、板書、授業展開について研究させる。																
	30	模擬授業	模擬授業と評価を行う。	模擬授業後に、お互いに評価をさせることにより、授業の取り組み方や教育姿勢について考察させる。																
関連科目	経営学部や経営情報学部の専門科目は、商業科の専門科目として活かす魅力がある。 例えば、簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておこう。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際経済と我が国教育の変遷</td> <td>河合 隆廣</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アイデンティティ</td> <td>河合 隆廣</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際経済と我が国教育の変遷	河合 隆廣		2	アイデンティティ	河合 隆廣		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国際経済と我が国教育の変遷	河合 隆廣																		
2	アイデンティティ	河合 隆廣																		
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	小テスト・レポート40%、授業への参加度（学習意欲、発表等）60%とし、総合的に判断して評価します。																			
学生へのメッセージ	教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中に取得してください。																			
担当者の研究室等	連絡があれば、経営学部事務室に申し出てください。																			
備考																				

科目名	情報科教育法	科目名 (英文)	Instruction Method for Information and Communication Science
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木 紀哉

授業概要・目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し、情報教育のあり方について、学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え、担当教員に必要な基礎的知識や資質を養う。また、指導案の作成、模擬授業の実施を通して、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	高等学校の共通教科「情報」の目標や授業方法についての理解を深め、授業研究、教材設計、指導計画、評価方法について、ディスカッションや模擬授業などの演習を行いながら、実践的な教育方法を習得する。
授業方法と留意点	テキストおよび配付資料を中心に、プロジェクターを用いて講義を行う。教員免許に関する科目であり、指導案の作成、模擬授業などを行いながら進めるため、無断欠席は厳禁とする。
科目学習の 効果 (資格)	教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、情報の科学	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
2	新学習指導要領における情報教育	「情報科」とはどのような教科か、情報科について	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
3	教科「情報」の構成	普通教科「情報」の内容構成、専門教科「情報」の内容構成、指導の条件	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
4	普通教科「情報」の指導方法 (1)	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
5	普通教科「情報」の指導方法 (2)	課題分析の方法、進め方	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
6	普通教科「情報」の指導方法 (3)	評価の目的と対象、評価対象の具体化	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
7	普通教科「情報」の指導方法 (4)	学習課題に応じた評価方法の種類と特徴	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
8	魅力ある授業の展開 (1)	学習意欲を高める方法、内発的動機づけと外発的動機づけ	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
9	魅力ある授業の展開 (2)	学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
10	魅力ある授業の展開 (3)	ICT 活用の実際、授業の記録・分析の方法	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
11	情報教育の実践例 (1)	情報とコンピュータの指導法	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
12	情報教育の実践例 (2)	アルゴリズムとプログラムの指導法	次回の内容の予告をする 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
13	情報教育の実践例 (3)	モデル化とシミュレーションの指導法	課題に基づいて教材設計を行う 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
14	情報教育の実践例 (4)	問題解決の指導法	課題に基づいて教材設計を行う 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
15	前期のまとめ	-----	前期の内容を整理する 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく
16	授業構想の検討	学習目標の明確化	次回の内容の予告をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
17	模擬授業の展開 (1)	教育目標の設定、指定された題材による指導案の作成1	学習指導案を作成する 配付資料の該当箇所を読んでおく
18	模擬授業の展開 (2)	評価方法の設定、指定された題材による指導案の作成2	学習指導案を作成する 配付資料の該当箇所を読んでおく
19	模擬授業の展開 (3)	学習指導案の説明と修正	学習指導案を修正する 配付資料の該当箇所を読んでおく
20	模擬授業の展開 (4)	講義ノート、配付資料の作成1	講義ノート、配付資料の準備をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
21	模擬授業の展開 (5)	講義ノート、配付資料の作成2	講義ノート、配付資料の準備をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
22	模擬授業の展開 (6)	講義ノート、配付資料の自己分析・評価	講義ノート、配付資料を見直す 配付資料の該当箇所を読んでおく
23	模擬授業の展開 (7)	模擬授業の相互評価	相互評価の結果を振り返る 配付資料の該当箇所を読んでおく
24	模擬授業の展開 (8)	各自で設定した題材による指導案の作成1	模擬授業の題材を決める 配付資料の該当箇所を読んでおく
25	模擬授業の展開 (9)	各自で設定した題材による指導案の作成2	指導案を作成する 配付資料の該当箇所を読んでおく
26	模擬授業の展開 (10)	講義ノート、配付資料の作成1	講義ノート、配付資料の準備をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
27	模擬授業の展開 (11)	講義ノート、配付資料の作成2	講義ノート、配付資料を作成する 配付資料の該当箇所を読んでおく
28	模擬授業の展開 (12)	指導案に基づく模擬授業	模擬授業の準備をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
29	模擬授業の展開 (13)	模擬授業の相互評価	模擬授業の準備をする 配付資料の該当箇所を読んでおく
30	全体のまとめ	まとめ、これからの教師に求められる授業力	全体の内容を整理しておく

関連科目	情報関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新社会と情報（社情 302）（文部科学省検定済教科書）	岡本敏雄、阿濱茂樹、糸井和宏、鹿野利春、香山瑞恵、佐藤万寿美、高橋参吉、西野和典、西端律子ほか2名	実教出版
	2	最新社会と情報（社情 302）準拠 社情 302 最新社会と情報学習ノート	実教出版編修部	実教出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説情報編	文部科学省	開隆館出版販売
	2			
	3			
評価方法 （基準）	レポート課題、授業中の成果物等（30%）、模擬授業（30%）、小テスト（20%）、授業への参加状況（20%）をもとに総合的に評価する。演習が中心となるため、欠席・遅刻は授業内容や成績評価に影響します。			
学生への メッセージ	学習者に対して授業を行うためには、周知な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に講義に参加して下さい。			
担当者の 研究室等	11号館8階（栢木准教授室）			
備考	必要に応じて資料を配布する場合があります。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	本科目のシラバスを熟読すること。
	2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	職業指導に関する資料を熟読すること。
	3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。
	4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	日本の産業史に関する資料を熟読すること。
	5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。
	6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	日本型雇用の見直しについて考えること。
	7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	高卒労働市場に関する資料を熟読すること。
	8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	職業指導の事例を調査すること。
	9	「労働すること」を考える	・仕事をする事の意義を考える	授業後は自らの労働観を持つようにすること。
	10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	職業指導領域に関する資料を熟読すること。
	11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
	12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
	13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	模擬授業の準備をすること。
	14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	模擬授業の準備をすること。
	15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	レポート提出の準備をすること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。
また、前期最終時にレポートを実施します。

学生へのメッセージ 「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 キャリア教育推進室(水野)

備考

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明	本科目のシラバスを熟読すること。
	2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
	3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
	4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	・提示する資料を熟読すること。
	5	フリーター・ニートについて	グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、発表できるよう準備
	6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	発表の準備をすること。
	7	高校生の就業力について	・新規高卒者に求められる基本的な能力	就業力育成のための企画を考えること。
	8	職業適性とは何か	・職業適性、アセスメントについて	自らの適性の活かし方について考えること。
	9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	配布資料を精読すること。
	10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	配布資料を精読すること。
	11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	・発表の準備をすること。
	12	就業力向上計画立案②	11回目で考えた内容を発表する	・発表の準備をすること。
	13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	配布資料を精読すること。
	14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	配布資料を熟読すること。
	15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	自らの労働観について考えること。

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。
学生へのメッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)
備考	

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
9	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
10	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井眞治・熊谷信順編著	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験の得点の他、レポートの内容、受講に係る積極的態度により、総合的に成績を判定します。定期試験を受験しなかった場合、成績判定はしません。

学生へのメッセージ 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。
授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	道德教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹

授業概要・目的
この授業では、日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道德教育の歴史、道德教育の内容を構成する諸概念、道德性の発達理論、等）について解説を加えたうえで、実際に学校でどのように道德教育を行えばよいのかを考えていきます。

到達目標
受講者が日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたいと、道德教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。

授業方法と留意点
授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。

科目学習の効果(資格)
中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育課程及び指導法に関する科目
各項目に含める必要事項：道德の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:道德教育をどのように考えるか	①現在道德教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②読み物教材の分析を通して、道德教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道德教育がどのようなものであったかを思い出しておく。
2	日本の道德教育の歴史①:戦前の道德教育	①明治から昭和初期にかけての道德教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道德教育の歴史②:戦後の道德教育	道德教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道德教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道德教育の歴史③:現代の道德教育	①近年の道德教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道德教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道德教育	①諸外国の道德教育の状況について概観する。 ②諸外国の道德教育を事例として、道德教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道德教育と自分の受けてきた道德教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道德教育の内容①:自我	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」(＝「私」)について道德教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道德教育の内容②:他者	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐり、道德教育の視点から「他者」との関わりをなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道德教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道德教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践例について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道德教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道德教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道德教育について再考する。
10	道德教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐり、道德教育の視点から「社会」との関わりをなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道德性の発達	①コールバーグおよびギリガンによる道德性の発達理論を検討する。 ②道德性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道德の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道德教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道德教育の実践例をもとに、道德教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道德教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道德教育の「要」とされている「道德科」の位置づけについて考える。 ②「道德科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	授業時に指示する。

	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)			
備考				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹

授業概要・目的	(1) 学級活動 (ホームルーム活動)、生徒会活動 (児童会活動)、学校行事、それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議を行い、発表・交流する。
到達目標	将来、学級担任として、望ましい集団活動を育て、すべての子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、学級経営や学級づくりを行う必要があることから、その前段階として、学校支援ボランティアの学生の立場で教員と協力・連携しながら学級集団への適切なサポートができるようになる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場に立つ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	特別活動の目的・内容・方法 ワーク①「キャラ」をめぐって	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第1・2章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	学級活動 (ホームルーム活動) その1 ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもとの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
4	学級活動 (ホームルーム活動) その2 ワーク③学級活動 (係・班・当番・委員) の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
5	生徒会活動 (児童会活動)・学級行事 ワーク④学校行事 (運動会・体育祭・文化祭等) の思い出	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・視点 ソロワークと意見交換	教科書第5・6・12・13章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	体験活動の意義 ワーク⑤「14歳の頃」・「17歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験のもつ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第2章、配布プリントをよく読んでおく。
7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①いじめ (その1)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがいがい グループ討議・発表・交流	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
8	特別活動と学級経営 グループワーク②いじめ (その2)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
9	特別活動と生徒指導 グループワーク③非行	生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 グループ討議・発表・交流	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
10	特別活動における評価 グループワーク④不登校	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤インクルーシブ教育	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第8章を読んでおく。学習事項を整理する。
12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥進路指導・キャリア教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第7・14章を読んでおく。学習事項を整理する。
13	現行学習指導要領について グループワーク⑦体罰	現行学習指導要領における改定の要点、言語能力・体験活動の重視 グループ討議・発表・交流	教科書第3章及び資料編を読んでおく。学習事項を整理する。
14	特別活動の指導計画・指導案の作成 グループワーク⑧ジェンダー	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	海文堂出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、中間レポート (30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだといわれる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考				